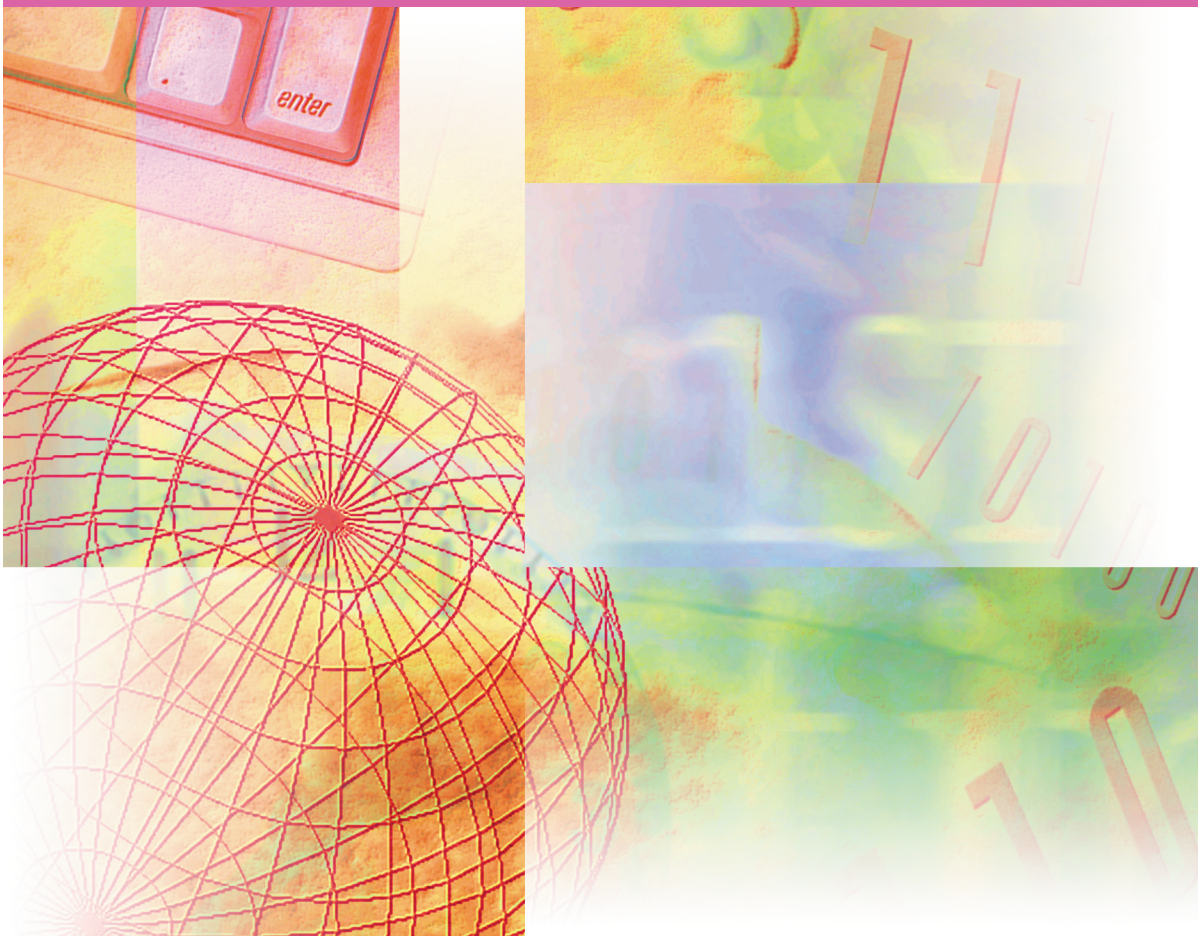
Canon

Color imageRUNNER

iRC6880N/iRC5880N

送信／ファクスガイド



ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

JPN

取扱説明書の分冊構成について

本製品の取扱説明書は、次のような構成になっています。目的に応じてお読みいただき、本製品を十分にご活用ください。

下記はオプションに添付されている取扱説明書も含んでいます。購入された製品、システム構成によっては、お手元にない取扱説明書（ご利用になれない機能）があります。


このマークが付いているガイドは、製品に同梱されている紙マニュアルです。



このマークが付いているガイドは、付属の CD-ROM に収められています。

- **基本的な操作、便利な使いかたを早く簡単に知るには**

  かんたん操作ガイド 

- **便利な機能の使いかたを学習するには**

  機能の使いかたの一例を学べるほか、シミュレータによる操作手順の体験学習もできる教材です。

  チュートリアル CD 

- **基本的な使いかたを知るには**
- **困ったときには**

  ユーザーズガイド  

- **コピー／ボックスの使いかたを知るには**

  コピー／ボックスガイド 

- **送信機能／ファクスの使いかたを知るには**

  送信／ファクスガイド（本書） 

- **リモートUIなどからTIFF/JPEG画像やPDFの印刷のしかたを知るには**
- **プリンタ機能の使いかたを知るには**

  LIPS LX プリンタ、LIPS V プリンタ、ダイレクトプリントプリンタの場合は LIPS プリンタガイド、PS プリンタの場合は PS プリンタガイド、N201、ESC/P、15577、HP-GL、HP-GL/2 プリンタの場合は各エミュレーションガイド（エミュレーションガイドの PDF マニュアルは、付属の CD-ROM に収められています。）

  プリンタガイド 

- **リモート UI の使いかたを知るには**

  リモート UI ガイド 

- **ネットワークとの接続や設定について知るには**

  ネットワークガイド 

- **Network ScanGear ドライバのインストールのしかたなどについて知るには**

  Network ScanGear ユーザーズガイド 

- **プリンタドライバのインストールのしかたなどについて知るには**

  LIPS LX プリンタの場合は LIPS LX ソフトウェアガイド
  LIPS V プリンタの場合は LIPS V ソフトウェアガイド
  PS プリンタの場合は PS ソフトウェアガイド

  ソフトウェアガイド 

- **ファクスドライバのインストールのしかたなどについて知るには**

ファクスドライバガイド



- **MEAP アプリケーションのインストールのしかたや MEAP 機能の管理について知るには**

MEAP アプリケーション管理機能ガイド



- **MEAP のログインサービスについて知るには**

MEAP 認証システム設定ガイド



PDF形式のマニュアルを表示するには、Adobe Reader/Adobe Acrobat Readerが必要です。ご使用のシステムにAdobe Reader/Adobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、アドビ システムズ社のホームページからダウンロードし、インストールしてください。

本書の構成について

第1章 送信機能について

第2章 基本的な送信機能の使いかた

第3章 基本的な読み取り機能

第4章 便利な読み取り機能

第5章 文書を送信する

第6章 文書を受信する

第7章 便利なファクス機能の使いかた

第8章 送信／受信状況の確認と変更

第9章 送信／受信仕様の設定／登録

第10章 宛先の登録／編集

第11章 システム管理設定

第12章 レポート出力

第13章 困ったときには

第14章 付録

オプション機器の仕様、レポートサンプル、索引などを記載しています。

• 本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめ、ご了承ください。
• 本書に万一ご不審な点や誤り、または記載漏れなどお気付きのことがありましたら、ご連絡ください。
• 本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

目次

はじめに xii

本書の読みかた xii

マークについて xii

キーについて xii

画面について xiii

イラストについて xiii

略称について xiv

商標について xiv

第 1 章　送信機能について

iR C6880N/iR C5880N のおもな送信機能 1-2

こんなことができます 1-6

ご利用前に必要なこと 1-11

表示言語の切替の設定 1-13

電話回線の種類を選択する（回線種類の選択） 1-14

日付／時刻を設定する（日付／時刻設定） 1-14

本製品のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録） 1-16

個人の名称を登録する（発信人名称の登録） 1-17

会社や部署の名称を登録する（ユーザ略称の登録） 1-18

送信操作の流れ 1-20

手動でファクスを送信する（手動送信） 1-30

電話をかけてからファクスを送信する 1-31

電話をうけてからファクスを送信する 1-34

ジョブを中止する 1-37

タッチパネルディスプレイから中止する 1-37

ストップを押して中止する 1-38

システム状況画面から中止する 1-38

電子メール、I ファクス、ファイルサーバへの送信やボックスへの保管を中止する 1-38

ファクスの送受信を中止する 1-40

第 2 章　基本的な送信機能の使いかた

宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先） 2-2

ファクス番号を指定する 2-2

電子メールアドレスを指定する 2-6

I ファクスアドレスを指定する. 2-7
ファイルサーバを指定する. 2-11
キーボード画面を使ってファイルサーバを指定する. 2-12
参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））. 2-16
参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（NetWare（IPX））. 2-19
ホスト検索ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））. . . . 2-22
ボックスに保管する. 2-24
自分へ送信する（自分へ送信）. 2-25
登録済の宛先を指定する 2-26
宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）. 2-26
ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）. 2-28
定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）. 2-29
サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））. 2-30
Cc、Bcc を設定する（Cc Bcc）. 2-35
宛先の情報を確認／変更する（詳細情報）. 2-37
指定した宛先を消去する（消去）. 2-39
登録ボタンを使用する（登録）. 2-40

第 3 章　基本的な読み取り機能

読取モードを選択する 3-2
読込設定を変更する 3-4
両面原稿を読み込む（両面原稿）. 3-4
異なるサイズの原稿を一度に読み込む（原稿サイズ混載）. 3-6
読み取るサイズを指定する（読取サイズ）. 3-8
読取サイズを指定する. 3-9
読取サイズを登録する. 3-12
解像度を変更する. 3-14
濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）. 3-15
読み込む濃度を任意に調節する. 3-15
画質を選択して読み込む. 3-16
濃度を自動で調節して読み込む. 3-18
倍率を変えて読み込む（倍率）. 3-19
決められたサイズに縮小／拡大して読み込む（定形変倍）. 3-19
1%単位で倍率を指定して読み込む（ズーム変倍）. 3-21
指定した記録サイズにあわせて自動変倍して読み込む. 3-22
カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する. 3-23

第 4 章　便利な読み取り機能

応用モードとは. 4-2

ブック原稿を左右（2 枚）に分けて読み込む（ページ連写）.....4-4
原稿の影や枠線を消して読み込む（枠消し）.....4-5
原稿の枠線を消して読み込む（原稿枠消し）.....4-5
ブック原稿の影や枠線などを消して読み込む（ブック枠消し）.....4-7
パンチ穴の影などを消して読み込む（パンチ穴消し）.....4-8
分割してセットした原稿を 1 つの文書として読み込む（連続読込）.....4-9
画像のエッジをくっきりさせて読み込む（シャープネス）..... 4-12
下地の画質を調整する（画質調整）..... 4-13
地色を消して読み込む（地色除去）..... 4-14
裏写りする原稿を読み込む（裏写り防止）..... 4-15
読取モードの登録／消去 4-16
読取モードの登録..... 4-17
読取モードの名称登録..... 4-19
読取モードの消去..... 4-20

第 5 章　文書を送信する

送信の設定をする（送信設定）.....5-2
ファクス設定をする.....5-3
電子メール設定をする.....5-5
I ファクス設定をする.....5-8
ファイルサーバ設定をする.....5-10
ユーザボックス設定をする.....5-13
指定した時刻に送信する（タイマー送信）..... 5-14
送信の終了を電子メールで知らせる（ジョブ終了通知）.....5-16
原稿をプレビューする（プレビュー表示）.....5-17
読み取り済みの原稿にスタンプをつける（済スタンプ）.....5-19
送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）..... 5-20
ファイル形式の設定をする.....5-21
アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）..... 5-24
高圧縮 PDF を送信する（高圧縮）.....5-26
サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））.....5-28
送信する PDF を暗号化する（暗号化 PDF）.....5-30
送信する PDF に電子署名をつける（電子署名をつける）..... 5-34
機器署名を設定する場合 5-35
ユーザ署名を設定する場合 5-37
タイムスタンプを設定する場合 5-39
設定されたモードを呼び出して送信する（コール）..... 5-41

第 6 章　文書を受信する

さまざまな受信.....6-2
受信したときの状態.....6-3
手動でファクスを受信する（手動受信）.....6-4
電話機を使って手動受信する（リモート受信）.....6-4
電話をかけてからファクスを受信する.....6-6
電話をうけてからファクスを受信する.....6-10
ファクス受信の流れ.....6-12
受信文書の処理.....6-15
メモリ受信を設定する.....6-17
受信した文書を転送する.....6-17
受信した文書を消去する.....6-18
ファクス／I ファクスをプリントする用紙について..... 6-20

第 7 章　便利なファクス機能の使いかた

F コードを使って通信する（F コード）.....7-2
F ネットを利用する 7-4
F ネットのおもなサービス.....7-4
F ネットで同報通信する.....7-5
プッシュホンサービスを利用する 7-7

第 8 章　送信／受信状況の確認と変更

送信ジョブの状況を確認／変更する.....8-2
送信ジョブの詳細情報を確認する 8-3
宛先を変更する.....8-5
送信ジョブを再送信する.....8-7
送信ジョブの状況／履歴をプリントする 8-8
ファクスジョブの状況を確認／変更する 8-9
ファクスジョブの詳細情報を確認する 8-10
ファクス受信モードを設定する 8-11
ファクス通信管理レポートをプリントする 8-12
受信ジョブや転送ジョブの状況を確認する 8-13
受信ジョブの詳細情報を確認する 8-13
受信ジョブ履歴をプリントする 8-14
受信ジョブを確認する.....8-15
転送ジョブの詳細情報を確認する 8-16

第 9 章　送信／受信仕様の設定／登録

初期設定／登録画面の操作の流れ 9-3
送信／受信仕様設定一覧表. 9-5
FTP 送信指定時に ASCII コード以外の入力を許可する（FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可） 9-10
エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア). 9-11
カラー文書の圧縮率を設定する（データ圧縮率) 9-12
転送エラー文書の処理を設定する（転送エラー文書の処理) 9-13
リトライ回数を設定する（リトライ回数) 9-14
送信機能の標準モードを設定する（送信機能の標準モードの変更) 9-15
定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録). 9-17
定型業務ボタンの登録. 9-18
定型業務ボタンの名称登録. 9-19
定型業務ボタンのコメント登録. 9-20
定型業務ボタンの消去. 9-21
定型業務ボタン呼出時の確認表示を設定する（定型業務ボタン呼出時の確認表示). 9-22
PDF（アウトライン／高圧縮）の画質レベルを設定する（PDF（高圧縮）の画質レベル） 9-23
サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする（PDF（OCR）設定) 9-24
図形をアウトライン PDF に変換するときの機能の設定をする（PDF（アウトライン）設定) 9-25
機器署名の証明書を確認する（機器署名の証明書確認). 9-27
ユーザ署名の証明書を確認する（ユーザ署名の証明書確認) 9-28
IC カード署名送信時の確認表示を設定する（IC カード署名送信時の確認表示) 9-29
送信画面の初期表示を設定する（送信画面の初期表示). 9-30
送信する文書に発信元記録をつける（発信元記録) 9-31
WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する（WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用) 9-34
YCbCr 送信時のガンマ値を設定する（YCbCr 送信のガンマ値) 9-35
送信機能設定を初期化する（送信機能設定の初期化) 9-36
受信文書を両面プリントする（両面記録) 9-37
受信文書のプリント方法を設定する（カセット選択) 9-38

受信文書を縮小してプリントする（画像縮小）. 9-40
受信情報記録のプリントを設定する（受信情報記録）. 9-42
2 in 1 記録を設定する（2 in 1 記録）. 9-43
YCbCr 受信時のガンマ値を設定する（YCbCr 受信のガンマ値）. 9-44
アラーム音量・通信音量を調節する（音量調整）. 9-45
オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）. 9-46
ECM 送信を設定する（ECM 送信）. 9-47
ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）. 9-48
自動リダイヤルを設定する（自動リダイヤル）. 9-49
送信前にダイヤルトーンを確認する（送信前のダイヤルトーン確認）. 9-51
ECM 受信を設定する（ECM 受信）. 9-52
受信モードを選択する（受信モード選択）. 9-53
着信時の呼び出し音を設定する（着信呼出）. 9-55
リモート受信の設定をする（リモート受信）. 9-56
自動受信切替を設定する（自動受信切替）. 9-57
ナンバーディスプレイ着信受付の設定をする（ナンバーディスプレイ着信受付）. 9-58
増設した回線のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）. 9-59
増設した電話回線のユーザ略称を登録する（ユーザ略称の登録）. 9-60
増設した電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）. 9-61
回線を選択して送信する（送信回線の選択）. 9-62

第 10 章　宛先の登録／編集

宛先表仕様設定一覧表 10-2
宛先表について. 10-3
宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）. 10-5
ファクス番号を登録する. 10-6
電子メールアドレスを登録する 10-11
I ファクスアドレスを登録する. 10-14
ファイルサーバのアドレスを登録する 10-20
グループ宛先を登録する. 10-23
サーバから検索した宛先を登録する 10-27
宛先の登録内容を変更する. 10-34
宛先を消去する. 10-36

宛先表の名称を登録する（宛先表の名称登録）..... 10-37
ワンタッチボタンの登録／編集をする..... 10-38
ワンタッチボタンの内容を消去する..... 10-41

第 11 章　システム管理設定

システム管理設定一覧表 11-3
通信管理設定をする（通信管理設定）..... 11-6
電子メール／I ファクス共通の通信設定をする 11-6
電子メールの設定をする.....11-8
I ファクスの設定をする.....11-9
ファクスの設定をする..... 11-11
システムボックスの設定をする..... 11-13
システムボックス暗証番号の設定をする..... 11-13
ファクス受信した文書をメモリに保存する..... 11-14
I ファクス受信した文書をメモリに保存する..... 11-14
メモリ受信の開始時刻を指定する..... 11-15
メモリ受信の終了時刻を指定する..... 11-17
送信機能の制限をする（送信機能の制限）..... 11-19
宛先表の暗証番号を設定する（宛先表の暗証番号）..... 11-19
宛先表のアクセス番号管理を設定する..... 11-20
新規宛先の制限を設定する（新規宛先の制限）..... 11-21
ファクスドライバからの送信を許可するか設定する（ファクスドライバからの送信を許可）..... 11-22
ファクス番号の入力時に確認入力をおこなう（ファクス番号入力時の確認入力）.. 11-22
送信するドメインを制限する（電子メール／I ファクスの送信ドメイン制限）..... 11-23
有効期限切れ証明書を使用したときの PDF 送信を許可するか設定する（有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可）..... 11-25
PDF 送信時に機器署名を必ずつけるかどうか設定する（PDF 送信時に機器署名を必ずつける）..... 11-26
転送の設定をする（転送設定）..... 11-27
転送設定を登録する..... 11-29
転送条件に一致しない場合の転送先を登録する 11-40
転送設定の詳細情報を確認／変更する..... 11-46
受信した文書を転送する..... 11-46
転送設定を消去する..... 11-47
転送設定内容をプリントする..... 11-47
LDAP サーバの設定をする 11-48
LDAP サーバの登録をする..... 11-48
LDAP サーバの設定内容を変更する..... 11-53
LDAP サーバを消去する..... 11-53

LDAP 検索属性の登録／編集をする 11-54
LDAP サーバの設定内容をプリントする 11-55

第 12 章 レポート出力

レポート出力一覧表 12-2
レポートの出力の仕様を設定する 12-4
送信結果レポートの設定をする 12-4
通信管理レポートの設定をする 12-6
ファクス送信結果レポートの設定をする 12-8
ファクス通信管理レポートの設定をする 12-9
ファクス受信結果レポートの設定をする 12-10
ファクスボックス受信レポートの設定をする 12-10
リストをプリントする 12-11
宛先表リストをプリントする 12-11
ユーザデータリストをプリントする 12-12
送信に関する登録内容をプリントする 12-12
ファクスに関する登録内容をプリントする 12-12

第 13 章 困ったときには

トラブルが発生したら 13-2
送信でのトラブル 13-2
受信でのトラブル 13-5
その他のトラブル 13-6
エラーメッセージ一覧 13-8
自己診断表示 13-8
終了コード一覧 13-12
Q&A 13-33

第 14 章 付録

レポートサンプル 14-2
送信ジョブリスト 14-2
送信結果レポート／エラー送信レポート 14-4
ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート 14-6
ファクスマルチ送信結果レポート 14-8
ファクス受信結果レポート 14-9
ファクスボックス受信レポート 14-11
通信管理レポート 14-13
ファクス通信管理レポート 14-15
転送条件リスト 14-17

LDAP サーバ登録リスト 14-18
宛先表リスト 14-19
ユーザデータリスト 14-20
仕様 14-22
Send 拡張キット・S1 14-22
スーパー G3FAX ボード・U1 14-24
マルチポート FAX ボード・G2 14-25
用語集 14-26
索引 14-33

はじめに

このたびはキヤノン iR C6880N/iR C5880N をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。また、お読みいただきました後も大切に保管してください。

本書の読みかた

マークについて

本書では、安全のためにお守りいただきたいことや取り扱い上の制限・注意などの説明に、下記のマークを付けています。

警告 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。

注意 取り扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。

重要 操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ずお読みください。

メモ 操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

キーについて

本書では、キー名称を以下のように表しています。

- タッチパネルディスプレイ上のキー：[キー名称]

例： [キャンセル]
[閉じる]

- 操作パネル上のキー：＜キーアイコン＞＋（キー名称）

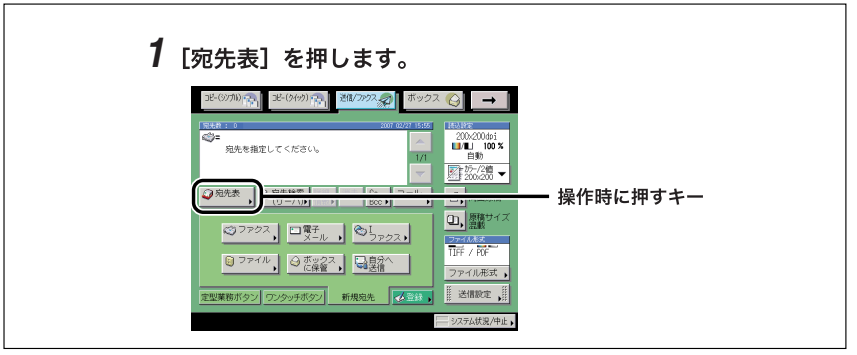
例： (スタート)
(ストップ)

画面について

本書で使われている画面は、特にお断りがない限り iR C6880N にスーパーG3FAX ボード、サドルフィニッシャー・AC2、パンチャーユニット・L1 が装着され、Send 拡張キット、LIPS V 拡張キットを有効にした場合のものです。

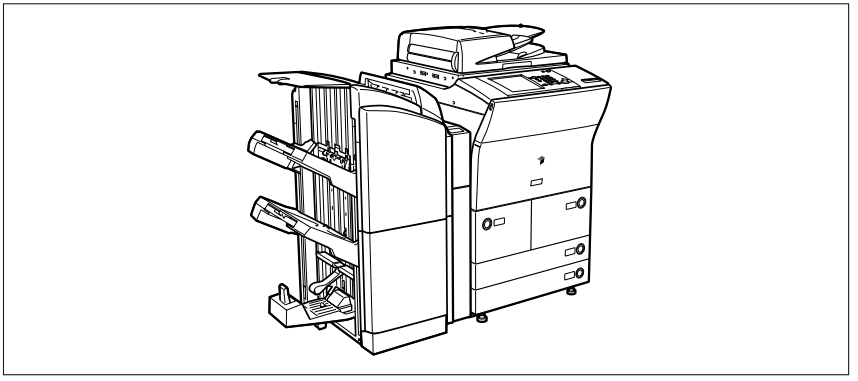
アクセサリ、オプションの組み合わせによって使用できない機能に関しては、本製品の画面には表示されませんが、ご了承ください。

操作時に押すキーの場所は、(丸) で囲んで表しています。また、操作を行うキーが複数表示されている場合は、それらをすべて囲んでいますので、ご利用に合わせて選択してください。



イラストについて

本書で使われているイラストは、特にお断りがない限り iR C6880N にサドルフィニッシャー・AC2、パンチャーユニット・L1 が装着されている場合のものです。



略称について

本書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

Microsoft Windows 2000 operating system 日本語版：	Windows 2000
Microsoft Windows 98 operating system 日本語版：	Windows 98
Microsoft Windows Server 2003 日本語版：	Windows Server 2003
Microsoft Windows Millennium Edition operating system 日本語版：	Windows Me
Microsoft Windows XP Home Edition 日本語版：	Windows XP
Microsoft Windows XP Professional 日本語版：	Windows XP
Microsoft Windows Vista 日本語版：	Windows Vista
Microsoft Windows operating system：	Windows
Novell NetWare：	NetWare

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OS、QuickTime は、米国およびその他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

1
CHAPTER

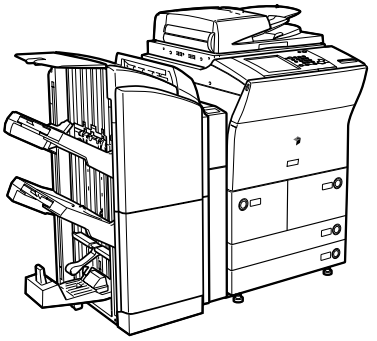
送信機能について

送信機能の基本的なことについて説明しています。

iR C6880N/iR C5880N のおもな送信機能 1-2
こんなことができます 1-6
ご利用前に必要なこと 1-11
表示言語の切替の設定 1-13
電話回線の種類を選択する（回線種類の選択） 1-14
日付／時刻を設定する（日付／時刻設定） 1-14
本製品のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録） 1-16
個人の名称を登録する（発信人名称の登録） 1-17
会社や部署の名称を登録する（ユーザ略称の登録） 1-18
送信操作の流れ 1-20
手動でファクスを送信する（手動送信） 1-30
電話をかけてからファクスを送信する 1-31
電話をうけてからファクスを送信する 1-34
ジョブを中止する 1-37
タッチパネルディスプレイから中止する 1-37
ストップを押して中止する 1-38
システム状況画面から中止する 1-38

iR C6880N/iR C5880N のおもな送信機能

カラーデジタル複合機に求められる多彩な送信／ファクス機能を実現しています。



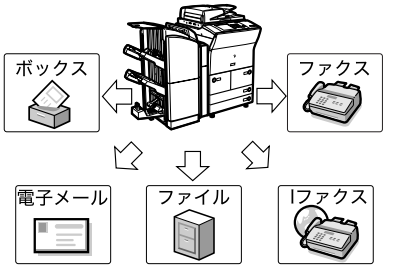
iR C6880N/iR C5880N は、さまざまな通信手段をオプション装備としてご用意させていただいております。ご使用の環境やお客様のニーズに応じて、最適な通信手段をご利用できる新発想のカラーデジタル複合機です。

多様な送信手段で文書を送信する

スキャナ部で取り込んだ紙文書データを、ファクス、電子メール、I ファクスを利用して他の人に配布することができます。文書のやりとりが効率的になります。また、電子メールや、FTP、SMB、NetWare、WebDAV などのファイルサーバに送信すると、紙文書データが電子化されるので、パソコンでの閲覧やデータ管理にご利用いただけます。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクスで送信することもできます。ファイルサーバ、ボックスに送信することもできます。

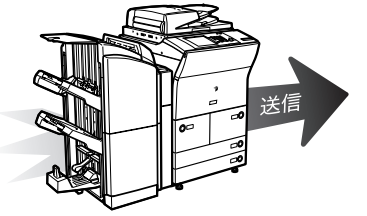
オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスで送信することもできます。ボックスに送信することもできます。



スーパー G3 ファクス機能を搭載

ファクス機能は、多くのオフィスで利用されている、スーパー G3 に対応しています。従来のファクス機に比べて短縮された通信処理時間は、通信コストの削減につながります。オプションのマルチポート FAX ボードを装着することによって、回線を増設することもできます。

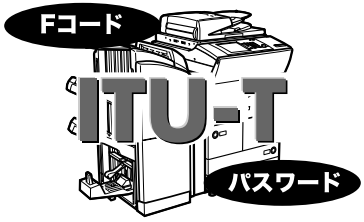
オプションの FAX ボードを装着している場合は、この機能を使用することができます。



F コードを使って安全に送受信する

ファクス機能は、ITU-T の国際標準規格に準拠したF コード通信に対応しています。相手先のファクス機がF コード通信に対応していれば、F コードとパスワードを付けて安全に文書を送信／受信することができます。

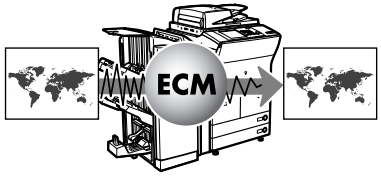
オプションの FAX ボードを装着している場合は、この機能を使用することができます。



ECM 機能で高画質な文書を送受信する

ファクス機能には、回線ノイズなどによって起こってしまう画像の劣化を、自動的に補正して送信／受信する ECM 方式に対応しています。回線状況がよくない場合でも、画質を損なわずに送信／受信できます。

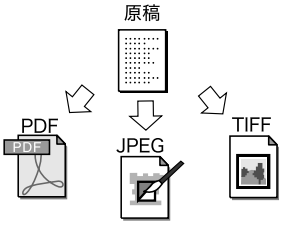
オプションの FAX ボードを装着している場合は、この機能を使用することができます。



用途にあわせてファイル形式を指定する

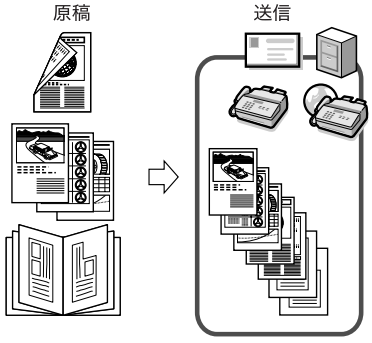
送信するデータのファイル形式は、TIFF、JPEG、PDF から選択することができます。データの圧縮率やカラーモードも設定できるので、受け取り側の環境や、用途に合わせて自由自在な送信を行うことができます。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、この機能を使用することができます。



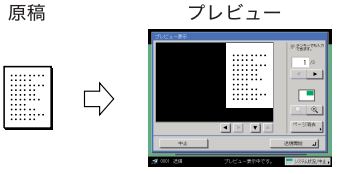
さまざまな形態の原稿に対応した読み込み設定

コピーするときと同じように、両面原稿やブック原稿などのような形態の原稿を読み込んだり、別べつに読み込んだ原稿をまとめて1つのデータとして送信することができます。もちろん、原稿を読み込むときには、原稿のサイズや画質にあわせて読取サイズや濃度、カラーモードなどを設定することができます。カスタマイズした読込設定は登録しておき、何度も利用することができます。



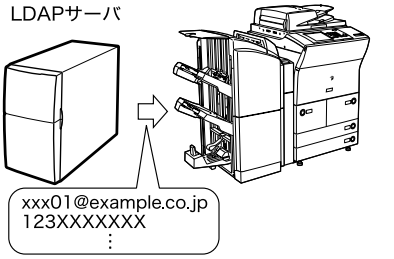
送信イメージを確認する

文書を送信する前に送信イメージを確認することができます。プレビュー機能を使って、読み込んだ画像をチェックすることで、送信ミスを防ぐことができます。



ディレクトリサーバ（LDAP）から宛先を瞬時に検索する

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバを使って、ネットワーク上のディレクトリサービスから宛先を検索できます。検索した宛先は送信先として指定したり、宛先表に登録したりできます。

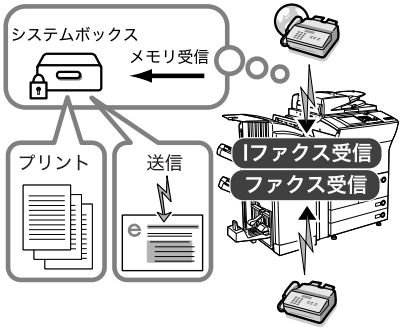


ファクス／Ｉファクスをメモリ受信する

受信したファクス／ Ｉ ファクス文書をプリントせずに、システムボックスに保存するように設定することができます（メモリ受信）。システムボックスにメモリ受信された文書は、相手先やページ数などの詳細情報を確認したあと、好きなときにプリントしたり、別の宛先に再送信したりすることができます。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、Ｉファクスを使用することができます。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスを使用することができます。

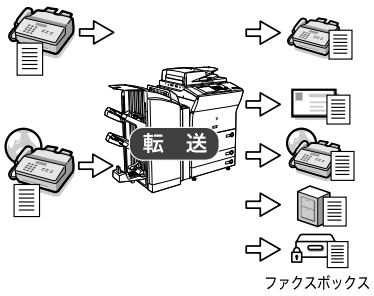


受信したファクス／Ｉファクスを自動的に転送する

あらかじめ設定した条件に一致するファクス／Ｉファクス文書を、指定した送信設定で指定した宛先に転送できます。他の機器に転送する「中継」や、転送先に任意のファクスボックスを指定することで、受信したファクス／Ｉファクス文書をファクスボックスに保存する「親展」が可能です。タイマーを設定して転送設定が有効になる時間を指定することもできます。さらに、本製品では、条件に一致しなかったファクス／Ｉファクス文書の転送先も指定しておくことができるので、受信した文書の仕分け配信機能として利用することができます。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、Ｉファクス、ファイルサーバへの転送や、ボックスに送信することもできます。受信したＩファクス文書の転送が可能になります。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスへの転送や、受信したファクスの転送が可能になります。



こんなことができます

［送信 / ファクス］を押すと送信画面が表示されます。送信とは本製品を使って読み込んだ原稿を、電子メールやIファクス、ファクスで送信したり、ファイルサーバに保存することができる機能です。あとで処理できるようにボックスに保管することもできます。また、電子メールやIファクスなど、異なった送信手段の宛先でも同時に送信することができます。

送信画面はオプションの装着状態により、以下のように表示されます。



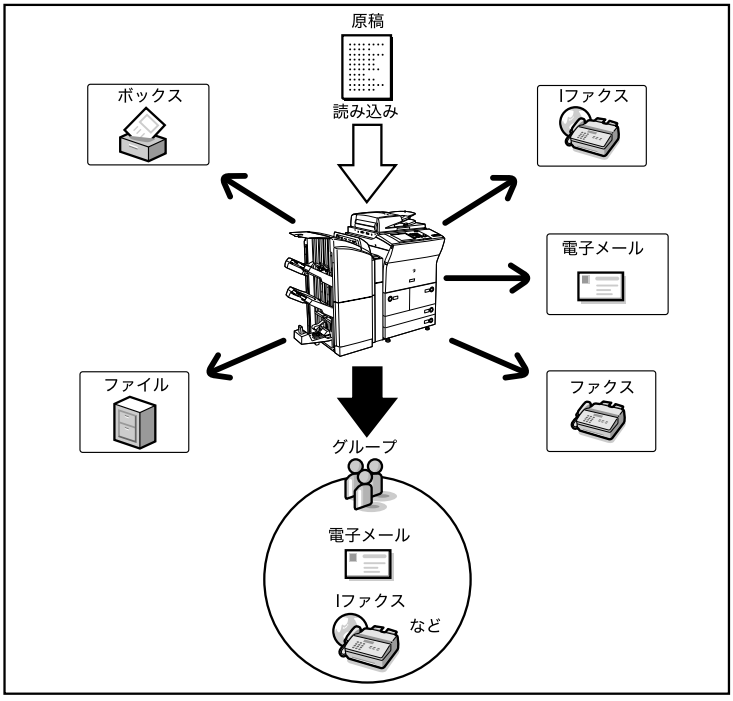
送信
Send 拡張キットを有効にしたとき



ファクス
FAX ボード装着時



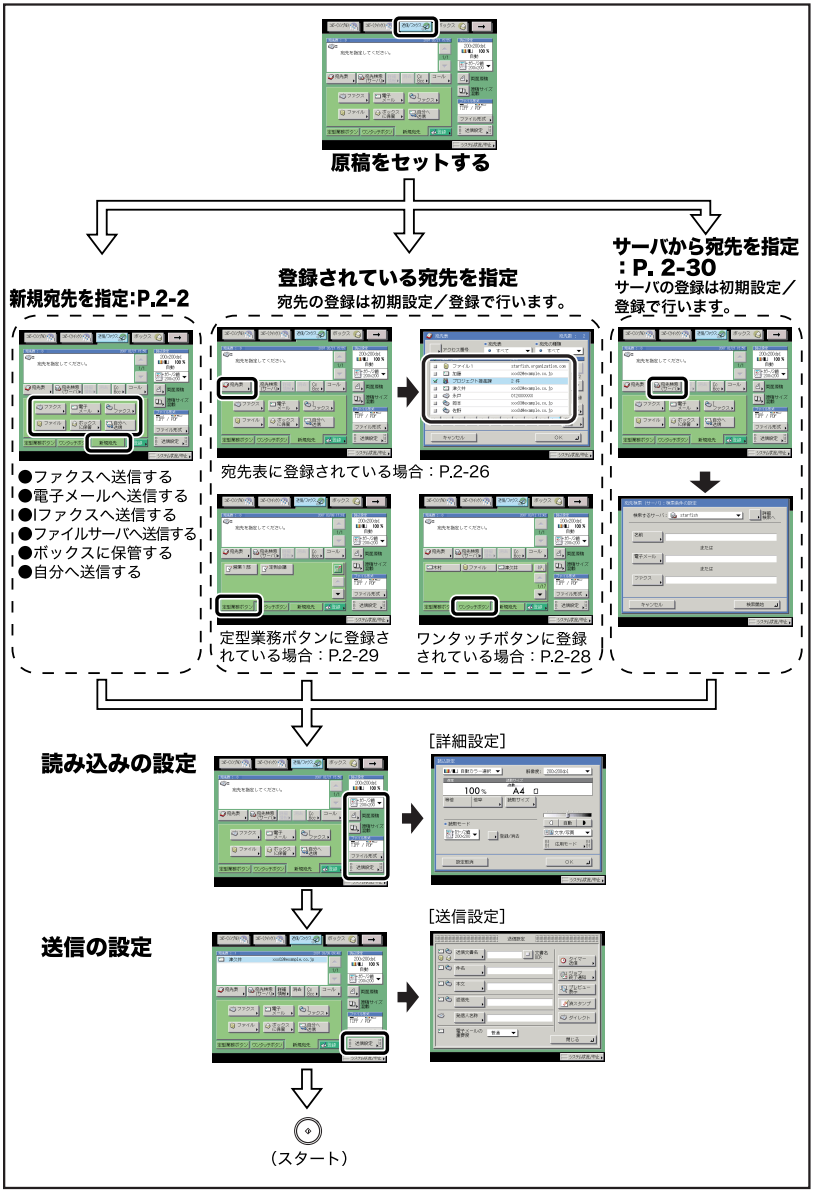
送信／ファクス
Send拡張キットを有効＋FAXボード装着時



各種宛先に送信するには、以下のオプションが必要です。

・電子メール、I ファクス、ファイルサーバ： Send 拡張キット
・ファクス： FAX ボード
・ボックス： Send 拡張キットまたは FAX ボード

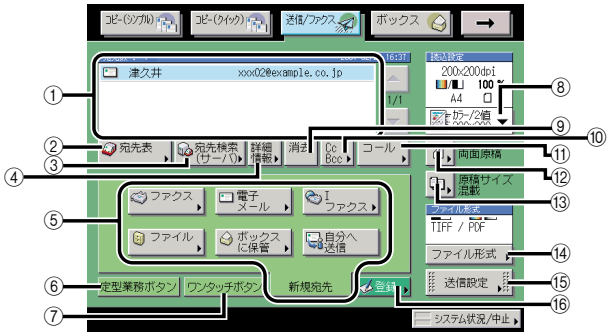
送信の操作は次のような流れになります。



重要 電子メールやIファクス、ファイルサーバへ送信するには、ネットワークの設定が必要です。(→ネットワークガイド)

■ **送信画面**

［送信 / ファクス］を選択したときに表示される下の画面を送信画面といいます。



① 宛先リスト

送信する宛先が表示されます。

② 宛先表

宛先表から宛先を選択するときに押します。

③ 宛先検索（サーバ）

ネットワーク上のディレクトリサーバ（LDAP）から宛先を検索するときに押します。

④ 詳細情報

宛先リストで選択した宛先の確認や変更をするときに押します。

⑤ 新規宛先

宛先表に登録していない宛先を指定するときに押します。

⑥ 定形業務ボタン

定型業務ボタンに登録した宛先や設定を呼び出すときに押します。

⑦ ワンタッチボタン

ワンタッチボタンに登録した宛先を指定するときに押します。

⑧ 読込設定ドロップダウンリスト

原稿の読み込み設定をするときに押します。

⑨ 消去

宛先リストに表示されている宛先を消去するときに押します。

⑩ Cc Bcc

Cc、Bcc を設定して電子メールを送信するときに押します。

⑪ コール

設定していた宛先、読込設定、送信設定を呼び出すときに押します。

⑫ 両面原稿

両面原稿を読み込むときに押します。

⑬ 原稿サイズ混載

異なるサイズの原稿を同時にセットして読み込むときに押します。

⑭ ファイル形式

送信する文書のファイル形式（PDF、JPEG、TIFF）を選択するときに押します。

⑮ 送信設定

送信設定をするときに押します。指定した時刻に送信したり、電子メールやIファクスの件名、ファクスの発信人名称を指定することなどができます。

⑯ 登録

送信画面から宛先やワンタッチボタン、定型業務ボタンを登録するときに押します。

■ 読込設定画面

送信画面の読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押したときに表示される下の画面を読込設定画面といいます。
送信する原稿の読込設定をするときに、この画面を表示させます。



① カラー選択ドロップダウンリスト

読み込む原稿のカラーモードを選択するときに押します。

② 等倍

原稿と同じサイズで読み込むときに押します。

③ 倍率

倍率を設定するときに押します。

④ 読取モードドロップダウンリスト

あらかじめ登録してある読取モードに設定するときに押します。

⑤ 登録 / 消去

読取モードを登録／消去するときに押します。

⑥ 解像度ドロップダウンリスト

解像度を選択するときに押します。

⑦ 読取サイズ

読み込む原稿のサイズを選択するときに押します。

⑧ 濃度調節

読み込み濃度を手動で調節するときに、［◐］または［◑］を押します。自動濃度調整を設定または解除するときには［自動］を押します。

⑨ 画質選択ドロップダウンリスト

画質（文字／写真混在の原稿、写真のみの原稿、文字のみの原稿）を選択して読み込むときに押します。

⑩ 応用モード

応用モードを選択するときに押します。

⑪ システム状況 / 中止

送信ジョブや受信ジョブの状況の確認や中止をするときに押します。

ご利用前に必要なこと

本製品を設置したあと、使用を始める前に設定、登録が必要な項目と、その設定方法について説明します。

重要
- 必要な登録を正しく行わずにご利用になりますと、正しく機能しない場合があります。
- 電子メールやIファクス、ファイルサーバへ送信するには、ネットワークの設定が必要です。(→ ネットワークガイド)

メモ 各種宛先に送信するには、以下のオプションが必要です。

・電子メール、Iファクス、ファイルサーバ：Send 拡張キット

・ファクス：FAX ボード

・ボックス：Send 拡張キットまたは FAX ボード

■ ファクス回線種別の登録

オプションの FAX ボードを装着している場合は、接続する通信回線の種類を選択する必要があります。

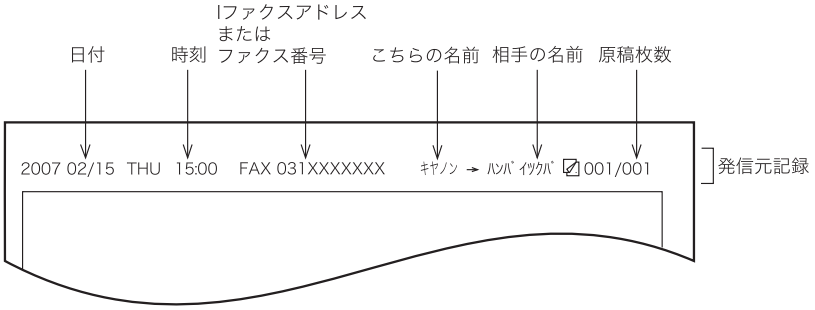
電話回線の種別は、電話会社とお客様の契約にもとづいて設定されています。ダイヤル回線（パルス回線）かプッシュ回線（トーン回線）かを確認して、正しい登録をしてください。(→ 電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）：P.1-14)

マルチポート FAX ボードを装着している場合は、接続する通信回線の種類を選択する必要があります。(→ 増設した電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）：P.9-61)

■ 発信元記録の登録

ファクスやIファクスで送信した相手の記録紙に印字される発信元の情報を登録します。

登録された発信元記録は、以下のようにプリントされます。また、受信側の機種によっては、通信中の画面などに発信元記録が表示されます。

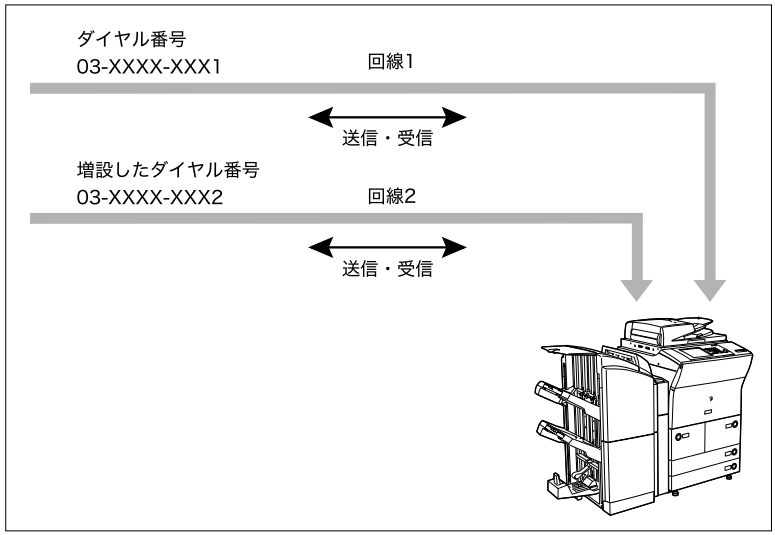


- 日付と時刻
  - ・送信した日付と時刻が記録されます。
- Iファクスアドレスまたはファクス番号
  - ・本製品のIファクスアドレスまたはファクス番号が記録されます。
- こちらの名前
  - ・ファクス文書の場合、ユーザ略称や発信人名称に登録されている名称が記録されます。
- 相手の名前
  - ・宛先表を利用して送信する場合、相手先の名称も登録されていると、その名称が記録されます。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)
- 原稿枚数
  - ・何枚目の原稿か記録されます。

メモ
- 発信元記録の各項目が登録されていても、発信元記録を印字しないように設定することができます。(→ 送信する文書に発信元記録をつける（発信元記録）：P.9-31)
- 発信元記録を印字するように設定されていて、登録されていない項目がある場合は、登録されている項目と原稿枚数が印字されます。
- 相手の名前を印字するには、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の発信元記録で、相手先略称の表示を「ON」に設定してください。

■ G3（マルチ回線）について

マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設することにより、2 本の回線を本製品に接続できます。1 回線が使用中でも、もう 1 回線を使用することができるので、送受信にかかる時間を短縮することができます。回線を増設してご利用になる場合は、本製品に増設回線の電話番号を登録する必要があります。(→ 増設した回線のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）：P.9-59)



回線 1（標準回線）：ファクスと電話の切り替え、リモート受信、自動受信切替などの機能を利用することができます。

回線 2（増設回線）：ファクスと電話の切り替え、リモート受信、自動受信切替などの機能を利用することはできません。

メモ　マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。従って、回線 1（標準回線）においてもファクスと電話の切り替え、リモート受信、自動受信切替などの機能を利用することはできません。

表示言語の切替の設定

言語の切替をする場合は、あらかじめ表示言語の切替を「ON」に設定してから宛先表や発信人名称などの登録をしてください。

表示言語の切替を「ON」にした場合、「OFF」に設定していたときに登録した宛先表や発信人名称などが、正しくタッチパネルディスプレイに表示されないことがあります。この場合は、表示言語の切替を「ON」にしてから登録しなおすか、「OFF」のまま使用してください。

表示言語の切替（→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」）を「ON」に設定している場合は、「かな漢」「カタカナ」「記号（全角）」「コード入力」モードは使用できません。

電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）

本製品に接続する電話回線の種類を設定します。

設定が誤っていると通信することができません。電話回線の種類を確認して、正しく設定してください。

重要 ここで選択する電話回線の種類は、標準回線（回線 1）のものです。増設した回線の種類の選択は「増設した電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）」（→ P.9-61）を参照してください。

メモ この設定を行うには、オプションの FAX ボードが必要です。

1 (初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (ファクス設定) [基本登録] → [回線種類の選択] を押します。

2 回線の種類を選択したあと、[OK] を押します。

電話回線の種類がわからないときは、最寄のお客様が契約している電話会社の支店、営業所にお問い合わせください。

日付／時刻を設定する（日付／時刻設定）

現在の日付と時刻を設定します。設定した時刻と日付は、時刻指定機能の基準時刻になります。

- GMT： グリニッジ標準時を GMT（Greenwich Mean Time ）と呼びます。
- タイムゾーン： 世界の地域別標準時間帯は、GMT （± 0 時）からの時差（± 12 時間以内）を使用して各国の標準時間帯としています。この時差を使用している地域をタイムゾーンといいます。日本の標準時はこれより 9 時間先行しているため、[GMT+09：00] を設定します。
- サマータイム： 国によっては、夏季に時間を進める夏時間を採用しています。この夏時間をサマータイムと呼びます。

メモ 初期設定／登録の設定によって、ネットワーク上のサーバとの日付／時刻あわせを自動的に行うこともできます。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

1 (初期設定／登録) → [システム管理設定] → [日付 / 時刻設定] を押します。

2 ⓪～⑨（テンキー）で、現在の日付（西暦、月、日）と時刻を入力します。



年は西暦の 4 桁を入力します。

月日、時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。時刻の表示形式は 24 時間制です。

例：　5 月 6 日　→ 0506
　　7 時 5 分　→ 0705
　　23 時 18 分　→ 2318

● タイムゾーンを設定する場合

❑ タイムゾーンドロップダウンリストを押したあと、タイムゾーンを選択します。

● サマータイムを設定する場合

❑ ［ON］→［開始日］を押します。

❑ 月、日のドロップダウンリストを押したあと、設定する項目を選択します。

❑ ［−］［+］を押して時刻を設定したあと、［OK］を押します。

❑ ［終了日］を押して、開始日と同じように終了日の設定をしたあと、［OK］を押します。

メモ　サマータイムを設定すると、開始日から終了日までの一定期間、本製品の基準時刻を自動的に 1 時間進めることができます。

3 ［OK］を押します。

本製品のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）

本製品でファクスを使用するときのファクス番号を登録します。登録したファクス番号は、原稿を送信したとき、発信元記録として相手先の記録紙にプリントされます。

相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレイなどに表示されます。

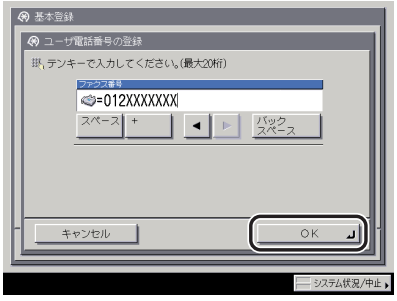
重要 ここで登録する電話番号は、標準回線（回線 1）のものです。増設した回線の電話番号の登録は、「増設した回線のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）」(→ P.9-59)を参照してください。

メモ この設定を行うには、オプションの FAX ボードが必要です。

---

1 **(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (ファクス設定) [基本登録] → [ユーザ電話番号の登録] を押します。**

2 **登録するファクス番号を(0)～(9)(テンキー) で入力したあと、[OK] を押します。**



表示される項目

[スペース]： 局番とファクス番号の間に空白(スペース)を入れる場合に使用します。

[+]： ファクス番号に国番号を入れる場合に国番号とファクス番号の間に使用します。

[◀] [▶]： カーソルを移動するときに押します。

[バックスペース]：カーソルの前の 1 文字を削除するときに押します。

個人の名称を登録する（発信人名称の登録）

部や課の名称、個人名などを発信人名称に登録する方法を説明します。

ファクスの場合に、発信元記録として相手先に表示／プリントすることができます。

メモ
- ユーザ略称の代わりに発信人名称を表示／プリントする場合は、送信設定の［発信人名称］で行います。（→ ファクス設定をする：P.5-3）
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［発信人名称の登録］を押します。**

2 **発信人名称を登録する番号（項目）を選択したあと、［登録 / 編集］を押します。**



発信人名称は、99 件（01 ～ 99）まで登録できます。

登録してある発信人名称を消去するには、消去する発信人名称の番号を選択したあと、［消去］を押します。複数の発信人名称を消去する場合は、1 つずつ選択して消去してください。

3 **発信人名称を入力したあと、［OK］を押します。**

会社や部署の名称を登録する（ユーザ略称の登録）

会社や部署の名称などをユーザ略称に登録する方法を説明します。

例：

- 名前：山田　太郎
- 会社：キヤノン株式会社
- 部署：プロジェクト推進部

登録したユーザ略称は、原稿を送信したとき、電子メールやIファクスの送信者名として相手先に表示／プリントされます。

ファクスの場合は、発信元記録として相手先に表示／プリントされます。相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレイなどにも表示されます。

メモ

- 増設回線のユーザ略称は別途登録する必要があります。(→ 増設した電話回線のユーザ略称を登録する（ユーザ略称の登録）：P.9-60)
- オプションのFAXボードを装着している場合は、発信元記録にユーザ略称をプリントすることができます。
- ログインサービスに SDL または SSO のローカルデバイス認証を設定している場合
  - ・電子メール受信側の送信元（From）の欄には、本製品のデバイス情報として登録された電子メールアドレスの代わりに、SDL または SSO のローカルデバイス認証で登録されたログインユーザの電子メールアドレスが設定されます。(→ 電子メール設定をする：P.5-5)
  - ・Iファクス受信側の送信元（From）の欄には、本製品のデバイス情報として登録された電子メールアドレスが表示され、Sender 行には、SDL または SSO のローカルデバイス認証で登録されたログインユーザの電子メールアドレスが設定されます。(→ Iファクス設定をする：P.5-8)
- ログインサービスに SSO のドメイン認証（「ドメイン認証＋ローカルデバイス認証」でドメイン認証を使用している場合も含む）を設定している場合
  - ・電子メール受信側の送信元（From）の欄には、本製品のデバイス情報として登録された電子メールアドレスの代わりに、Active Directory または imageWARE Accounting Manager で登録された電子メールアドレスが設定されます。(→ 電子メール設定をする：P.5-5)
  - ・Iファクス受信側の送信元（From）の欄には、本製品のデバイス情報として登録された電子メールアドレスが設定され、Sender 行には Active Directory または imageWARE Accounting Manager で登録された電子メールアドレスが設定されます。(→ Iファクス設定をする：P.5-8)
- どのログインサービスを使っていても、システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定で認証ユーザの宛先を送信元に指定を「ON」にしていた場合は、電子メール受信側の送信元（From）の欄にはログインユーザのメールアドレスが表示されます。「OFF」にすると、デバイス情報として登録されたアドレスが表示されます。
- 本製品の電子メールアドレスの登録方法は、「ネットワークガイド」を参照してください。

1 ◎(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [ユーザ略称の登録] を押します。

2 名称を入力したあと、[OK] を押します。

送信操作の流れ

送信の基本的な操作の流れを概説します。

メモ

- 以下の項目については「ユーザーズガイド」を参照してください。
  - ・主電源と操作部電源について（→ ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」）
  - ・タッチパネルディスプレイから文字を入力する（→ ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」）
  - ・日常のメンテナンス（→ ユーザーズガイド「第 7 章　日常のメンテナンス」）
- 送信ジョブは、最大 120 ジョブ、そのうちファクスジョブは 64 ジョブまで蓄積できます（エラージョブを含む）。ただし、メモリの状態によってはそれよりも少なくなることがあります。おもな例は以下のとおりです。
  - ・一度に複数の文書を送信したとき
  - ・大きなデータサイズの文書を送信したとき
  - ・ボックスで大量にメモリを使用しているとき
- 送信結果はレポートとしてプリントすることができます。（→ レポートの出力の仕様を設定する：P.12-4）
- ログインサービスを利用している場合は、各ログインサービスに応じた操作が必要です。
  - ・オプションのカードリーダ -C1 を使用して部門別 ID 管理をしている場合は、ユーザーズガイド「第 3 章　オプション機器について」を参照してください。
  - ・部門別 ID 管理をしている場合は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。
  - ・SDL や SSO を設定している場合は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。なお、IC カードを利用したユーザログインサービス（Single Sign-On IC Card Smart Card）をご利用の場合は、「IC カード認証機能拡張キットユーザーズガイド」を参照してください。

1 [送信 / ファクス] を押します。

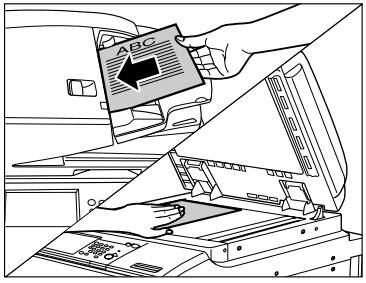


送信画面

[送信 / ファクス] はオプションの装着状態により、以下のように表示されます。

- Send 拡張キットを有効にしたとき： [送信]
- FAX ボード装着時： [ファクス]
- Send 拡張キットを有効+ FAX ボード装着時： [送信 / ファクス]

2 原稿をセットします。



メモ 原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章 おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

3 宛先を指定します。

メモ

- 各種宛先に送信するには、以下のオプションが必要です。
  - ・電子メール、I ファクス、ファイルサーバ：Send 拡張キット
  - ・ファクス：FAX ボード
  - ・ボックス：Send 拡張キットまたは FAX ボード
- 一度に送信できる宛先は最大 256 件（そのうち新規宛先とサーバから取得した宛先は合わせて 64 件）です。ただし、グループを宛先として指定した場合は、そこに登録されている各宛先を 1 件と数えます。
- 画面に表示される以下のアイコンは、それぞれ次の意味を示しています。
  - ・：グループ
  - ・：電子メール
  - ・：I ファクス
  - ・：ファイル
  - ・：ボックス
  - ・：ファクス
  - ・：Cc
  - ・：Bcc

● 宛先が宛先表に登録されている場合

❑ ［宛先表］を押したあと、宛先を選択します。（→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26）



● 宛先が宛先表に登録されていない場合

❑ ［新規宛先］を押して送信方法を選択したあと、宛先を入力します。(→ 宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）：P.2-2)



メモ　新規宛先で一度に送信できるのは、サーバから取得した宛先と合わせて最大 64 件（ボックスを除く）です。

● 宛先がワンタッチボタンに登録されている場合

❑ ［ワンタッチボタン］を押したあと、宛先が登録されたワンタッチボタンを押します。(→ ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）：P.2-28)

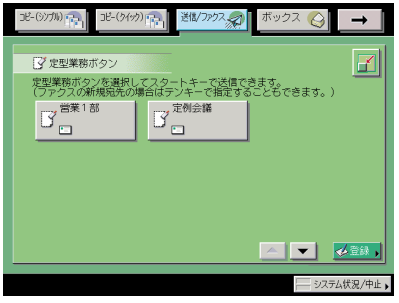


● 宛先が定型業務ボタンに登録されている場合

❑ ［定型業務ボタン］を押したあと、宛先が登録された定型業務ボタンを押します。(→ 定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）：P.2-29)

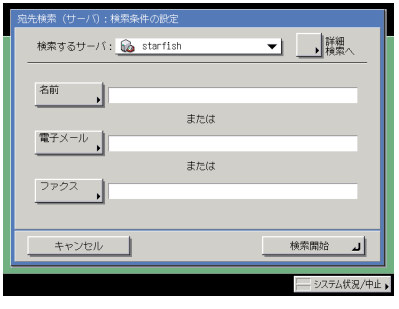


メモ を押して定型業務ボタンを大きく表示させることができます。(→ 送信画面の初期表示を設定する（送信画面の初期表示）：P.9-30)



● 宛先をサーバから検索する場合

❑ ［宛先検索（サーバ）］を押したあと、ネットワーク上のディレクトリサーバ(LDAP) から宛先を検索して指定します。(→ サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））：P.2-30)



メモ サーバから取得した宛先で一度に送信できるのは、新規宛先と合わせて最大 64 件（ボックスを除く）です。

● Cc、Bcc を設定する場合

❑ [Cc Bcc] を押したあと、電子メールアドレスを設定します。(→ Cc、Bcc を設定する (Cc Bcc) : P.2-35)



メモ
- Cc、Bcc に設定できるのは、電子メールアドレスのみです。
- Cc、Bcc で設定した宛先で一度に送信できるのは、新規宛先、サーバから取得した宛先と合わせて最大 64 件 (ボックスを除く) です。グループ宛先を追加することはできません。

4 読込設定ドロップダウンリストを押したあと、読取モードを選択します。



選択する読取モードが表示されていない場合は、[▼][▲]を押します。

設定した読込設定の詳細を変更する場合は、読込設定ドロップダウンリストを押したあと、[詳細設定]を押します。(→ 読込設定を変更する：P.3-4)



重要 [自動カラー選択]を設定したときに、原稿にカラー部分があればフルカラーモードで読み込みます。ただし、以下の原稿は、白黒モードで読み込むことがあります。このときは、[フルカラー]に切り替えてください。(→ カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する：P.3-23)

・カラー部分が微小の原稿

・フィーダにセットしたときに、読み込む面の左側 10mm のみにカラー部分がある原稿

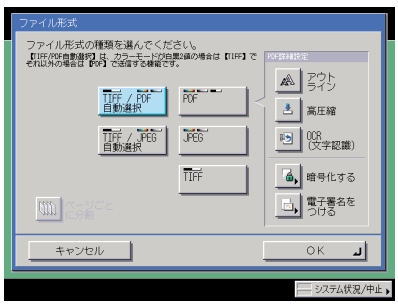
・黒に近い色の原稿

・淡い色の原稿

メモ 読取モードの設定をする方法は、「読取モードを選択する」(→ P.3-2)を参照してください。

5 [ファイル形式]を押したあと、送信する画像のファイル形式を選択します。





以下の場合は、この操作は必要ありません。

- ファクスを宛先として選択している場合
- Iファクスを宛先として選択している場合
- ボックスを宛先として選択している場合

メモ

- ファイル形式の設定方法については、「送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）」（→ P.5-20）を参照してください。
- 画面に表示される以下のアイコンは、それぞれ次の意味を示しています。
  - ：ページごとに分割
  - ：アウトライン PDF
  - ：高圧縮 PDF
  - ：OCR PDF
  - ：暗号化 PDF
  - ：電子署名つき PDF

6 [送信設定]を押して、送信の設定をします。





タイマー送信、ジョブ終了通知、プレビュー表示、済スタンプ、ダイレクトは必要に応じて設定してください。

メモ

- 送信設定をする方法は、「送信の設定をする（送信設定）」(→ P.5-2) を参照してください。
- タイマー送信の設定方法については、「指定した時刻に送信する（タイマー送信）」(→ P.5-14) を参照してください。
- ジョブ終了通知の設定方法については、「送信の終了を電子メールで知らせる（ジョブ終了通知）」(→ P.5-16) を参照してください。
- プレビュー表示の設定方法については、「原稿をプレビューする（プレビュー表示）」(→ P.5-17) を参照してください。
- 済スタンプの設定方法については、「読み取り済みの原稿にスタンプをつける（済スタンプ）」(→ P.5-19) を参照してください。
- ダイレクト送信の設定方法については、「ファクス設定をする」(→ P.5-3) を参照してください。

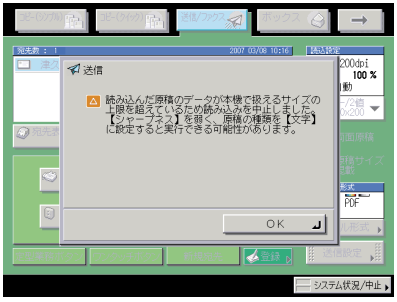
7 [閉じる]を押します。

8 (スタート）を押します。

下の画面が表示された場合は、画面の表示に従って、(スタート）を押します。原稿の読み込みが終了したら、［読込終了］を押します。



下の画面が表示された場合は、原稿を 1 枚目から読み込みなおしてください。［シャープネス］を「弱く」、原稿の種類を「文字」に設定すると読み込めることもあります。



読み込みが開始されます。

読み込みが終了すると指定した宛先に送信されます。

重要 原稿サイズは自動的に読み取られます。ファクス送信の場合、受信側に読取サイズと同じ記録紙がセットされていないときは、受信側の記録紙サイズに合わせて縮小して送信することがあります。

メモ プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。(→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17)

9 読み込みを中止する場合は、(ストップ）を押します。

メモ
- (ストップ）を押して中止できるのは、読み込み中のジョブのみです。
- 送信を中止する方法は、「ジョブを中止する」(→ P.1-37)を参照してください。
- システム状況画面でも送信を中止することができます。(→ システム状況画面から中止する：P.1-38)

10 読み込みが終了したら、原稿を取り除きます。

手動でファクスを送信する（手動送信）

ハンドセット・G2 を装着している場合、相手と通話してから原稿を送信できます。原稿をセットして◎（スタート）を押すと、送信できます。

重要

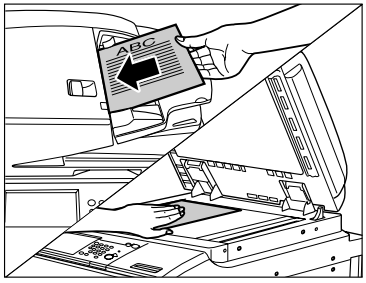
- 回線を増設した場合は、手動送信できるのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。
- 2 枚以上の原稿の手動送信は、フィーダ使用時のみ利用できます。原稿台ガラスに原稿をセットして手動送信する場合、利用できるのは 1 枚だけです。
- 手動送信の途中で中止した場合は、ファクス通信管理レポートやシステム状況画面のファクスジョブ履歴で送信された枚数を確認することができます。

メモ

- マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。
- この機能は、オプションのスーパー G3FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- 通話のあとに手動送信を行うには、本製品にオプションのハンドセット・G2 を装着する必要があります。

電話をかけてからファクスを送信する

1 原稿をセットします。



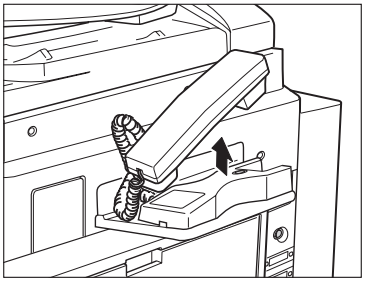
2 待機状態であることを確認します。



3 電話をかける操作を行います。

● ハンドセット・G2 を使用する場合

❑ ハンドセット・G2 を上げます。



❑ ［新規宛先］→［ファクス］を押します。



メモ ［ファクス］を押さずに⓪～⑨、⊛、⊞（テンキー）を押すと、次の手順の画面が表示され、ファクス番号を入力することができます。

❑ 相手先の電話番号またはファクス番号を入力します。



重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

メモ 電話番号またはファクス番号は、120 桁まで入力できます。

❑ 相手の声や、「ピー」という信号音を確認します。

内線番号などを続けてダイヤルすることができます。

相手の声が聞こえたら通話をすることができます。原稿を送信する前に、相手にスタートボタンを押すよう伝えてください。

メモ
- 相手先が応答しない場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。待機状態に戻ります。
- 手動送信を中止したい場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。手動送信が中止されます。
- ハンドセット・G2 の呼び出し音量は、呼び出し音量スイッチで調節することができます。

● オンフックを使用する場合

❑ ［新規宛先］→［ファクス］→［オンフック］を押します。

❑ 相手先の電話番号またはファクス番号を入力します。



重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

メモ ファクス番号は、120 桁まで入力できます。

❑ 相手の声や、「ピー」という信号音を確認します。

音量を調節する場合は、［◁］［▷］を押します。

内線番号などを続けてダイヤルすることができます。

［ワンタッチボタン］を押した場合は、目的のワンタッチボタンを選択したあと、［OK］を押します。

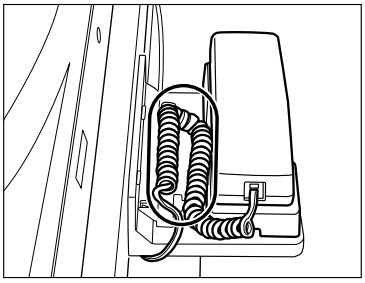


ワンタッチボタンには、3 桁のワンタッチボタン番号が割り当てられています。ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、[短縮]を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を⓪～⑨（テンキー）で入力してください。

メモ
- ワンタッチボタンの詳細については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」（→ P.2-28）を参照してください。
- 手動送信を中止したい場合は、［終了］を押してください。手動送信が中止されます。
- 送信を開始する前に、読み込み設定を変更することができます。（→ 第 3 章　基本的な読み取り機能、第 4 章　便利な読み取り機能）

4 ◎（スタート）を押します。

ハンドセット・G2 を上げていた場合は、コードを正しい位置にしてハンドセット・G2 を戻します。



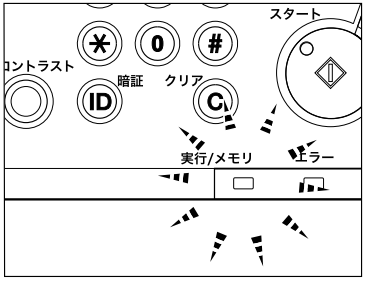
読み込みが開始され、同時に送信します。

送信中、メッセージエリアには受付番号や宛先の電話番号、および送信中のページ番号が表示されます。

メモ　ハンドセット・G2 をきちんと戻しておかないと、送信終了後に「ピロピロピロ･･･」という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音は鳴らないようにも設定できます。（→ オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）：P.9-46）

電話をうけてからファクスを送信する

1 着信を開始すると、操作パネルの実行／メモリランプが点滅します。

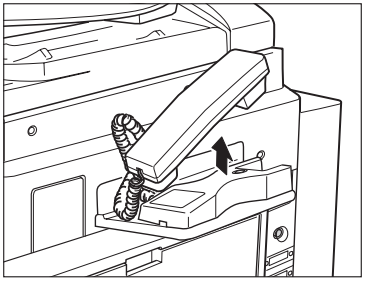


受信モードが鳴動着信になっている場合は、呼出音が鳴ります。

2 電話をうける操作を行います。

● ハンドセット・G2 を使用する場合

❑ ハンドセット・G2 を上げます。



❑ [新規宛先] → [ファクス] を押します。



❑ 相手の声を確認します。

相手の声が聞こえたら通話することができます。原稿を送信する前に、相手にスタートボタンを押すよう伝えてください。

メモ
- 相手先が応答しない場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。待機状態に戻ります。
- 送信を開始する前に、読み込み設定を変更することができます。(→ 第 3 章　基本的な読み取り機能、第 4 章　便利な読み取り機能)
- 手動送信を中止したい場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。手動送信が中止されます。

● オンフックを使用する場合

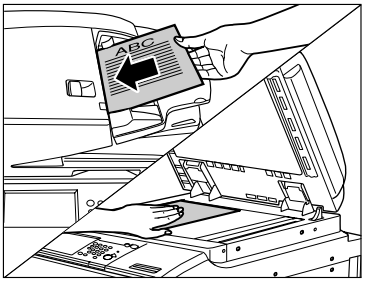
❑ [新規宛先] → [ファクス] → [オンフック] を押します。

❑ 相手の声を確認します。

音量を調節する場合は、[🔉] [🔊] を押します。

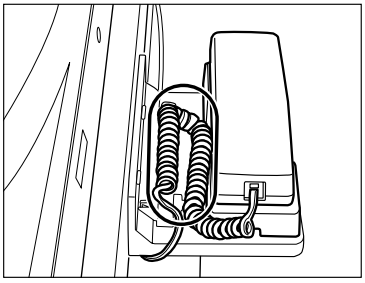
メモ
- 手動送信を中止したい場合は、[終了] を押してください。手動送信が中止されます。
- 送信を開始する前に、読み込み設定を変更することができます。(→ 第 3 章　基本的な読み取り機能、第 4 章　便利な読み取り機能)

3 原稿をセットします。



4 ◎（スタート）を押します。

ハンドセット・G2 を上げていた場合は、コードを正しい位置にしてハンドセット・G2 を戻します。



読み込みが開始され、同時に送信します。

送信中、メッセージエリアには受付番号や宛先の電話番号、および読み込み中のページ番号が表示されます。

メモ ハンドセット・G2 をきちんと戻しておかないと、送信終了後に「ピロピロピロ･･･」という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音は鳴らないようにも設定できます。（→ オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）：P.9-46）

ジョブを中止する

送信ジョブの中止のしかたについて説明します。

タッチパネルディスプレイから中止する

読み込み中の送信ジョブを中止することができます。

1 読み込み中に表示される画面の［中止］を押します。



2 中止してよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、［はい］を押します。

送信ジョブが中止されます。

3 原稿を取り除きます。

ストップを押して中止する

(ストップ) を押して、読み込み中の送信ジョブを中止することができます。

メモ　(ストップ) を押して中止できるのは、読み込み中のジョブのみです。

1 **(ストップ) を押します。**

2 **中止してよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、[はい] を押します。**

送信ジョブが中止されます。

3 **原稿を取り除きます。**

システム状況画面から中止する

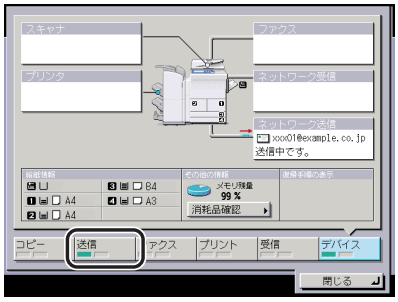
送信中や待機中のジョブを中止することができます。

電子メール、I ファクス、ファイルサーバへの送信やボックスへの保管を中止する

1 **[システム状況 / 中止] を押します。**



2 [送信]を押します。



3 [ジョブ状況]を押し、中止するジョブを選択したあと、[中止]を押します。



複数のジョブを選択して中止することはできません。1 つずつ選択して中止してください。

送信中のジョブは、[中止]を押しても送信される場合があります。

4 [はい]を押します。

メモ　中止したジョブは、ジョブ履歴の画面で「NG」と表示されます。

ファクスの送受信を中止する

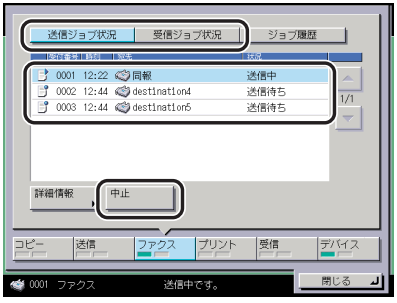
1 [システム状況 / 中止] を押します。



2 [ファクス] を押します。



3 [送信ジョブ状況] または [受信ジョブ状況] を押し、中止するジョブを選択したあと、[中止] を押します。



複数のジョブを選択して中止することはできません。1 つずつ選択して中止してください。

送信中のジョブは、[中止] を押しても送信される場合があります。

4 ［はい］を押します。

● 同報送信を中止する場合

❑ 送信宛先を確認して、［すべて中止］または［1 件のみ中止］を押します。

［1 件のみ中止］を選択した場合は、現在送信中の 1 件が中止されます。

メモ　中止したジョブは、ジョブ履歴の画面で「NG」と表示されます。

基本的な送信機能の使いかた

2 CHAPTER

基本的な送信機能の使いかたについて説明しています。

宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）. 2-2
ファクス番号を指定する 2-2
電子メールアドレスを指定する 2-6
I ファクスアドレスを指定する 2-7
ファイルサーバを指定する 2-11
ボックスに保管する 2-24
自分へ送信する（自分へ送信） 2-25
登録済の宛先を指定する 2-26
宛先表を使って宛先を指定する（宛先表） 2-26
ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン） 2-28
定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン） 2-29
サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ）） 2-30
Ｃｃ、Bcc を設定する（Cc Bcc） 2-35
宛先の情報を確認／変更する（詳細情報） 2-37
指定した宛先を消去する（消去） 2-39
登録ボタンを使用する（登録） 2-40

宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）

文書を送信するには、ファクス、電子メールアドレス、I ファクス、ファイルサーバなどの送信先の宛先を設定する必要があります。ここでは、宛先表に登録されていない宛先に送信する場合の手順について説明します。

重要　ここで入力した情報は宛先表に追加できません。一度送信すると消去されます。

メモ
- 同じ宛先に 2 回以上送信する場合は、宛先表に宛先を登録しておくと便利です。（→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5）
- 新規宛先で一度に送信できるのは、サーバから取得した宛先と合わせて最大 64 件（ボックスを除く）です。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メールアドレス、I ファクス、ファイルサーバ、ボックスの宛先を指定できます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクス、ボックスの宛先を指定できます。
- 宛先を選択して［詳細情報］を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先リストの宛先は、原稿を読み込む前に変更または消去できます。（→ 宛先の情報を確認／変更する（詳細情報）：P.2-37、指定した宛先を消去する（消去）：P.2-39）

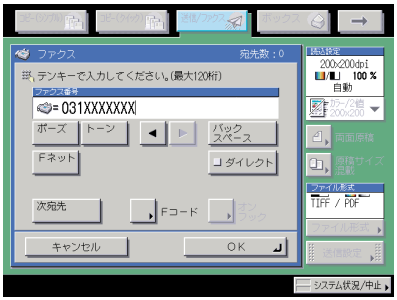
ファクス番号を指定する

⓪～⑨、⑧、⑬（テンキー）を使用して、宛先の番号を入力します。続けて別の番号を入力して、一度に複数の宛先に送信することもできます。

1 ［新規宛先］→［ファクス］を押します。

メモ　送信画面が表示されていて宛先が 1 件も指定されていないときは、［ファクス］を押さずに⓪～⑨、⑧、⑬（テンキー）を押すと、手順 2 の画面が表示され、ファクス番号を入力することができます。

2 ⓪～⑨、⊛、#（テンキー）でファクス番号を入力します。



表示される項目

［ポーズ］：　海外への送信のときに、国際電話識別番号などの次や、ファクス番号の末尾で押します。数字と数字の間で［ポーズ］を押すと「p」と表示され、数字の末尾で［ポーズ］を押すと「P」と表示されます。（➞ ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）：P.9-48）

［トーン］：　ダイヤル回線から、プッシュ信号を入力する前に押します。［トーン］を押すと、「T」と表示されます。ダイヤル回線に接続している場合でも、プッシュホンサービスなどを利用することができます。（➞ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7）

［◀］［▶］：　カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が消去されて、正しい数字が入力できます。

［F ネット］：　F ネットのファクス番号を入力するときに押します。［F ネット］を押すと、「.」と表示されます。（➞ F ネットを利用する：P.7-4）

［ダイレクト］：　ダイレクト送信をするときに押します。ダイレクト送信を設定しないときはメモリ送信になります。（➞ ダイレクト送信：P.5-3）

［次宛先］：　テンキーで宛先を指定したあとに、続けて別の宛先を指定するときに押します。

［詳細設定］：　マルチポート FAX ボード装着時に表示されます。F コードやパスワードの設定および回線の種類を選択するときに押します。

［F コード］：　スーパー G3FAX ボード装着時に表示されます。F コード、パスワードを設定するときに押します。必要に応じて設定してください。

［オンフック］：　プッシュホンサービスを利用するときに押します。（➞ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7）

重要　ポーズ、F ネットをファクス番号の先頭に入力することはできません。

メモ　ファクス番号の末尾にポーズを入れた場合は、ポーズ時間は 10 秒固定になります。

●［詳細設定］を押した場合

❑ ［F コード］を押したあと、⓪〜⑨、⊛、⊞（テンキー）で入力します。

❑ ［パスワード］を押したあと、⓪〜⑨、⊛、⊞（テンキー）で入力します。

スペースを入力するときは［スペース］を押します。

［バックスペース］を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

重要 F コードを付加して送信する場合は、送信先のファクス機が ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）規格に準拠した F コード通信に対応している必要があります。

メモ F コードの詳細については「F コードを使って通信する（F コード）」（→ P.7-2）を参照してください。

❑ ［回線 1］、［回線 2］または［自動選択］を選択したあと、［OK］を押します。

表示される項目

回線 1： 標準回線

回線 2： 増設した回線

自動選択： 初期設定／登録の増設回線設定の「回線を選択して送信する（送信回線の選択）」（→ P.9-62）の設定に従って、どちらかの回線が選択されます。

重要
- 回線 1 または回線 2 を送信禁止に設定することができます。（→ 回線を選択して送信する（送信回線の選択）：P.9-62）
- プッシュホンサービスを利用する場合は、どんな回線の設定がされていても、回線 1（標準回線）が自動的に選択されます。
- 自動選択を選択した場合には、送信設定の発信人名称で「00」を指定した際に表示されている名称と異なる場合があります。送信で使用された回線に登録されているユーザ略称が、相手先に表示／プリントされます。

● **[F コード] を押した場合**

❑ [F コード] を押したあと、⓪～⑨、⊛、⊕（テンキー）で入力します。

❑ [パスワード] を押したあと、⓪～⑨、⊛、⊕（テンキー）で入力します。

❑ [OK] を押します。

スペースを入力するときは [スペース] を押します。

[バックスペース] を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

重要 F コードを付加して送信する場合は、送信先のファクス機が ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）規格に準拠した F コード通信に対応している必要があります。

メモ F コードの詳細については「F コードを使って通信する（F コード）」（→ P.7-2）を参照してください。

3 [OK] を押します。

電子メールアドレスを指定する

電子メールのアドレスを指定します。電子メールアドレスは、キーボード画面を使って入力します。

1 **[新規宛先] → [電子メール] を押します。**

2 **[電子メールアドレス] を押します。**



3 **電子メールアドレスを入力したあと、[OK] を押します。**

4 **データ分割の [ON] または [OFF] を選択します。**

選択する項目

[ON]： 相手先のメールソフトに、分割されたデータを結合する機能がある場合は、[ON] に設定します。添付画像のデータサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、複数のデータに分割して送信します。相手先ですべての分割データを受信したら 1 つのデータに結合されます。

[OFF]： 相手先のメールソフトに、分割されたデータを結合する機能がない場合は、[OFF] に設定します。添付画像のデータサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、添付画像をページ境界で区切り、複数のメールに分割して送信します。

重要 相手先のメールソフトの仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ 送信データサイズ上限値の詳細は、「電子メール／ I ファクス共通の通信設定をする」（→P.11-6）を参照してください。

5 **[OK] を押します。**

I ファクスアドレスを指定する

I ファクスのアドレスを指定します。I ファクスでは、通信にインターネットを利用することが可能であるため、距離や地域にかかわらず低コストで送信することができます。I ファクスアドレスは、キーボード画面を使って入力します。モードの選択や相手先の条件など、詳細設定を行うこともできます。

1 **[新規宛先] → [I ファクス] を押します。**

2 **モード選択ドロップダウンリストを押したあと、[Simple] または [Full] を選択します。**



選択する項目

[Simple]：インターネットなどを利用して、読み込んだデータを画像として送信します。

[Full]：　Simple モードの送信機能に加え、相手先にデータが正しく送信されたかどうかの送達確認を行います。

メモ

- NTT コミュニケーションズのインターネットファクス中継サービスを利用する場合は、「Simple」を選択してください。これにより、読み込まれたデータがファクスへ転送されます。なお、このサービスを利用するには、NTT コミュニケーションズとの契約が必要です。詳しくは NTT コミュニケーションズにお問い合わせください。
- Full モードで送信する場合、受信機側が Full モードに対応している必要があります。Full モードで送信すると、I ファクスの送達確認をすることができます。
- Full モードに対応していない機器に Full モードで送信すると、送達確認を行うことができません。そのため、送信自体は完了していてもジョブは終了しません。このようなジョブは、システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定で設定した Full モードの送信タイムアウトが経過するまで、ジョブ状況の画面で「送信結果待ち」と表示されます。Full モードの送信タイムアウトが経過すると、ジョブ履歴に移行します。送信結果は「--」と表示されます。

3 [I ファクスアドレス] を押します。

4 I ファクスアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

メモ　サーバの経由をしないで送信する場合に、送信先の IP アドレスが DNS サーバに登録されていないときは、「user@［送信先の IP アドレス］」と入力します。「user」には任意の文字列を入力してください。

5 [相手先の条件] を押して、相手先の受信条件を設定します。

6 データ分割の [ON] または [OFF] を選択します。

選択する項目

[ON]：　相手先の機械に、分割されたデータを結合する機能がある場合は、[ON] に設定します。送信データサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、複数のデータに分割して送信します。相手先ですべての分割データを受信したら 1 つのデータに結合されます。

[OFF]：　相手先の機械に、分割されたデータを結合する機能がない場合は、[OFF] に設定します。送信データサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、送信エラーになります。

重要　相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ　送信データサイズ上限値の詳細は、「電子メール／ I ファクス共通の通信設定をする」（→ P.11-6）を参照してください。

7 カラー受信の［ON］または［OFF］を選択します。

● 白黒で送信する場合

❑ カラー受信の［OFF］を押します。

❑ 用紙サイズ、圧縮方式、解像度を設定したあと、［OK］を押します。

以下の条件は、自動的に設定されます。

- 用紙サイズ： A4/LTR
- 圧縮方式： MH
- 解像度： 200 × 100 dpi、200 × 200 dpi

A5 は［A4/LTR］に含まれます。

重要 相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ 圧縮方式の内容は以下のとおりです。

- ・MH（Modified Huffman）： 連続する白や黒のドットを、ドット数に応じて符号化して送信します。
- ・MR（Modified Read）： 連続する白や黒のドットを、ドット数に応じて符号化して送信します。先に読み取られた行との差分を符号化していくため、MH よりも効率的な圧縮を行います。
- ・MMR（Modified Modified Read）： 圧縮率が MR よりも高いので、MR よりも早く送信することができます。

● カラーで送信する場合

❑ カラー受信の [ON] を押したあと、［次へ］を押します。

❑ 用紙サイズ、解像度を設定したあと、［OK］を押します。

以下の条件は、自動的に設定されます。

- 用紙サイズ： A4/LTR
- 解像度： 200 × 200 dpi

A5 は［A4/LTR］に含まれます。

重要 相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

8 サーバの経由の［ON］または［OFF］を選択します。

選択する項目

［ON］： サーバを経由して送信します。電子メールと同じように、インターネットを経由する宛先にも送信することができます。

［OFF］： サーバを経由しないで送信します。同じ LAN 環境の相手に送信したいとき、大きな画像データをメールサーバに負担をかけずに送ることができます。また、送信した文書をすぐに相手に届けることができます。この機能を使用するには、DNS サーバの MX（Mail eXchange）レコードなどの設定が必要です。あらかじめシステム管理者に送信ができるかどうか確認してからご利用ください。

重要 サーバの経由をしないで送信する場合は、あらかじめ通信管理設定（初期設定／登録）の I ファクス設定で「サーバの経由を使用」を「ON」に設定しておく必要があります。「サーバを経由しない MDN を許可」は「ON」に設定しておくことをおすすめします。「サーバの経由を使用」を「OFF」に設定した場合は、「サーバの経由」がグレーアウトして、設定ができません。（→ I ファクスの設定をする：P.11-9）

メモ サーバの経由を「OFF」に設定した場合でも、Full モードで送信する際の I ファクス送達確認はサーバ経由で行われます。

9 ［OK］を押します。

ファイルサーバを指定する

ネットワーク上のファイルサーバへ文書を送信します。

重要

- Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003 は、アクセスできるユーザ数またはクライアント数に制限があります。このユーザ数またはクライアント数を超えた場合は、Windows 2000/XP/Vista、Windows Server 2003 に送信することはできません。
- 共通仕様設定（初期設定／登録）の表示言語の切替を「ON」にすると、「ホスト名」や「フォルダへのパス」が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ

- ファイルサーバへ送信するには以下の項目を設定します。
  - ・プロトコル
  - ・ホスト名
  - ・フォルダへのパス
  - ・ユーザ名
  - ・パスワード
- ファイルサーバへ送信するときの設定の例については、「ネットワークガイド」を参照してください。
- imageWARE Document Manager へ送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズで設定した FTP サーバを宛先として設定します。imageWARE Document Manager と iR の送信機能を組み合わせれば、電子化した紙文書とパソコンデータをネットワーク上で一元管理することなどが可能です。詳細は、imageWARE Gateway の取扱説明書を参照してください。

■ キーボード画面からファイルサーバを指定する

［ホスト名］、［フォルダへのパス］、［ユーザ名］、［パスワード］を押すと、キーボード画面からファイルサーバを直接指定することができます。

■ 参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））

プロトコルに Windows（SMB）を選択した場合は、［参照］を使ってネットワーク上のファイルサーバを指定できます。ワークグループからファイルサーバを指定する方法と、本製品に登録した Active Directory サーバのドメイン名を指定する方法があります。

■ 参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（NetWare（IPX））

プロトコルに NetWare（IPX）を選択した場合は、［参照］を使ってネットワーク上のファイルサーバを指定できます。

■ ホスト検索ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））

プロトコルに Windows（SMB）を選択した場合は、［ホスト検索］を使ってネットワーク上のファイルサーバを指定できます。

キーボード画面を使ってファイルサーバを指定する

1 **[新規宛先]→[ファイル]を押します。**

2 **プロトコルドロップダウンリストを押したあと、サーバのプロトコルを選択します。**



使用できるプロトコルは以下のとおりです。

送信先の動作環境を確認してください。

プロトコル	動作環境	アプリケーション
FTP	Sun Solaris V.2.6 以降、Mac OS X 以降、または Red Hat Linux 7.2	−
	Windows 2000 Server	Internet Information Services 5.0
	Windows XP Professional	Internet Information Services 5.1
	Windows Server 2003	Internet Information Services 6.0
	Windows Vista	Internet Information Services 7.0
Windows(SMB)	Windows 98/Me/2000/XP、Windows Server 2003、または Windows Vista	−
	Mac OS X v10.2 Red Hat Linux 7.2	Samba 2.2/3.0
NetWare(IPX)	Novell NetWare V.3.2 以降	−

プロトコル	動作環境	アプリケーション
WebDAV	Sun Solaris V.2.6 以降、Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WS 4.0 以降、Windows 2000 Server、Windows XP Professional、または Windows Server 2003	Apache 2.0
	Mac OS X	Apache 1.3
	Windows 2000 Professional/Server	Internet Information Services 5.0
	Windows XP Professional	Internet Information Services 5.1
	Windows Server 2003	Internet Information Services 6.0

IPv6 に対応しているサーバの動作環境は以下のとおりです。

プロトコル	動作環境	アプリケーション
FTP	日本語版 Solaris Version 9.0 以降 Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WS 4.0 以降 Mac OS X v10.3 以降	−
WebDAV	日本語版 Solaris Version 9.0 以降	Apache 2.0
	Windows Server 2003	Internet Information Services 6.0

重要

- WebDAV を使用する場合、プロキシ経由でインターネットに接続する場合は、プロキシサーバが IPv6 をサポートしている必要があります。
- 本製品では、Windows Vista への WebDAV 送信は対応していません。しかし、Windows Vista からネットワーク上の WebDAV サーバに送信された文書を閲覧することは可能です。

3 各項目を設定したあと、[OK] を押します。

プロトコルに［Windows(SMB)］または［NetWare(IPX)］を選択した場合は、［参照］を押してネットワーク上のファイルサーバを指定できます。［参照］の使いかたについては、「参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））」（→ P.2-16）、「参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（NetWare（IPX））」（→ P.2-19）を参照してください。

プロトコルに［Windows(SMB)］を選択した場合は、［ホスト検索］を押してネットワーク上のファイルサーバを指定できます。［ホスト検索］の使いかたについては、「ホスト検索ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））」（→ P.2-11）を参照してください。

［ホスト名］：

［ホスト名］を押して、ホスト名を入力したあと、［OK］を押します。

ホスト名とは、サービスを提供しているホストコンピュータをネットワーク上で識別するためにつけられた固有の名前です。ここでは、ファイルを送信するファイルサーバの名前を入力します。

プロトコルに［FTP］または［WebDAV］を選択した場合は、ホスト名のあとに「：」（コロン）と数字を入力すると、ポート番号を指定することができます。

例：192.168.100.50：21000

IPv6 ホストに送信するときは、［ホスト名］は次の形式で設定してください。

［IPv6 アドレス］：＜ポート番号＞

例：[5aed:90a0:bc05:01d2:568a:2fc0:0001:12ee] :21000

ポート番号を指定する場合は、FTP サーバまたは WebDAV サーバの設定と同じポート番号にしてください。

プロトコルに FTP を選択した場合に、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定で、FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可が「ON」に設定されていると、「かな漢」「カタカナ」「記号」「コード入力」モードで入力できます。

プロトコルに［WebDAV］を選択した場合、ホスト名の接頭語に指定するスキームを「HTTP://」と指定すると、選択されたプロトコルは HTTP とみなし、「HTTPS://」と指定すると、SSL+HTTP（HTTPS）が選択されたものとします。「HTTPS://」にした場合、サーバと SSL 通信が行えるようになります。ただし経路の暗号化のみを行い、CA 証明書によるサーバ証明書の正当性チェックは行いません。

［フォルダへのパス］：

［フォルダへのパス］を押して、フォルダへのパスを入力したあと、［OK］を押します。

フォルダへのパスとは、フォルダの所在を示す文字列です。ここでは、ファイルサーバ内のどのフォルダに文書を送信するかを指定します。

プロトコルに FTP を選択した場合に、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定で、FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可が「ON」に設定されていると、「かな漢」「カタカナ」「記号」「コード入力」モードで入力できます。

［ユーザ名］:

［ユーザ名］を押して、ユーザ名を入力したあと、［OK］を押します。

- ユーザ名で入力するとき
  例：user_name
  半角 20 文字、全角 10 文字まで
- ドメイン名とユーザ名で入力するとき
  例：domain_name¥user_name
  ドメイン名：半角 15 文字、全角 7 文字まで
  ユーザ名：半角 20 文字、全角 10 文字まで
- UPN で入力するとき
  例：user_name@domain_name.com
  半角 128 文字、全角 64 文字まで

［パスワード］:

［パスワード］を押して、パスワードを入力したあと、［OK］を押します。

必要に応じて設定してください。

［OK］を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

メモ

- imageWARE Document Manager へ送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズで設定したフォルダ名をフォルダへのパスに入力してください。
- imageWARE Document Manager へ送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズで設定したユーザ名を入力してください。
- ユーザ名に、UPN を使用できるのは、Active Directory で運用されているドメインに属するコンピュータへ送信する場合のみです。
- imageWARE Document Manager へ送信する場合は、imageWARE Gateway シリーズで設定したパスワードをパスワードに入力してください。
- インターネット上のファイルサーバへ WebDAV 送信する場合は、ユーザ先の環境によってはプロキシサーバ設定が必要になります。そのプロキシサーバのホスト名（または、IP アドレス）、ポート番号、ユーザ名、パスワードをシステム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定で指定します。（→ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」）

参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows (SMB)）

1 **[新規宛先] → [ファイル] を押します。**

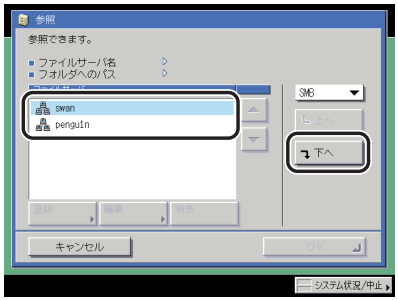
2 **プロトコルドロップダウンリストを押したあと、[Windows（SMB)] を押します。**



3 **[参照] を押します。**

重要 本製品の電源を入れたあと、システム管理設定（初期設定／登録）の「起動時間の設定」で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。設定した時間が経過するまでは、ネットワークの通信が行われません。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

4 ワークグループ名を選択して、[下へ] を押します。



ドロップダウンリストで [Directory] を押して、本製品に登録した Active Directory サーバのドメイン名の中から選択することもできます。

● Directory サーバのドメイン名を本製品に登録する場合

❑ [登録] を押します。

❑ サーバのドメイン名を入力したあと、[OK] を押します。

メモ
- Directory サーバは最大 5 件まで登録できます。
- 登録したドメイン名を編集するには、サーバを選択したあと、[編集] を押します。
- 登録したドメイン名を消去するには、サーバを選択したあと、[消去] を押します。

5 ファイルサーバを選択して [下へ] を押します。

1 つ上の階層に戻るときは [上へ] を押します。

6 ネットワークパスワードの入力画面が表示された場合は、ユーザ名とパスワードを入力します。

❑ 各項目を設定したあと、[OK] を押します。

[ユーザ名]：

[ユーザ名] を押して、ユーザ名を入力したあと、[OK] を押します。

[パスワード]：

[パスワード] を押して、パスワードを入力したあと、[OK] を押します。

[OK] を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

重要 LDAP サーバから宛先を検索する場合、サーバと本製品の時刻の設定が 5 分以上ずれていると検索することができません。ユーザ名、パスワードが正しいにもかかわらず検索できない場合は、サーバと本製品に設定されている時刻を確認してください。

7 [下へ] を押して送信するフォルダを選択したあと、[OK] を押します。

さらに下の階層に進む場合は、[下へ] を押します。

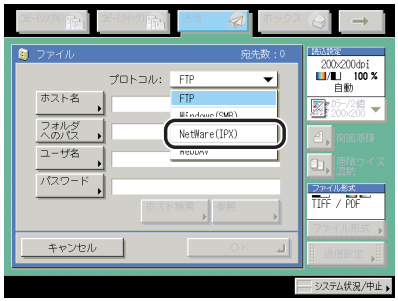
1 つ上の階層に戻るときは [上へ] を押します。

8 設定を確認したあと、[OK] を押します。

参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（NetWare (IPX)）

1 **［新規宛先］→［ファイル］を押します。**

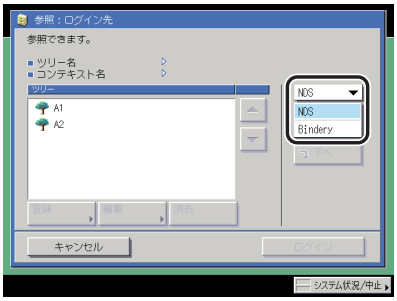
2 **プロトコルドロップダウンリストを押したあと、［NetWare（IPX)］を押します。**



3 **［参照］を押します。**

重要 本製品の電源を入れたあと、システム管理設定（初期設定／登録）の「起動時間の設定」で設定した時間が経過してから［参照］を押してください。設定した時間が経過するまでは、ネットワークの通信が行われません。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

4 ドロップダウンリストを押したあと、[NDS] または [Bindery] を選択します。



選択する項目

[NDS]： Novell 社のディレクトリサービスの 1 つで、ユーザ名やサーバ名などの情報が統合的に管理されています。Novell NetWare V.4.x 以降を使用しているときに選択します。

[Bindery]： Novell 社のディレクトリサービスの 1 つで、ユーザ名やサーバ名などの情報がサーバごとに管理されています。Novell NetWare V.3.x を使用しているときに選択します。

Bindery を選択した場合は、Windows (SMB) を選択した場合のファイルサーバの選択以降の手順と同様の手順になります。「参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））」（→ P.2-16）の手順 5 から続けて操作してください。

以下からは、NDS を選択した場合の手順です。

5 ツリーを選択したあと、[下へ] を押します。

1 つ上の階層に戻るときは［上へ］を押します。

6 ログインするフォルダを選択したあと、[ログイン] を押します。

フォルダが表示されていない場合は、[ログイン] を押して Novell サーバにログインします。

さらに下の階層に進む場合は、［下へ］を押します。

1 つ上の階層に戻るときは［上へ］を押します。

7 ［ユーザ名］と［パスワード］を入力します。

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。

［ユーザ名］：

［ユーザ名］を押して、ユーザ名を入力したあと、［OK］を押します。

［パスワード］：

［パスワード］を押して、パスワードを入力したあと、［OK］を押します。

［OK］を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

重要 LDAP サーバから宛先を検索する場合、サーバと本製品の時刻の設定が 5 分以上ずれていると検索することができません。ユーザ名、パスワードが正しいにもかかわらず検索できない場合は、サーバと本製品に設定されている時刻を確認してください。

8 ［下へ］を押してファイルを送信するフォルダを選択したあと、［OK］を押します。

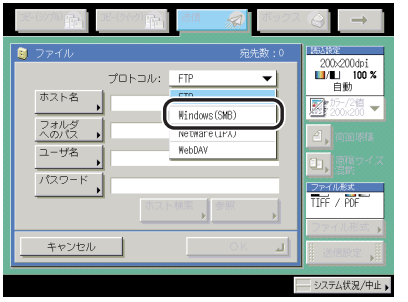
1 つ上の階層に戻るときは［上へ］を押します。

9 設定を確認したあと、［OK］を押します。

ホスト検索ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））

1 [新規宛先] → [ファイル] を押します。

2 プロトコルドロップダウンリストを押したあと、[Windows（SMB）] を押します。



3 [ホスト検索] を押します。

4 検索条件を入力したあと、[検索開始] を押します。

[ワークグループ名]：

[ワークグループ名] を押して、ワークグループ名を入力したあと、[OK] を押します。

[検索したいホスト名]：

[検索したいホスト名] を押して IP アドレス、FQDN 名、または NetBIOS 名を入力したあと、[OK] を押します。

メモ
- NetBIOS 名を入力する場合は、ワイルドカード（*、?）を使用して検索することもできます。
- ワイルドカードを使用する場合は、ワークグループ名も入力してください。
- ワイルドカード
  - ・*：0 または 1 文字以上（15 文字まで）の文字のワイルドカード
    例 tri* → trinity
    trinity1
    trinity0002
  - ・？：1 文字の置き換え
    例 tr?nity → trinity

5 検索結果画面から、ファイルサーバを指定します。

● 検索結果が表示された場合

❑「参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））」（P.2-16）の手順 5 ～ 7 に準じてファイルサーバを指定します。

● 検索結果なしの場合

❑「参照ボタンを使ってファイルサーバを指定する（Windows（SMB））」（P.2-16）の手順 4 ～ 7 に準じてファイルサーバを指定します。

6 設定を確認したあと、[OK] を押します。

ボックスに保管する

読み込んだ文書をユーザボックスに保存します。送信先にユーザボックスを含めておくと、相手先に送信した文書と同じ内容の文書がユーザボックスに保存されるので、送信文書の控えとして利用することができます。保存した文書は、プリントしたり、再度送信したりできます。

重要
- 読取サイズ（指定サイズ、長尺原稿）を設定して読み込んだ文書を、ボックスに保管することはできません。
- ユーザボックスに保存した文書は、3 日後に自動消去されるように設定されています。文書の自動消去までの時間は初期設定／登録で設定できます。(→ コピー／ボックスガイド「第 8 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

1 [新規宛先] → [ボックスに保管] を押します。

2 送信するボックスを選択したあと、[OK] を押します。



ここで選択できるユーザボックスは、[ボックス] を押すと表示されるボックス選択画面のユーザボックスと同じものです。

● 送信するボックスの URL を電子メールで通知する場合

❑ [URL 送信] を押します。

URL を通知する電子メールの本文には、「ユーザボックス格納通知」と表示されます。

メモ
- 保管先として指定できるボックスは 1 つだけです。
- URL を通知する場合は、あらかじめ電子メールアドレスをユーザボックスごとに登録しておく必要があります。電子メールアドレスの登録のしかたは、コピー／ボックスガイド「第 8 章 使いかたにあわせた仕様の設定」を参照してください。
- ボックスを含むグループ宛先と、URL 送信を同時に設定して送信することはできません。

自分へ送信する（自分へ送信）

SDL、SSO、IC カードによる認証を設定している場合、［自分へ送信］を押すと、ログインユーザの電子メールアドレスを指定することができます。

重要

- ログインサービスにSDLまたはSSOのローカルデバイス認証を設定している場合は、SDLまたは SSO のローカルデバイス認証で登録されたログインユーザの電子メールアドレスが設定されます。
- ログインサービスに SSO のドメイン認証（「ドメイン認証＋ローカルデバイス認証」でドメイン認証を使用している場合も含む）を設定している場合は、Active Directory または imageWARE Accounting Manager で登録された電子メールアドレスが設定されます。
- SDL、SSO、IC カードによる認証を設定している場合は、各認証に応じた操作が必要です。SDL や SSO を設定している場合は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。IC カードを使用したユーザログインサービス（Single Sign-On IC Card Smart Card）をご利用の場合は、「IC カード認証機能拡張キットユーザーズガイド」を参照してください。
- IC カード認証を行う場合は、オプションの IC カード認証機能拡張キットを有効にした場合のみ利用することができます。

1 ［新規宛先］→［自分へ送信］を押します。



登録済の宛先を指定する

送信先は、宛先表やワンタッチボタンを使って選択することができます。また、定型業務ボタンで登録した宛先と設定内容を呼び出すこともできます。

メモ
- 宛先を選択して［詳細情報］を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先リストの宛先は、原稿を読み込む前に変更または消去できます。(→ 宛先の情報を確認／変更する（詳細情報）：P.2-37、指定した宛先を消去する（消去）：P.2-39)
- 一度に送信できる宛先は最大256件(そのうち新規宛先とサーバから取得した宛先は合わせて 64 件）です。ただし、グループを宛先として指定した場合は、そこに登録されている各宛先を 1 件と数えます。

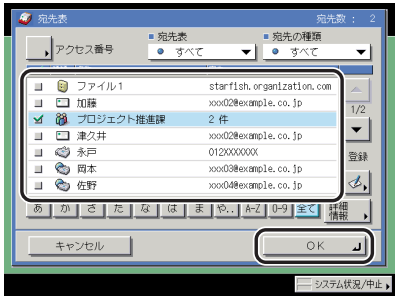
宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）

文書を送信するには、ファクス、電子メールアドレス、I ファクス、ファイルサーバなどの送信先の宛先を設定する必要があります。宛先表仕様設定（初期設定／登録）で宛先表に宛先を登録しておくと、簡単に指定することができます。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)

メモ 宛先表はリモート UI を使って保存、読み込み、転送することができます。(→ リモート UI ガイド「第 2 章　いろいろな機能の確認／管理」、「第 3 章　使いかたにあわせた設定」)

1 ［宛先表］を押します。

2 宛先表から宛先を選択したあと、［OK］を押します。



複数の宛先を指定することができます。

［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メールアドレス、I ファクス、ファイルサーバの宛先を指定できます。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先を指定できます。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。［アクセス番号なし］を押すと、アクセス番号が設定されていない宛先が表示されます。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択してチェックマークを解除します。
- 選択した宛先が 1 件の場合は、◇（スタート）を押して宛先表画面から送信することができます。
- ［アクセス番号］はシステム管理設定（初期設定／登録）の［送信機能の制限］で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）

ワンタッチボタンは 200 まで登録することができます。

ここでは、ワンタッチボタンを使った送信のしかたを説明します。

重要 ワンタッチボタンを使用するには、あらかじめ登録が必要です。ワンタッチボタンの登録は、宛先表仕様設定（初期設定／登録）の「ワンタッチボタンの登録」から行います。（→ ワンタッチボタンの登録／編集をする：P.10-38）

1 ［ワンタッチボタン］を押します。

2 目的のワンタッチボタンを選択します。



ワンタッチボタンには、3 桁のワンタッチボタン番号が割り当てられています。ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、短縮）を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を⓪～⑨（テンキー）で入力します。

メモ
- ワンタッチボタンは複数選択することもできます。
- 選択したワンタッチボタンをもう一度押すと、選択を解除することができます。

定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）

定型業務ボタンに登録されている宛先と、その他の設定内容を呼び出すことができます。文書を同じ設定で同じ宛先に何度も送信するときに便利です。

重要 定型業務ボタンを使用するには、あらかじめ登録が必要です。定型業務ボタンの詳細については「定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録）」（→ P.9-17）を参照してください。

1 [定型業務ボタン] を押します。

2 目的の定型業務ボタンを選択します。



メモ
- 呼び出した定型業務ボタンの設定を任意に変更して送信することができます。
- 他の定型業務ボタンを押すと、そのボタンに登録されている設定が呼び出されます。
- すべての設定を一括して解除するには、◎（リセット）を押します。（標準モードの設定になります。）
- 定型業務ボタンに記憶されている宛先が複数あるときは、呼び出したときに宛先リストに表示される宛先の表示順が、設定したときの順番と異なる場合があります。
- を押して定型業務ボタンを大きく表示させることができます。（→ 送信画面の初期表示を設定する（送信画面の初期表示）：P.9-30）

サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバを使って、ネットワーク上のディレクトリサービスから宛先を検索し、宛先として指定することができます。

メモ
- 設置されるネットワーク環境に応じて、あらかじめ LDAP サーバの設定が必要です。
- サーバの設定については、「LDAP サーバの設定をする」（→ P.11-48）を参照してください。
- サーバから取得した宛先を使って一度に送信できるのは、新規宛先と合わせて最大 64 件です。
- サーバから取得できる情報は、オプションの装着状況により次のようになります。
  - Send 拡張キットを有効にして、FAX ボードを装着していない場合：名前（フリガナを除く）、電子メールアドレス
  - FAX ボードを装着して、Send 拡張キットを有効にしていない場合：名前（フリガナを除く）、ファクス番号
  - Send 拡張キットを有効にして、さらに FAX ボードを装着している場合：名前（フリガナを除く）、電子メールアドレス、ファクス番号
- サーバから取得した宛先を、転送宛先として直接指定することはできません。転送宛先に指定する場合は、該当する宛先を宛先表にいったん登録しておく必要があります。（→ サーバから検索した宛先を登録する：P.10-27）

1 [宛先検索（サーバ）]を押します。

2 検索するサーバドロップダウンリストを押したあと、検索するサーバを選択します。



3 検索条件を指定します。

メモ　検索する宛先に、電子メールアドレスとファクス番号の両方が登録されている場合は、検索条件にファクス番号の情報を入力して電子メールアドレスを検索したり、電子メールアドレスの情報を入力してファクス番号を検索することができます。

● 簡易検索を使用する場合

❑ ［名前］、［電子メール］または［ファクス］を押して、検索する名前、電子メールアドレスまたはファクス番号を入力したあと、［OK］を押します。

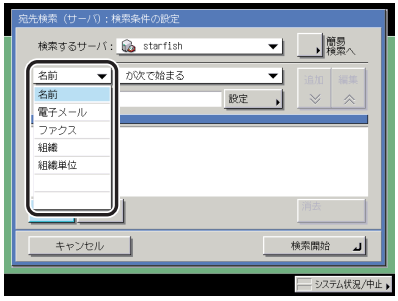
入力しない項目については検索されません。

複数の条件を組み合わせて検索したい場合は、［詳細検索へ］を押して詳細検索に切り替えます。簡易選択画面で入力した条件は、詳細検索画面に引き継がれます。

● 詳細検索を使用する場合

❑ ［詳細検索へ］を押します。

❑ 検索項目を選択するドロップダウンリストを押したあと、検索項目を選択します。



検索項目の内容は以下のとおりです。

- ［名前］：　宛先名から検索します。
- ［電子メール］：　電子メールアドレスから検索します。
- ［ファクス］：　ファクス番号から検索します。
- ［組織］：　組織から検索します。
- ［組織単位］：　組織内の部署などの単位から検索します。

例えば、LDAP サーバのディレクトリ上のユーザ識別名が cn=user1, ou=salesdept, o=canon, c=jp の場合は、以下のように検索を行うユーザの組織／組織単位を入力します。
組織：canon
組織単位：salesdept

メモ
- 組織／組織単位は LDAP サーバ側に情報として登録されている場合のみ、検索条件として使用できます。
- 組織／組織単位での詳細検索は、LDAP サーバ側にその属性が登録されているかや、サーバのアプリケーションの種類によって検索できない場合もあります。
- 検索項目は上記のほかに任意で追加することができます。検索項目追加の詳細については、「LDAP サーバの設定をする」（→ P.11-48）を参照してください。

❑ 条件式を選択するドロップダウンリストを押して、条件式を選択したあと、［設定］を押します。

条件式の内容は以下のとおりです。

- ［が次を含む］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件を含む。
- ［が次を含まない］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件を含まない。
- ［が次と等しい］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件と同じ。
- ［が次と等しくない］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件と異なる。
- ［が次で始まる］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件で始まる。
- ［が次で終わる］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件で終わる。

❑ 検索する文字列を入力したあと、［OK］を押します。

❑ ［追加］を押します。

さらに条件を追加する場合は、［または］あるいは［かつ］を選択したあと、手順 3 を繰り返して検索条件を指定します。

- ［または］：　条件のいずれか 1 つに当てはまる宛先が検索されます（or 検索）。
- ［かつ］：　条件のすべてに当てはまる宛先が検索されます（and 検索）。

登録した条件を訂正する場合は、検索条件リストから訂正する条件を選択したあと、［編集］→［設定］を押します。削除する場合は、［消去］を押します。

メモ
- 検索条件は同時に最大 4 件指定することができます。
- 3 つ以上の条件を指定する場合、［または］と［かつ］を混在させることはできません。
- 詳細検索画面で条件を設定したあと、［簡易検索へ］を押して簡易検索画面に切り替えると、設定した条件は消去されます。

4 [検索開始] を押します。

検索中に検索を中止する場合は、[中止] を押します。中止した場合はその時点までの検索結果を表示します。

重要

- LDAP サーバから宛先を検索する場合、サーバと本製品の時刻の設定が 5 分以上ずれていると検索することができません。ユーザ名、パスワードが正しいにもかかわらず検索できない場合は、サーバと本製品に設定されている時刻を確認してください。
- 検索結果は、システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で設定されている宛先の上限数までしか表示されません。目的の宛先が表示されない場合は、上限数を増やすか、検索条件を変更して再検索してください。(→ LDAP サーバの設定をする：P.11-48)

メモ

検索条件を指定せずに [検索開始] を押した場合は、サーバ（LDAP）に登録されているすべての宛先が表示されます。

● ネットワークパスワードの入力画面が表示された場合

❑ 各項目を設定したあと、[OK] を押します。

ネットワークパスワードの入力画面は以下の場合に表示されます。

- システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で、検索時に認証画面を表示を「ON」に設定した場合
- システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で設定したユーザ名、パスワードまたはドメイン名が間違っている場合

[ユーザ名]：

[ユーザ名] を押して、ユーザ名を入力したあと、[OK] を押します。

[パスワード]：

[パスワード] を押して、パスワードを入力したあと、[OK] を押します。

[OK] を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

5 検索結果から宛先を選択して、[OK] を押します。

再度検索を行う場合は、[戻る] を押します。

複数の宛先を指定することができます。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、条件に合う電子メールアドレスが表示されます。このとき [電子メールを I ファクス指定する] を「ON」にすると、選択した電子メールの宛先を I ファクスの宛先として指定することができます。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、条件に合うファクスの宛先が表示されます。

オプションの Send 拡張キットを有効にし、さらに FAX ボードを装着している場合は、宛先の種類ドロップダウンリストを押して、表示する宛先の種類を限定することができます。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択してチェックマークを解除します。
- 検索した電子メールアドレスを I ファクスアドレスとして指定する場合、取得できる情報は I ファクスアドレスのみです。相手先の条件などを指定する場合は、送信画面で [詳細情報] を押して設定してください。
- 選択した宛先が 1 件の場合は、◎ (スタート) を押して検索結果画面から送信することができます。

6 ファクス、I ファクスを宛先に設定した場合は、表示されたメッセージを確認したあと、[OK] を押します。

Cc、Bcc を設定する（Cc Bcc）

設定した宛先のほかに、複数の人に Cc（Carbon copy）や Bcc（Blind carbon copy）で電子メールを送信することができます。

メモ
- Cc、Bcc に設定できるのは、電子メールアドレスのみです。電子メールアドレスは、Send 拡張キットを有効にした場合のみ設定することができます。
- Cc、Bcc で一度に送信できるのは、新規宛先、サーバから取得した宛先と合わせて最大 64 件（ボックスを除く）です。グループ宛先を追加することはできません。

1 [Cc Bcc] を押します。



2 電子メールアドレスを設定したあと、[閉じる]を押します。

Cc、Bcc に設定する電子メールアドレスは以下の方法から設定できます。

- 宛先表から設定する（→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26）
- 新規宛先から設定する（→ 宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）：P.2-2）
- ワンタッチボタンから設定する（→ ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）：P.2-28）
- 定形業務ボタンから設定する（→ 定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）：P.2-29）
- 宛先検索（サーバ）から設定する（→ サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））：P.2-30）

● Cc を設定する場合

❑ [Cc]を押したあと、電子メールアドレスを設定します。

● Bcc を設定する場合

❑ [Bcc]を押したあと、電子メールアドレスを設定します。

● To または Bcc から Cc へ変更する場合

❑ [To/Bcc から移動]を押します。

❑ [To]または[Bcc]を押し、Cc へ移動したい電子メールアドレスを選択したあと、[OK]を押します。

メモ [To/Bcc から移動]は、[Cc]が選択されている場合に表示されます。

● To または Cc から Bcc へ変更する場合

❑ [To/Cc から移動]を押します。

❑ [To]または[Cc]を押し、Bcc へ移動したい電子メールアドレスを選択したあと、[OK]を押します。

メモ [To/Cc から移動]は、[Bcc]が選択されている場合に表示されます。

宛先の情報を確認／変更する（詳細情報）

指定済みの宛先を、原稿を読み込む前に確認、変更することができます。

メモ
- 宛先を変更できるのは、新規宛先またはサーバから取得した宛先の場合のみです。
- 読み込み終了後に変更するときは「宛先を変更する」（→ P.8-5）を参照してください。
- 一度に複数の宛先を変更することはできません。

1 宛先を選択したあと、[詳細情報] を押します。



2 宛先の情報を確認、変更します。

● 宛先表から指定した宛先の場合

❑ 宛先の情報を確認したあと、[閉じる] を押します。

● 新規宛先で指定した宛先の場合

❑ 宛先の情報を確認／変更したあと、[OK] を押します。

宛先の変更は、入力したときと同じ手順で行います。(→ 宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）：P.2-2)

● サーバから取得した宛先の場合

❑ 宛先の情報を確認／変更したあと、[OK] を押します。

宛先の変更は、新規宛先を指定したときと同じ手順で行います。(→ 宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）：P.2-2)

● グループ宛先の場合

❑ グループ宛先に含まれている個々の宛先の情報を確認する場合は、宛先を選択して [詳細情報] を押します。

❑ 宛先の情報を確認したあと、[閉じる] → [閉じる] を押します。

指定した宛先を消去する（消去）

指定済みの宛先を、原稿を読み込む前に消去することができます。

1 **消去する宛先を選択したあと、［消去］を押します。**



登録ボタンを使用する（登録）

送信画面から宛先やワンタッチボタン、定型業務ボタンを登録することができます。
宛先表仕様設定（初期設定／登録）にある宛先の登録、ワンタッチボタンの登録や、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の定型業務ボタンの登録へのショートカットです。

1 ［登録］を押します。

2 登録する項目のキーを選択します。



● 宛先表に宛先を登録する場合

❑ ［宛先の登録］を押したあと、宛先を登録します。

各宛先を登録する詳しい設定方法は、「第 10 章　宛先の登録／編集」を参照してください。

● ワンタッチボタンを登録する場合

❑ ［ワンタッチボタンの登録］を押したあと、ワンタッチボタンを登録します。

ワンタッチボタンの登録については、「ワンタッチボタンの登録／編集をする」（→ P.10-38）を参照してください。

● 定型業務ボタンを登録する場合

❑ ［定型業務ボタンの登録］を押したあと、定型業務ボタンを登録します。

定型業務ボタンの登録については、「定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録）」（→ P.9-17）を参照してください。

［宛先の登録］、［ワンタッチボタンの登録］を選択する場合は、［宛先表］→［登録］を押して、宛先を登録することもできます。

3
CHAPTER

基本的な読み取り機能

基本的な読み取り機能の設定について説明しています。

読取モードを選択する 3-2
読込設定を変更する 3-4
両面原稿を読み込む（両面原稿）. 3-4
異なるサイズの原稿を一度に読み込む（原稿サイズ混載）. 3-6
読み取るサイズを指定する（読取サイズ）. 3-8
解像度を変更する 3-14
濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）. 3-15
倍率を変えて読み込む（倍率）. 3-19
カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する 3-23

読取モードを選択する

読取方法を設定することができます。本製品には次のように規定の読取モードがあらかじめ登録されています。

- Send 拡張キットを有効にした場合：
  8 種類の読取モード（カラー／ 2 値 200 × 200 dpi、カラー／ 2 値 300 × 300 dpi、白黒 2 値 200 × 200 dpi、白黒 2 値 300 × 300 dpi、カラー／グレイ 200 × 200 dpi、カラー／グレイ 300 × 300 dpi、カラー／グレイ 600 × 600 dpi、白黒 2 値 600 × 600 dpi）
- FAX ボードのみ装着している場合：
  4 種類の読取モード（白黒 200 × 100 dpi、白黒 200 × 200 dpi、白黒 200 × 400 dpi、白黒 400 × 400 dpi）

あらかじめ登録されている読取モードとユーザが登録した読取モード（ユーザ設定キー）から、送信する原稿に合わせて選択します。

メモ

- 送信するデータのメモリの使用量を少なくしたり、送信時間を短くするときは、低解像度の読取モードを使用することをおすすめします。
- 現在設定されている読取モードを変更して、新しい読取モードを設定することもできます。ただし、設定した読取モードは一度しか使用できませんので、何度も使う場合は、登録しておくと便利です。（→ 読取モードの登録／消去：P.4-16）
- あらかじめ登録されている設定内容とキー名称は、変更して登録することができます。
- 読取モードの他に、宛先や送信設定を定型業務ボタンに登録しておくことができます。（→ 定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録）：P.9-17）
- 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。
- プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）
- すべての設定を一括して解除するには、⊘（リセット）を押します。（標準モードの設定になります。）

1 原稿をセットして宛先を指定して、読込設定ドロップダウンリストを押したあと、読取モードを選択します。



宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

メモ
- 読取モードを選択したあとに、新たに読取モードを選択すると、それまでに設定していた内容は取り消されます。
- 読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押して、読込設定画面の読取モードドロップダウンリストから読取モードを選択することもできます。

2 (スタート）を押します。

ファイル形式に［PDF（アウトライン)］または［PDF（高圧縮)］を選択している場合は、以下のカラーモードと解像度の組み合わせで設定してください。以下の組み合わせ以外では設定を確認する画面が表示されます。

- 自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール）と 300 × 300 dpi
- フルカラーと 300 × 300 dpi
- グレイスケールと 300 × 300 dpi

原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、画面の指示に従って、原稿 1 枚ごとに(スタート）を押してください。原稿の読み込みが終了したら、［読込終了］を押します。

メモ　変更した設定を登録しておくことができます。(→ 読取モードの登録／消去：P.4-16)

読込設定を変更する

メモ
- 変更を加えた読込設定は保存されません。設定を保存するには「読取モードの登録／消去」(→P.4-16) を参照してください。
- プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。(→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17)
- すべての設定を一括して解除するには、◎(リセット）を押します。(標準モードの設定になります。)

両面原稿を読み込む（両面原稿）

フィーダにセットした両面原稿を自動的に反転して、原稿の表裏を別べつに読み込みます。

重要
- 両面原稿は、読取サイズ（指定サイズ)、ページ連写と組み合わせた設定はできません。
- 両面原稿は、ファクスのダイレクト送信と組み合わせた設定はできません。
- A4R、B5R のヨコ向きの原稿を読み込むときは、必ずヨコ置きにセットして読み込みしてください。タテ置きにセットして読み込むと、送信したときに原稿のオモテ面とウラ面の画像の天地が逆になります。

メモ
設定を解除するには、[両面原稿] → [設定取消] を押します。

1 フィーダに原稿をセットして宛先を指定したあと、[両面原稿] を押します。



宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 原稿の開きかたを選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[左右開き]：オモテ面とウラ面の画像の天地（上下）が同じ場合に選択します。

[上下開き]：オモテ面とウラ面の画像の天地（上下）が逆の場合に選択します。

3 ◎（スタート）を押します。

異なるサイズの原稿を一度に読み込む（原稿サイズ混載）

A3 と A4、B4 と B5 などタテ方向の長さが同じでヨコ方向の長さが異なるサイズ（同じ幅）の原稿や、A3 と B4、A4 と B5 などひとまわり違うサイズ（違う幅）の原稿を一度に読み込むことができます。

重要

- 原稿サイズ混載は、読取サイズ（指定サイズ、長尺原稿）、ページ連写、原稿枠消し、ブック枠消しの各機能と組み合わせた設定はできません。
- 原稿サイズ混載は、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。
- 読取サイズで［自動］以外を設定すると、原稿は指定した読取サイズですべて読み込まれます。セットした原稿サイズのまま読み込む場合は、［自動］を設定してください。
- フィーダに原稿をセットする場合は、原稿は同じ厚さ（紙質）のものをセットしてください。
- 違う幅の原稿は、フィーダの奥側に揃えてセットしてください。
- 異なるサイズの原稿をファクス送信した場合、受信側の記録紙サイズは読み込んだ原稿のうちの最大のサイズで出力されます。例えば、A3 と B4 の原稿をファクス送信した場合は、受信側では A3 サイズで出力されます。
- 違う幅の原稿は、以下の組み合わせでセットしてください。それ以外の組み合わせでは、原稿を破損することがあります。

  ・A3 と B4、B4 と A4R、A4 と B5
- 違う幅の原稿をセットして読み込むと、画像がずれて斜めに読み込まれることがあります。
- このモードを設定しているときは、原稿の読み取り時間が長くなります。

メモ

原稿サイズ混載の設定を解除するには、［原稿サイズ混載］→［設定取消］を押します。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、[原稿サイズ混載]を押します。



宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 原稿サイズ混載の種類を押したあと、[OK]を押します。

選択する項目

[同じ幅]：同じ幅の原稿をセットした場合に押します。

[違う幅]：違う幅の原稿をセットした場合に押します。

3 ◎(スタート)を押します。

読み取るサイズを指定する（読取サイズ）

OHP フィルムなどを読み取るときや、特にサイズを指定して読み取るときに指定します。また、用紙いっぱいに画像がある A3 サイズの原稿を、画像が欠けないように読み取る場合も指定します。指定したサイズは、登録することもできます。

重要

- 次のような原稿は、［自動］では読み取りできません。読取サイズを選択してください。
  - ・定形サイズ以外の原稿
  - ・OHP フィルムなど透明度の高い原稿
  - ・地色が極端に濃い原稿
  - ・ A5 サイズよりも小さい原稿
- ファクスダイレクト送信、手動送信の場合、原稿をフィーダにセットしたときは、読取サイズの設定は無効になります。
- フィーダに原稿をセットした場合は、読取サイズの指定サイズを選択して読み込むことはできません。
- ［長尺原稿］を選択する場合は、原稿はフィーダにセットしてください。原稿台ガラスにセットしても読み込むことはできません。
- ［長尺原稿］を選択した場合は、倍率は 100% でのみ送信できます。
- ［指定サイズ］を選択した場合は、［済スタンプ］を選択することはできません。

メモ

- ファクス送信の場合、B5 サイズの原稿をタテ置きで送信するときは、B4 短尺で送信されます。ヨコ置きのときは、A4 として送信されます。
- 読取サイズの指定サイズを選択して読み込んだ場合、送信する画像は回転されません。
- 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。

読取サイズを指定する

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

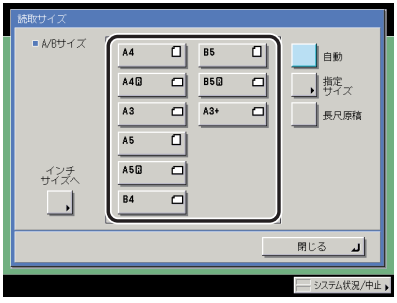
2 ［読取サイズ］を押します。



3 読取サイズを選択します。

● A/B サイズを選択する場合

❑「A/B サイズ」から読取サイズを選択します。



用紙いっぱいに画像がある A3 サイズの原稿を、画像が欠けないように読み取る場合は、原稿を原稿台ガラスにセットし［A3+］を押します。(→ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」)

メモ
- インチサイズを選択する場合は、［インチサイズへ］を押します。
- ヨコ方向の長さが　455mm　を超える原稿を読み込む場合は、［長尺原稿］を押します。630mm までの長さの原稿を読み込むことができます。

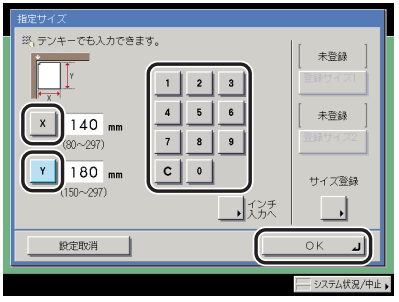
● **読取サイズを数値で指定する場合**

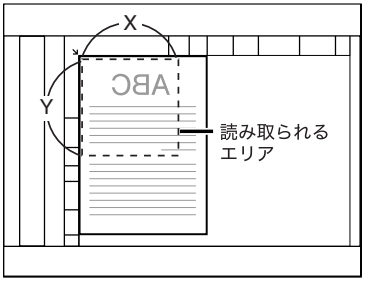
❑ ［指定サイズ］を押します。

❑ ［X］を押したあと、画面上のテンキーを使用して、mm 単位で用紙サイズを入力します。

❑ ［Y］を押したあと、画面上のテンキーを使用して、mm 単位で用紙サイズを入力します。

❑ ［OK］を押します。





原稿台ガラス

メモ
- インチ単位で入力するときは、［インチ入力へ］を押します。
- インチ単位で入力する方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

● **登録されている読取サイズを選択する場合**

❑ ［指定サイズ］を押します。

❑ ［登録サイズ 1］または［登録サイズ 2］を選択したあと、［OK］を押します。

メモ
- 登録サイズを選択するには、あらかじめ読取サイズを登録しておく必要があります。（→ 読取サイズを登録する：P.3-12）
- すでに読取サイズが登録されているキーには、キーの上に読取サイズが表示されます。

4 ［閉じる］→［OK］を押します。

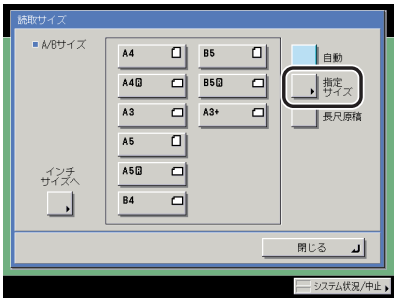
5 ◎（スタート）を押します。

読取サイズを登録する

1 読込設定ドロップダウンリストを押したあと、[詳細設定] → [読取サイズ] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「読取サイズを指定する」(→ P.3-9) の手順 1、2 を参照してください。

2 [指定サイズ] を押します。



3 [サイズ登録] を押します。



4 **[登録サイズ 1]または[登録サイズ 2]を押したあと、画面上のテンキーを使用して、mm 単位で読取サイズを入力します。**

- ❑ [X]を押して、数値を入力します。
- ❑ [Y]を押して、数値を入力します。
- ❑ [OK]を押します。

メモ
- すでに登録されているキーを選択して新しい読取サイズを登録すると、新しい登録内容に上書きされます。
- インチ単位で入力するときは、[インチ入力へ]を押します。
- インチ単位で入力する方法は、ユーザーズガイド「第 2 章 おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

5 **[設定取消]→[閉じる]→[設定取消]を押します。**

解像度を変更する

送信する文書の解像度を指定して読み取るときに指定します。

重要

- 送信できる画像の画素数は、600 × 600 dpi の解像度で A3 サイズまでです。縦または横方向で、画素数の制限を超えた場合は画像が欠けます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、送信できる画像の画素数は、400 × 400 dpi の解像度で A3 サイズまでです。
- ファクスで送信する場合は、白黒 200 × 100 dpi、白黒 200 × 200 dpi、白黒 200 × 400 dpi、白黒 400 × 400 dpi を選択することをおすすめします。他の解像度を選択した場合、送信時に解像度が劣化することがあります。
- 600 × 600 dpi の解像度で長尺送信すると画像が欠ける場合があります。

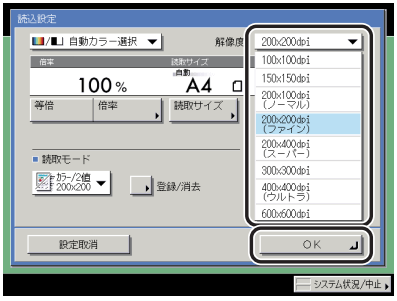
メモ

- オプションの FAX ボードを装着していて、Send 拡張キットを有効にしていない場合は、100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、300 × 300 dpi、600 × 600 dpi を選択することはできません。
- 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 解像度ドロップダウンリストを押して、解像度を選択したあと、［OK］を押します。



ファイル形式に［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］を選択している場合は、［300 × 300 dpi］以外の解像度を選択して［OK］を押すと、ファイル形式の PDF 詳細設定を変更するかどうか問い合わせる画面が表示されます。

3 （スタート）を押します。

濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）

メモ　読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。

読み込む濃度を任意に調節する

原稿の濃度に合わせて、読み込む濃度を任意に調節します。

1　原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2　［◐］または［◑］を押して、濃度を変更したあと、［OK］を押します。



読み込む濃度は［◐］［◑］の上のインジケータが左に移るほど薄く、右に移るほど濃くなります。

3　◇（スタート）を押します。

画質を選択して読み込む

原稿（文字原稿、写真原稿）の画質に応じて読み込む画質を調節することができます。画質調節には次の 3 種類があります。

重要
- この 3 種類のモードは重複して設定できません。どれか 1 つのモードを設定すると、直前に設定されていたモードは解除されます。
- 印刷写真（網点写真）を読み込んで送信すると、モアレと呼ばれるまだら模様が出る場合があります。この場合は、シャープネスを使ってモアレを低減させます。（→ 画像のエッジをくっきりさせて読み込む（シャープネス）：P.4-12）

メモ 原稿が OHP フィルムの場合は、画質を設定したあと、原稿の画質に合わせて濃度を調節してください。

■ 文字／写真モード

文字と図や写真が混在した原稿の送信に適しています。

■ 写真モード

網点でつくられている写真原稿（印刷されている写真）の送信に適しています。

■ 文字モード

文字だけで構成された原稿や、手書きの文字や図などのある原稿の送信に適しています。青焼きや、うすい鉛筆書きの原稿でもきれいに送信できます。ファイル形式の［PDF（高圧縮）］選択時に文字モードを選択した場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の PDF（高圧縮）の画質レベルで設定した文字モード時の画質レベルが有効になります。（→ PDF（アウトライン／高圧縮）の画質レベルを設定する（PDF（高圧縮）の画質レベル）：P.9-23）

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 画質選択ドロップダウンリストを押したあと、原稿の画質（[文字 / 写真]、[写真]、[文字]）を選択します。



●［文字 / 写真］のレベルを調整する場合

❑ 画質選択ドロップダウンリストを押したあと、［レベル調整］を押します。

❑ 文字と写真のどちらを優先するかを調整したあと、［OK］を押します。

選択する項目

［文字を優先］：文字がきれいに読み込まれます。

［写真を優先］：写真がきれいに読み込まれ、画像にモアレが生じにくくなります。

3 ［◁］または［▷］を押して濃度調節をしたあと、［OK］を押します。

読み込む濃度は［◁］［▷］の上のインジケータが左に移るほど薄く、右に移るほど濃くなります。

4 ◎（スタート）を押します。

濃度を自動で調節して読み込む

原稿の濃度に応じて自動的に適切な濃度に調節します。

重要 自動濃度調節は、ファクスのダイレクト送信と組み合わせた設定はできません。

メモ 自動濃度調節には、下地の色が読み込まれないように調整する「地色除去」とウラ面の画像が写って読み込まれないように調整する「裏写り防止」の 2 種類があります。原稿の種類に応じて、設定を変更してください。工場出荷時は「地色除去」が設定されています。(→ 下地の画質を調整する（画質調整）：P.4-13)

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［自動］→［OK］を押します。



メモ 原稿が OHP フィルムの場合は、自動濃度調節ができないことがあります。このときは、［◖］または［◗］を押して濃度調節してください。

3 ◇（スタート）を押します。

倍率を変えて読み込む（倍率）

原稿の倍率を任意に指定して読み込みをしたり、倍率を自動的に設定して読み込むことができます。

重要
- 送信できる画像の画素数は、600 × 600 dpi の解像度で A3 サイズまでです。縦または横方向で、画素数の制限を超えた場合は画像が欠けます。
- PDF（アウトライン）または PDF（高圧縮）を設定した場合は、倍率は 100% でのみ送信できます。
- 長尺原稿を選択した場合は、倍率は 100% でのみ送信できます。

メモ 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。

決められたサイズに縮小／拡大して読み込む（定形変倍）

決められた記録サイズに縮小／拡大して読み込みます。

■ 縮小

縮小読み込みするときに設定できる倍率は次のとおりです。

- A3 → B4、A4 → B5（86%）
- B4 → A4、B5 → A5（81%）
- A3 → A4、B4 → B5（70%）
- A3 → B5（61%）
- A3 → A5（50%）

■ 拡大

拡大読み込みするときに設定できる倍率は次のとおりです。

- A5 → A3（200%）
- A4 → A3、B5 → B4（141%）
- A4 → B4、A5 → B5（122%）
- B4 → A3、B5 → A4（115%）

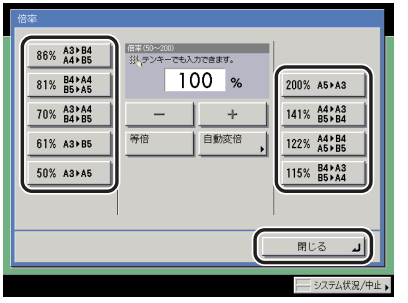
1 **原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。**

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 **［倍率］を押します。**



3 **縮小する場合は縮小倍率を、拡大する場合は拡大倍率を選択したあと、［閉じる］→［OK］を押します。**



4 **（スタート）を押します。**

メモ　100%に戻すには、［等倍］を押します。

1%単位で倍率を指定して読み込む（ズーム変倍）

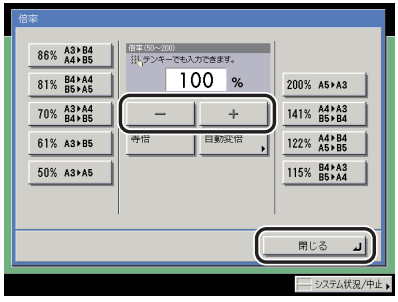
1% きざみに任意の倍率を設定して、縮小／拡大して読み込みます。倍率は 50 ～ 200% の範囲で設定することができます。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［倍率］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「決められたサイズに縮小／拡大して読み込む（定形変倍）」（→P.3-19）の手順 1、2 を参照してください。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［−］［+］で倍率を設定したあと、［閉じる］→［OK］を押します。



3 ◎（スタート）を押します。

メモ　100%に戻すには、［等倍］を押します。

指定した記録サイズにあわせて自動変倍して読み込む

指定した記録サイズにあわせて、自動的に原稿のタテ／ヨコを同じ倍率に設定して読み込みます。倍率は 50 ～ 200 % の範囲で設定されます。

重要
- 自動変倍は、解像度に 300 × 300 dpi または 600 × 600 dpi を選択した場合のみ設定することができます。
- 自動変倍は、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［倍率］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「決められたサイズに縮小／拡大して読み込む（定形変倍）」（→ P.3-19）の手順 1、2 を参照してください。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［自動変倍］を押して記録サイズを選択したあと、［OK］を押します。



3 ［OK］を押します。

4 ◇（スタート）を押します。

メモ　100%に戻すには、［等倍］を押します。

カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する

本製品には、送信する原稿がカラーか白黒かを自動的に認識してモードを切り替える自動カラー選択機能があります。またフルカラーモード、グレイスケールモード、白黒モードを任意に切り替えることもできます。

重要 送信方法がファクスの場合、原稿は常に白黒 2 値で送信されます。

メモ
- 工場出荷時は、「自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値）」が設定されています。
- 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で［設定取消］を押します。
- プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）
- すべての設定を一括して解除するには、◎（リセット）を押します。（標準モードの設定になります。）

■ 自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール）

原稿がカラー原稿か白黒原稿かを認識して、自動的にモードを切り替えます。カラー原稿がセットされたときはフルカラーモードで、白黒原稿がセットされたときはグレイスケールモードで読み込みます。

重要 原稿にカラー部分があればフルカラーモードで読み込みます。ただし、以下の原稿は、グレイスケールモードで読み込むことがあります。このときは、フルカラーモードに切り替えてください。（→ カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する：P.3-23）

・カラー部分が微小の原稿
・フィーダにセットしたときに、読み込む面の左側 10mm のみにカラー部分がある原稿
・黒に近い色の原稿
・淡い色の原稿

■ 自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値）

原稿がカラー原稿か白黒原稿かを認識して、自動的にモードを切り替えます。カラー原稿がセットされたときはフルカラーモードで、白黒原稿がセットされたときは白黒 2 値モードで読み込みます。

重要 原稿にカラー部分があればフルカラーモードで読み込みます。ただし、以下の原稿は、白黒 2 値モードで読み込むことがあります。このときは、フルカラーモードに切り替えてください。（→ カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する：P.3-23）

・カラー部分が微小の原稿
・フィーダにセットしたときに、読み込む面の左側 10mm のみにカラー部分がある原稿
・黒に近い色の原稿
・淡い色の原稿

■ フルカラー

読み込む原稿がカラー原稿か白黒原稿かにかかわらず、フルカラーモードで読み込みます。自動カラー選択が選択されているとき、カラー部分が微小であったり、黒に近い場合や色が淡い場合には、グレイスケールモードまたは白黒 2 値モードで読み込むことがあるので、フルカラーモードに切り替えます。

メモ　フルカラーモードで読み込んだ場合、白黒原稿もカラースキャンとしてカウントされます。

■ グレイスケール

読み込む原稿がカラー原稿か白黒原稿かにかかわらず、グレイスケールモードで読み込みます。

■ 白黒 2 値

読み込む原稿がカラー原稿か白黒原稿かにかかわらず、白黒 2 値モードで読み込みます。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押します。

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 カラー選択ドロップダウンリストを押して、カラーモード（自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール）、自動カラー選択（フルカラー／白黒２値）、フルカラー、グレイスケール、白黒２値）を選択したあと、［OK］を押します。



ファイル形式で［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］を選択している場合は、［自動カラー選択］（フルカラー／白黒 2 値）、［白黒 2 値］を選択して［OK］を押すと、ファイル形式を変更するかどうか問い合わせる画面が表示されます。

重要

- カラーモードを［自動カラー選択］（フルカラー／白黒２値）に設定したあとにファイル形式で［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］を選択すると、カラーモードは［自動カラー選択］（フルカラー／グレイスケール）に変更されます。設定したカラーモードのまま送信するためには、ファイル形式を［PDF（アウトライン）］、［PDF（高圧縮）］以外に変更してください。
- カラーモードを［白黒２値］に設定したあとにファイル形式で［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］を選択すると、カラーモードは［グレイスケール］に変更されます。設定したカラーモードのまま送信するためには、ファイル形式を［PDF（アウトライン）］、［PDF（高圧縮）］以外に変更してください。

3 （スタート）を押します。

4
CHAPTER

便利な読み取り機能

応用的な読み取り機能の設定について説明しています。

応用モードとは 4-2
ブック原稿を左右（2 枚）に分けて読み込む（ページ連写） 4-4
原稿の影や枠線を消して読み込む（枠消し） 4-5
原稿の枠線を消して読み込む（原稿枠消し） 4-5
ブック原稿の影や枠線などを消して読み込む（ブック枠消し） 4-7
パンチ穴の影などを消して読み込む（パンチ穴消し） 4-8
分割してセットした原稿を 1 つの文書として読み込む（連続読込） 4-9
画像のエッジをくっきりさせて読み込む（シャープネス） 4-12
下地の画質を調整する（画質調整） 4-13
地色を消して読み込む（地色除去） 4-14
裏写りする原稿を読み込む（裏写り防止） 4-15
読取モードの登録／消去 4-16
読取モードの登録 4-17
読取モードの名称登録 4-19
読取モードの消去 4-20

応用モードとは

枠消しや連続読込などの応用モードは、文書を送信、ファクスするときに、ご利用の目的に合った多彩な編集を行うことができる機能です。

重要 機能によっては組み合わせて利用できない場合があります。詳しくは、各モードのページを参照してください。

1 原稿をセットして宛先を指定します。

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

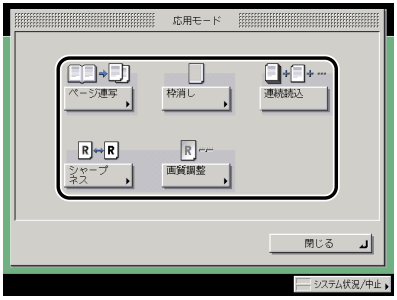
2 読込設定ドロップダウンリストを押したあと、[詳細設定]を押します。



3 [応用モード]を押します。

重要 モードによって、原稿をフィーダにセットする場合や原稿台ガラスにセットする場合があります。詳しくは各モードの設定手順を参照してください。

4 応用モード画面から目的の機能を 1 つ押します。



5 目的の機能を設定します。

各機能の詳しい設定方法は各モードの設定手順を参照してください。

同時に他の機能を設定する場合は、手順 4 ～ 5 を繰り返してください。

6 (スタート) を押します。

原稿台ガラスに原稿をセットした場合は、画面の指示に従って、原稿 1 枚ごとに(スタート) を押してください。原稿の読み込みが終了したら、[読込終了] を押します。

読み込みが開始されます。

読み込みが終了すると指定した宛先に送信されます。

メモ

- 設定を解除するには、以下の順に押します。
  - ・キーの右下に▶がついているモードの場合
    例：枠消し
    [応用モード] → [枠消し] → [設定取消]
  - ・キーの右下に▶がついていないモードの場合
    例：連続読込
    [応用モード] → [連続読込]
- 読取モードの設定を解除するには、読込設定画面で [設定取消] を押します。
- プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。(→ 原稿をプレビューする (プレビュー表示)：P.5-17)
- すべての設定を一括して解除するには、(リセット) を押します。(標準モードの設定になります。)

ブック原稿を左右（2 枚）に分けて読み込む（ページ連写）

ブック原稿の左右ページを、1 回の操作で別べつに読み込みできます。

重要

- ページ連写は、読取サイズ（A3+、指定サイズ、長尺原稿）、両面原稿、原稿サイズ混載、パンチ穴消しの各機能と組み合わせた設定はできません。
- ページ連写は、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。
- 原稿は原稿台ガラスにセットしてください。フィーダに原稿をセットしてページ連写で読み込むことはできません。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［ページ連写］を押します。

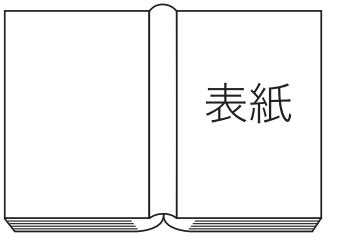
宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ブック原稿の開きかたを選択したあと、［OK］を押します。

ブック原稿の左右どちらのページから読み込むかを、ブック原稿の開きかたで指定します。原稿台ガラスにふせて置いた状態によって、次のように指定してください。

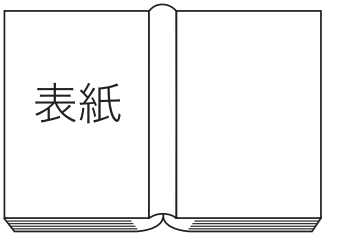
原稿台ガラスにふせて置いた状態

［左開き］を指定



原稿台ガラス上の右半分が先に読み込みされ、次に左半分が読み込まれます。

［右開き］を指定



原稿台ガラス上の左半分が先に読み込みされ、次に右半分が読み込まれます。

原稿の影や枠線を消して読み込む（枠消し）

原稿を読み込んだときにできる周囲の影や枠線などを消して記録できます。

枠消しには、次の 3 種類があります。

重要
- この 3 種類のモードは重複して設定できません。どれか 1 つのモードを設定すると、直前に設定されていたモードは解除されます。
- 枠消しは、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。

■ 原稿枠消し

原稿が記録サイズより小さいとき、読み込んだ画像の周囲にできる影や枠線を消して記録します。読み込んだ画像の周囲に一定幅の余白（白地）を作って、読み込むこともできます。

■ ブック枠消し

ブック原稿を読み込んだ場合、読み込んだ画像の周囲と中央にできる影や枠線を消して記録します。

■ パンチ穴消し

パンチ穴があいている原稿を読み込んだ場合、読み込んだ画像にできるパンチ穴の影を消して記録します。

原稿の枠線を消して読み込む（原稿枠消し）

重要 原稿枠消しは、読取サイズ（A3+、自動、指定サイズ、長尺原稿）、原稿サイズ混載の各機能と組み合わせた設定はできません。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［枠消し］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 [原稿枠消し]を押します。



3 [−][+]を押して枠消しする幅を設定します。



● 原稿の周囲を均一にする場合

❑ [−][+]を押して枠消しする幅を設定したあと、[次へ]を押します。

● 原稿の上、下、左、右側を別べつに指定する場合

❑ [独立調整へ]を押します。

❑ 枠消しする向きを選択して、[−][+]を押して枠消しする幅を設定したあと、[次へ]を押します。

原稿の周囲を均一に指定する画面に戻すには、[全周均一へ]を押します。

4 原稿のサイズを選択したあと、[OK]を押します。

重要 原稿枠消しができる原稿は、表示されている原稿サイズのみです。

メモ インチサイズを選択する場合は、[インチサイズへ]を押します。

ブック原稿の影や枠線などを消して読み込む（ブック枠消し）

重要 ブック枠消しは、読取サイズ（A3+、自動、指定サイズ、長尺原稿）、原稿サイズ混載の各機能と組み合わせた設定はできません。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［枠消し］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［ブック枠消し］を押します。



3 ［−］［+］を押して枠消しする幅を設定します。

● 原稿の周囲を均一にする場合

❑ ［センター］、［全周］の各キーを押して、［−］［+］を押して枠消しする幅を設定したあと、［次へ］を押します。

● 原稿のセンター、上、下、左、右側を別べつに指定する場合

❑ ［独立調整へ］を押します。

❑ 枠消しする向きを選択して、［−］［+］を押して枠消しする幅を設定したあと、［次へ］を押します。

原稿の周囲を均一に指定する画面に戻すには、［全周均一へ］を押します。

4 ブック原稿を開いたときのサイズを選択したあと、［OK］を押します。

重要 ブック枠消しができる原稿は、表示されている原稿サイズのみです。

メモ インチサイズを選択する場合は、［インチサイズへ］を押します。

パンチ穴の影などを消して読み込む（パンチ穴消し）

重要

- パンチ穴消しは、読取サイズ（A3+、指定サイズ、長尺原稿）、ページ連写の各機能と組み合わせた設定はできません。
- パンチ穴のあいた原稿は、原稿を破損する恐れがありますので、フィーダにはセットしないでください。
- パンチ穴消しは、指定していない辺も常に 4 mm 枠消しされます。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［枠消し］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［パンチ穴消し］を押して、原稿のパンチ穴があいている位置を指定します。



指定する位置は原稿の天部を上にして見たときのパンチ穴の位置です。

3 ［－］［＋］を押して枠消しする幅を設定したあと、［OK］を押します。

分割してセットした原稿を 1 つの文書として読み込む（連続読込）

原稿が一度にセットできないときに、数回に分けてセットした原稿を読み込んで 1 つの文書として送信することができます。フィーダと原稿台ガラスを併用して読み込むこともできます。

重要

- 連続読込は、読取サイズ（指定サイズ、長尺原稿）と組み合わせた設定はできません。
- 連続読込は、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。
- 連続読込中は、読み込みモードを変更することはできません。仕上げる結果にあわせて、必要なモードはあらかじめ設定してください。
- 次の原稿を読み込む前に、読取サイズ（マニュアル選択、自動）、濃度／画質、両面原稿、カラーモードを変更することができます。
- フィーダを使用して読み込んだ場合は、読み込みが終了した原稿を順次原稿排紙部から取り除いてください。
- 1 回の送信で送信できるページ数は 999 ページです。連続読込を設定しているときは、原稿の読み込みが 999 面を超えたところで送信するかどうか確認するメッセージが表示されます。送信する場合は 999 面までを送信します。キャンセルする場合は送信されません。

メモ

- 異なるサイズの原稿をフィーダにセットした場合は、［原稿サイズ混載］を設定しておきます。
- 片面原稿と両面原稿をまとめて両面読込する場合は、最初にセットした原稿が両面原稿であれば、［両面原稿］を設定し、原稿を取り替えるごとに［両面原稿］の設定、解除を行ってください。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［連続読込］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

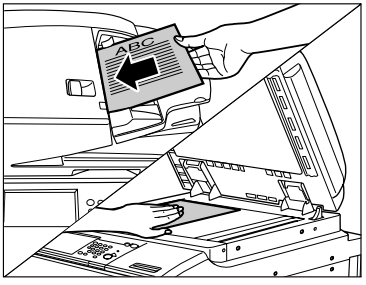
2 ［閉じる］→［OK］を押します。

3 (スタート）を押します。

メモ　読み込みを中止する場合は、［中止］または(ストップ）を押します。

4 読み込みが終了したら、次の原稿をセットしたあと、(スタート）を押します。

読み込みの設定を変更する場合は、(スタート）を押す前に行います。



読取サイズを選択することができます。(→ 読み取るサイズを指定する（読取サイズ）：P.3-8)

濃度／画質を調節することができます。(→ 濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）：P.3-15)

カラーモードを変更することができます。(→ カラーと白黒のどちらで読み込むか設定する：P.3-23)

両面／片面原稿の設定を行うことができます。(→ 両面原稿を読み込む（両面原稿）：P.3-4)

● **両面原稿をセットする場合**

❑ ［両面原稿］を押します。



❑ 両面原稿の開きかたを選択したあと、［OK］を押します。

選択する項目

［左右開き］：オモテ面とウラ面の画像の天地（上下）が同じ場合に選択します。

［上下開き］：オモテ面とウラ面の画像の天地（上下）が逆の場合に選択します。

両面原稿の設定、解除は原稿にあわせて必ず行ってください。

両面原稿の設定を解除するには、［両面原稿］→［設定取消］を押します。

必要に応じて、この操作を繰り返します。

5 最後の原稿の読み込みが終了したら、［読込終了］を押します。

画像のエッジをくっきりさせて読み込む（シャープネス）

画質のシャープネスを調節して読み込みます。文字や線を鮮明に記録する場合は「強く」に、印刷写真などの網点原稿をきれいに記録するときは「弱く」に調節します。

■ **弱く**

「写真」モードを使用して、印刷写真などのように網点からなる原稿を読み込むと、モアレと呼ばれるまだら模様が出ることがあります。「弱く」を使用して読み込むと、このようなモアレ現象を弱め、画像を見やすくします。

■ **強く**

原稿の画像のエッジを強調して、薄い文字や細かい文字をはっきりさせます。青焼き原稿や薄い鉛筆書きの原稿などの読み込みに適しています。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［シャープネス］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［弱く］［強く］を押して、シャープネスを調節したあと、［OK］を押します。

文字や線を鮮明に読み込む場合は「強く」に、印刷写真などの網点をきれいに読み込む場合は「弱く」に調節します。

下地の画質を調整する（画質調整）

下地の画質を調整して、原稿の地色を消したり、裏写りする原稿をきれいに読み込みます。

重要
- 下地の画質を自動的に調整する場合は、濃度を［自動］に設定してください。(→濃度を自動で調節して読み込む：P.3-18)
- 画質調整の［微調整］を押して調整値を変更すると、自動濃度調整は解除されます。また、画質調整で微調整をしているときに、読み込み濃度の［自動］を押すと、微調整値は解除され、自動的に画質を調整します。
- 地色除去と裏写り防止は同時に設定できません。

■ 地色除去

カタログのように下地に色がある原稿や黄ばんだ原稿を読み込む場合に、下地の色が読み込まれないように調整します。

■ 裏写り防止

原稿の用紙が薄い場合、ウラ面の画像が写って読み込まれないように調整します。

地色を消して読み込む（地色除去）

カタログのように下地に色がある原稿や黄ばんだ原稿を読み込む場合に、下地の色が読み込まれないように調整します。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［画質調整］を押します。

宛先の指定については、「第２章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 ［地色除去］を押したあと、［OK］を押します。

地色除去を設定して読み込んだとき、地色が残っている場合や、地色をもっと濃くしたい場合は、地色の濃度を微調整します。

［微調整］を押して、［−］［+］を押して各色の除去するレベルを調整したあと、［OK］を押します。

例えば、黄ばんだ原稿の地色（イエロー）が残っているときなどは、イエローの［−］を押して微調整します。

イエローを微調整すると、調整済みのレッドとグリーンの調整値もイエローの調整値と同じになります。また、レッド、グリーンを微調整すると、イエローの調整値は初期値に戻ります。

メモ
- ［−］［+］を押すと、各色の濃度が調整されます。［−］を押すと薄く、［+］を押すと濃くなります。
- 微調整をすると、自動濃度調整は解除され、微調整で設定した濃度で読み込まれます。

裏写りする原稿を読み込む（裏写り防止）

原稿の用紙が薄い場合、ウラ面の画像が写って読み込まれないように調整します。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］→［応用モード］→［画質調整］を押します。

宛先の指定については、「第 2 章　基本的な送信機能の使いかた」を参照してください。

2 裏写りをとばすレベルを調整します。

選択する項目

［−］：　濃い裏写りもとばすことができますが、原稿上の淡い色の部分もとぶ場合があります。

［+］：　原稿上の淡い部分がとぶことはありませんが、裏写りをとばしきれない場合があります。

● Send 拡張キットを有効にしていない場合

❑ ［−］［+］を押して裏写りをとばすレベルを調整したあと、［OK］を押します。

● Send 拡張キットを有効にした場合

❑ ［裏写り防止］→［微調整］を押します。

❑ ［−］［+］を押して裏写りをとばすレベルを調整したあと、［OK］→［OK］を押します。

メモ　自動濃度調整を設定している場合は、自動濃度調整は解除され、画質調整で設定した濃度で読み込まれます。

読取モードの登録／消去

設定した読取モードを、登録することができます。文書を同じ設定で何度も送信するときに便利です。登録した読取モードには名称をつけることもできます。

登録した読取モードは、読取モードドロップダウンリストに表示され、あらかじめ登録されている読取モードと同時に選択できるようになります。

既定の読取モードは、オプションの装着状態により次のようになります。

- Send 拡張キットを有効にした場合：
  8 種類の読取モード（カラー／ 2 値 200 × 200 dpi、カラー／ 2 値 300 × 300 dpi、白黒 200 × 200 dpi、白黒 300 × 300 dpi、カラー／グレイ 200 × 200 dpi、カラー／グレイ 300 × 300 dpi、カラー／グレイ 600 × 600 dpi、白黒 600 × 600 dpi）
- FAX ボードのみ装着している場合：
  4 種類の読取モード（白黒 200 × 100 dpi、白黒 200 × 200 dpi、白黒 200 × 400 dpi、白黒 400 × 400 dpi）

メモ
- いったん登録した読取モードは、主電源を OFF にしても消えません。
- 読取モードは、最大 8 種類まで登録することができます。
- あらかじめ登録されている設定内容とキー名称は、変更して登録することができます。

読取モードの登録

1 読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押したあと、登録する読取モードを設定します。

2 ［登録 / 消去］を押します。



3 登録するユーザ設定キーを選択したあと、［登録］を押します。



表示されるアイコンは以下の内容を示しています。

アイコン	カラーモード	解像度
	自動カラー選択	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、 200 × 100 dpi、200 × 200 dpi
	自動カラー選択	200 × 400 dpi、300 × 300 dpi、 400 × 400 dpi、600 × 600 dpi
	フルカラー	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、 200 × 100 dpi、200 × 200 dpi
	フルカラー	200 × 400 dpi、300 × 300 dpi、 400 × 400 dpi、600 × 600 dpi
	グレイスケール、白黒2値*	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、 200 × 100 dpi*、200 × 200 dpi*
	グレイスケール、白黒2値*	200 × 400 dpi*、300 × 300 dpi、 400 × 400 dpi*、600 × 600 dpi
	未登録	

* オプションの FAX ボードのみを装着している場合に表示されます。

メモ
- すでに読取モードが登録されているユーザ設定キーには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されているユーザ設定キーを選択したときは、登録内容が表示されます。
- 読取モードを登録したあと、［名称登録］を押して、続けてモード名称を登録することもできます。

● まだ登録されていないユーザ設定キーを選択した場合

❑ 登録してよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、［はい］を押します。

● すでに登録されているユーザ設定キーを選択した場合

❑ 上書きしてよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、［はい］を押します。

読取モードの名称登録

1 読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押したあと、［登録 / 消去］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「読取モードの登録」（→ P.4-17）の手順 1、2 を参照してください。

2 名称を登録するユーザ設定キーを選択したあと、［名称登録］を押します。



メモ
- すでに読取モードが登録されているユーザ設定キーには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されているユーザ設定キーを選択したときは、登録内容が表示されます。
- 設定が「未登録」のキーにも名称は登録できます。

3 新しい名称を入力したあと、［OK］を押します。

メモ 文字を入力していない状態で［OK］を押すと、ユーザ設定キーの名称は P1 ～ P8 になります。

読取モードの消去

1 読込設定ドロップダウンリストの［詳細設定］を押したあと、［登録 / 消去］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「読取モードの登録」（→ P.4-17）の手順 1、2 を参照してください。

2 消去するユーザ設定キーを選択したあと、［消去］を押します。

重要 消去する内容を確認してください。

メモ
- すでに読取モードが登録されているユーザ設定キーには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されているユーザ設定キーを選択したときは、登録内容が表示されます。

3 ［はい］を押します。

メモ ユーザ設定キーの名称は消去されません。名称を変更する場合は「読取モードの名称登録」（→ P.4-19）を参照してください。

5
CHAPTER

文書を送信する

文書を送信するときに設定する各種送信機能とその他の便利な機能について説明しています。

送信の設定をする（送信設定）. 5-2
ファクス設定をする 5-3
電子メール設定をする 5-5
I ファクス設定をする 5-8
ファイルサーバ設定をする 5-10
ユーザボックス設定をする 5-13
指定した時刻に送信する（タイマー送信）. 5-14
送信の終了を電子メールで知らせる（ジョブ終了通知）. 5-16
原稿をプレビューする（プレビュー表示）. 5-17
読み取り済みの原稿にスタンプをつける（済スタンプ）. 5-19
送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）. 5-20
ファイル形式の設定をする 5-21
アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）. 5-24
高圧縮 PDF を送信する（高圧縮）. 5-26
サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））. 5-28
送信する PDF を暗号化する（暗号化 PDF）. 5-30
送信する PDF に電子署名をつける（電子署名をつける）. 5-34
設定されたモードを呼び出して送信する（コール）. 5-41

送信の設定をする（送信設定）

送信する文書に件名、本文、返信先アドレスなどを入力することができます。これらの設定を行わなくても文書を送信することはできますので、必要に応じて設定してください。

また、送信する時間を設定することもできます。

重要 TIFF 形式で送信した場合、Macintosh では画像が正しく表示されないことがあります。このときは、PDF 形式で送信するか、QuickTime Player などのアプリケーションを使用して画像を表示してください。

メモ

- 原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。
- 宛先表を使った宛先の指定については、「宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）」（→ P.2-26）を参照してください。
- 宛先表に登録していない宛先の指定については、「宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）」（→ P.2-2）を参照してください。
- ワンタッチボタンを使った宛先の指定については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」（→ P.2-28）を参照してください。
- 定型業務ボタンを使った宛先と設定内容の指定については、「定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）」（→ P.2-29）を参照してください。
- ネットワーク上のディレクトリサーバ（LDAP）を使った宛先の指定については、「サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））」（→ P.2-30）を参照してください。
- 読み込みの設定については、「読取モードを選択する」（→ P.3-2）を参照してください。
- ボックスへ保管する方法については、「ボックスに保管する」（→ P.2-24）を参照してください。
- ファクスのダイレクト送信を設定していないときにプレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）
- すべての設定を一括して解除するには、◎（リセット）を押します。（標準モードの設定になります。）

ファクス設定をする

原稿を読み込んで、ファクスとして送信することができます。ここでは、ファクスに発信人名称を設定します。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ メモリ送信

送信するすべての原稿をいったんメモリに読み込んでから、送信を開始します。このため原稿の読み込みが終了すれば、本製品のそばにいる必要はありません。

メモ　メモリには、送受信あわせて約 6000 枚の原稿が記憶できます。

■ ダイレクト送信

ファクス送信が可能になった時点で原稿の読み込みを開始します。原稿をメモリに読み込まずに直接送信することができます。

重要
- 2 枚以上の原稿のダイレクト送信は、フィーダ使用時のみ利用できます。原稿台ガラスに原稿をセットしてダイレクト送信する場合、送信できるのは 1 枚だけです。
- ダイレクト送信で指定できる宛先は 1 件のみです。
- タイマー送信や、複数の宛先を指定していた場合は、自動的にメモリ送信になります。
- ダイレクト送信の途中で送信エラーが起きたり送信を中止した場合は、ファクス通信管理レポートやシステム状況画面のファクスのジョブ履歴で送信された枚数を確認することができます。
- 回線を増設している場合は、2 本の回線から選択して送信することができます。

1　原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定] を押します。

2　各項目を設定したあと、[閉じる] を押します。



［発信人名称］：

［発信人名称］を押して、発信人名称を選択したあと、［OK］を押します。

発信人名称リストの「00」があらかじめ設定されています。

［ダイレクト］：

［ダイレクト］を押して、送信のしかたを設定します。

ダイレクト送信を設定する場合は、設定を「ON」にします。

メモリ送信を設定する場合は、設定を「OFF」にします。

ダイレクト送信の設定は、ファクスの新規宛先を指定する画面でも設定できます。(→ ファクス番号を指定する：P.2-2)

［回線選択］：

回線を増設している場合は、［回線選択］を押します。

［回線 1］、［回線 2］または［自動選択］のいずれかを押して［OK］を押します。

回線 1： 標準回線

回線 2： 増設した回線

自動選択： 初期設定／登録の増設回線設定の「回線を選択して送信する（送信回線の選択）」(→ P.9-62）の設定に従って、どちらかの回線を選択します。

重要

- 回線 1 または回線 2 を送信禁止に設定することができます。(→ 回線を選択して送信する（送信回線の選択）：P.9-62)
- プッシュホンサービスを利用する場合は、どんな回線の設定がされていても、回線 1（標準回線）が自動的に選択されます。
- 自動選択を選択した場合には、発信人名称で「00」を指定した際に表示されている名称と異なる場合があります。送信で使用された回線に登録されているユーザ略称が、相手先に表示／プリントされます。

メモ

- 発信人名称を選択するには、あらかじめ発信人名称を登録しておく必要があります。(→ 個人の名称を登録する（発信人名称の登録)）：P.1-17)
- 発信人名称のリストの「00」には、ユーザ略称の登録で登録した名称が表示されます。(→ 会社や部署の名称を登録する（ユーザ略称の登録）：P.1-18)
- 回線を増設している場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の増設回線設定の送信回線の選択で「優先送信」になっている回線に登録されているユーザ略称が表示されます。(→ 回線を選択して送信する（送信回線の選択）：P.9-62)
- マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。

3 ◎（スタート）を押します。

ダイレクト送信を設定した場合、送信が終了したあと、自動的にダイレクト送信は解除されます。

電子メール設定をする

原稿を読み込んで、電子メールの添付ファイルとして送信することができます。電子メールには、読み込んだ画像の他に送信文書名、件名、本文、返信先アドレスをつけることができます。読み込んだ画像は、JPEG、TIFF、PDF ファイルとして添付されます。

重要 メールサーバに Microsoft Exchange Server5.5、2000 または 2003 を使用し、以下の条件が揃った場合、電子メールを送信するとエラーになることがあります。その場合は、Exchange Server の設定で「Exchange 全般」-「配信オプション」-「代理送信」に、SDL、SSO、IC カードによる認証でログインしたユーザを追加してください。詳しくはシステム管理者へお問い合わせください。

・SDL、SSO、IC カードによる認証でログインしている

・システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定で、「電子メール／I ファクス」の「認証／暗号化設定」の SMTP 認証（SMTP AUTH）を「ON」に設定している

メモ この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

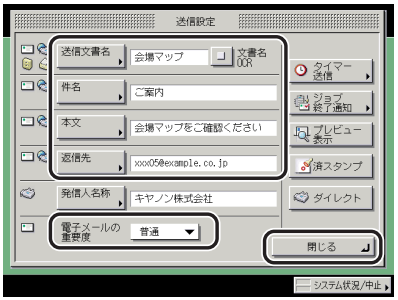
1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式] を押します。



2 送信する画像のファイル形式を選択します。

メモ ファイル形式の設定方法については、「送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）」（→ P.5-20）を参照してください。

3 [送信設定]を押して、各項目を設定したあと、[閉じる]を押します。



[送信文書名]:

[送信文書名]を押して、送信文書名を入力したあと、[OK]を押します。

[文書名 OCR]:

ファイル形式に[PDF(OCR)]を選択しているときに、[文書名 OCR]を「ON」にすると、送信文書の先頭から文字列を抽出して、送信文書名を自動的に作成します。抽出される文字数は、送信/受信仕様設定(初期設定/登録)の送信機能設定で、PDF(OCR)設定の文書名 OCR の文字数設定で設定された文字数となります。(→ サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする(PDF(OCR)設定):P.9-24)

1 ページ目の最初に抽出した文字ブロックの先頭から自動的に送信文書名として反映されます。“,” “/” “[” “]”など、ファイル送信で保障しない文字は抽出されません。

すでに送信文書名が入力されている場合は、送信文書名の後ろに抽出された文書名が追加されます。制限文字数を超えている文字列は、カットされます。

文書名 OCR と暗号化 PDF を同時に設定して送信することはできません。

[件名]:

[件名]を押して、件名を入力したあと、[OK]を押します。

[本文]:

[本文]を押して、本文を入力したあと、[OK]を押します。

[返信先]:

[返信先]を押して、返信先を選択したあと、[OK]を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号]を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する(宛先表):P.2-26)

ここで指定した宛先は、メールを受け取った人が返信をするときに「宛先」に入ります。

[電子メールの重要度]:

電子メールの重要度ドロップダウンリストを押したあと、電子メールの重要度を選択します。

重要 返信先に設定する宛先はあらかじめ宛先表に登録しておきます。(→ 電子メールアドレスを登録する：P.10-11)

メモ

- 文書を送信すると、各ページがそれぞれ個別の画像として変換され、電子メールに添付されます。添付される画像ファイルには、送信時に選択したファイル形式にあわせた拡張子がつけられます。ファイル名は以下のようにつけられます。
  - ・送信文書名を設定する場合
    送信文書名とページ番号を表す 3 桁の数字がファイル名になります。
    例：送信文書名 _002.TIF
  - ・送信文書名を設定しない場合
    受付番号（0001 ～ 4999）とページ番号を表す 3 桁の数字がファイル名になります。
    例：1042_002.TIF
- 件名を入力しない場合は、システム管理設定（初期設定／登録）の電子メール／Ｉファクス共通設定で設定した件名で送信されます。(→ 電子メール／Ｉファクス共通の通信設定をする：P.11-6)
- 返信先の宛先は複数選択することはできません。
- 返信先の設定で表示される［アクセス番号］はシステム管理設定（初期設定／登録）の宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)
- ログインサービスを設定している場合に、システム管理設定（初期設定／登録）の送信／受信仕様設定で認証ユーザ宛先を返信先に指定を「ON」に設定すると、返信先として認証ユーザのメールアドレスが指定されます。
- 本製品の電子メールアドレスの登録方法は、「ネットワークガイド」を参照してください。

4 ◎（スタート）を押します。

Iファクス設定をする

読み込んだ画像をIファクスとして、インターネット経由で送信できます。Iファクスは、受信可能な機種にのみ送信できます。I ファクスには、読み込んだ画像のほかに送信文書名、件名、本文、返信先アドレスをつけることができます。

重要 メールサーバに Microsoft Exchange Server5.5、2000 または 2003 を使用し、以下の条件が揃った場合、I ファクスを送信するとエラーになることがあります。その場合は、Exchange Server の設定で「Exchange 全般」-「配信オプション」-「代理送信」に、SDL、SSO、IC カードによる認証でログインしたユーザを追加してください。詳しくはシステム管理者へお問い合わせください。

・SDL、SSO、IC カードによる認証でログインしている

・システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定で、「電子メール／I ファクス」の「認証／暗号化設定」の SMTP 認証（SMTP AUTH）を「ON」に設定している

メモ この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定] を押します。

2 各項目を設定したあと、[閉じる] を押します。



［送信文書名］：

［送信文書名］を押して、送信文書名を入力したあと、［OK］を押します。

［件名］：

［件名］を押して、件名を入力したあと、［OK］を押します。

［本文］：

［本文］を押して、本文を入力したあと、［OK］を押します。

［返信先］：

［返信先］を押して、返信先を選択したあと、［OK］を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、［アクセス番号］を押してアクセス番号を入力します。（→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26）

ここで指定した宛先にも Full モードの送達確認のメールが送信されます。

重要 返信先の宛先はあらかじめ宛先表に登録しておきます。（→ 電子メールアドレスを登録する：P.10-11）

メモ

- 文書を送信すると、各ページがそれぞれ個別の TIFF 画像として変換され、I ファクスに添付されます。ファイル名は以下のようにつけられます。
  - ・送信文書名を設定する場合
    送信文書名とページ番号を表す 3 桁の数字がファイル名になります。
    例：送信文書名 _001.TIF
  - ・送信文書名を設定しない場合
    受付番号（0001 ～ 4999）とページ番号を表す 3 桁の数字がファイル名になります。
    例：1042_001.TIF
- 件名を入力しない場合は、システム管理設定（初期設定／登録）の電子メール／I ファクス共通設定で設定した件名で送信されます。（→ 電子メール／ I ファクス共通の通信設定をする：P.11-6）
- 返信先の宛先は複数選択することはできません。
- 返信先の設定で表示される［アクセス番号］はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。（→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20）
- ログインサービスを設定している場合に、システム管理設定（初期設定／登録）の送信／受信仕様設定で認証ユーザ宛先を返信先に指定を「ON」に設定すると、返信先として認証ユーザのメールアドレスが指定されます。
- 本製品の電子メールアドレスの登録方法は、「ネットワークガイド」を参照してください。

3 ◎（スタート）を押します。

ファイルサーバ設定をする

読み込んだ画像をネットワーク上のコンピュータ（ファイルサーバ）に送信することができます。ここでは、送信文書名とファイル形式を設定します。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

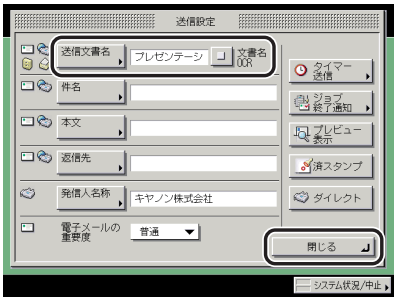
1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式]を押します。



2 送信する画像のファイル形式を選択します。

メモ　ファイル形式の設定方法については、「送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）」（→P.5-20）を参照してください。

3 [送信設定]を押して、送信文書名を設定したあと、[閉じる]を押します。



[送信文書名]：

[送信文書名]を押して、送信文書名を入力したあと、[OK]を押します。

[文書名 OCR]：

ファイル形式に[PDF（OCR）]を選択しているときに、[文書名 OCR]を「ON」にすると、送信文書の先頭から文字列を抽出して、送信文書名を自動的に作成します。抽出される文字数は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定で、PDF（OCR）設定の文書名 OCR の文字数設定で設定された文字数となります。(→ サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする（PDF（OCR）設定）：P.9-24)

1 ページ目の最初に抽出した文字ブロックの先頭から自動的に送信文書名として反映されます。“,” “/” “[” “]”など、ファイル送信で保障しない文字は抽出されません。

すでに送信文書名が入力されている場合は、送信文書名の後ろに抽出された文書名が追加されます。制限文字数を超えている文字列は、カットされます。

文書名 OCR と暗号化 PDF を同時に設定して送信することはできません。

重要

- FTP サーバに送信するときに、送信文書名を「かな漢」など ASCII コード以外の文字で入力する場合は、送信機能設定（初期設定／登録）の FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可を「ON」に設定してください。「OFF」のまま ASCII コード以外で入力すると、送信先で正しい送信文書名が表示されません。ASCII コードについては、用語集（→P.14-26）の「ASCII コード」を参照してください。
- “,” “/” “[” “]” など、送信先のファイルサーバが使用している OS で使用できない文字を送信文書名に入力した場合は、送信できないことがあります。

メモ

文書を送信すると、各ページがそれぞれ個別の画像として変換され、ファイルサーバに保存されます。送信される画像ファイルには、送信時に選択したファイル形式にあわせた拡張子がつけられます。ファイル名は、以下のようにつけられます。

・送信文書名を設定する場合
ページごとに分割する：
送信文書名、送信時の年月日、送信時の時分秒、ページ番号を表す 5 桁の数字がファイル名になります。

例： 送信文書名 _20070410203000_00002.TIF
送信文書名 _20070410203000_00002.JPG
送信文書名 _20070410203000_00002.PDF

ページごとに分割しない：
送信文書名、送信時の年月日、送信時の時分秒がファイル名になります。

例： 送信文書名 _20070410203000.TIF
送信文書名 _20070410203000.PDF

・送信文書名を設定しない場合：
ページごとに分割する
送信時の年月日、送信時の時分秒、ページ番号を表す5桁の数字がファイル名になります。

例： 20070410203000_00002.TIF
20070410203000_00002.JPG
20070410203000_00002.PDF

ページごとに分割しない：
送信時の年月日、送信時の時分秒がファイル名になります。

例： 20070410203000.TIF
20070410203000.PDF

4 ◎（スタート）を押します。

ユーザボックス設定をする

読み込んだ文書をユーザボックスへ保存することができます。送信先にユーザボックスを含めておくと、相手先に送信した文書と同じ内容の文書がユーザボックスに保存されるので、送信文書の控えとして利用することができます。保存した文書は、プリントしたり、再度送信したりできます。ここでは送信文書名を設定します。設定した文書名は、ユーザボックスでの文書名になります。

重要

- ユーザボックスに保存した文書は、3 日後に自動消去されるように設定されています。文書の自動消去までの時間は初期設定／登録で設定できます。(→ コピー／ボックスガイド「第 8 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)
- 以下のような場合には、ボックスに文書を保存することができません。(ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。)
  - ・ボックス全体に、1500 件の文書または画像が保存されているとき
  - ・ボックス全体に、約 6000 ページの文書または画像が保存されているとき

メモ

- 新しい文書を保存するメモリ残量を確保するため、不要になった文書や画像データはボックスから削除しておくことをおすすめします。
- ユーザボックスの詳細については、「コピー／ボックスガイド」を参照してください。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定] を押します。

2 送信文書名を設定したあと、[閉じる] を押します。



[送信文書名]：

[送信文書名] を押して、送信文書名を入力したあと、[OK] を押します。

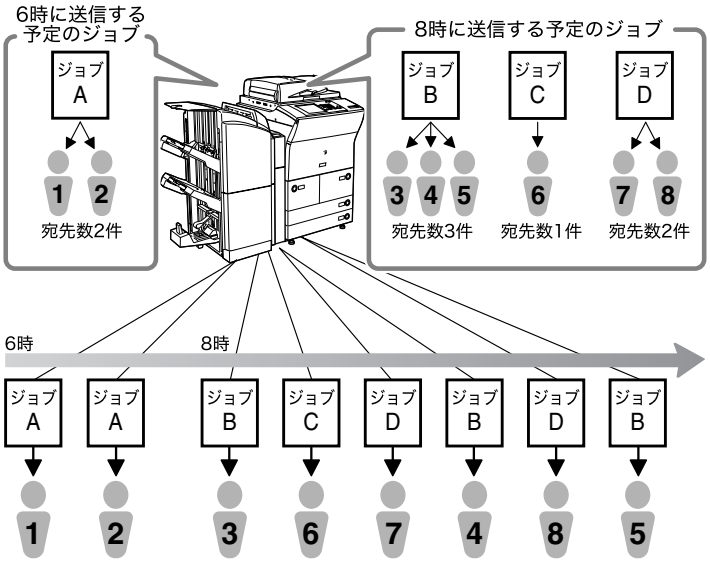
3 (スタート) を押します。

指定した時刻に送信する（タイマー送信）

あらかじめジョブを設定してメモリに保存しておき、指定した時刻に送信します。

メモ

- タイマー送信は、最大 120 ジョブ、そのうちファクスジョブは 64 ジョブまで予約できます。ただし、メモリの状態によってはそれよりも少なくなることがあります。おもな例は以下のとおりです。
  - ・一度に複数の文書を送信したとき
  - ・大きなデータサイズの文書を送信したとき
  - ・ボックスで大量にメモリを使用しているとき
- タイマー送信指定していないジョブがある場合や指定した宛先によっては、タイマー送信できるジョブは減ることがあります。
- タイマー送信が終了すると、自動的にメモリ内の文書は消去されます。
- 送信時刻を設定したジョブは、送信状況の確認、送信の中止、宛先の変更ができます。（→ システム状況画面から中止する：P.1-38、第 8 章　送信／受信状況の確認と変更）
- 複数ファクスのジョブが同時に送信時刻に達した場合、文書は次のように送信されます。



1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定]を押します。

2 [タイマー送信]を押します。



3 ⓪～⑨(テンキー)で送信する時刻を入力します。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例：　7 時 5 分　→0705

23 時 18 分　→2318

現在時刻よりも前の時刻を設定した場合は、翌日のその時刻に送信します。

メモ　間違って入力したときは、ⓒ(クリア)を押して正しい時刻を入力します。

4 [OK]→[閉じる]を押します。

5 ◇(スタート)を押します。

メモ
- 設定を解除するには、[送信設定]→[タイマー送信]→[設定取消]を押します。
- タイマー送信ジョブを中止する場合は、システム状況画面から行います。(→ システム状況画面から中止する：P.1-38)

送信の終了を電子メールで知らせる（ジョブ終了通知）

指定した電子メールアドレスに送信の終了を通知することができます。

重要 ジョブ終了通知を設定するには、あらかじめ宛先表に電子メールアドレスを登録しておく必要があります。（→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5）

メモ この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

---

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定]を押します。

2 [ジョブ終了通知]を押します。



3 ジョブ終了通知を送る宛先を選択したあと、[OK]を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号]を押してアクセス番号を入力します。（→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26）

メモ
- [アクセス番号]はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。（→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20）
- 宛先を設定する方法は、「宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）」（→ P.2-26）を参照してください。
- 宛先は複数選択することはできません。

4 [閉じる]を押します。

5 ◎（スタート）を押します。

メモ 設定を解除するには、[送信設定] → [ジョブ終了通知] → [設定取消]を押します。

原稿をプレビューする（プレビュー表示）

送信する前に、読み込んだ原稿を表示して確認したり送信する文書や画像のページ数を確認することができます。

重要　ファクスのダイレクト送信、手動送信をする場合は、プレビュー表示できません。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定]を押します。

2 [プレビュー表示]→[閉じる]を押します。



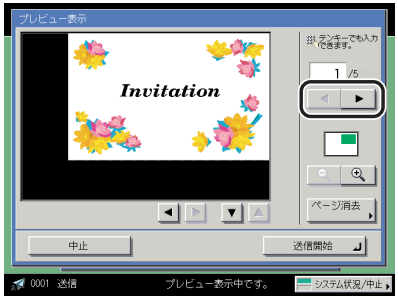
原稿をプレビュー表示する場合は、設定を「ON」にします。

原稿をプレビュー表示しない場合は、設定を「OFF」にします。

3 ◎(スタート)を押します。

メモ　プレビュー表示を「ON」にしていない場合は、プレビュー画面は表示されません。読み込みが終了すると指定した宛先に送信されます。

4 [◀][▶]を押して確認するページを選択します。



5 ページを消去するかしないか選択します。

ページを消去する場合は、[ページ消去] を押します。

ページを消去しない場合は、手順 9 に進みます。

6 [単一ページ消去] または [連続ページ消去] を押して消去するページを入力します。

● 単一ページ消去を選択した場合

❑ [−] [+] で消去するページを選択します。

● 連続ページ消去を選択した場合

❑ [開始ページ] [終了ページ] を押して、消去する最初と最後のページをそれぞれ [−] [+] で選択します。

7 [実行] を押します。

8 [はい] を押します。

9 画像を確認したあと、[送信開始] を押します。

[ ]（縮小）[ ]（拡大）を押して画像の表示倍率を変えることができます。

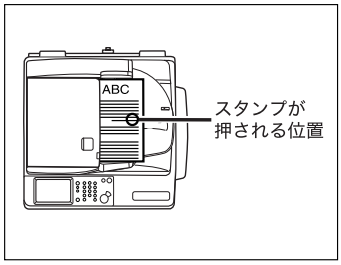
表示倍率を変更したあと、[◀] [▶] [▼] [▲] を押して画像の表示位置を調整することができます。

で表示されている画像の位置を確認することができます。

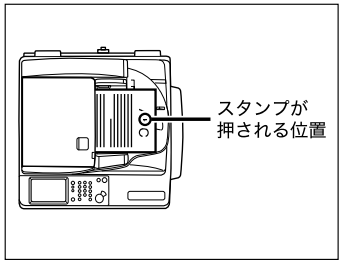
メモ　送信実行画面には、送信する文書を読み込んだときの面数が表示されます。

読み取り済みの原稿にスタンプをつける（済スタンプ）

読み取った原稿の表面に直径約 3mm のスタンプを押すことで、読み取りが終了した原稿を区別することができます。



タテ置き



ヨコ置き

重要
- 済スタンプは、読取サイズ（指定サイズ）、ページ連写の各機能と組み合わせた設定はできません。
- 済スタンプは、ファクスのダイレクト送信、手動送信と組み合わせた設定はできません。

メモ 済スタンプは、フィーダから読み取った原稿につけられます。

1 フィーダに原稿をセットして、宛先を指定したあと、[送信設定] を押します。

メモ 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能の標準モードの変更でも設定できます。

2 [済スタンプ] → [閉じる] を押します。



取り消す場合は、もう一度［済スタンプ］を押します。

3 （スタート）を押します。

メモ 済スタンプがはっきりと押されなかった場合は、ユーザーズガイド「第 7 章　日常のメンテナンス」を参照してください。

送信する文書のファイル形式を設定する（ファイル形式）

送信する文書のファイル形式を TIFF、JPEG、PDF から選択することができます。また、PDF を設定した場合は、アウトライン、高圧縮、OCR、暗号化、電子署名などの各機能を設定することもできます。

メモ

- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- 原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。
- 宛先表に登録していない宛先の指定については、「宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）」（→ P.2-2）を参照してください。
- 宛先表を使った宛先の指定については、「宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）」（→ P.2-26）を参照してください。
- ワンタッチボタンを使った宛先の指定については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」（→ P.2-28）を参照してください。
- 定型業務ボタンを使った宛先の指定については、「定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）」（→ P.2-29）を参照してください。
- ネットワーク上のディレクトリサーバ（LDAP）を使った宛先の指定については、「サーバから宛先を検索する（宛先検索（サーバ））」（→ P.2-30）を参照してください。
- 読み込みの設定については、「読取モードを選択する」（→ P.3-2）を参照してください。
- 電子メール、またはファイルサーバの宛先を指定してください。
- プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）
- すべての設定を一括して解除するには、（リセット）を押します。（標準モードの設定になります。）

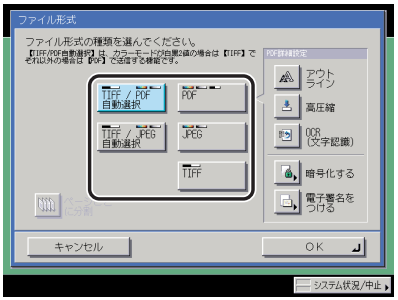
ファイル形式の設定をする

読み込んだ文書を電子メールに添付して送付したり、ファイルサーバに保管することができます。ここでは、ファイル形式の設定方法について説明します。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式]を押します。



2 送信する画像のファイル形式を選択します。

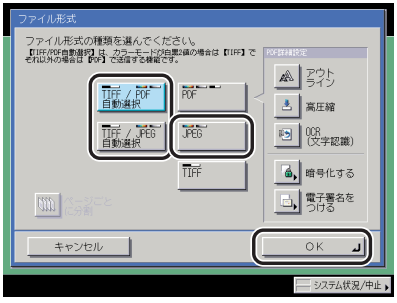


ファイル形式は、次の形式から選択できます。

- [TIFF/PDF 自動選択]： カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの画像を含む場合は PDF 形式で送信されます。送信画面では、[TIFF/PDF] と表示されます。
- [TIFF/JPEG 自動選択]：カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの場合は JPEG 形式で送信されます。
  送信画面では、[TIFF/JPEG] と表示されます。
- [PDF]： カラーモードにかかわらず PDF 形式で送信されます。さらに、[アウトライン]、[高圧縮]、[OCR（文字認識）]、[暗号化する]、[電子署名をつける] を選択することができます。
- [JPEG]： カラーモードが白黒 2 値以外の場合のみ JPEG 形式で送信されます。
- [TIFF]： カラーモードが白黒 2 値の場合のみ TIFF 形式で送信されます。

● [TIFF/PDF 自動選択]、[TIFF/JPEG 自動選択]、または [JPEG] を選択した場合

❑ [OK] を押します。



[TIFF/PDF 自動選択] を選択した場合は、[ページごとに分割] を「ON」に設定することはできません。

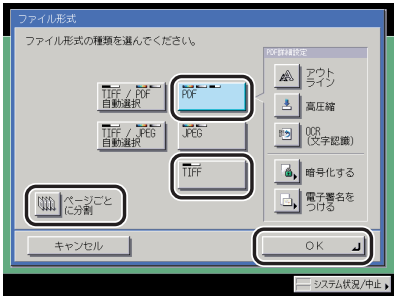
[TIFF/JPEG 自動選択]、[JPEG] を選択した場合は、[ページごとに分割] は「ON」に設定されます。

● [PDF] または [TIFF] を選択した場合

❑ ページごとに分割するかしないか設定したあと、[OK] を押します。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、設定を「ON」にします。

複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。



PDF の種類は、< PDF 詳細設定>から選択することができます。各 PDF の設定方法は以下を参照してください。

- [アウトライン]:「アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）」(→ P.5-24)
- [高圧縮]:「高圧縮 PDF を送信する（高圧縮）」(→ P.5-26)
- [OCR（文字認識）]:「サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））」(→ P.5-28)
- [暗号化する]:「送信する PDF を暗号化する（暗号化 PDF）」(→ P.5-30)
- [電子署名をつける]:「送信する PDF に電子署名をつける（電子署名をつける）」(→ P.5-34)

メモ
- PDF の閲覧やテキストの検索には、Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- JPEG を見るには、JPEG に対応しているアプリケーション（Windows の場合は Microsoft Internet Explorer など）が必要です。
- TIFF を見るには、TIFF に対応しているアプリケーション（Windows の場合はイメージングなど）が必要です。

3 ◎（スタート）を押します。

アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）

送信する文書中の文字部をアウトライン化し PDF データ内で重ねることにより、文書内の文字部の表示品位を保つことができる機能です。また、Adobe Illustrator を使用すると、文字部のほか、アウトライン化された線画部を再利用することができます。

アウトライン化した PDF は「PDF（高圧縮）」と連動しているため、［アウトライン］を選択すると、［高圧縮］が同時に設定されます。また、［OCR（文字認識）］を同時に指定することもできます。［アウトライン］のみの設定を行うことはできません。送信画面では、［PDF（アウトライン）］と表示されます。

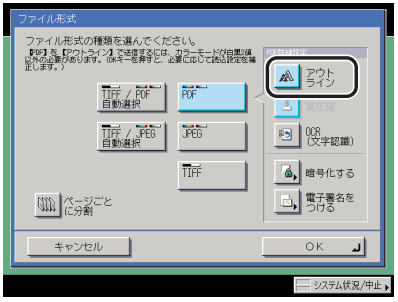
重要

- ［アウトライン］を選択した場合、文字や線画の識別は自動的に行われます。読み込まれる原稿によっては、文字や線画が正しく識別されない場合があります。
- ［アウトライン］を選択した場合、文字として認識された部分のみ表示品位を保つことができます。
- Adobe Illustratorのバージョンによっては、アウトライン化したPDFを開く際に文字と背景がずれる場合があります。
- 以下の場合は、アウトライン化した PDF を送信することはできません。
  - ・原稿のカラーモードが白黒 2 値の場合
  - ・原稿のカラーモードがフルカラー／グレイスケール（自動カラー選択）で、解像度が 300dpi 未満の場合
  - ・原稿サイズが長尺原稿（432mm 以上）の場合

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、［ファイル形式］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファイル形式の設定をする」（→ P.5-21）の手順 1 を参照してください。

2 ［アウトライン］を押します。



3 ページごとに分割するかしないか設定したあと、[OK] を押します。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、設定を「ON」にします。

複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

重要

- ファイル形式で［PDF］の［アウトライン］を選択すると、解像度は［300 × 300dpi］に変更されます。カラーモードを［自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値）］または［白黒 2 値］に設定していた場合は、カラーモードもそれぞれ［自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール）］、［グレイスケール］に変更されます。設定した解像度やカラーモードのまま送信するためには、ファイル形式を［PDF］の［アウトライン］、［高圧縮］以外に変更してください。
- ［PDF（アウトライン）］が標準モードとして登録されていると、ファクス、I ファクスを送信時にファイル形式の変更を促すメッセージが表示されることがあります。表示された場合は、［PDF（アウトライン）］、［PDF（高圧縮）］以外のファイル形式に変更してください。
- PDF（アウトライン）を設定する場合は、倍率は 100% でのみ送信できます。

メモ

- PDF の閲覧やテキストの検索には、Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「PDF（アウトライン）」を参照してください。

4 ◎（スタート）を押します。

高圧縮 PDF を送信する（高圧縮）

文字原稿や、文字と写真が混在する原稿を高効率で圧縮して送信することができます。カラーモードの自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値）、白黒 2 値と組み合わせた設定はできません。[高圧縮] を選択する場合は、原稿の画質にあわせて画質選択の文字／写真モードまたは文字モードを設定しておくことをおすすめします。送信画面では、[PDF（高圧縮）] と表示されます。[OCR（文字認識）] と組み合わせて設定することができます。

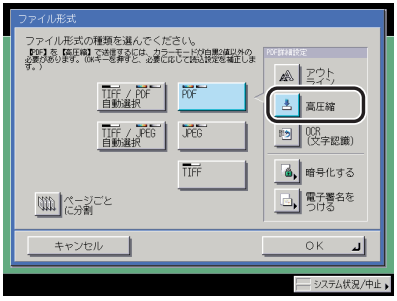
重要 以下の場合は、高圧縮 PDF を送信することはできません。

- 原稿のカラーモードが白黒 2 値の場合
- 原稿のカラーモードがフルカラー／グレイスケール（自動カラー選択）で、解像度が 300dpi 未満の場合
- 原稿サイズが長尺原稿（850mm 以上）の場合（iR 本体のスキャナ部では、630mm の長尺原稿まで読み取り可能です。それ以上の長尺原稿は、I ファクス受信文書などに限られます。）

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファイル形式の設定をする」（→ P.5-21）の手順 1 を参照してください。

2 [高圧縮] を押します。



3 ページごとに分割するかしないか設定したあと、[OK] を押します。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、設定を「ON」にします。

複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

重要

- ファイル形式で［PDF］の［高圧縮］を選択すると、解像度は［300 × 300dpi］に変更されます。カラーモードを［自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値）］または［白黒 2 値］に設定していた場合は、カラーモードもそれぞれ［自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール）］、［グレイスケール］に変更されます。設定した解像度やカラーモードのまま送信するためには、ファイル形式を［PDF］の［高圧縮］、［アウトライン］以外に変更してください。
- ［PDF（高圧縮）］が標準モードとして登録されていると、ファクス、I ファクスを送信時にファイル形式の変更を促すメッセージが表示されることがあります。表示された場合は、［PDF（高圧縮）］、［PDF（アウトライン）］以外のファイル形式に変更してください。
- PDF（高圧縮）を設定する場合は、倍率は 100% でのみ送信できます。

メモ

- PDF の閲覧やテキストの検索には、Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- PDF を選択した場合、［高圧縮］と［OCR（文字認識）］と組み合わせて設定することができます。送信画面では［PDF（高圧縮）］と表示されます。
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「PDF（高圧縮）」を参照してください。

4 （スタート）を押します。

サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））

サーチャブル PDF は、OCR（光学式文字読取装置）処理により、テキストとして認識可能な部分からテキストデータの抽出を行い、透明なテキストデータを貼り付け、テキスト検索可能な PDF を作成する機能です。

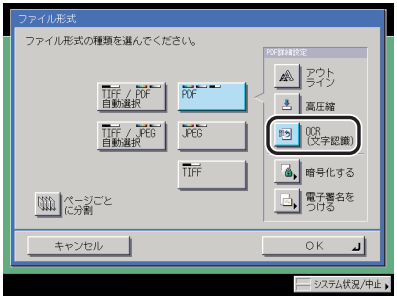
重要 PDF（OCR）と長尺原稿（432mm 以上）を同時に設定して送信することはできません。

メモ サーチャブル PDF は、オプションのサーチャブル PDF 拡張キットを有効にした場合に表示されます。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファイル形式の設定をする」（→ P.5-21）の手順 1 を参照してください。

2 [OCR（文字認識）] を押します。



3 ページごとに分割するかしないか設定したあと、[OK] を押します。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、設定を「ON」にします。

複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

重要 PDF（OCR）を設定したとき、地色や字体、文字の大きさ、文字の傾きなどによっては正しく OCR 処理されない場合もあります。

メモ
- PDF の閲覧やテキストの検索には、Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「PDF（OCR）」を参照してください。
- 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定で、PDF（OCR）設定の原稿向き自動検知が「ON」の場合、ファイル形式で「PDF（OCR）」を選択すると、原稿の向きを検知して自動的に回転して送信されます。
- PDF を選択した場合、[高圧縮] と [OCR（文字認識）] と組み合わせて設定することができます。送信画面では [PDF（高圧縮）] と表示されます。

4 ◎（スタート）を押します。

送信する PDF を暗号化する（暗号化 PDF）

暗号化 PDF は、電子メールやファイルサーバを宛先として PDF を送信する場合に、安全に送信するために PDF にパスワードなどの設定をすることで暗号化できる機能です。

PDF にパスワードを設定すると、受け取った側で正しいパスワードを入力しない限り、文書を開いたり、印刷や変更をしたりすることができません。

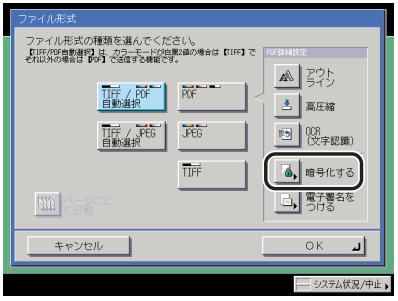
重要 暗号化 PDF を送信できるのは、電子メール、ファイルサーバのみが宛先に指定されている場合です。宛先にファクス、I ファクス、ボックスが含まれている場合は、送信できません。

メモ
- 暗号化PDFは、オプションの暗号化PDF拡張キットを有効にした場合に使用できる機能です。
- 文書名 OCR と暗号化 PDF を同時に設定して送信することはできません。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファイル形式の設定をする」（→ P.5-21）の手順 1 を参照してください。

2 [暗号化する] を押します。



3 各項目を設定したあと、[OK] を押します。



＜暗号化レベル＞：

暗号化レベルドロップダウンリストを押したあと、[低 （40-bit RC4）]、[高 （128-bit RC4）] または [高 （128-bit AES）] を選択します。

暗号化レベルが [高 （128-bit RC4）] に設定された PDF を開くには、Adobe Acrobat 5.0 以降が必要です。

暗号化レベルが [高 （128-bit AES）] に設定された PDF を開くには、Adobe Acrobat 7.0 以降が必要です。

[文書を開く時にパスワードが必要]：

送信した文書を開くときのパスワードを設定する場合に「ON」にします。パスワードは、[文書を開くパスワード] で設定します。

[文書を開く時にパスワードが必要] を設定した PDF は、パスワードを入力しないと PDF が開けません。

[文書を開くパスワード]：

[文書を開くパスワード] を押してパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

確認入力画面で同じパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

[文書の権限変更にパスワードが必要]：

送信した PDF を印刷したり、変更したりするときのパスワードを設定する場合に「ON」にします。「ON」にした場合は、印刷を許可、変更を許可、[画像とテキストのコピー、抽出とアクセシビリティを有効にする] などの設定ができます。パスワードは、[権限パスワード] で設定します。

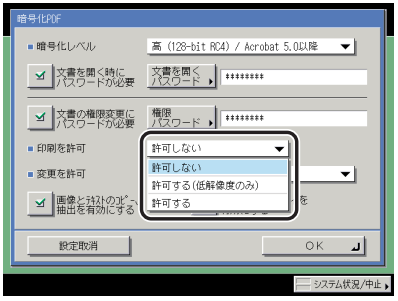
[文書の権限変更にパスワードが必要] を設定した PDF は、パスワードを入力しないと文書の印刷や変更ができなくなります。

[権限パスワード]：

[権限パスワード] を押してパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

確認入力画面で同じパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

<印刷を許可>：

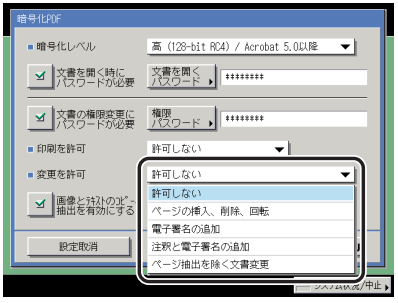


[高（128-bit RC4)］を選択している場合

文書の印刷の許可を選択するドロップダウンリストを押したあと、送信した文書の印刷を許可するかしないか選択します。[文書の権限変更にパスワードが必要］を「ON」に設定した場合に設定できます。

- [許可しない]：　印刷できません。([許可しない] を選択した場合でも、受信側でAdobe Acrobat 5以前を使用して権限パスワードより文書を開いたときは、印刷可能となります。)
- [許可する（低解像度のみ)]：　低解像度での印刷のみできます。([高　(128-bit RC4)]、[高　(128-bit AES)］選択時に表示)
- [許可する]：　印刷できます。

<変更を許可>：



[高（128-bit RC4)］を選択している場合

文書の変更の許可を選択するドロップダウンリストを押したあと、送信した文書の変更できる項目を選択をします。[文書の権限変更にパスワードが必要］を「ON」に設定した場合に設定できます。

- [許可しない]：　文書の変更はできません。
- [ページの挿入、削除、回転]：　ページの挿入、削除、回転ができます。([高　(128-bit RC4)]、[高　(128-bit AES)］選択時に表示)
- [電子署名の追加]：　電子署名の追加ができます。([高　(128-bit RC4)]、[高　(128-bit AES)］選択時に表示)
- [注釈と電子署名の追加]：　注釈、電子署名の追加ができます。

- ［注釈の追加、ページ抽出を除く文書変更］：　注釈の追加とページの抽出を除く文書変更ができます。（［低　(40-bit RC4)］選択時に表示）
- ［ページ抽出を除く文書変更］：ページ抽出を除く文書変更ができます。

［画像とテキストのコピー、抽出とアクセシビリティを有効にする］：

［文書の権限変更にパスワードが必要］を「ON」にした場合に設定できます。

選択すると、送信した文書の画像やテキストのコピー、抽出ができます。また、視覚に障害のあるユーザのために、文書内のテキスト文字を読み上げる機能を有効にします。（［低(40-bit RC4)］選択時に表示）

［高（128-bit RC4)］、［高（128-bit AES)］選択時は、［画像とテキストのコピー、抽出を有効にする］と［アクセシビリティを有効にする］が表示され、別べつに設定することができます。

重要

- ［文書を開くパスワード］、［権限パスワード］を空欄にしている場合、◎（スタート）を押したあとに表示される画面でパスワードを入力します。暗号化 PDF の設定を、定型業務ボタンに登録することができます。［文書を開くパスワード］、［権限パスワード］を定型業務ボタンに設定したくない場合は、パスワードを空欄に設定できます。
- コール機能を使って暗号化PDFの設定を呼び出した場合は、必ずパスワードは空欄になります。
- ［文書を開くパスワード］と［権限パスワード］に同じパスワードは設定できません。
- ［文書を開くパスワード］、［権限パスワード］は「＊＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。
- 「権限パスワード」により制限を設定したPDFでも、受信側で使用するソフトウェアによっては、制限の一部が無視される場合があります。

メモ

- PDF を開く、印刷するには Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- PDF の変更、画面とテキストのコピー、抽出を有効にするには、Adobe Acrobat が必要です。
- 電子署名、注釈、ページの挿入、削除、回転などは Adobe Acrobat の機能です。
- ［文書を開くパスワード］、［権限パスワード］は、システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。(→ ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」)

4 ［OK］を押します。

5 ◎（スタート）を押します。

メモ

- 宛先にファクス、I ファクス、ボックスが含まれている場合、送信を中止するメッセージが表示されます。［OK］を押して宛先の確認を行ってください。
- 暗号化 PDF の設定を解除するには、［ファイル形式］→［暗号化する］→［設定取消］を押します。

送信する PDF に電子署名をつける（電子署名をつける）

PDF データに電子署名をつけて送信することができます。

本製品で使用できる電子署名には、以下の 3 種類があります。

■ 機器署名

iR 本体内の機器証明書と鍵ペアを用いて署名を行うことによって、どのデバイスでスキャンされた文書かを受信者に対して証明することができる機能です。受信者側では、署名機器の検証、署名後の変更の有無の検証を行うことができます。

■ ユーザ署名

SDL、SSO、IC カードによる認証と連携し、iR 本体内または IC カード内の証明書と鍵ペアを用いて署名を行うことによって、どのユーザによって署名された文書かを受信者に対して証明することができる機能です。受信者側では、署名ユーザの検証、署名後の変更の有無の検証を行うことができます。

■ タイムスタンプ

タイムスタンプサーバより発行されるタイムスタンプトークン（時刻署名が行われた署名情報のようなもの）を用いてスタンプを行うことによって、PDF データがスタンプされた時刻に存在していたことを受信者に対して証明することができる機能です。受信者側では、タイムスタンプの検証、タイムスタンプ後の変更の有無の検証を行うことができます。

重要

- 電子署名つき PDF 送信を行うことが可能なファイル形式は PDF、PDF（アウトライン）、PDF（高圧縮）、PDF（OCR）などの PDF 系のファイル形式のみで、TIFF、JPEG を選択して電子署名つき PDF 送信を行うことはできません。
- 複数枚の原稿を電子署名つき PDF として送信していた場合、途中で送信エラーとなった場合は、送信先で電子署名つき PDF 送信文書を開くことはできません。

メモ

- 複数の署名方法が選択された場合は、機器署名、ユーザ署名、タイムスタンプの順番で署名をつけることができます。
- 受信者が、複数の署名がつけられた PDF を Adobe Reader/Adobe Acrobat で検証した場合は、一番最後につけられた署名のみ有効となります。それ以外の署名は、他の署名を追加したことによって、変更したものとして扱われます。
- 電子署名つき PDF の設定をしている場合、ファイル形式に［PDF］以外を選択すると、ファイル形式の変更を促すメッセージが表示されます。ファイル形式を変更すると、電子署名つき PDF の設定は解除されます。
- 証明書の信頼方法、信頼済リストへの登録方法など、受信者側での署名の検証方法については、Adobe Reader/Adobe Acrobat の取扱説明書を参照してください。

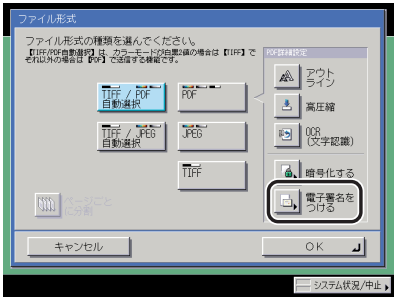
機器署名を設定する場合

メモ
- 機器署名はオプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に使用できる機能です。
- 機器署名をつけた PDF 送信を行うためには、オプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にしたあとにシステム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定から機器署名用の証明書と鍵ペアを生成しておく必要があります。詳しくは、ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」を参照してください。
- 機器署名 PDF の受信者が、機器証明書を信頼するために MD5、SHA-1 のメッセージダイジェスト番号と照合するべき送信者情報は、iR 本体側で確認できる［証明書のぼ印（SHA1）］です。［証明書のぼ印（SHA1）］やその他の機器証明書情報を確認する方法については、「機器署名の証明書を確認する（機器署名の証明書確認）」（→ P.9-27）またはネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークを使用する」を参照してください。
- iR 本体に SDL、SSO、IC カードによる認証が設定され、ユーザのメールアドレスが登録されている場合、機器署名に加えてユーザのメールアドレスが機器署名つき PDF の作成者欄に追加されます。

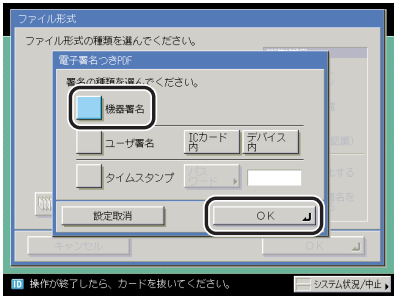
1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、［ファイル形式］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファイル形式の設定をする」（→ P.5-21）の手順 1 を参照してください。

2 ［電子署名をつける］を押します。



3 **[機器署名] → [OK] → [OK] を押します。**



4 **(スタート) を押します。**

ユーザ署名を設定する場合

iR 本体内の署名情報（ユーザ証明書と鍵ペア）を用いる方法と、IC カード内の署名情報を用いる方法があります。IC カードを用いた方法では、署名情報を IC カードから外部へ取り出すことが困難なため、より高いセキュリティを得ることができます。

重要

- IC カードを使用してユーザ署名をつけた PDF を送信する場合は、送信が終了するまで IC カードを抜かないでください。
- IC カードを使用してユーザ署名をつけた PDF を送信する場合は、タイマー送信を設定することはできません。
- 受信したファクス／Iファクス文書をiR機から転送するときには、ユーザ署名をつけたPDF送信を行うことはできません。

メモ

- ユーザ署名全般を利用するためには、以下の条件が必要です。
  - ・オプションのユーザ署名 PDF 拡張キットが有効である
  - ・本機が対応しているユーザごとのユーザ証明書を発行している認証局については、ユーザ署名 PDF 拡張キットに同梱されているお知らせを参照してください。
  - ・ユーザごとのユーザ証明書と鍵ペアが、認証局から発行されている
- iR 本体内の情報を利用して署名するためには、以下の条件が必要です。
  - ・iR 本体に SDL、SSO による認証が設定されている
  - ・ユーザ個人のユーザ証明書が、リモート UI よりインストールされている (→ リモート UI ガイド「第 3 章　使いかたにあわせた設定」)
- IC カード内の情報を利用して署名するためには、以下の条件が必要です。
  - ・IC カード認証機能拡張キットが有効で、iR 本体に IC カードによる認証が設定されている
  - ・ユーザ証明書と鍵ペアが各ログインユーザの IC カードに格納されている (→電子証明書インポートツール ユーザーズガイド)

1 iR 本体に設定されている認証により、ログインします。

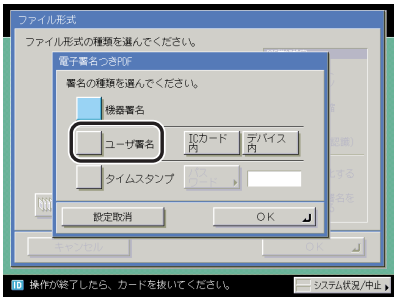
SDL、SSO による認証を設定している場合は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

IC カードによる認証（Single Sign-On IC Card Smart Card）をご利用の場合は、「IC カード認証機能拡張キットユーザーズガイド」を参照してください。

2 原稿をセットして、宛先を指定したあと、[ファイル形式] → [電子署名をつける] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「機器署名を設定する場合」(→ P.5-35）の手順 1、2 を参照してください。

3 [ユーザ署名] を押します。



● **デバイス内の署名情報を使用する場合**

❑ [デバイス内] を押したあと、[OK] を押します。

● **IC カード内の署名情報を使用する場合**

❑ [IC カード内] を押したあと、[OK] を押します。

4 [OK] を押します。

5 (スタート) を押します。

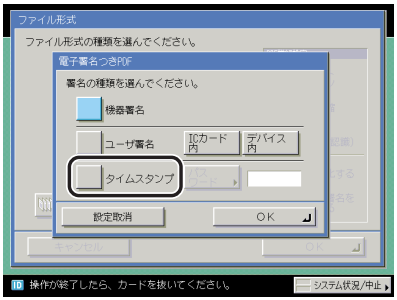
タイムスタンプを設定する場合

メモ
- タイムスタンプは、オプションのタイムスタンプ PDF 拡張キットが有効で、以下の設定が正しく行われている場合に使用できる機能です。
  - ・タイムスタンプ発行機関より発行されたライセンスファイルが、リモート UI からインストールされている（→リモート UI ガイド「第 3 章　使いかたにあわせた設定」）
  - ・システム管理設定 (初期設定／登録) の［ネットワーク設定］で、プロキシサーバの設定、タイムスタンプサーバアドレス、ライセンスファイルのパスワードが設定されている（→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」）
- 本機が対応しているタイムスタンプ発行機関については、タイムスタンプ拡張キットに同梱されているお知らせを参照してください。

1 原稿をセットして、宛先を指定したあと、［ファイル形式］→［電子署名をつける］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「機器署名を設定する場合」（→ P.5-35）の手順 1、2 を参照してください。

2 [タイムスタンプ] を押します。



● タイムスタンプ設定の使用制限が「ON」に設定されている場合

❑ [パスワード] を押してパスワードを入力したあと、[OK] → [OK] → [OK] を押します。

● タイムスタンプ設定の使用制限が「OFF」に設定されている場合

❑ [OK] → [OK] を押します。

重要

- タイムスタンプは送信ファイルごとに課金が行われます。システム管理者は、タイムスタンプ設定の使用制限を「ON」に設定することで使用制限をかけることができます。タイムスタンプ設定については、ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」を参照してください。
- コール機能を使ってタイムスタンプをつけた PDF の設定を呼び出した場合は、必ずパスワードは空欄になります。
- システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で転送設定を登録する場合、タイムスタンプをつけるかどうか選択することができますが、パスワードを設定することはできません。

3 ◎（スタート）を押します。

設定されたモードを呼び出して送信する（コール）

設定されていた３つ前までの宛先、読込設定、送信設定などを呼び出して、送信することができます。

重要

- 宛先、読込設定、送信設定などを設定してから操作部電源スイッチ、◎（節電）、◎（スタート）または ◎（リセット）を押したとき、オートクリア機能が作動したとき、またはオートスリープタイムが経過したときまでが１回の設定内容となります。
- 標準モードは記憶されません。
- すでに記憶されている設定と同じ設定は記憶されません。
- システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理が「ON」に設定されている場合は、コール機能を使用できません。
- システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、新規宛先の制限を「ON」に設定している場合は、コール機能にすでに記憶されている設定が消去されます。

メモ

記憶された３つの設定内容は、主電源を OFF にしても消えません。

1 原稿をセットして、［コール］を押します。

メモ

原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

2 [1 つ前]、[2 つ前] または [3 つ前] を選択して、内容を確認したあと、[OK] を押します。



重要

- 回線を増設している場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の増設回線設定で送信回線の選択が「優先送信」になっている回線に現在登録されているユーザ略称が表示されます。(→ 回線を選択して送信する（送信回線の選択）：P.9-62)
- 回線選択で「自動選択」を選択した場合には、発信人名称で「00」を指定した際に表示されている名称と異なる場合があります。送信で使用された回線に登録されているユーザ略称が、相手先に表示／プリントされます。

メモ

- 呼び出したモードを任意に変更して送信することができます。
- コールに記憶されている宛先が複数あるときは、呼び出したときに宛先リストに表示される宛先の表示順が、設定したときの順番と異なる場合があります。

3 (スタート) を押します。

メモ

プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。(→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17)

6
CHAPTER

文書を受信する

受信についての特徴を説明します。受信した文書は、プリントしたり、あらかじめ指定した宛先に転送したりできます。

さまざまな受信 6-2
受信したときの状態 6-3
手動でファクスを受信する（手動受信） 6-4
ファクス受信の流れ 6-12
受信文書の処理 6-15
メモリ受信を設定する 6-17
受信した文書を転送する 6-17
受信した文書を消去する 6-18
ファクス／Ｉファクスをプリントする用紙について 6-20

さまざまな受信

■ プリントデータの受信

パソコンから本製品に送信されたプリントジョブを受信し、プリントします。

■ I ファクスの受信

I ファクス機能は、電子メールと似ています。インターネット経由でテキストを送受信する代わりに、読み込んだ文書の画像を送受信します。

転送設定をすると受信したIファクス文書を指定した宛先に自動的に転送することができます。転送の設定方法については、「転送の設定をする（転送設定）」（→ P.11-27）を参照してください。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- 受信した I ファクス文書に、本製品で対応していないファイル（画像）が添付されているときは、添付ファイルの処理（プリント、転送、システムボックスに保存）は行わず、ファイルを消去します。ファイルを消去した場合は、消去されたファイルのファイル名と、「画像が形成できません。」というメッセージが I ファクスの本文中にプリントされます。
- 受信した I ファクス文書に、電子メール本文の記載がなく TIFF ファイルのみが添付されていた場合、電子メールの発信人名称と件名（それぞれ最大 24 文字）をヘッダーとして TIFF 画像の先頭にプリントします。

■ ファクスの受信

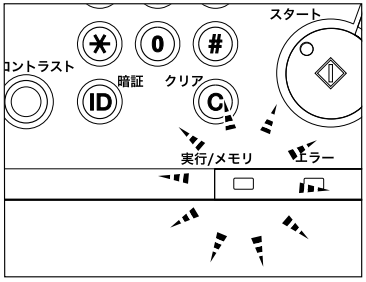
ファクス機能は、スーパー G3 ファクスに対応しています。

受信したファクス文書を指定した宛先に自動的に転送することができます。転送の設定方法については、「転送の設定をする（転送設定）」（→ P.11-27）を参照してください。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- NTT のサービスのナンバーディスプレイに加入した回線に本製品を接続してファクスの自動受信を行う場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のナンバーディスプレイ着信受付を「ON」にしてください。ただし、ナンバーディスプレイの機能には対応していません。（→ ナンバーディスプレイ着信受付の設定をする（ナンバーディスプレイ着信受付）：P.9-58）

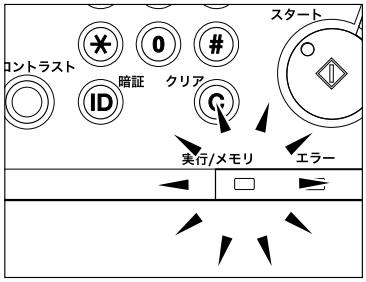
受信したときの状態

1 受信を開始すると、操作パネルの実行／メモリランプが点滅します。



メモ　受信中は、受信文書の受付番号や相手の情報などが画面に表示されます。

2 受信が終了すると、操作パネルの実行／メモリランプが点灯して、メモリ内に文書があることを示します。



メモ
- 本製品がスリープ状態のときでも、実行／メモリランプは点灯、点滅します。
- メモリ残量が少なくなった場合や、カセットの用紙がなくなった場合は、エラーランプが点滅します。

3 用紙に文書がプリントされます。

メモリ内の文書がプリントされると実行／メモリランプは消灯します。

メモ
- プリントできる用紙がない場合、受信文書はメモリに保存されます。
- メモリには送受信あわせて約 6000 枚の原稿が記憶できます。
- 用紙がなくなり、いったんメモリに保存された受信文書は、カセットに用紙を補給するとプリントされます。
- プリントエラーが起きると、エラーランプが点滅します。

手動でファクスを受信する（手動受信）

ファクスの受信モードには、自動受信と手動受信があります。自動受信はファクス文書を受信するのに特に操作を必要としませんが、手動受信は以下の受信の手順を行ってください。

電話機を使って手動受信する（リモート受信）

手動受信設定時や FAX/TEL 切替設定時の電話呼出時に電話機の受話器を取った場合は、以下のリモート受信の操作をしてください。

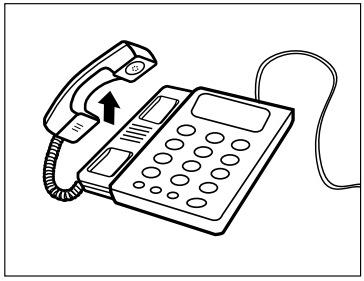
重要

- 電話機を接続している場合は、発信時のリモート受信はできません。
- リモート受信を行う場合は、あらかじめ送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の受信機能設定のリモート受信の設定を「ON」にしておく必要があります。(→ リモート受信の設定をする（リモート受信）：P.9-56)

メモ

- この機能は次のものを装着している場合に使用することができます。
  - ・オプションの FAX ボードを装着している。
  - ・電話機を接続している。
- 一定時間呼び出しても、電話機の受話器がとられないときは、通常は通信は終了してしまいますが、自動受信モードに切り替わってファクスを受信するように設定することもできます。(→ 自動受信切替を設定する（自動受信切替）：P.9-57)
- 呼び出し音は通常は 15 秒間鳴り続けますが、鳴り続ける長さを変更することができます。(→ 自動受信切替を設定する（自動受信切替）：P.9-57)

1 **呼び出し音が鳴ったら、電話機の受話器を取ります。相手の声が聞こえたら通話してください。**



2 **「ポーポー」のような信号音が聞こえたり、通話のあとにファクスを受信するときは、受信するために ID を入力します。プッシュ回線の場合は、そのまま「2」「5」を押してください。ダイヤル回線の場合は、トーン信号を発信する操作を行ってから「2」「5」を押してください。**

ファクス文書の受信を開始します。

重要　ダイヤル回線の場合、トーン信号が発信できない電話機ではリモート受信はできません。

メモ　リモート受信の ID 番号は変更することができます。(→ リモート受信の設定をする（リモート受信）：P.9-56)

3 **電話機の受話器を元に戻します。**

電話をかけてからファクスを受信する

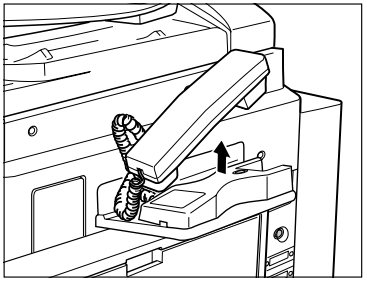
ハンドセット・G2 を本製品に装着している場合は、以下の手動受信の操作を行ってください。

メモ
- この機能は次のものを装着している場合に使用することができます。
  ・オプションの FAX ボードを装着している。
  ・オプションのハンドセット・G2 を装着している。
- マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。

1 電話をかける操作を行います。

● ハンドセット・G2 を使用する場合

❑ ハンドセット・G2 を上げます。

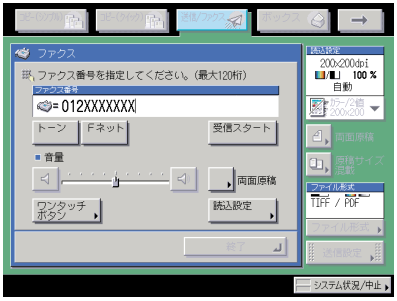


❑ ［新規宛先］→［ファクス］を押します。



メモ ［ファクス］を押さずに⓪～⑨、⊛、⊞（テンキー）を押すと、次の手順の画面が表示され、ファクス番号を入力することができます。

❑ 相手先の電話番号またはファクス番号を入力します。



重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

❑ 相手の声や、「ポーポー」という信号音を確認します。

内線番号などを続けてダイヤルすることができます。

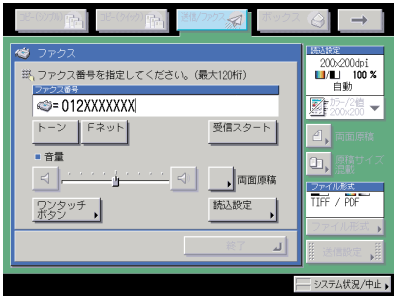
相手の声が聞こえたら通話することができます。相手にファクスを送信するよう伝えてください。

メモ
- 相手先が応答しない場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。待機状態に戻ります。
- 手動受信を中止したい場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。手動受信が中止されます。

● **オンフックを使用する場合**

❑ ［新規宛先］→［ファクス］→［オンフック］を押します。

❑ 相手先の電話番号またはファクス番号を入力します。



重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

❑ 相手の声や、「ポーポー」という信号音を確認します。

音量を調節する場合は、［🔈］［🔊］を押します。

内線番号などを続けてダイヤルすることができます。

［ワンタッチボタン］を押した場合は、目的のワンタッチボタンを選択したあと、［OK］を押します。



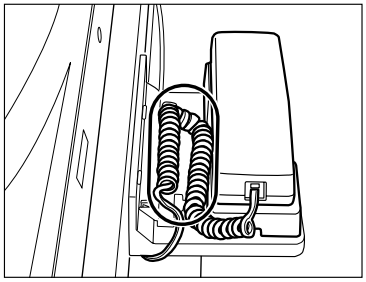
ワンタッチボタンには、3 桁のワンタッチボタン番号が割り当てられています。ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、[短縮]（短縮）を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を⓪～⑨（テンキー）で入力してください。

重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

メモ
- ワンタッチボタンの詳細については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」（→P.2-28）を参照してください。
- 手動受信を中止したい場合は、［終了］を押してください。手動受信が中止されます。

2 ［受信スタート］を押します。

ハンドセット・G2 を上げていた場合は、コードを正しい位置にしてハンドセット・G2 を戻します。



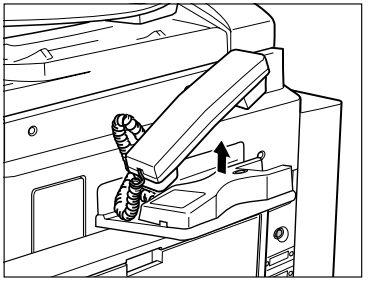
受信が開始されます。

メモ　ハンドセット・G2 をきちんと戻しておかないと、受信終了後に「ピロピロピロ･･･」という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音は鳴らないようにも設定できます。（→ オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）：P.9-46）

1 呼び出し音が鳴ったら、電話を受ける操作を行います。

● ハンドセット・G2 を使用する場合

❑ ハンドセット・G2 を上げます。



❑ [新規宛先] → [ファクス] を押します。



❑ 相手の声や、「ポーポー」という信号音を確認します。

相手の声が聞こえたら通話することができます。相手にファクスを送信するよう伝えてください。

メモ
- 相手先が応答しない場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。待機状態に戻ります。
- 手動受信を中止したい場合は、ハンドセット・G2 を戻してください。手動受信が中止されます。
- ハンドセットの呼び出し音量は、呼び出し音量スイッチで調節することができます。

● オンフックを使用する場合

❑ [新規宛先] → [ファクス] → [オンフック] を押します。

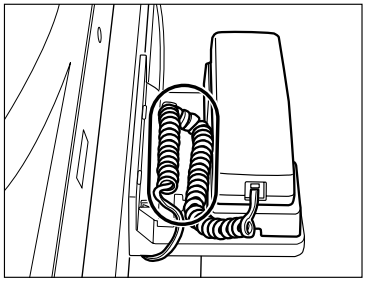
❑ 相手の声や、「ポーポー」という信号音を確認します。

音量を調節する場合は、[◀] [▶] を押します。

メモ 手動受信を中止したい場合は、[終了] を押してください。手動受信が中止されます。

2 ［受信スタート］を押します。

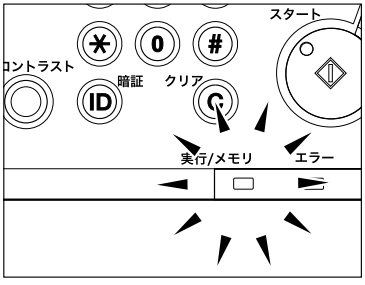
ハンドセット・G2 を上げていた場合は、コードを正しい位置にしてハンドセット・G2 を戻します。



受信が開始されます。

メモ　ハンドセット・G2 をきちんと戻しておかないと、受信終了後に「ピロピロピロ･･･」という警告音（オフフックアラーム）が鳴ります。警告音は鳴らないようにも設定できます。（→ オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）：P.9-46）

3 着信を開始すると、操作パネルの実行／メモリランプが点滅します。

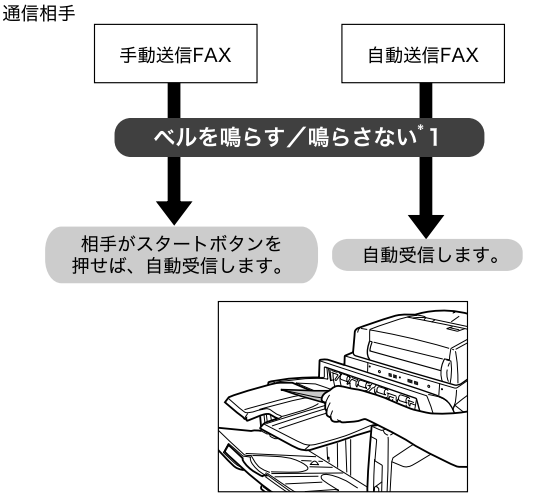


受信モードが鳴動着信になっている場合は、呼出音が鳴ります。

ファクス受信の流れ

ファクス文書を受信するには次のようになります。

■［受信モード選択］で［自動受信］を設定した場合（→ P.9-53）

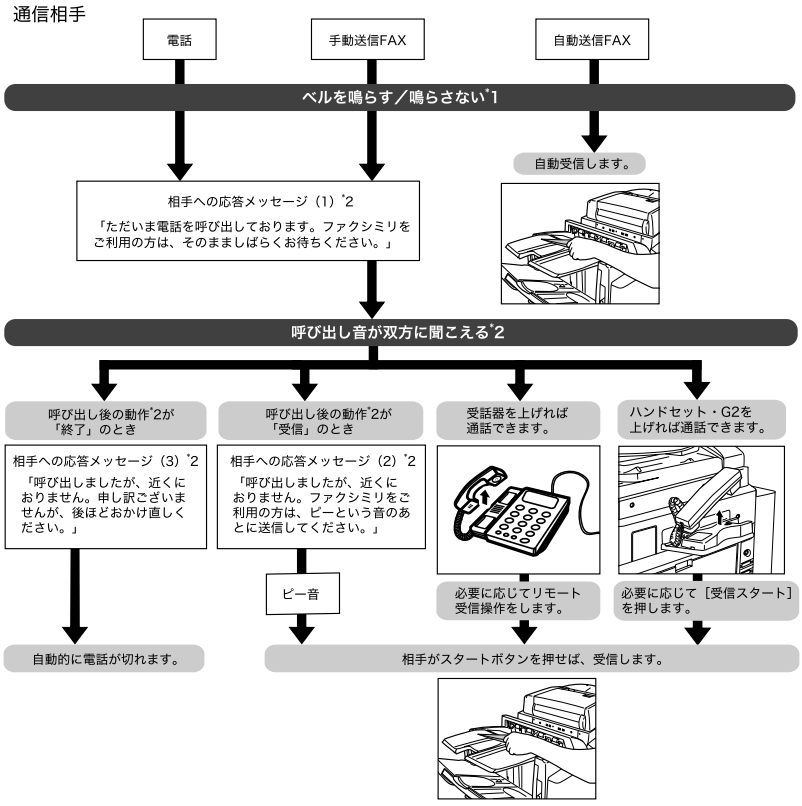


［自動受信］の場合

*1 初期設定／登録の［着信呼出］で設定できます。（→ 着信時の呼び出し音を設定する（着信呼出）：P.9-55）

メモ
- マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。
- ファクスの受信ジョブ状況画面で［自動受信］を選択する必要があります。（→ ファクス受信モードを設定する：P.8-11）

■［受信モード選択］で［FAX/TEL 切替］を設定した場合（→ P.9-53）



［FAX/TEL 切替］の場合

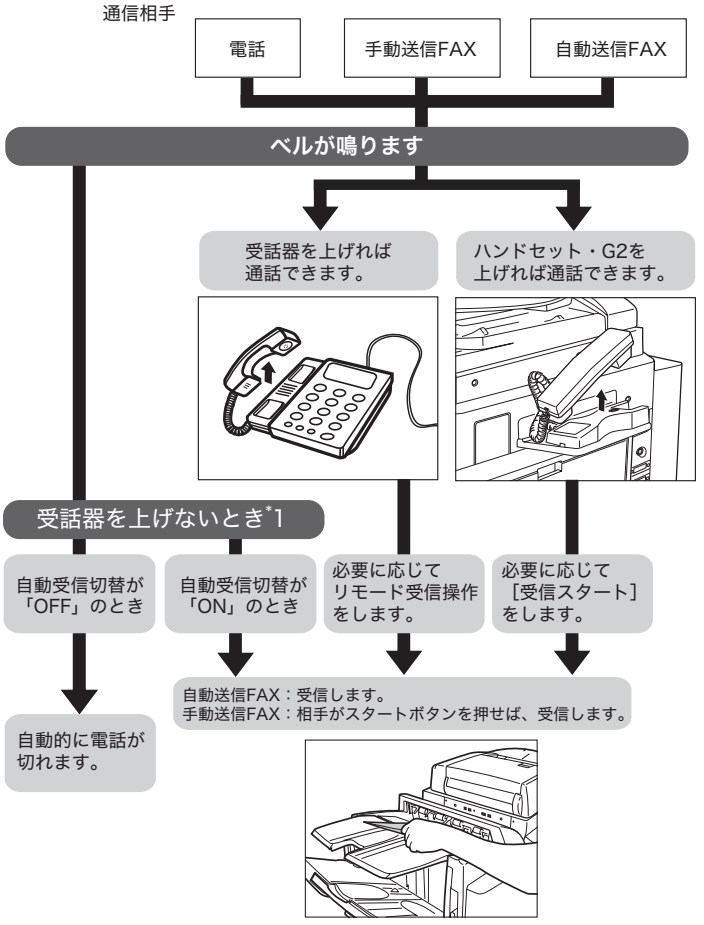
*1 初期設定／登録の［着信呼出］で設定できます。（→ 着信時の呼び出し音を設定する（着信呼出）：P.9-55）

*2 呼出開始時間、呼出時間、音声応答の ON/OFF は初期設定／登録の［受信モード選択］で設定できます。（→ 受信モードを選択する（受信モード選択）：P.9-53）

重要 回線 1（標準回線）でのみ使用できます。

メモ
- ファクスの受信ジョブ状況画面で［自動受信］を選択する必要があります。（→ ファクス受信モードを設定する：P.8-11）
- 電話機とハンドセット・G2 を同時に装着することはできますが、同時に使用することはできません。先に使用されたものが、優先となります。

■［手動受信］を設定した場合



［手動受信］の場合

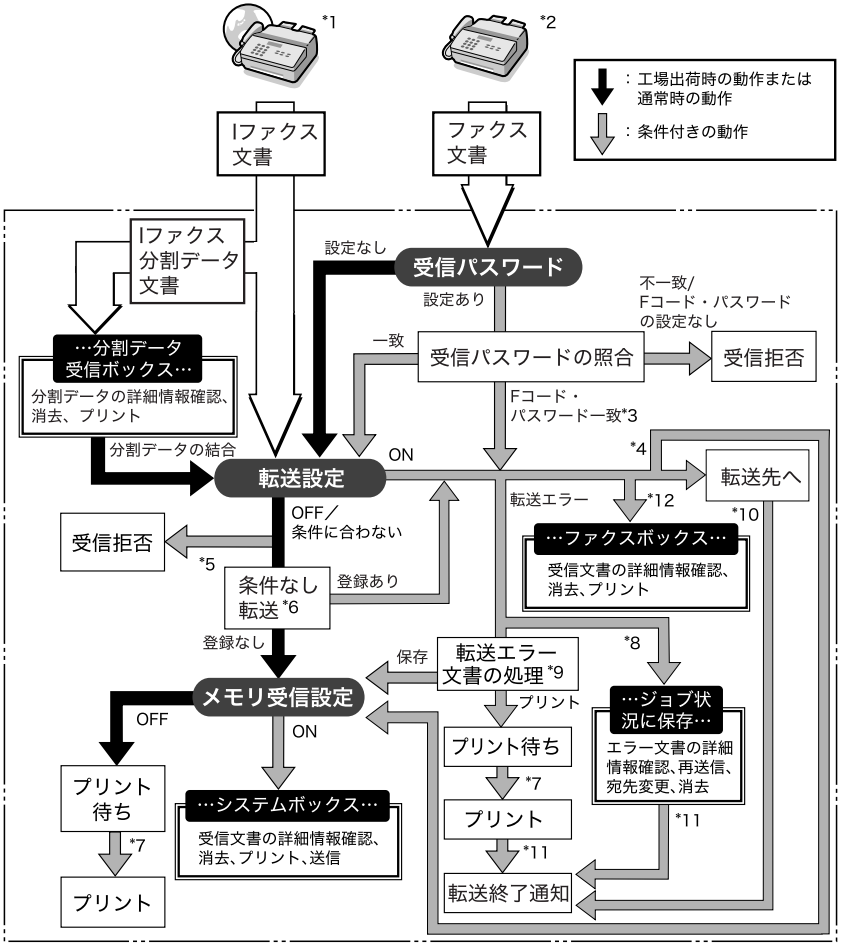
*1 受話器を上げないときの動作、その動作までの時間は初期設定／登録の［自動受信切替］で設定できます。(→ 自動受信切替を設定する（自動受信切替）：P.9-57)

重要 回線 1（標準回線）でのみ使用できます。

メモ
- ファクスの受信ジョブ状況画面で［手動受信］を選択する必要があります。(→ ファクス受信モードを設定する：P.8-11)
- 電話機とハンドセット・G2 を同時に装着することはできますが、同時に使用することはできません。先に使用されたものが、優先となります。

受信文書の処理

受信したファクス／Iファクス文書は以下のように処理されます。



*1 オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、受信した I ファクス文書を転送することができます。

*2 オプションの FAX ボードを装着している場合は、受信したファクス文書を転送することができます。

*3 F コード・パスワードが転送設定の条件に一致すれば、受信パスワードの設定にかかわらず転送します。

*4 システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で受信文書の保存／プリントを「ON」に設定した場合、転送した文書はプリントされるか、システムボックスに保存されます。

*5 相手機から指定された F コードやパスワードが、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で登録した転送条件に一致しない場合は、文書は受信拒否されます。

*6 システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で条件なし転送の登録を設定した場合は、ほかのすべての転送条件に一致しなかった文書は、条件なし転送に登録した宛先へ転送されます。

*7 紙づまりや用紙切れ、トナー切れのときに受信した文書は、紙づまりの処理、用紙の補給またはトナーの補給後プリントされます。

*8 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のエラー文書クリアを「OFF」に設定した場合は、転送エラーになったジョブはシステム状況画面のジョブ状況に保存されます。

*9 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の転送エラー文書の処理の設定によって、転送エラーになった文書は次のように処理されます。
・[常にプリント]：転送エラー文書をプリントします。
・[保存 / プリント]：メモリ受信が「ON」になっているときは転送エラー文書をシステムボックスに保存します。「OFF」になっているときはプリントします。

*10 オプションの Send 拡張キットを有効にしていて、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で、転送終了通知を「ON」に設定した場合、文書の転送が終了すると電子メールで転送終了が通知されます。

*11 オプションの Send 拡張キットを有効にしていて、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で、転送終了通知を「ON」に設定した場合、文書の転送が終了すると電子メールで転送終了が通知されます。さらに、エラー時のみ通知を「ON」に設定した場合は、文書の転送が失敗した場合のみ、電子メールで転送失敗の旨を通知します。

*12 転送先にファクスボックスを指定することで、受信したファクス／I ファクス文書をファクスボックスに保存しておくことができます。

メモ
- メモリがいっぱいの場合は、追加のジョブを一切処理できません。
- 以下の項目については該当する項目を参照してください。
  - システムボックス、ファクスのメモリ受信、I ファクスのメモリ受信（→ ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14、I ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14）
  - ファクスボックス、転送設定（→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27）

メモリ受信を設定する

受信したファクス／I ファクス文書をプリントせずにシステムボックスに保存するように設定できます（メモリ受信）。文書はシステムボックスで確認したあと、プリント／送信することができます。

ファクスメモリ受信、I ファクスメモリ受信を「ON」に設定したあと、システムボックスのファクスメモリ受信、I ファクスメモリ受信を必要に応じて設定します。受信した文書はプリントされずに本製品のシステムボックス内に蓄積されます。(→ コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」)

重要　以下のような場合には、メモリ受信をすることができません。(ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。)

・ボックス全体に、1500 件の文書または画像が保存されているとき

・ボックス全体に、約 6000 ページの文書または画像が保存されているとき

メモ　メモリ受信をする場合、あらかじめシステム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定で「ファクスメモリ受信を使用」「I ファクスメモリ受信を使用」を「ON」に設定しておきます。(→ ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14、I ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14)

受信した文書を転送する

転送の設定をすると、受信した文書が転送条件と一致したときはあらかじめ登録されている相手先に転送されます。転送条件や転送先は、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で登録します。(→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27)

メモ　転送を設定する場合、あらかじめシステム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で［条件の ON/OFF］を「ON」に設定しておきます。(→ 転送の設定をする (転送設定) : P.11-27)

受信した文書を消去する

システムボックスやファクスボックスに保存されている受信文書を消去します。メモリがいっぱいになると送受信することができなくなります。受信できなくなる前に、必要のない文書を消去することをおすすめします。

メモ　メモリがいっぱいになるのは以下のような場合です。（ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。）

・ボックス全体に、1500 件の文書または画像が保存されているとき

・ボックス全体に、約 6000 ページの文書または画像が保存されているとき

1 ［ボックス］を押したあと、［システムボックス］または［ファクスボックス］を押します。

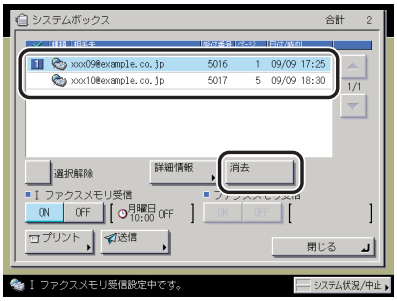


選択する項目

［システムボックス］：メモリ受信文書を選択するときに選択します。

［ファクスボックス］：受信した文書の転送先がボックスのときに選択します。

2 目的のボックスを選択して、消去する文書を選択したあと、[消去] を押します。



ここでは、システムボックスの「メモリ受信ボックス」を選択しています。

複数の文書を消去するときは、1 つずつ選択して消去してください。

メモ
- 選択した文書は、もう一度押すと選択を解除することができます。
- 文書が保存されているボックスは、文書入りのボックスアイコン（）が表示されます。
- 暗証番号が設定されているボックスには、ボックスアイコンの横にカギマーク（）が表示されます。
- ファクスボックスを選択するときにボックス番号を間違って押した場合は、[閉じる] を押して正しいボックス番号を押します。

3 [はい] を押します。

4 [閉じる] を押します。

5 [送信 / ファクス] を押します。

ファクス／Ｉファクスをプリントする用紙について

受信文書は、ペーパーデッキやカセットにセットされている用紙の中から、同じサイズの用紙にプリントされます。受信文書と同じサイズの用紙がセットされていない場合は、下記のように用紙が選択されます（初期設定／登録のカセット選択がすべて「ON」の場合）。プリントの途中で用紙切れになったときも、同様に選択されます。

■ 受信文書の用紙サイズ

A3 文書を受信したとき	A3 → B4* → A4* → A4R*
B4 文書を受信したとき	B4 → A3 → A4* → A4R* → B5 × 3 → B5R × 3
A4 文書を受信したとき	A4 → A4R → B4 → A3 → A5R × 3 → B5 × 2 → B5R × 2
B5 文書を受信したとき	B5 → B5R → A4 → A4R → B4 → A3
A5 文書を受信したとき	A5R → A4 → A4R → B5 → B5R → B4 → A3

* は自動的に縮小してプリントされます。

重要 受信文書をプリントすることができる用紙は、次のとおりです。

・用紙サイズ：A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R

・用紙の種類：用紙の種類：普通紙、再生紙、色紙、ユーザ定義の用紙（坪量：64　～105g/m^2、特徴：ノーマル、表面性：上質紙または再生紙の設定の用紙）

メモ

- ペーパーデッキやカセットごとにファクス／Ｉファクス機能に使用する、しないを設定できます。工場出荷時は、手差し以外のすべての給紙段で「ON」（ファクス／Ｉファクス機能に使用する）に設定されています。（→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」）
- 受信文書のサイズが選択可能な用紙のサイズより大きい場合、75 %～97 %（1 %きざみ）の倍率で縮小してプリントするように設定できます。（→ 受信文書を縮小してプリントする（画像縮小）：P.9-40）
- 記録紙の選択順序を変更することができます。（→ 受信文書のプリント方法を設定する（カセット選択）：P.9-38）
- 受信文書を用紙の両面にプリントすることができます。（→ 受信文書を両面プリントする（両面記録）：P.9-37）
- 受信文書はプリントした面をウラ向きにして排紙され、受信した順番に並びます。

7 CHAPTER

便利なファクス機能の使いかた

知っておくと便利なファクス機能の使いかたについて説明しています。

Fコードを使って通信する（Fコード） 7-2

Fネットを利用する 7-4

Fネットのおもなサービス 7-4

Fネットで同報通信する 7-5

プッシュホンサービスを利用する 7-7

F コードを使って通信する（F コード）

送信先のファクス機が ITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）規格に準拠した F コード通信に対応している場合は、F コードを利用して安全に文書を送信／受信することができます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 原稿をセットして、[新規宛先] → [ファクス] を押したあと、ファクス番号を入力します。



表示される項目

[ポーズ]：　海外への送信のときに、国際電話識別番号などの次や、ファクス番号の末尾で押します。数字と数字の間で［ポーズ］を押すと「p」と表示され、数字の末尾で［ポーズ］を押すと「P」と表示されます。(→ ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）：P.9-48)

[トーン]：　ダイヤル回線から、プッシュ信号を入力する前に押します。［トーン］を押すと、「T」と表示されます。ダイヤル回線に接続している場合でも、プッシュホンサービスなどを利用することができます。(→ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7)

[◀] [▶]：　カーソルを移動するときに押します。

[バックスペース]：　数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が消去されて、正しい数字が入力できます。

[F ネット]：　F ネットのファクス番号を入力するときに押します。［F ネット］を押すと、「.」と表示されます。(→ F ネットを利用する：P.7-4)

[ダイレクト]：　ダイレクト送信をするときに押します。ダイレクト送信を設定しないときはメモリ送信になります。(→ ダイレクト送信：P.5-3)

[次宛先]：　⓪～⑨（テンキー）で宛先を指定したあとに、続けて別の宛先を指定するときに押します。

［詳細設定］：　マルチポート FAX ボード装着時に表示されます。F コードやパスワードの設定および回線の種類を選択するときに押します。

［F コード］：　スーパー G3FAX ボード装着時に表示されます。F コードやパスワードを設定するときに押します。必要に応じて設定してください。

［オンフック］：　プッシュホンサービスを利用するときに押します。（→ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7）

重要　ポーズ、F ネットをファクス番号の先頭に入力することはできません。

メモ
- 原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。
- ファクス番号の末尾にポーズを入れた場合は、ポーズ時間は 10 秒固定になります。

2 ［F コード］を押します。

回線を増設したときは、［詳細設定］を押します。

3 ［F コード］、［パスワード］を押して、0〜9、*、#（テンキー）で入力したあと、［OK］を押します。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

スペースを入力するときは［スペース］を押します。

［バックスペース］を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

4 （スタート）を押します。

メモ　プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）

F ネットを利用する

F ネットとは、NTT コミュニケーションズのファクシミリ通信網サービス（有料）のことです。F ネットを使って、各種サービスを利用することができます。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- F ネットを利用するには、NTT コミュニケーションズとの契約が必要です。詳しくは NTT コミュニケーションズにお問い合わせください。
- F ネットを利用する場合は、[スリープ時の消費電力] を [多い] に設定してください。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)
- NTT コミュニケーションズと F ネットの利用契約をされる際、「G3 の 1300 Hz」または「G3 の 16 Hz」で契約してください。1300 Hz で契約された場合、NTT コミュニケーションズの「無鳴動着信」機能が利用できます。その他のサービスは、16 Hz の場合と同じです。

F ネットのおもなサービス

F ネットのおもなサービスは以下のとおりです。

自動受信	呼び出し音は鳴らずに自動受信します。
発信元記録	送信したとき、相手の記録紙に送信日時や発信者ファクス番号などが自動的に記載されます。
再コール	相手が話し中のときなど、自動的にかけなおします。
送達通知	送信の結果が通知されます。
不達通知	原稿を送信できなかったとき、不達通知が送られてきます。
短縮ダイヤル	NTT コミュニケーションズに登録した短縮ダイヤルで、簡単にダイヤルできます。
同報通信	1 回の操作で複数の相手に送信します。
親展通信	暗証番号で特定の相手と通信します。
閉域接続	特定のグループ内だけで通信します。
ファクシミリボックス	本製品を使用中でも NTT コミュニケーションズ内のボックスでいったん受信します。
案内サービスの利用	各種の情報サービスが利用できます。

F ネットで同報通信する

F ネットを利用する例として、ファクス番号が「031XXXXXXX」と「033XXXXXXX」の相手に同報通信する場合の説明をします。

1 原稿をセットして、[新規宛先] → [ファクス] を押したあと、「162」を押します。

メモ　原稿をセットする方法は、ユーザーズガイド「第 2 章　おもな機能と基本的な使いかた」を参照してください。

2 [F ネット] を押します。



F ネットがつながりにくい場合は、「162」のあとに［ポーズ］を押してください。

ダイヤル回線に接続している場合は、さらに［トーン］を押してください。

3 同報通信のサービスコード（# 213）を入力します。

4 ⓪～⑨、⑧、⑧（テンキー）で送信する相手先のファクス番号「031XXXXXXX」、「＊」、「033XXXXXXX」、「＃」を入力します。

メモ
- Fネットのファクス番号を宛先表やワンタッチボタン、定型業務ボタンに登録しておくと便利です。
- 宛先表を使った宛先の指定については、「宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）」（→P.2-26）を参照してください。
- ワンタッチボタンを使った宛先の指定については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」（→P.2-28）を参照してください。
- 定型業務ボタンを使った宛先と設定内容の指定については、「定型業務ボタンを使って宛先と設定内容を指定する（定型業務ボタン）」（→P.2-29）を参照してください。

5 ◇（スタート）を押します。

メモ
プレビュー表示を「ON」にしている場合は、送信する前に画像を確認することができます。（→ 原稿をプレビューする（プレビュー表示）：P.5-17）

プッシュホンサービスを利用する

ダイヤル回線で本製品のファクス機能を使用している場合でも、簡単にプッシュホンサービスを利用することができます。銀行の残高照会、電車や飛行機の予約など、いろいろなプッシュホンサービスが利用できます。

重要 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- プッシュホンサービスを利用する場合は、宛先表やコールを利用することはできません。
- ハンドセット・G2 を使ってプッシュホンサービスを利用することもできます。

1 ［新規宛先］→［ファクス］を押します。

2 [オンフック] を押したあと、⓪～⑨(テンキー) で相手先のファクス番号を入力します。



重要 オプションのカードリーダ - C1 を装着している場合は、[オンフック] を押して通話状態にしているときにコントロールカードを抜き取ると、回線が切断されます。

●[ワンタッチボタン] を押した場合

❑ 目的のワンタッチボタンを選択します。

ワンタッチボタンには、3 桁のワンタッチボタン番号が割り当てられています。ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、(短縮) を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を⓪～⑨(テンキー) で入力します。

❑ [OK] を押します。

メモ ワンタッチボタンの詳細については、「ワンタッチボタンを使って宛先を指定する（ワンタッチボタン）」(→P.2-28) を参照してください。

3 相手が出たら、[トーン] を押します。

本線をトーン回線（プッシュ回線）で使用しているときは、この操作は必要ありません。

音量を調節する場合は、[🔈] [🔊] を押します。

4 プッシュホンサービスの内容に合わせて、⓪～⑨、✱、#(テンキー) を押します。

メモ サービスの内容や、⓪～⑨、✱、#(テンキー) で操作する番号については、サービスを提供している業者に確認してください。

5 受信状態にする必要のあるときは、[受信スタート] を押します。

受信状態を終了する場合は、[終了] を押します。

送信／受信状況の確認と変更

8 CHAPTER

送信ジョブや受信ジョブの確認や変更などのしかたについて説明しています。

送信ジョブの状況を確認／変更する 8-2
送信ジョブの詳細情報を確認する 8-3
宛先を変更する 8-5
送信ジョブを再送信する 8-7
送信ジョブの状況／履歴をプリントする 8-8
ファクスジョブの状況を確認／変更する 8-9
ファクスジョブの詳細情報を確認する 8-10
ファクス受信モードを設定する 8-11
ファクス通信管理レポートをプリントする 8-12
受信ジョブや転送ジョブの状況を確認する 8-13
受信ジョブの詳細情報を確認する 8-13
受信ジョブ履歴をプリントする 8-14
受信ジョブを確認する 8-15
転送ジョブの詳細情報を確認する 8-16

送信ジョブの状況を確認／変更する

送信ジョブの状況の確認や変更について説明します。ジョブ状況画面については、ユーザーズガイド「第 5 章　いろいろなジョブの操作とデバイス状況の確認」を参照してください。

メモ

- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示を「OFF」に設定している場合、システム状況画面の送信の［ジョブ履歴］は表示されません。
- オプションのSend拡張キットを有効にした場合は、電子メールやIファクス、ファイルサーバへの送信ジョブが確認／変更できます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスジョブが確認／変更できます。
- 送信ジョブ状況画面には 120 件のジョブが表示されます。
- 送信ジョブ履歴画面には受信ジョブ履歴とあわせて 100 件のジョブが表示されます。

送信ジョブの詳細情報を確認する

送信ジョブの受付日時や宛先などの、詳細情報を確認できます。

1 [システム状況 / 中止] を押します。



2 [送信] → [ジョブ状況] または [ジョブ履歴] を押します。



3 詳細を表示するジョブを選択したあと、[詳細情報]を押します。

重要 ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバからの送信ジョブは、ジョブ状況が表示されないので確認することはできません。ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバからの送信ジョブについては、[ファクス]の送信ジョブ状況画面で確認してください。

メモ
- 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）でエラー文書クリアを「OFF」に設定している場合、複数の宛先を指定したジョブのうち、正常終了した宛先の状況は「終了」と表示され、エラーが発生した宛先の状況は「エラー」と表示されます。同時に指定していた宛先のいずれかを選択して中止するか、エラー宛先や未通信宛先が再送信により正常に通信が終了すると、すべての宛先に対するジョブはジョブ履歴に移行します。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、Full モードに対応していない機器に Full モードで I ファクスを送信すると、送達確認を行うことができません。そのため、送信自体は完了していてもジョブは終了しません。このようなジョブは、システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定で設定した Full モードの送信タイムアウトが経過するまで、「送信結果待ち」と表示されます。Full モードの送信タイムアウトが経過すると、ジョブ履歴に移行します。送信結果は「--」と表示されます。

● ジョブ状況画面で、宛先が 1 箇所のジョブを選択した場合

❑ 詳細情報を確認します。

宛先を変更する場合は、[宛先変更]を押します。(→ 宛先を変更する：P.8-5)

ジョブを再送信する場合は、[再送信]を押します。(→ 送信ジョブを再送信する：P.8-7)

● ジョブ状況画面で、宛先が複数あるジョブを選択した場合

❑ 詳細情報を確認します。

❑ [同報リスト]を押します。

❑ 各宛先の状況を確認します。

宛先を変更する場合は、[宛先変更]を押します。(→ 宛先を変更する：P.8-5)

ジョブを再送信する場合は、[再送信]を押します。(→ 送信ジョブを再送信する：P.8-7)

● ジョブ履歴画面の場合

❑ 詳細情報を確認します。

宛先を変更する

システム状況画面で、ジョブの宛先を変更することができます。

重要

- 宛先を変更できるのはタイマー送信を設定した送信待ちのジョブまたは、エラーが発生して送信が中止されたジョブのみです。
- 送信エラーが発生したジョブの宛先を変更するには、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）でエラー文書クリアの設定を「OFF」にしておきます。(→ エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア）：P.9-11)
- 一度に複数の宛先を変更することはできません。また、グループ内の送信先も一度に変更することはできません。
- 変更しようとしている宛先と同じ受付番号のジョブが 1 つでも送信中または送信待ち（ただし、タイマー送信は除く）の場合は、変更することはできません。
- ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバからの送信ジョブは、ジョブ状況が表示されないので宛先を変更することはできません。
- システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、新規宛先の制限をどれか 1 つでも「ON」に設定している場合は、宛先を変更することはできません。

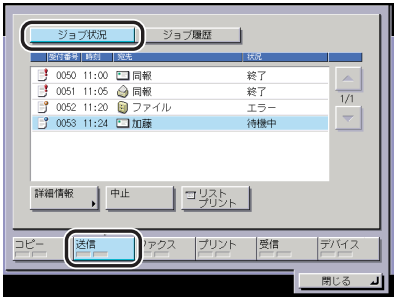
メモ

- 宛先の種類を変更することはできません。例えば、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に電子メールで送るジョブを I ファクスで送るように変更することはできません。また、オプションの FAX ボード装着時にファクスで送るジョブをボックスに保管するように変更することはできません。
- 文書をボックスに保管する場合、保管先のボックスを変更することはできません。

1 [システム状況 / 中止] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1 を参照してください。

2 [送信] → [ジョブ状況] を押します。



3 変更するジョブを選択したあと、[詳細情報] を押します。

4 変更する宛先を選択します。

● 宛先が 1 箇所の場合

❑ ［宛先変更］を押します。

● 同じ送信手段の宛先が複数ある場合

❑ ［同報リスト］を押します。

❑ 変更する宛先を選択したあと、［宛先変更］を押します。

5 宛先を変更します。

変更できる宛先と、その内容は以下のとおりです。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合

- 電子メール： 電子メールアドレス
- I ファクス： I ファクスアドレス、モード選択、サーバ経由の ON/OFF
- ファイル： ホスト名、フォルダへのパス、ユーザ名、パスワード

オプションの FAX ボードを装着している場合

- ファクス： ファクス番号

6 ［OK］を押します。

送信ジョブを再送信する

エラーが発生して送信できなかった文書を再送信します。

重要
- 送信エラーが発生したジョブを再送信するには、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）でエラー文書クリアの設定を「OFF」にしておきます。(→ エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア）：P.9-11)
- ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバからの送信ジョブは、ジョブ状況が表示されないので再送信することはできません。

1 ［システム状況 / 中止］→［送信］→［ジョブ状況］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「宛先を変更する」(→ P.8-5) の手順 1、2 を参照してください。

2 再送信するジョブを選択したあと、［詳細情報］を押します。

3 再送信する宛先を選択します。

● 宛先が 1 箇所の場合

❑ ［再送信］を押します。

● 同じ送信手段の宛先が複数ある場合

❑ ［同報リスト］を押します。

❑ 再送信する宛先を選択したあと、［再送信］を押します。

メモ 送信中のジョブ、待機中のジョブがある場合は、送信待機状態になります。

送信ジョブの状況／履歴をプリントする

1 [システム状況 / 中止] → [送信] → [ジョブ状況] または [ジョブ履歴] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1、2 を参照してください。

選択する項目

[ジョブ状況]：送信ジョブリストをプリントする場合はジョブ状況画面を表示させます。

[ジョブ履歴]：通信管理レポートをプリントする場合はジョブ履歴画面を表示させます。

2 [リストプリント] を押します。

重要 ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバからの送信ジョブは、ジョブ状況が表示されないのでリストプリントすることはできません。

メモ
- リストの左端に表示されるアイコンは以下の状況を示しています。
  - ・通信管理レポートでプリント済みのジョブ
  - ・通信管理レポートでプリントされていないジョブ
- 共通仕様設定 (初期設定／登録) の、カセットオート選択の ON/OFF の [その他] で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

3 [はい] を押します。

ファクスジョブの状況を確認／変更する

ファクスジョブの状況の確認や変更について説明します。ジョブ状況画面については、ユーザーズガイド「第５章　いろいろなジョブの操作とデバイス状況の確認」を参照してください。

メモ

- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示を「OFF」に設定している場合、システム状況画面のファクスの［ジョブ履歴］は表示されません。
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- 表示されるジョブ数は以下のようになります。

・送信ジョブ状況画面：64 件

・受信ジョブ状況画面：スーパー G3FAX ボード装着時：　1 件
マルチポート FAX ボード装着時：2 件

・ジョブ履歴画面：　100 件

ファクスジョブの詳細情報を確認する

ファクスジョブの受付日時やページ数などの、詳細情報を確認できます。

1 [システム状況 / 中止] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1 を参照してください。

2 [ファクス] → [送信ジョブ状況]、[受信ジョブ状況]、または [ジョブ履歴] を押します。



● [送信ジョブ状況] を選択した場合

❑ 詳細を表示するジョブを選択したあと、[詳細情報] を押します。

● [受信ジョブ状況] を選択した場合

❑ [詳細情報] を押します。

メモ　マルチポートFAXボードの場合は、2件のファクス受信ジョブを確認することができます。

● [ジョブ履歴] を選択した場合

❑ 詳細を表示するジョブを選択したあと、[詳細情報] を押します。

3 詳細情報を確認します。

[送信ジョブ状況] を選択して相手先が複数ある場合は、[同報リスト] が表示されます。[同報リスト] を押して宛先、状況を確認することができます。

ファクス受信モードを設定する

ファクス受信には、ファクスが送られてくると、自動的に受信するモード（自動受信）と、着信時に受話器をとりあげて受信するモード（手動受信）があります。この 2 つの受信モードを設定することができます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 ［システム状況 / 中止］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」（→ P.8-3）の手順 1 を参照してください。

2 ［ファクス］→［受信ジョブ状況］を押します。



3 ［手動受信］または［自動受信］を選択します。

手動受信についての詳しい方法については、「手動でファクスを受信する（手動受信）」（→ P.6-4）を参照してください。

メモ　手動受信を選択したときは、以下のメッセージが表示されます。
・「ファクス手動受信設定中です。」

ファクス通信管理レポートをプリントする

ファクスジョブ履歴をプリントすることができます。

ファクス通信管理レポートには、ファクスジョブの開始時間、相手先、受付番号、通信モード、枚数、および通信結果が印字されます。

1 [システム状況 / 中止] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1 を参照してください。

2 [ファクス] → [ジョブ履歴] を押します。



3 [リストプリント] を押します。

メモ

- リストの左端に表示されるアイコンは以下の状況を示しています。
  - ・: ファクス通信管理レポートでプリント済みのジョブ
  - ・: ファクス通信管理レポートでプリントされていないジョブ
- 共通仕様設定 (初期設定／登録) の、カセットオート選択の ON/OFF の [その他] で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

4 [はい] を押します。

受信ジョブや転送ジョブの状況を確認する

メモリ内にある受信文書や転送ジョブ状況の確認をしたり、受信ジョブの受信確認をすることができます。

メモ
- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示を「OFF」に設定している場合、システム状況画面の［受信］の<受信ジョブ履歴>、［詳細情報］、［リストプリント］は表示されません。
- 受信ジョブ履歴画面には送信ジョブ履歴とあわせて 100 件のジョブが表示されます。

受信ジョブの詳細情報を確認する

受信ジョブの受付日時や相手先などの、詳細情報を確認できます。

1 ［システム状況 / 中止］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」（→ P.8-3）の手順 1 を参照してください。

2 ［受信］を押して詳細を表示するジョブを選択したあと、［詳細情報］を押します。



3 詳細情報を確認します。

受信ジョブ履歴をプリントする

受信ジョブの履歴をプリントすることができます。

1 [システム状況 / 中止] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1 を参照してください。

2 [受信] → [リストプリント] を押します。

メモ

- リストの左端に表示されるアイコンは以下の状況を示しています。
  - ・通信管理レポートでプリント済みのジョブ
  - ・通信管理レポートでプリントされていないジョブ
- 共通仕様設定 (初期設定／登録) の、カセットオート選択の ON/OFF の [その他] で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

3 [はい] を押します。

受信ジョブを確認する

本製品はＩファクスの受信確認を一定間隔で行っています。Ｉファクスが受信されているかどうか急ぎで確認する場合は、次の操作を行います。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 ［システム状況 / 中止］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」（→ P.8-3）の手順 1 を参照してください。

2 ［受信］→［I ファクス受信確認］を押します。

受信ジョブを確認している間、以下の画面が表示されます。



メモ　［I ファクス受信確認］を使用するには、システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定で電子メール／Ｉファクスの POP を「ON」にして、POP 受信をするように設定してください。（→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」）

転送ジョブの詳細情報を確認する

転送中のジョブの詳細情報を確認することができます。

1 [システム状況 / 中止] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「送信ジョブの詳細情報を確認する」(→ P.8-3) の手順 1 を参照してください。

2 [受信] → [転送ジョブ状況] を押します。



3 詳細を表示するジョブを選択したあと、[詳細情報] を押します。

メモ 送信ジョブが 120 件蓄積されている場合は、ジョブ状況画面ではなく転送ジョブ状況画面に転送待ちのジョブが表示されます。

4 詳細情報を確認します。

送信／受信仕様の設定／登録

9
CHAPTER

送信／受信機能の初期設定を、ご利用にあわせて登録、変更する方法について説明しています。

初期設定／登録画面の操作の流れ. 9-3
送信／受信仕様設定一覧表 9-5
FTP 送信指定時に ASCII コード以外の入力を許可する（FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可）. 9-10
エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア）. 9-11
カラー文書の圧縮率を設定する（データ圧縮率）. 9-12
転送エラー文書の処理を設定する（転送エラー文書の処理）. 9-13
リトライ回数を設定する（リトライ回数）. 9-14
送信機能の標準モードを設定する（送信機能の標準モードの変更）. 9-15
定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録）. 9-17
定型業務ボタンの登録 9-18
定型業務ボタンの名称登録 9-19
定型業務ボタンのコメント登録 9-20
定型業務ボタンの消去 9-21
定型業務ボタン呼出時の確認表示を設定する（定型業務ボタン呼出時の確認表示）. . 9-22
PDF（アウトライン／高圧縮）の画質レベルを設定する（PDF（高圧縮）の画質レベル）. 9-23
サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする（PDF（OCR）設定）. 9-24
図形をアウトライン PDF に変換するときの機能の設定をする（PDF（アウトライン）設定）. 9-25
機器署名の証明書を確認する（機器署名の証明書確認）. 9-27
ユーザ署名の証明書を確認する（ユーザ署名の証明書確認）. 9-28
IC カード署名送信時の確認表示を設定する（IC カード署名送信時の確認表示）. . . . 9-29
送信画面の初期表示を設定する（送信画面の初期表示）. 9-30
送信する文書に発信元記録をつける（発信元記録）. 9-31

WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する（WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用）....9-34
YCbCr 送信時のガンマ値を設定する（YCbCr 送信のガンマ値）....9-35
送信機能設定を初期化する（送信機能設定の初期化）....9-36
受信文書を両面プリントする（両面記録）....9-37
受信文書のプリント方法を設定する（カセット選択）....9-38
受信文書を縮小してプリントする（画像縮小）....9-40
受信情報記録のプリントを設定する（受信情報記録）....9-42
2 in 1 記録を設定する（2 in 1 記録）....9-43
YCbCr 受信時のガンマ値を設定する（YCbCr 受信のガンマ値）....9-44
アラーム音量・通信音量を調節する（音量調整）....9-45
オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）....9-46
ECM 送信を設定する（ECM 送信）....9-47
ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）....9-48
自動リダイヤルを設定する（自動リダイヤル）....9-49
送信前にダイヤルトーンを確認する（送信前のダイヤルトーン確認）....9-51
ECM 受信を設定する（ECM 受信）....9-52
受信モードを選択する（受信モード選択）....9-53
着信時の呼び出し音を設定する（着信呼出）....9-55
リモート受信の設定をする（リモート受信）....9-56
自動受信切替を設定する（自動受信切替）....9-57
ナンバーディスプレイ着信受付の設定をする（ナンバーディスプレイ着信受付）....9-58
増設した回線のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）....9-59
増設した電話回線のユーザ略称を登録する（ユーザ略称の登録）....9-60
増設した電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）....9-61
回線を選択して送信する（送信回線の選択）....9-62

初期設定／登録画面の操作の流れ

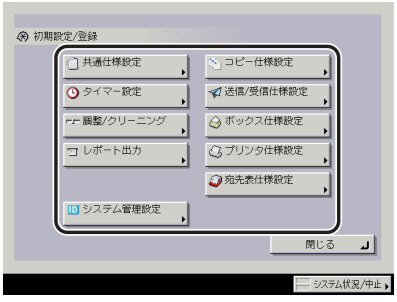
初期設定／登録では本製品のさまざまな設定を使用する条件や環境にあわせて変更することができます。

メモ　初期設定／登録で設定した内容は、（リセット）を押しても変更されません。

1 （初期設定／登録）を押します。

初期設定／登録画面が表示されます。

2 初期設定／登録画面から設定の種類を選択します。



システム管理設定を選択するときにシステム管理部門 ID とシステム管理暗証番号が設定されている場合は、［システム管理設定］を押したあとにシステム管理部門 ID と暗証番号を⓪～⑨（テンキー）で入力して（認証）を押します。

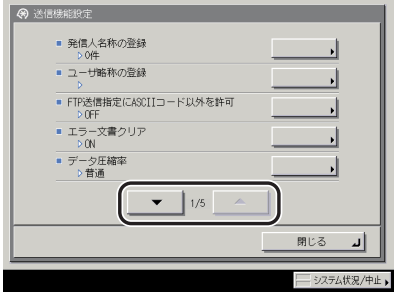
システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表に暗証番号が設定されている場合は、［宛先表仕様設定］を押したあとに宛先表の暗証番号を⓪～⑨（テンキー）で入力して［OK］を押します。（➞ 宛先表の暗証番号を設定する（宛先表の暗証番号）：P.11-19）

3 設定するモードを選択します。



各キーを押して設定できる内容は、「送信／受信仕様設定一覧表」(→P.9-5)、「宛先表仕様設定一覧表」(→P.10-2)、「システム管理設定一覧表」(→P.11-3)、「レポート出力一覧表」(→P.12-2) を参照してください。

メモ　システム管理設定、送信／受信仕様設定はいくつかの項目にわかれています。[▼] [▲] を押して、目的の項目を選択してください。



4 項目を設定したあと、[OK] を押します。



指定したモードが設定されます。

5 基本画面に戻るまで [閉じる] を押していきます。

送信／受信仕様設定一覧表

送信／受信仕様設定で登録／設定できる項目を以下に示します。

■ **共通設定**

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
送信機能設定			
発信人名称の登録*1	01 ～ 99：登録／編集、消去	×	P.1-17
ユーザ略称の登録	半角 24 文字、全角 12 文字	×	P.1-18
FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可*2	ON、OFF*	○	P.9-10
エラー文書クリア	ON*、OFF	○	P.9-11
データ圧縮率*2	高圧縮、普通*、低圧縮	○	P.9-12
転送エラー文書の処理	常にプリント、保存／プリント、OFF*	○	P.9-13
リトライ回数*2	0 ～ 5 回・3 回*	○	P.9-14
送信機能の標準モードの変更	Send 拡張キットを有効にしたとき 読取モード：カラー／2 値 200 × 200 ファイル形式：TIFF/PDF 自動選択 済スタンプ：押さない FAX ボード装着時 読取モード：白黒 200 × 100 済スタンプ：押さない Send 拡張キットを有効＋FAX ボード装着時 読取モード：カラー／2 値 200 × 200 ファイル形式：TIFF/PDF 自動選択 済スタンプ：押さない	×	P.9-15
定型業務ボタンの登録	登録／編集、消去（18 個） コメントの表示：ON、OFF*	○	P.9-17
定型業務ボタン呼出時の確認表示	ON、OFF*	×	P.9-22
PDF(高圧縮)の画質レベル*2	文字／写真モード、写真モード時： データサイズ優先、普通*、画質優先 文字モード時： データサイズ優先、普通*、画質優先	○	P.9-23

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
PDF（OCR）設定 *3	原稿向き自動検知：ON*、OFF 文書名 OCR の文字数設定：1 ～ 24・24*	○	P.9-24
PDF（アウトライン）設定 *2	図形のアウトライン化：ON、OFF* 図形と認識するレベル：普通 *、やや高い、高い 背景画質のレベル：データサイズ優先、普通*、画質優先	○	P.9-23
機器署名の証明書確認 *4	証明書詳細情報：証明書検証	×	P.9-27
ユーザ署名の証明書確認 *5	証明書詳細情報：証明書検証	×	P.9-28
IC カード署名送信時の確認表示 *6	ON*、OFF	×	P.9-29
送信画面の初期表示	定型業務ボタン、ワンタッチボタン、新規宛先*	×	P.9-30
発信元記録	つける*、つけない FAX ボード装着時 発信元記録：つける 印字位置：画像の外側 相手先略称の表示：ON 電話番号マーク：FAX	○	P.9-31
WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用 *2	ON*、OFF	○	P.9-34
YCbCr 送信のガンマ値 *2	γ1.0、γ1.4、γ1.8*、γ2.2	○	P.9-35
送信機能設定の初期化	初期化	×	P.9-36
受信機能設定			
両面記録	ON、OFF*	○	P.9-37
カセット選択	スイッチ A：ON*、OFF スイッチ B：ON*、OFF スイッチ C：ON*、OFF スイッチ D：ON*、OFF	○	P.9-38
画像縮小	ON*、OFF ON 設定時 縮小モード：自動変倍 縮小率：90% 縮小方向：縦のみ	○	P.9-40
受信情報記録	つける、つけない*	○	P.9-42
2 in 1 記録	ON、OFF*	○	P.9-43

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
YCbCr 受信のガンマ値*2	γ1.0、γ1.4、γ1.8*、γ2.2	○	P.9-35

* マークは工場出荷時の設定です。

*1：オプションの FAX ボード装着時に表示される項目です。

*2：オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*3：オプションのサーチャブル PDF 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*4：オプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*5：オプションのユーザ署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*6：オプションの IC カード認証機能拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

■ ファクス設定[*1]

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
基本登録			
ユーザ電話番号の登録	最大 20 桁	×	P.1-16
回線種類の選択	ダイヤル 20PPS*、ダイヤル 10PPS、プッシュ	×	P.1-14
音量調整	アラーム音量：0 ～ 8・4* 通信音量：0 ～ 8・4*	○	P.9-45
オフフックアラーム[*8]	ON*、OFF	○	P.9-46
送信機能設定			
ECM 送信	ON*、OFF	○	P.9-47
ポーズ時間セット	1 ～ 15 秒・2 秒*	○	P.9-48
自動リダイヤル	ON*、OFF ON 設定時 リダイヤル回数：1 ～ 15 回・2 回* リダイヤル間隔：2 ～ 99 分・2 分* 送信エラー時リダイヤル： 1 ページとエラーページ*	○	P.9-49
送信前のダイヤルトーン確認	ON*、OFF	○	P.9-51
受信機能設定			
ECM 受信	ON*、OFF	○	P.9-52
受信モード選択	自動受信*、FAX/TEL 切替 FAX/TEL 切替設定時 呼出開始時間：0 ～ 30 秒・8 秒 呼出時間：15 ～ 300 秒・17 秒 呼出後の動作：終了、受信* 音声応答：ON、OFF*	○	P.9-53
着信呼出	ON、OFF* ON 設定時 呼出回数：1 ～ 99 回・2 回	○	P.9-55
リモート受信	ON、OFF* ON 設定時 リモート受信 ID：00 ～ 99・25	×	P.9-56

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
自動受信切替	ON、OFF* ON 設定時 呼出秒数：1 ～ 99 秒・15 秒	○	P.9-57
ナンバーディスプレイ着信受付	ON、OFF*	×	P.9-58
増設回線設定 *9			
ユーザ電話番号の登録	最大 20 桁	×	P.9-59
ユーザ略称の登録	半角 24 文字、全角 12 文字	×	P.9-60
回線種類の選択	ダイヤル 20PPS*、ダイヤル 10PPS、プッシュ	×	P.9-61
送信回線の選択	回線 1：優先送信*、送信禁止 回線 2：優先送信、送信禁止	×	P.9-62

* マークは工場出荷時の設定です。

*1：オプションの FAX ボード装着時に表示される項目です。

*8：オプションの FAX ボードとハンドセット・G2 を装着している場合に表示される項目です。

*9：オプションのマルチポート FAX ボード装着時に表示される項目です。

メモ
- 本書に記載していないモードの設定のしかたについては、別冊の取扱説明書を参照してください。（→ 取扱説明書の分冊構成について）
- 送信／受信仕様設定はいくつかの項目にわかれています。［▼］［▲］を押して、目的の項目を選択してください。
- 機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」を参照してください。
  - ・○：機器情報配信対象
  - ・×：機器情報配信対象外

FTP 送信指定時に ASCII コード以外の入力を許可する（FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可）

FTP サーバを宛先として指定するときに、ホスト名、フォルダへのパス、ユーザ名に ASCII コード以外の文字を入力することができます。

重要 FTP 送信時に使用される文字コードはシフト JIS です。UNIX 系など文字コードの異なるサーバに送信する場合に、この設定を「ON」にしていると、文書を送信できなかったり、送信文書名が正しく表示されなかったりすることがあります。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- [FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可] が表示されていない場合は、共通仕様設定（初期設定／登録）の表示言語の切替で「Japanese」を選択し、「OFF」に設定してください。（→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」）
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 **(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可] を押します。**

2 **[ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。**

選択する項目

[ON]：　ASCII コード以外の入力を許可します。

[OFF]：ASCII コード以外の入力を許可しません。

エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア）

文書を送信したとき、送信エラーになった文書を自動的にメモリから消去することができる機能です。

1 ㊞（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［エラー文書クリア］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

選択する項目

［ON］： 正常送信、エラー送信にかかわらず、送信後に文書を消去します。

［OFF］： エラー送信時には、文書を消去せず、メモリ内に残します。エラー文書はシステム状況画面で、再送信したり、宛先を変更して再送信することができます。（→ 宛先を変更する：P.8-5、送信ジョブを再送信する：P.8-7）

重要 エラー文書クリアを「OFF」に設定しても、ファクスのダイレクト送信、手動送信やファクスドライバから送信された文書は、エラー送信時にメモリ内に残りません。

カラー文書の圧縮率を設定する（データ圧縮率）

カラーで読み込んだ画像を送信する際の圧縮率を指定することができます。圧縮率が高くなると文書のデータサイズは小さくなりますが低画質になります。逆に、圧縮率を低くすると文書のデータサイズは大きくなりますが高画質になります。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを装着した場合に使用することができます。
- ファイル形式に［PDF（高圧縮）］または「PDF（アウトライン）」を選択する場合は、データ圧縮率を「普通」または「低圧縮」に設定することをおすすめします。「高圧縮」に設定すると、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の PDF（高圧縮）の画質レベルで「画質優先」を設定している場合でも、画質が劣化することがあります。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［データ圧縮率］を押します。**

2 **［高圧縮］、［普通］または［低圧縮］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［高圧縮］： データサイズは小さくなりますが、低画質になります。

［普通］： データサイズ、画質共に、［高圧縮］と［低圧縮］の中間になります。

［低圧縮］： データサイズは大きくなりますが、高画質になります。

転送エラー文書の処理を設定する（転送エラー文書の処理）

転送に失敗した文書の処理方法を設定します。

メモ　送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のエラー文書クリアが「OFF」に設定されている場合は、転送エラー文書はシステム状況画面のジョブ状況に保存され、ここで設定する転送エラー文書の処理は行われません。（→ エラー文書の自動消去を設定する（エラー文書クリア）：P.9-11）

1　（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［転送エラー文書の処理］を押します。

2　［常にプリント］、［保存 / プリント］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

選択する項目

［常にプリント］：　転送エラー文書をプリントします。

［保存 / プリント］：転送エラー文書をシステムボックスに保存します。システム管理設定（初期設定／登録）のシステムボックス設定で、ファクス／Ｉファクスメモリ受信が「OFF」に設定されているときはプリントします。（→ ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14、Ｉファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14）

［OFF］：　転送エラー文書はプリントされません。

リトライ回数を設定する（リトライ回数）

リトライとは、受信側が送信／受信中などの状態により送信することができない場合や、エラーが生じた場合に自動的に再送信する機能です。ここではその回数を設定します。リトライの回数は、1 ～ 5 回まで設定できます。また、0 回に設定するとリトライされません。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 **(初期設定／登録) →［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［リトライ回数］を押します。**

2 **［−］［+］を押してリトライ回数を設定したあと、［OK］を押します。**

0 回を設定した場合は、再送信されません。

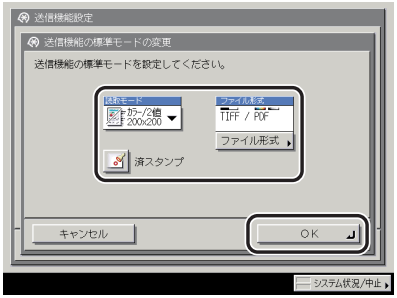
送信機能の標準モードを設定する（送信機能の標準モードの変更）

送信機能の標準モードとして登録されている読取モードを変更することができます。（→ 読取モードを選択する：P.3-2、送信の設定をする（送信設定）：P.5-2）

メモ
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、ここで設定したファイル形式は無効になります。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、ファイル形式も変更することができます。
- ファクスや I ファクスを送信するときは、ここで設定したファイル形式は無効になります。ただし、［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］が標準モードとして登録されていると、ファクス／I ファクス送信時に、ファイル形式の変更を促すメッセージが表示されることがあります。表示された場合は、［PDF（アウトライン）］または［PDF（高圧縮）］以外のファイル形式に変更してください。

1 (初期設定／登録) →［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［送信機能の標準モードの変更］を押します。

2 各項目を設定したあと、[OK] を押します。



[読取モード]：

読取モードドロップダウンリストを押したあと、設定するモードを選択します。

登録した読取モードを設定することもできます。(→ 読取モードの登録／消去：P.4-16)

[済スタンプ]：

[済スタンプ] を押します。

取り消す場合は、もう一度 [済スタンプ] を押します。

[ファイル形式]：

[ファイル形式] を押して、送信する画像のファイル形式を選択します。

ファイル形式は、次の形式から選択できます。各ファイル形式については以下を参照してください。

- [TIFF/PDF 自動選択]、[TIFF/JPEG 自動選択]、[JPEG]、[TIFF]：「ファイル形式の設定をする」(→ P.5-21)
- [PDF]：
  - [アウトライン]：「アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）」(→ P.5-24)
  - [高圧縮]：「高圧縮 PDF を送信する（高圧縮）」(→ P.5-26)
  - [OCR（文字認識）]：「サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））」(→ P.5-28)

メモ
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「ファイル形式（TIFF、PDF、JPEG）」を参照してください。
- [OCR (文字認識)] は、オプションのサーチャブル PDF 拡張キットを有効にした場合に表示されます。
- 送信画面ですぐに標準モードの設定にする場合は、(リセット）を押します。

定型業務ボタンの登録をする（定型業務ボタンの登録）

任意の宛先や送信の設定などの組み合わせを 18 個まで、名称をつけて登録することができます。また、設定した内容をコメントとして定型業務ボタンに表示することができます。よく使う組み合わせを登録しておくと便利です。

メモ
- 定型業務ボタンに登録した設定は、電源を OFF にしても消えません。
- 定型業務ボタンに含まれている宛先が宛先表から削除された場合、定型業務ボタンの登録内容からも宛先が削除されます。

定型業務ボタンの登録

1 **登録する送信設定をそれぞれ設定したあと、(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [定型業務ボタンの登録] を押します。**

2 **登録する定型業務ボタン ([M1] ～ [M18]) を選択したあと、[登録 / 編集] を押します。**



メモ すでに設定が登録されている定型業務ボタンには、キーの右下の三角 (◢) が色つきで表示されます。

3 **[登録] を押します。**

メモ
- すでに登録されている定型業務ボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。
- 定型業務ボタンを登録したあと、[名称] を押して続けて定型業務ボタンの名称を登録することもできます。
- 定型業務ボタンを登録したあと、[コメント] を押して続けて定型業務ボタンに表示されるコメントを登録することもできます。

● まだ登録されていない定型業務ボタンを選択した場合

❑ 登録してよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、[はい] を押します。

● すでに登録されている定型業務ボタンを選択した場合

❑ 上書きしてよいかどうか、確認のメッセージが表示されるので、[はい] を押します。

定型業務ボタンの名称登録

1 **(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [定型業務ボタンの登録] を押します。**

2 **名称を登録する定型業務ボタン ([M1] ～ [M18]) を選択したあと、[登録 / 編集] を押します。**

この手順の画面を確認する場合は、「定型業務ボタンの登録」(→ P.9-18) の手順 2 を参照してください。

メモ すでに設定が登録されている定型業務ボタンには、キーの右下の三角 (◢) が色つきで表示されます。

3 **[名称] を押します。**

メモ
- すでに登録されている定型業務ボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。
- 定型業務ボタンの設定が「未登録」のキーにも名称は登録できます。

4 **新しい名称を入力したあと、[OK] を押します。**

メモ 文字を入力していない状態で [OK] を押すと、定型業務ボタンの名称は M1 ～ M18 になります。

定型業務ボタンのコメント登録

1 (初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [定型業務ボタンの登録] を押します。

コメントの表示を［ON］にすると、設定したコメントの内容が送信画面の定型業務ボタンに表示されます。

2 コメントを登録する定型業務ボタン（[M1] ～ [M18]）を選択したあと、[登録 / 編集] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「定型業務ボタンの登録」(→ P.9-18) の手順 2 を参照してください。

メモ すでに設定が登録されている定型業務ボタンには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます

3 コメントを押します。

メモ
- すでに登録されている定型業務ボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。
- 定型業務ボタンの設定が「未登録」のキーにも名称は登録できます。

4 コメントを入力したあと、[OK] を押します。

定型業務ボタンの消去

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［定型業務ボタンの登録］を押します。**

2 **消去する定型業務ボタンを選択したあと、［消去］を押します。**



重要 消去する内容を確認してください。

メモ
- すでに設定が登録されている定型業務ボタンには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されている定型業務ボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。

3 **［はい］を押します。**

メモ
- 定型業務ボタンの名称は消去されません。名称を変更する場合は「定型業務ボタンの名称登録」（→ P.9-19）を参照してください。
- 定型業務ボタンのコメントは消去されません。コメントを変更する場合は「定型業務ボタンのコメント登録」（→ P.9-20）を参照してください。

定型業務ボタン呼出時の確認表示を設定する（定型業務ボタン呼出時の確認表示）

定型業務ボタン呼出時の確認表示を設定することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［定型業務ボタン呼出時の確認表示］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］： 定型業務ボタン呼出時に確認表示をします。

［OFF］： 定型業務ボタン呼出時に確認表示をしません。

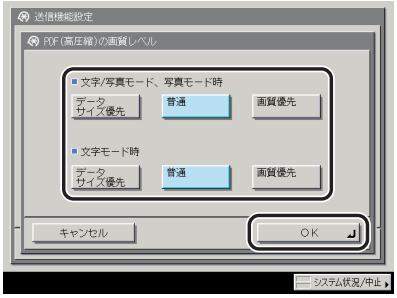
PDF（アウトライン／高圧縮）の画質レベルを設定する（PDF（高圧縮）の画質レベル）

ファイル形式に PDF（アウトライン）／ PDF（高圧縮）を選択したときの画質レベルを設定できます。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［PDF（高圧縮）の画質レベル］を押します。**

2 **各項目を設定したあと、［OK］を押します。**



設定項目：

［データサイズ優先］： 送信時のデータサイズは小さくなりますが、低画質になります。

［普通］： データサイズ、画質共に、［データサイズ優先］と［画質優先］の中間になります。

［画質優先］： データサイズは大きくなりますが、高画質になります。

メモ
- 各モードの画質レベルは、読込設定画面の画質選択ドロップダウンリストで画質を選択した場合に有効になります。ただし、ファイル形式で［PDF（アウトライン）］選択時に［文字］を選択した場合は、この設定は無効になります。
- 色数の多い原稿を読み込んだ場合は、選択した画質レベルに従ってデータサイズと色数を調べ、圧縮を行います。単色から数色までの色数の少ない原稿では、どの画質レベルを選択してもあまり変わりありません。

サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする（PDF（OCR）設定）

サーチャブル PDF とは、OCR（光学式文字読取装置）処理を行い、読み込んだ文書をテキスト検索できる PDF に作成する機能です。

送信設定のファイル形式で「PDF（OCR）」を選択した場合に、原稿向き自動検知をするかどうかと文書名 OCR の文字数の設定をします。原稿向き自動検知とは、原稿を送信するときに原稿の文字方向と並び方向を判断し、原稿の方向を検知する機能です。文書名 OCR とは、OCR 処理で読み込んだ最初の文字列を送信するときの文書名にする機能です。(→ 送信の設定をする（送信設定）：P.5-2)

メモ
- この機能は、オプションのサーチャブル PDF 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。PDF（OCR）の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「PDF（OCR）」を参照してください。
- 文書名 OCR と暗号化 PDF を同時に設定して送信することはできません。

1 **(初期設定／登録) →［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［PDF（OCR）設定］を押します。**

2 **各項目を設定したあと、［OK］を押します。**



＜原稿向き自動検知＞：

［ON］： 原稿向き自動検知を行い、原稿の向きを自動的に回転して送信を行います。

［OFF］： 原稿向き自動検知を行いません。

＜文書名 OCR の文字数設定＞：

［−］［+］を押して送信文書名に抽出する文字数を設定します。

メモ ＜文書名 OCR の文字数設定＞で設定した文字数は半角時の文字数です。読み込む文書が全角の場合、設定した文字数の半分の文字列を抽出して送信文書名にします。

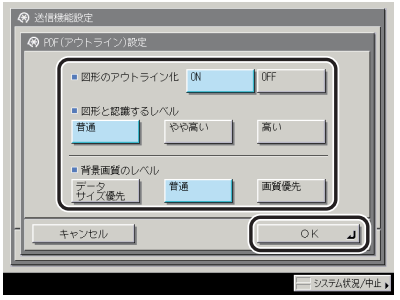
図形をアウトライン PDF に変換するときの機能の設定をする（PDF（アウトライン）設定）

送信する文書をアウトライン化するときに、原稿に含まれる線画の認識率を変更する事ができます。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 (初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［PDF（アウトライン）設定］を押します。

2 各項目を設定したあと、[OK]を押します。



設定項目：

＜図形のアウトライン化＞：

[ON]： 図形のアウトライン化を行います。

[OFF]： 図形のアウトライン化を行いません。

＜図形と認識するレベル＞：

[普通]： 標準的な認識レベルを設定します。(データサイズは小さくなります)

[やや高い]： 認識レベル、データサイズ共に、[普通]と[高い]の中間になります。

[高い]： もっとも高い認識レベルを設定します。(データサイズは大きくなります)

＜背景画質のレベル＞：

[データサイズ優先]： 送信時のデータサイズは小さくなりますが、背景として認識される部分の画質は低画質になります。

[普通]： データサイズ、背景として認識される部分の画質共に、[データサイズ優先]と[画質優先]の中間になります。

[画質優先]： データサイズは大きくなりますが、背景として認識される部分の画質は高画質になります。

メモ ＜図形と認識するレベル＞は、認識レベルを上げるごとにデータサイズも大きくなります。最初は[普通]、望ましい結果が得られなければ[やや高い]、[高い]の順で認識レベルを上げていくことをおすすめします。

機器署名の証明書を確認する（機器署名の証明書確認）

電子署名つき PDF 送信機能の 1 つである機器署名をつけた PDF 送信に必要な証明書と鍵ペアの詳細を確認することができます。

重要 機器署名の証明書と鍵ペアが生成されていない場合は、［機器署名の証明書確認］を押すことはできません。機器署名の証明書と鍵ペアについては、ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」を参照してください。

メモ この機能は、オプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［機器署名の証明書確認］を押します。**

2 **証明書を検証する場合は検証する証明書を選択したあと、［証明書詳細情報］→［証明書検証］を押します。**

メモ ［証明書のぼ印（SHA1)］は、機器署名をつけた PDF を受信したときに、MD5、SHA-1 のメッセージダイジェスト番号と照合することによって機器証明書の信頼性を確保できる送信者情報です。［証明書のぼ印（SHA1)］やその他の機器証明書情報を確認する方法については、ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークを使用する」を参照してください。

ユーザ署名の証明書を確認する（ユーザ署名の証明書確認）

電子署名つきPDF送信機能の1つであるユーザ署名をつけたPDF送信に必要な証明書と鍵ペアの詳細を確認することができます。

重要 ユーザ証明書がインストールされていない場合は、［ユーザ署名の証明書確認］を押すことはできません。ユーザ証明書のインストール方法は、「リモートUIガイド」を参照してください。

メモ この機能は、オプションのユーザ署名PDF拡張キットを有効にしたうえで、SDL、SSO、ICカードによる認証が設定されていて、かつ認証を利用してログインしている場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［ユーザ署名の証明書確認］を押します。**

2 **証明書を検証する場合は検証する証明書を選択したあと、［証明書詳細情報］→［証明書検証］を押します。**

IC カード署名送信時の確認表示を設定する（IC カード署名送信時の確認表示）

電子署名つき PDF 送信機能の 1 つである IC カード内の署名をつけた PDF の送信時に、送信途中で IC カードを抜くと送信エラーとなるため、誤ってユーザが IC カードを抜かないように原稿読み込み完了後に確認表示が出ます。この確認表示の設定をすることができます。

重要 IC カードが抜けている場合は、[IC カード署名送信時の確認表示] を押すことはできません。機器署名の証明書と鍵ペアの生成については、ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」を参照してください。

メモ この機能は、オプションの IC カード認証機能拡張キット、ユーザ署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録) →［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［IC カード署名送信時の確認表示］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］： IC カード内の署名をつけた PDF の送信時に確認表示を出します。

［OFF］： IC カード内の署名をつけた PDF の送信時に確認表示を出しません。

送信画面の初期表示を設定する（送信画面の初期表示）

電源を入れたとき、オートクリアがかかったときなどに、[定型業務ボタン]、[ワンタッチボタン]、または［新規宛先］のどのタブを初期画面に表示させるかを設定します。定型業務ボタンが大きく表示される初期画面に切り替えることもできます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［送信画面の初期表示］を押します。**

2 **［定型業務ボタン］、［ワンタッチボタン］または［新規宛先］を選択したあと、［OK］を押します。**

● **［定型業務ボタン］を押した場合**

❑ ［ON］または［OFF］を選択したあと［OK］を押します。



＜拡大表示＞：

［ON］： 定型業務ボタンが大きく表示される初期画面に切り替わります。

［OFF］： 定型業務ボタンが通常の大きさで表示される初期画面に切り替わります。

送信する文書に発信元記録をつける（発信元記録）

ファクス／Ｉファクスを送信するとき、発信元記録をつけるかつけないかを設定します。

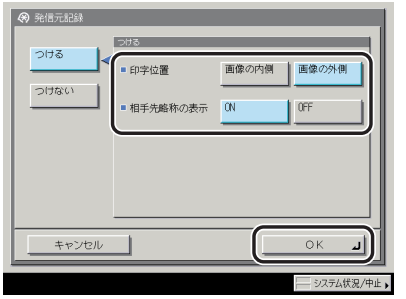
発信元記録は送信文書の上部にプリントされます。こちらのファクス番号や名前、Ｉファクスアドレスなどがプリントされるので、相手先で誰から送信されてきた文書かを確認することができます。

1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［発信元記録］を押します。**

2 ［つける］または［つけない］を選択します。

●［つける］を選択した場合（FAX ボード非装着時）

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



＜印字位置＞：

［画像の内側］：画像の内側に発信元記録をプリントします。

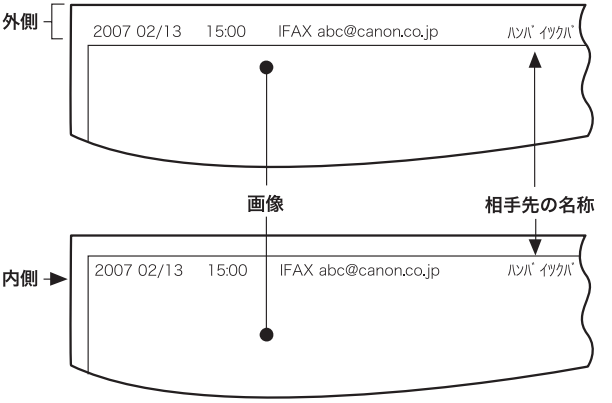
［画像の外側］：画像の外側に発信元記録をプリントします。

＜相手先略称の表示＞：

［ON］： 宛先表に登録した相手先の名称を発信元記録に表示します。

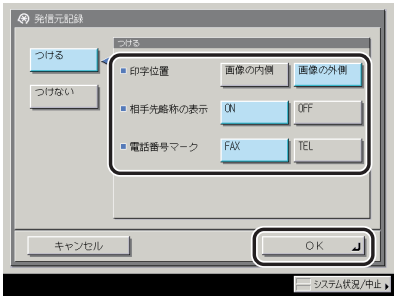
［OFF］： 宛先表に登録した相手先の名称を発信元記録に表示しません。

例：発信元記録を「つける」、相手先略称の表示を「ON」に設定した場合、相手先の記録紙には以下のようにプリントされます。



●［つける］を選択した場合（FAX ボード装着時）

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



＜印字位置＞：

［画像の内側］：画像の内側に発信元記録をプリントします。

［画像の外側］：画像の外側に発信元記録をプリントします。

＜相手先略称の表示＞：

［ON］： 宛先表に登録した相手先の名称を発信元記録に表示します。

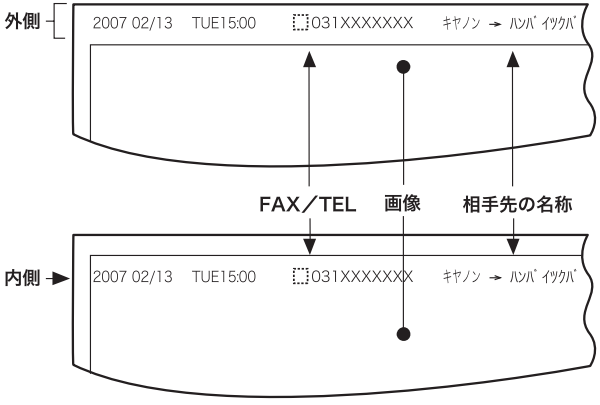
［OFF］： 宛先表に登録した相手先の名称を発信元記録に表示しません。

＜電話番号マーク＞：

［FAX］：ファクス番号の前に、“FAX”の文字をつけます。

［TEL］：電話番号の前に、“TEL”の文字をつけます。

例：発信元記録を「つける」、相手先略称の表示を「ON」に設定した場合、相手先の記録紙には以下のようにプリントされます。



●［つけない］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する（WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用）

チャンク分割送信とは、サイズのわからないファイルを、既知の長さのチャンク（かたまり）にして送信する機能です。送信前のファイルサイズの計算が不要のため送信時間を短縮することができます。

WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用するかどうかを設定することができます。

重要 WebDAV サーバやプロキシサーバ側の条件によってチャンク分割送信ができない場合があります。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用を「OFF」に設定している場合は、送信スピードが通常よりやや遅くなります。

---

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［ON］： WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用します。

［OFF］： WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用しません。

YCbCr 送信時のガンマ値を設定する（YCbCr 送信のガンマ値）

電子メール、ファイルサーバに送信するときに、RGB で読み込んだ画像を YCbCr に変換して送信する際のガンマ値を指定することができます。送信時に受信側に合ったガンマ値を設定することで、適切な画質で表示することができます。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。

1 **(初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (共通設定) [送信機能設定] → [YCbCr 送信のガンマ値] を押します。**

2 **ガンマ値 ([γ1.0]、[γ1.4]、[γ1.8]、[γ2.2]) を選択したあと、[OK] を押します。**

送信機能設定を初期化する（送信機能設定の初期化）

送信機能設定の各項目を工場出荷時の設定に戻します。

重要 発信人名称の登録、ユーザ略称の登録、転送エラー文書の処理、発信元記録の設定内容は初期化されません。

メモ 送信機能設定を初期化すると、定型業務ボタンの登録内容も初期化されます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［送信機能設定］→［送信機能設定の初期化］を押します。**

2 **［はい］を押します。**

受信文書を両面プリントする（両面記録）

受信文書を用紙の両面にプリントすることができます。用紙を節約することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［両面記録］を押します。**

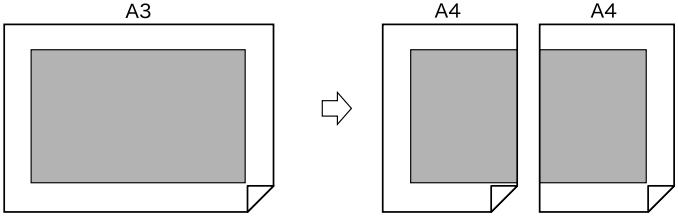
2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

受信文書のプリント方法を設定する（カセット選択）

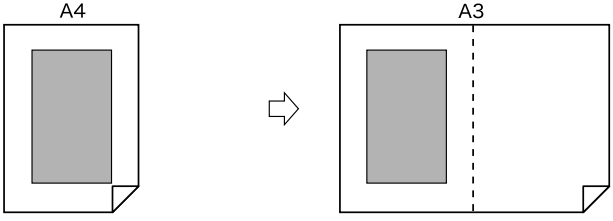
受信文書の画像と同じサイズの用紙がないとき、どのようにプリントするかを設定できます。

プリントする方法は 4 種類（スイッチ A、B、C、D）あります。

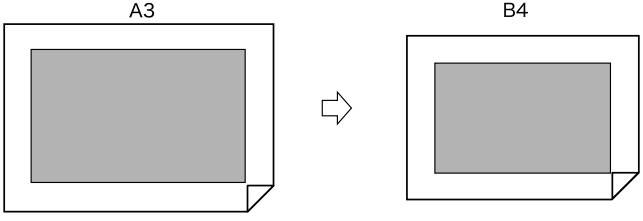
- スイッチ A：受信文書を同じ判版（A 版／ B 版）の用紙に分割してプリントします。



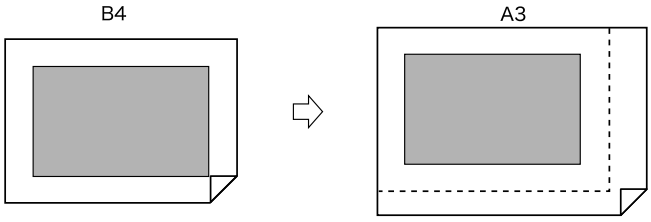
- スイッチ B：受信文書を同じ判版（A 版／ B 版）の用紙に余白をつけてプリントします。



- スイッチ C：受信文書を違う判版（A 版／ B 版）の用紙に縮小してプリントします。



• スイッチ D：受信文書よりも大きい判版（A 版／B 版）の用紙にプリントします。



メモ　受信文書をプリントするときの用紙カセットの選択については、ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」を参照してください。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［カセット選択］を押します。**

2 **各スイッチの［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

受信文書を縮小してプリントする（画像縮小）

受信文書の画像を記録紙のプリント可能な範囲にプリントするために、自動的に縮小してプリントすることができます。

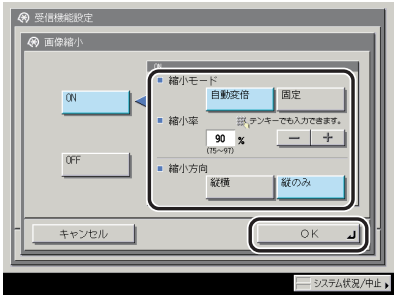
1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［画像縮小］を押します。**

2 ［ON］または［OFF］を選択します。

重要
- ［OFF］を選択した場合、受信文書は自動的に縮小してプリントされませんので、プリント可能な範囲を超えた場合、分割してプリントされます。
- 画像縮小の［ON］/［OFF］にかかわらず、プリント可能な範囲を超えた領域が短い（12mm 以下）場合は、超えた領域はプリントされません。

●［ON］を選択した場合

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



＜縮小モード＞：

［自動変倍］：「縮小率」で設定した値から 100 % までの範囲で自動調整して画像を縮小します。

［固定］：　「縮小率」で設定した倍率で、画像を縮小します。

＜縮小率＞：

［−］［+］で縮小率を設定します。

＜縮小方向＞：

［縦横］：　縦横方向に縮小します。

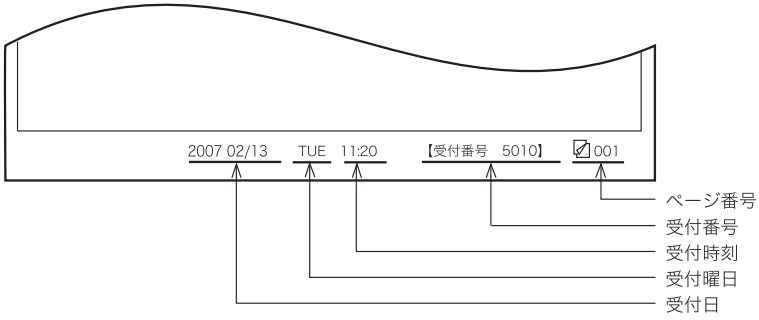
［縦のみ］：　縦方向にのみ縮小します。

●［OFF］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

受信情報記録のプリントを設定する（受信情報記録）

受信文書をプリントするとき、受付日、受付曜日、受付時刻、受付番号、ページ番号を、原稿のいちばん下にプリントすることができます。



1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［受信情報記録］を押します。**

2 **［つける］または［つけない］を選択したあと、［OK］を押します。**

2 in 1 記録を設定する（2 in 1 記録）

2 in 1 記録とは、2 枚の同系列サイズの受信画像を 1 枚の用紙にプリントする機能です。この機能は以下の条件を満たしたときに働きます。

- 受信文書のＮページ目とＮ＋１ページ目のプリント用紙として選ばれた用紙カセットが同じである。
- 上記のカセット内の用紙はＮページとＮ＋１ページ目を並べてプリントすることができるサイズである。

例： A4 用紙がなく、かつ A3 用紙がある場合に、A3 の短尺原稿 2 枚を A3 用紙 1 枚に並べてプリントします。なお、A3 用紙がなく A4 用紙がある場合には、A3 の短尺原稿は A4 でプリントされます。

メモ　2 in 1 記録でプリントされた文書は、中央に破線が印字されます。受信情報記録をつけてプリントした場合は、その部分を除いた中央に印字されます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［2 in 1 記録］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

YCbCr 受信時のガンマ値を設定する（YCbCr 受信のガンマ値）

受信するときのガンマ値を指定することができます。受信したときに適度な画質でプリントすることができます。

メモ
- この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを受信するときは、この設定は無効になります。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（共通設定）［受信機能設定］→［YCbCr 受信のガンマ値］を押します。**

2 **ガンマ値（［γ1.0］、［γ1.4］、［γ1.8］、［γ2.2］）を選択したあと、［OK］を押します。**

アラーム音量・通信音量を調節する（音量調整）

ファクス送信・受信時のアラーム音の音量と通信音の音量を設定します。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- アラーム音とは、送信・受信を中止したときに鳴る音です。
- 通信音とは、相手先のファクスに接続したときに鳴る音（“ピーヒャラ”）です。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［基本登録］→［音量調整］を押します。**

2 **［◁］［▷］を押してアラーム音量、通信音量を設定したあと、［OK］を押します。**

音量は 9 段階で設定することができます。

音量を一番左に設定した場合は、音は鳴りません。

オフフックアラームを設定する（オフフックアラーム）

原稿の送受信後、ハンドセット・G2 を正しく戻していないとき、アラーム音で通知するかどうか設定します。

重要 回線を増設した場合、この設定が機能するのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- [オフフックアラーム] を設定するには、本製品にオプションのハンドセット・G2 を装着する必要があります。
- マルチポート FAX ボード（マルチ回線）を装着して電話回線を増設した場合、電話機またはオプションのハンドセット・G2 は装着できません。

1 (初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (ファクス設定) [基本登録] → [オフフックアラーム] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

アラーム音で通知しないときは [OFF] を押します。

ECM 送信を設定する（ECM 送信）

ファクス送信文書を ECM 方式で送信することができます。
ECM 方式とは、通信画像のエラーを自動的に補正して通信を行う機能です。

重要
- ECM 方式で通信を行う場合は、相手機および本製品で ECM 機能を設定する必要があります。（双方で設定されていないと、この機能は無効になります。）
- ECM 機能を設定した場合でも、電話回線の影響でエラーになることがあります。
- 電話回線にトラブルなどが発生した場合、送信に時間がかかることがあります。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **◉（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［送信機能設定］→［ECM 送信］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）

ファクス送信時のポーズの秒数を設定します。

海外との通信は、通信距離が長く、ルートも複雑になります。このため、一度に国際電話識別番号、国番号、相手先ファクス番号をダイヤルしても相手にうまくつながらないときがあります。このようなときは、国際電話識別番号のあとにポーズを入れます。ポーズを入れるとポーズを入れた箇所に待ち時間を入れてダイヤル送信するため、相手につながりやすくなります。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ポーズは、ファクス送信で宛先ファクス番号を入力する画面で入れられます。（→ ファクス番号を指定する：P.2-2）
- ファクス番号の末尾にポーズを入れた場合、ポーズ時間は 10 秒（固定）になります。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［送信機能設定］→［ポーズ時間セット］を押します。**

2 **［−］［+］を押してポーズ時間を指定したあと、［OK］を押します。**

自動リダイヤルを設定する（自動リダイヤル）

自動リダイヤルは、ファクス送信時に相手先が話し中などで送信できない場合や送信エラーが発生したときに、自動的に再送信する機能です。

自動リダイヤルを設定した場合は、リダイヤルする回数や間隔などを設定することができます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1　(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［送信機能設定］→［自動リダイヤル］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択します。

●［ON］を選択した場合

❑［詳細設定］を押して、各項目を設定したあと、［OK］→［OK］を押します。



＜リダイヤル回数＞：

［−］［+］を押してリダイヤルの回数を設定します。

＜リダイヤル間隔＞：

［−］［+］を押してリダイヤルの間隔を設定します。

＜送信エラー時リダイヤル＞：

［1 ページとエラーページ］：送信エラー時に自動リダイヤルして送信文書の 1 ページ目とエラーページ以降が再送されます。

［全ページ］：送信エラー時に自動リダイヤルして送信文書の全ページが再送されます。

［OFF］：送信エラー時は自動リダイヤルしません。

●［OFF］を選択した場合

❑［OK］を押します。

送信前にダイヤルトーンを確認する（送信前のダイヤルトーン確認）

ファクスを相手先に送信するときに、ダイヤルトーンの確認を行ってから、ダイヤルするかどうか設定できます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［送信機能設定］→［送信前のダイヤルトーン確認］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

メモ
- 設定は、本製品の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。
- 電源の入れかた／切りかたは、ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」を参照してください。

ECM 受信を設定する（ECM 受信）

ファクス受信文書を ECM 方式で受信することができます。
ECM 方式は、通信画像のエラーを自動的に補正して通信を行う機能です。

重要
- ECM 方式で通信を行う場合は、相手機および本製品で ECM 機能を設定する必要があります。（双方で設定されていないと、この機能は無効になります。）
- ECM 機能を設定した場合でも、電話回線の影響でエラーになることがあります。
- 電話回線にトラブルなどが発生した場合、受信に時間がかかることがあります。

メモ この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［受信機能設定］→［ECM 受信］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

受信モードを選択する（受信モード選択）

ファクス受信を自動受信に設定しているときに、以下の 2 つのモードを設定することができます。

重要
- 回線を増設した場合、この設定が機能するのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。
- それぞれの設定と電話機またはオプションのハンドセット・G2 の動作との関係は以下のとおりです。

接続電話タイプ	受信ジョブ状況内の設定	受信モード選択	電話機・ハンドセットの動作	備考
電話機 ハンドセット	手動受信	自動受信	鳴動する	
		FAX/TEL 切替	鳴動する	
	自動受信	自動受信	自動受信	
		FAX/TEL 切替	鳴動する	相手が電話の場合。 呼出開始時間後に鳴動。

メモ この機能はオプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ 自動受信

ファクスを受信すると、自動的に受信します。ただし、自動受信はファクス専用のため、相手先が電話をかけてきても自動的に受信動作になり、電話をうけることはできません。

メモ
- 本製品に電話機またはオプションのハンドセット・G2 を装着しているときは、電話をかけることができます。
- 自動受信時は、電話をかけることはできますが、うけることはできません。

■ FAX/TEL 切替

本製品に電話機またはオプションのハンドセット・G2 を装着しているときに、ファクスと電話を自動的に切り替えて使用することができます。相手先がファクスのときは自動的に受信し、電話のときは呼び出し音で知らせます。

メモ [FAX/TEL 切替] を設定するには、本製品に電話機またはオプションのハンドセット・G2 を装着する必要があります。

---

1 (初期設定／登録) → [送信 / 受信仕様設定] → (ファクス設定) [受信機能設定] → [受信モード選択] を押します。

2 ［自動受信］または［FAX/TEL 切替］を選択します。

●［自動受信］を選択した場合

❑［OK］を押します。

重要 ［自動受信］を設定した場合に［着信呼出］を「OFF」に設定しても、スリープ時の消費電力を「少ない」に設定している場合、本製品がスリープモードや節電モードに入っていると、電話機またはハンドセット・G2 の呼び出し音が鳴ります。

●［FAX/TEL 切替］を選択した場合

❑［詳細設定］を押して、各項目を設定したあと、［OK］→［OK］を押します。



［呼出開始時間］：

［呼出開始時間］を押したあと、［−］［+］で設定します。

電話をうけてから呼び出し音を鳴らすまでの時間を設定します。

［呼出時間］：

［呼出時間］を押したあと、［−］［+］で設定します。

呼び出し音を鳴らし続ける時間を設定します。

［呼出後の動作］：

呼び出し音を鳴らしても、こちらが電話に出ないときの本製品の動作を設定します。

［終了］：こちらが電話に出ないとき、自動的に電話を切ります。

［受信］：こちらが電話に出ないとき、自動的に受信動作に切り替わります。

［音声応答］：

応答メッセージを流すかどうか設定します。

［ON］： 応答メッセージが流れます。

［OFF］： 応答メッセージが流れません。

重要 ［FAX/TEL 切替］を設定した場合に［着信呼出］を「OFF」に設定しても、スリープ時の消費電力を「少ない」に設定している場合、本製品がスリープモードや節電モードに入っていると、電話機またはハンドセット・G2 の呼び出し音が鳴ります。

着信時の呼び出し音を設定する（着信呼出）

ファクス受信を自動受信に設定しているときも、着信時に呼び出し音を鳴らすかどうか設定できます。

重要 回線を増設した場合、この設定が機能するのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。

メモ
- この機能はオプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ［着信呼出］を設定するには、本製品に電話機またはオプションのハンドセット・G2 を装着する必要があります。
- 呼出回数は、PBX　に接続されている場合など、呼出信号によって鳴動回数が変わることがあります。

1 ⚙（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［受信機能設定］→［着信呼出］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択します。

●［ON］を選択した場合

❑［−］［+］で呼出回数を設定したあと、［OK］を押します。



●［OFF］を選択した場合

❑［OK］を押します。

重要 ［受信モード選択］を［自動受信］または［FAX/TEL 切替］に設定している場合に［着信呼出］を「OFF」に設定していてもスリープ時の消費電力を「少ない」に設定している場合、本製品がスリープモードや節電モードに入っていると、電話機またはハンドセット・G2 の呼び出し音が鳴ります。呼び出し音を鳴らさないようにするには、共通仕様設定（初期設定／登録）のスリープ時の消費電力を「多い」に設定します。（→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」）

リモート受信の設定をする（リモート受信）

ファクス受信を手動受信に設定しているときに、本製品に接続した電話機から、ID 番号を入力してファクス文書を受信することができます。

重要 回線を増設した場合、この設定が機能するのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。

メモ
- この機能はオプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ［リモート受信］を設定するには、本製品に電話機を接続する必要があります。
- ID 番号はプッシュ音（ピポパ音）で送出されるため、プッシュ音を送出できない電話機（回転ダイヤル式電話機など）から ID 番号を入力することはできません。

1 （初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［受信機能設定］→［リモート受信］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択します。

●［ON］を選択した場合

❑ ［−］［+］でリモート受信 ID 番号を設定したあと、［OK］を押します。



重要 1 桁の番号を設定した場合、電話機から ID 番号を入力するときは、最初の桁の「0」は必ず入力してください。
例：「09」を設定した場合
電話機からは ID 番号を「0」「9」の順に入力します。

●［OFF］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

自動受信切替を設定する（自動受信切替）

ファクス手動受信設定時に、一定の時間呼び出すと、自動的に自動受信に切り替わるように設定できます。

重要 回線を増設した場合、この設定が機能するのは回線 1（標準回線）のみです。回線 1（標準回線）にてお使いください。

メモ
- この機能はオプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ［自動受信切替］を設定するには、本製品に電話機またはオプションのハンドセット・G2 を装着する必要があります。

1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［受信機能設定］→［自動受信切替］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択します。**

●［ON］を押した場合

❑［−］［+］で呼出秒数を設定したあと、［OK］を押します。



●［OFF］を押した場合

❑［OK］を押します。

ナンバーディスプレイ着信受付の設定をする（ナンバーディスプレイ着信受付）

ナンバーディスプレイ（発信者番号通知）サービスの加入回線から発信されたファクスを自動受信することができます。

メモ
- オプションの FAX ボード装着時で、ファクスを送信するときは、この設定は無効になります。
- オプションのマルチポートFAXボードを装着している場合は、回線ごとに設定することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［受信機能設定］→［ナンバーディスプレイ着信受付］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

設定項目：

［ON］： 相手先がナンバーディスプレイサービスに加入している場合でもファクスを自動受信します。

［OFF］： 相手先がナンバーディスプレイサービスに加入している場合は、着信後回線が切断されます。

重要 本製品は、ナンバーディスプレイサービスには対応しておりませんので発信者番号を受信することはできません。

増設した回線のファクス番号を登録する（ユーザ電話番号の登録）

本製品で増設した回線のファクスを使用するときのファクス番号を登録します。登録したファクス番号は、原稿を送信したとき、発信元記録として相手先の記録紙にプリントされます。

相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレイなどにも表示されます。

メモ　この機能は、オプションのマルチポート FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1　(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［増設回線設定］→［ユーザ電話番号の登録］を押します。

2　登録するファクス番号を0〜9（テンキー）で入力したあと、［OK］を押します。

表示される項目

［スペース］：　局番とファクス番号の間に空白（スペース）を入れる場合に使用します。

［+］：　ファクス番号に国番号を入れる場合に国番号とファクス番号の間に使用します。

［◀］［▶］：　カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：　カーソルの前の 1 文字を削除するときに押します。

増設した電話回線のユーザ略称を登録する（ユーザ略称の登録）

会社や部署の名称などをユーザ略称に登録します。

登録したユーザ略称は、増設した回線で原稿を送信したとき、発信元記録として相手先に表示／プリントされます。相手先の機種によっては、通信中にタッチパネルディスプレイなどにも表示されます。

メモ　この機能は、オプションのマルチポート FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［増設回線設定］→［ユーザ略称の登録］を押します。**

2 **名称を入力したあと、［OK］を押します。**

増設した電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）

マルチ回線をご使用の場合は、増設した電話回線の種類を設定します。設定が誤っていると通信することができません。電話回線の種類を確認して、正しく設定してください。

メモ　この機能は、オプションのマルチポート FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **（初期設定／登録）→［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［増設回線設定］→［回線種類の選択］を押します。**

2 **回線の種類を選択したあと、［OK］を押します。**

電話回線の種類がわからないときは、最寄のお客様が契約している電話会社の支店、営業所にお問い合わせください。

回線を選択して送信する（送信回線の選択）

送信回線の選択方式を登録します。

メモ
- この機能は、オプションのマルチポートFAXボードを装着している場合に使用することができます。
- 送信設定画面やワンタッチ短縮画面で回線を選択した場合は、その設定が優先されます。

1 (初期設定／登録) →［送信 / 受信仕様設定］→（ファクス設定）［増設回線設定］→［送信回線の選択］を押します。

2 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



＜回線 1 ＞

［優先送信］：送信するときに、回線 1 が使用中でなければ回線 1 を選択して送信します。

［送信禁止］：回線 1 の送信を禁止します。（回線 1 は受信専用になります。）送信はすべて回線 2 を使用します。回線 2 を使用中の場合は、送信待ちになります。

＜回線 2 ＞

［優先送信］：送信するときに、回線 2 が使用中でなければ回線 2 を、回線 2 が使用中の場合は回線 1 を選択して送信します。

［送信禁止］：回線 2 の送信を禁止します。（回線 2 は受信専用になります。）送信はすべて回線 1 を使用します。回線 1 が使用中の場合は送信待ちになります。

重要　回線 1 を送信禁止にしてもプッシュホンサービスの通信は回線 1 が使われます。

10
CHAPTER

宛先の登録／編集

宛先表に各種の宛先を登録する方法や、登録した内容を変更、消去する方法について説明しています。

宛先表仕様設定一覧表 10-2
宛先表について 10-3
宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録） 10-5
ファクス番号を登録する 10-6
電子メールアドレスを登録する 10-11
Iファクスアドレスを登録する 10-14
ファイルサーバのアドレスを登録する 10-20
グループ宛先を登録する 10-23
サーバから検索した宛先を登録する 10-27
宛先の登録内容を変更する 10-34
宛先を消去する 10-36
宛先表の名称を登録する（宛先表の名称登録） 10-37
ワンタッチボタンの登録／編集をする 10-38
ワンタッチボタンの内容を消去する 10-41

宛先表仕様設定一覧表

宛先表仕様設定で登録／設定できる項目を以下に示します。

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
宛先の登録	新規宛先の登録 詳細／編集 消去	○	P.10-5
宛先表の名称登録	名称登録	○	P.10-37
ワンタッチボタンの登録	登録／編集、消去	○	P.10-38

メモ

- 本書に記載していないモードの設定のしかたについては、別冊の取扱説明書を参照してください。（→取扱説明書の分冊構成について）
- 機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、ユーザーズガイド「第６章　システム管理設定」を参照してください。
  - ・○：機器情報配信対象
  - ・×：機器情報配信対象外

宛先表について

宛先表とは、ファクス、電子メール、I ファクス、ファイルサーバなどの送信先を登録しておくことのできる機能です。宛先表は宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタンにグループ分けされており、宛先表に 1600 件、ワンタッチボタンに 200 件、あわせて最大で 1800 件まで送信先を登録することができます。宛先表に送信先を登録することで、送信するたびに送信先を入力する手間が省けます。また、自分の電子メールアドレスを登録しておけば、電子メールの返信アドレスを指定したり、ジョブ終了通知機能を使用することもできます。

登録できる宛先の種類は以下のとおりです。

メモ
- 宛先はそれぞれが 1 件として扱われるため、グループ宛先に電子メールが登録されている場合は、グループ、電子メールの 2 件として扱われます。同様に、グループ宛先にファクスが登録されている場合は、グループ、ファクスの 2 件として扱われます。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先やグループ宛先を登録することができます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先やグループ宛先を登録することができます。
- 宛先表に登録した宛先は、パソコンのファイルに保存したり、ファイルから読み込んで本製品に登録することができます。宛先を保存する方法は、リモート UI ガイド「第 3 章 使いかたにあわせた設定」を参照してください。

■ ファクス
ファクス番号や F コード、パスワードなどを登録することができます。

ディレクトリサーバ（LDAP）から検索して取得したファクス番号も登録することができます。

■ 電子メール
電子メールアドレスを登録することができます。

ディレクトリサーバ（LDAP）から検索して取得した電子メールアドレスも登録することができます。

■ I ファクス
I ファクスアドレスやモード選択、相手先の条件などを登録することができます。

ディレクトリサーバ（LDAP）から検索して取得した電子メールアドレスを、I ファクスアドレスとして登録することもできます。

■ ファイル
読み込んだ原稿をファイルサーバに保存するための、プロトコルやホスト名、フォルダへのパスなどを登録することができます。

メモ ファイルサーバへ送信するときの設定の例については、「ネットワークガイド」を参照してください。

■ **グループ**

グループは複数の種類の送信先を 1 つにまとめて登録することができます。また、グループ登録した複数の送信先を用途に応じて使い分けることができます。

メモ
- 新規宛先をグループ宛先に登録することはできません。宛先はあらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。
- グループ宛先には、異なる宛先表に登録されている宛先は登録することができません。

宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）

宛先表に送信先を登録しておくことで、送信するたびに宛先を入力する手間が省けるほか、各種の設定を行う際、送信先を宛先表から選択することができます。

メモ

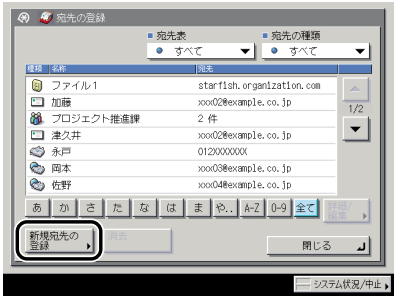
- アクセス番号管理をするときは、システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定しておきます。（→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20）
- アクセス番号管理をしている場合で、登録に必要な項目が入力されていないときは、その項目を入力する画面が表示されます。
- アクセス番号管理をしているときに、システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」）
- アクセス番号は 7 桁まで登録できます。7 桁に満たない場合は以下のようになります。
  例：「321」と入力 →「0000321」と設定されます。
  「0」、「00」のような「0」だけの連数字をアクセス番号として登録することはできません。また、「02」、「002」のように「0」から始まる番号を入力した場合は、「0」の入力は認識されず「2」と入力したときと同じ「0000002」として設定されます。

ファクス番号を登録する

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] を押します。**

2 **[新規宛先の登録] を押します。**



3 **[ファクス] を押します。**



4 ［名称］を押します。



5 宛先の名称を入力したあと、［次へ］を押します。

6 宛先の名称のフリガナを入力したあと、［OK］を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ　宛先表画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、ここで入力したフリガナの 1 文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示することができます。

7 宛先表ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、宛先表を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。これらの宛先表をサブ宛先表と呼びます。

ここで選択したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10）に、ファクス番号が登録されます。

8 ⓪～⑨、⊛、⊞（テンキー）でファクス番号を入力します。

表示される項目

［ポーズ］：　海外への送信のときに、国際電話識別番号などの次や、ファクス番号の末尾で押します。数字と数字の間で［ポーズ］を押すと「p」と表示され、数字の末尾で［ポーズ］を押すと「P」と表示されます。（→ ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）：P.9-48）

［トーン］：　ダイヤル回線から、プッシュ信号を入力する前に押します。［トーン］を押すと、「T」と表示されます。ダイヤル回線に接続している場合でも、プッシュホンサービスなどを利用することができます。（→ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7）

［◀］［▶］：　カーソルを移動するときに押します。

［バックスペース］：　数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が消去されて、正しい数字が入力できます。

［スペース］：　局番とファクス番号の間などにスペースを入力するときに押します。

［詳細設定］：　F コード、パスワード、ECM 送信、送信スピード、国際送信を設定するときに押します。必要に応じて設定してください。

［F ネット］：　F ネットのファクス番号を入力するときに押します。［F ネット］を押すと、「.」と表示されます。（→ F ネットを利用する：P.7-4）

重要　ポーズ、スペース、F ネットはファクス番号の先頭に入力することはできません。

メモ　ファクス番号の末尾にポーズを入れた場合は、ポーズ時間は 10 秒固定になります。

●［詳細設定］を押した場合

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



［F コード］、［パスワード］：

［F コード］を押して、⓪～⑨、#、*（テンキー）で入力します。

［パスワード］を押して、⓪～⑨、#、*（テンキー）で入力します。［確認入力］を押して、同じパスワードを入力したあと、［OK］を押します。

スペースを入力するときは［スペース］を押します。

［バックスペース］を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

＜ ECM 送信＞：

［ON］または［OFF］を押します。

＜送信スピード＞：

送信スピードドロップダウンリストを押したあと、送信スピードを選択します。

「33600bps」から「14400bps」、「9600bps」、「4800bps」の順にスピードを下げて、調整してください。

＜国際送信＞：

国際送信ドロップダウンリストを押して、目的の項目を選択します。

国際送信は、海外送信（海外のファクス番号を登録している場合）で、通信エラーがよく発生するときは［国際送信（1）］を設定してください。エラーが解消されないときは、［国際送信（2)］、［国際送信（3)］の順で設定を変更してください。

＜回線選択＞：

回線選択ドロップダウンリストを押して、回線を選択します。

回線 1：標準回線

回線 2：増設した回線

自動選択：初期設定／登録の増設回線設定の「回線を選択して送信する（送信回線の選択)」（→ P.9-62）の設定に従って、どちらかの回線が選択されます。

重要 Fコードを付加して送信する場合は、送信先のファクス機がITU-T（国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門）規格に準拠したFコード通信に対応している必要があります。

メモ
- ＜回線選択＞はマルチポートFAXボード装着時に表示されます。
- パスワードを入力するときに、システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示のON/OFFを「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ユーザーズガイド「第6章 システム管理設定」）

9 宛先の登録を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑［次へ］を押します。

❑［アクセス番号］を押します。

❑［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

❑［確認入力］を押して、同じアクセス番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま［OK］を押します。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑［OK］を押します。

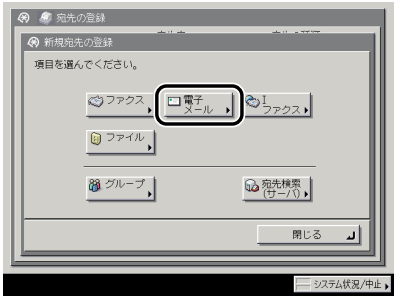
電子メールアドレスを登録する

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] → [新規宛先の登録] を押します。**

この手順の画面を確認する場合は、「ファクス番号を登録する」(→P.10-6) の手順 1、2 を参照してください。

2 **[電子メール] を押します。**



3 **[名称] を押します。**



4 **宛先の名称を入力したあと、[次へ] を押します。**

5 宛先の名称のフリガナを入力したあと、[OK] を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ　宛先表画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、ここで入力したフリガナの 1 文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示することができます。

6 宛先表ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、宛先表を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。これらの宛先表をサブ宛先表と呼びます。

ここで選択したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10）に、電子メールアドレスが登録されます。

7 [電子メールアドレス] を押してアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

8 データ分割の [ON] または [OFF] を選択します。

選択する項目

［ON］：　相手先のメールソフトに、分割されたデータを結合する機能がある場合は、［ON］に設定します。添付画像のデータサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、複数のデータに分割して送信します。相手先ですべての分割データを受信したら 1 つのデータに結合されます。

［OFF］：　相手先のメールソフトに、分割されたデータを結合する機能がない場合は、［OFF］に設定します。添付画像のデータサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、添付画像をページ境界で区切り、複数のメールに分割して送信します。

重要　相手先のメールソフトの仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ　送信データサイズ上限値の詳細は、「電子メール／ I ファクス共通の通信設定をする」（→ P.11-6）を参照してください。

9 宛先の登録を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑ [次へ] を押します。

❑ [アクセス番号] を押します。

❑ [アクセス番号] を押したあと、⓪～⑨ (テンキー) でアクセス番号を入力します。

❑ [確認入力] を押して、同じアクセス番号を入力したあと、[OK] → [OK] を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま [OK] を押します。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑ [OK] を押します。

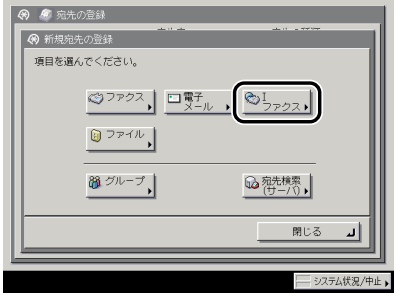
Iファクスアドレスを登録する

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 **(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] → [新規宛先の登録] を押します。**

この手順の画面を確認する場合は、「ファクス番号を登録する」(→P.10-6) の手順 1、2 を参照してください。

2 **[I ファクス] を押します。**



3 **[名称] を押します。**



4 **宛先の名称を入力したあと、[次へ] を押します。**

5 宛先の名称のフリガナを入力したあと、[OK] を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ　宛先表画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、ここで入力したフリガナの 1 文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示することができます。

6 宛先表ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、宛先表を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。これらの宛先表をサブ宛先表と呼びます。

ここで選択したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10）に、I ファクスアドレスが登録されます。

7 モード選択ドロップダウンリストを押したあと、[Simple] または [Full] を選択します。

選択する項目

［Simple］： インターネットなどを利用して、読み込んだデータを画像として送信します。

［Full］： Simple モードの送信機能に加え、データの送達確認を行います。

Full モードで送信する場合、受信機側が Full モードに対応している必要があります。Full モードで送信すると、I ファクスの送達確認をすることができます。

メモ
- NTT コミュニケーションズのインターネットファクス中継サービスを利用する場合は、「Simple」を選択してください。これにより、読み込まれたデータがファクスへ転送されます。なお、このサービスを利用するには、NTT コミュニケーションズとの契約が必要です。詳しくは NTT コミュニケーションズにお問い合わせください。
- Full モードに対応していない機器に Full モードで送信すると、送達確認を行うことができません。そのため、送信自体は完了していてもジョブは終了しません。このようなジョブは、システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定で設定した Full モードの送信タイムアウトが経過するまで、ジョブ状況の画面で「送信結果待ち」と表示されます。Full モードの送信タイムアウトが経過すると、ジョブ履歴に移行します。送信結果は「--」と表示されます。

8 [I ファクスアドレス] を押してアドレスを入力したあと、[OK] を押します。

メモ　サーバの経由をしないで送信する場合に、送信先の IP アドレスが DNS サーバに登録されていないときは、「user@［送信先の IP アドレス］」と入力します。「user」には任意の文字列を入力してください。

9 [定型文 1]、[定型文 2] を押して定型文を入力したあと、[OK] を押します。

定型文 1、2 は、インターネットファクス中継サービスなどを利用するときに使用します。詳しくは、サービスの提供会社にご連絡ください。

サービスを利用していない場合は、この設定は必要ありません。

メモ　[OK] を押したあと、定型文は「＊＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

10 サーバの経由の [ON] または [OFF] を選択します。

選択する項目

[ON]：　サーバを経由して送信します。電子メールと同じように、インターネットを経由する宛先にも送信することができます。

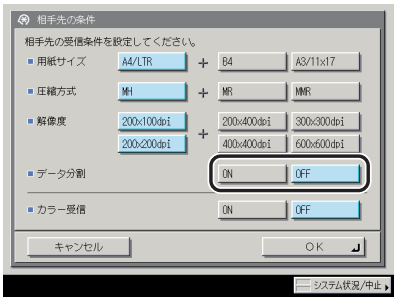
[OFF]：　サーバを経由しないで送信します。同じ LAN 環境の相手に送信したいとき、大きな画像データをメールサーバに負担をかけずに送ることができます。また、送信した文書をすぐに相手に届けることができます。この機能を使用するには、DNS サーバの MX(Mail eXchange) レコードなどの設定が必要です。あらかじめシステム管理者に送信ができるかどうか確認してからご利用ください。

定型文を登録した場合は、サーバの経由を「ON」に設定してください。

重要　サーバの経由をしないで送信する場合は、あらかじめ通信管理設定（初期設定／登録）の I ファクス設定で「サーバの経由を使用」を「ON」に設定しておく必要があります。「サーバを経由しない MDN を許可」は「ON」に設定しておくことをおすすめします。「サーバの経由を使用」を「OFF」に設定した場合は、「サーバの経由」がグレーアウトして、設定ができません。（→ I ファクスの設定をする：P.11-9）

メモ　サーバの経由を「OFF」に設定した場合でも、Full モードで送信する際の I ファクス送達確認はサーバ経由で行われます。

11 [相手先の条件]を押したあと、データ分割の[ON]または[OFF]を選択します。



選択する項目

[ON]： 相手先の機械に、分割されたデータを結合する機能がある場合は、[ON]に設定します。送信データサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、複数のデータに分割して送信します。相手先ですべての分割データを受信したら１つのデータに結合されます。

[OFF]： 相手先の機械に、分割されたデータを結合する機能がない場合は、[OFF]に設定します。送信データサイズがシステム管理設定（初期設定／登録）の「送信データサイズ上限値」で設定した上限値を超えた場合は、送信エラーになります。

重要 相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ 送信データサイズ上限値の詳細は、「電子メール／Ｉファクス共通の通信設定をする」（→P.11-6）を参照してください。

12 相手先の受信条件を設定します。

● 白黒で送信する場合

❑ カラー受信の［OFF］を押します。

❑ 用紙サイズ、圧縮方式、解像度を設定したあと、［OK］を押します。

以下の条件は、自動的に設定されます。

- 用紙サイズ： A4/LTR
- 圧縮方式： MH
- 解像度： 200 × 100 dpi、200 × 200 dpi

A5 は［A4/LTR］に含まれます。

重要 相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

メモ 圧縮方式の内容は以下のとおりです。

・MH（Modified Huffman）： 連続する白や黒のドットを、ドット数に応じて符号化して送信します。

・MR（Modified Read）： 連続する白や黒のドットを、ドット数に応じて符号化して送信します。先に読み取られた行との差分を符号化していくため、MH よりも効率的な圧縮を行います。

・MMR（Modified Modified Read）：圧縮率が MR よりも高いので、MR よりも早く送信することができます。

● カラーで送信する場合

❑ カラー受信の［ON］を押したあと、［次へ］を押します。

❑ 用紙サイズ、解像度を設定したあと、［OK］を押します。

以下の条件は、自動的に設定されます。

- 用紙サイズ： A4/LTR
- 解像度： 200 × 200 dpi

A5 は［A4/LTR］に含まれます。

重要 相手先の機械の仕様を確認してから設定してください。相手先で使用できない設定をした場合、エラーが発生することがあります。

13 宛先の登録を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑ [次へ] を押します。

❑ [アクセス番号] を押します。

❑ [アクセス番号] を押したあと、⓪～⑨ (テンキー) でアクセス番号を入力します。

❑ [確認入力] を押して、同じアクセス番号を入力したあと、[OK] → [OK] を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま [OK] を押します。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑ [OK] を押します。

ファイルサーバのアドレスを登録する

重要 共通仕様設定（初期設定／登録）の表示言語の切替を「ON」にすると、「ホスト名」や「フォルダへのパス」が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ
- この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。
- ファイルサーバへ送信するときの設定の例については、「ネットワークガイド」を参照してください。
- UPNを使用できるのは、Active Directoryで運用されているドメインに属するコンピュータへ送信する場合のみです。
- 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定で、FTP送信指定にASCIIコード以外を許可が「ON」に設定されている場合は、FTP選択時もホスト名、フォルダへのパスを「かな漢」「カタカナ」「記号（全角）」「コード入力」モードで登録することができます。

---

1 (初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] → [新規宛先の登録] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファクス番号を登録する」（→P.10-6）の手順1、2を参照してください。

2 [ファイル] を押します。



3 ［名称］を押します。



4 宛先の名称を入力したあと、［次へ］を押します。

5 宛先の名称のフリガナを入力したあと、［OK］を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ　宛先表画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、ここで入力したフリガナの 1 文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示することができます。

6 宛先表ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、宛先表を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。これらの宛先表をサブ宛先表と呼びます。

ここで選択したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10）に、ファイル宛先が登録されます。

7 プロトコルドロップダウンリストを押したあと、プロトコルを選択します。

メモ　使用できるプロトコルについては「キーボード画面を使ってファイルサーバを指定する」（→P.2-12）を参照してください。

8 [ホスト名]、[フォルダへのパス]、[ユーザ名] および [パスワード] の設定をします。

メモ　FTP、Windows（SMB）、NetWare（IPX）、WebDAV の設定については、「ファイルサーバを指定する」（→P.2-11）を参照してください。

9 宛先の登録を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑ [次へ] を押します。

❑ [アクセス番号] を押します。

❑ [アクセス番号] を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

❑ [確認入力] を押して、同じアクセス番号を入力したあと、[OK] → [OK] を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま [OK] を押します。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑ [OK] を押します。

グループ宛先を登録する

グループ宛先とは、すでに登録されている最大 256 件までの各宛先を 1 つの宛先として登録する機能です。

重要 グループ宛先に登録するファクス、電子メール、ファイルサーバなどの各宛先を登録してから、グループ宛先の登録を行ってください。

メモ
- グループ宛先には、違うサブ宛先表の宛先は登録することができません。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先や、保管するボックス先を 1 つのグループに登録することができます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先や、保管するボックス先を 1 つのグループに登録することができます。

1 (初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] → [新規宛先の登録] を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファクス番号を登録する」(→ P.10-6) の手順 1、2 を参照してください。

2 [グループ] を押します。



3 [名称] を押します。



4 宛先の名称を入入力したあと、[次へ] を押します。

5 宛先の名称のフリガナを入力したあと、[OK] を押します。

前の手順で入力した文字のフリガナが、あらかじめ入力されています。

メモ　宛先表画面で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、ここで入力したフリガナの 1 文字目をもとに宛先を限定し、並べ替えて表示することができます。

6 宛先表ドロップダウンリストを押したあと、宛先表 1 ～ 10 のいずれかを選択します。

宛先表 1 ～ 10 は、宛先表を 10 個に分けているものです。宛先をグループ分けするときなどに便利です。これらの宛先表をサブ宛先表と呼びます。

ここで選択したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10）に、グループ宛先が登録されます。

7 ［宛先表］または［ボックスに保管］を選択します。

グループ宛先に登録することができる宛先は、グループ宛先と同じサブ宛先表内に登録されている宛先のみです。

異なるサブ宛先表からの宛先の登録はできません。例えば、宛先表 1 から電子メールアドレスを登録し、宛先表 2 からファイルサーバを登録することはできません。

●［宛先表］を選択した場合

❑ 宛先表から登録する宛先を選択したあと、［OK］を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、［アクセス番号］を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26)

指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択してチェックマークを解除します。

［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。オプションの FAX ボードのみ装着している場合は、ドロップダウンリストは表示されません。

宛先を選択したあと［詳細情報］を押すと、選択した宛先の詳細情報を確認することができます。元の画面に戻るときは、［閉じる］を押します。

手順 7 を繰り返して、他の宛先も同様に登録します。

メモ ［アクセス番号］はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

●［ボックスに保管］を選択した場合

❑ ボックス画面から保管先のユーザボックスを選択したあと、［OK］を押します。

メモ 1 つのグループ宛先に登録できるボックスは 1 つです。

● 宛先を消去する場合

❑ 登録されている宛先を選択したあと、［消去］を押します。

8 宛先の登録を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑ [次へ] を押します。

❑ [アクセス番号] を押します。

❑ [アクセス番号] を押したあと、⓪～⑨ (テンキー) でアクセス番号を入力します。

❑ [確認入力] を押して、同じアクセス番号を入力したあと、[OK] → [OK] を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま [OK] を押します。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑ [OK] を押します。

サーバから検索した宛先を登録する

ネットワーク上のディレクトリサーバ（LDAP）から宛先を検索し、宛先表に登録することができます。

メモ
- 設置されるネットワーク環境に応じて、あらかじめ LDAP サーバの設定が必要です。
- サーバの設定については、「LDAP サーバの設定をする」（→ P.11-48）を参照してください。
- サーバから取得できる情報は、オプションの装着状況により次のようになります。
  - ・Send 拡張キットを有効にして、FAX ボードを装着していない場合：名前（フリガナを除く）、電子メールアドレス
  - ・FAX ボードを装着して、Send 拡張キットを有効にしていない場合：名前（フリガナを除く）、ファクス番号
  - ・Send 拡張キットを有効にして、さらに FAX ボードを装着している場合：名前（フリガナを除く）、電子メールアドレス、ファクス番号

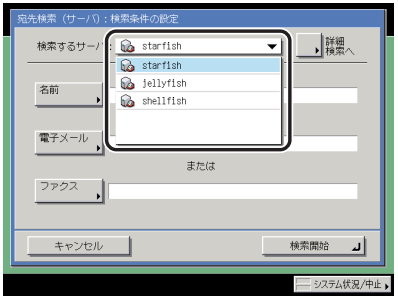
1 （初期設定／登録）→［宛先表仕様設定］→［宛先の登録］→［新規宛先の登録］を押します。

この手順の画面を確認する場合は、「ファクス番号を登録する」（→ P.10-6）の手順 1、2 を参照してください。

2 ［宛先検索（サーバ）］を押します。



3 検索するサーバドロップダウンリストを押したあと、検索するサーバを選択します。



4 検索条件を指定します。

メモ　検索する宛先に、電子メールアドレスとファクス番号の両方が登録されている場合は、検索条件にファクス番号の情報を入力して電子メールアドレスを検索したり、電子メールアドレスの情報を入力してファクス番号を検索することができます。

● 簡易検索を使用する場合

❑ ［名前］、［電子メール］または［ファクス］を押して、検索する名前、電子メールアドレスまたはファクス番号を入力したあと、［OK］を押します。

入力しない項目については検索されません。

複数の条件を組み合わせて検索したい場合は、［詳細検索へ］を押して詳細検索に切り替えます。簡易選択画面で入力した条件は、詳細検索画面に引き継がれます。

● **詳細検索を使用する場合**

❑ [詳細検索へ] を押します。

❑ 検索項目を選択するドロップダウンリストを押したあと、検索項目を選択します。

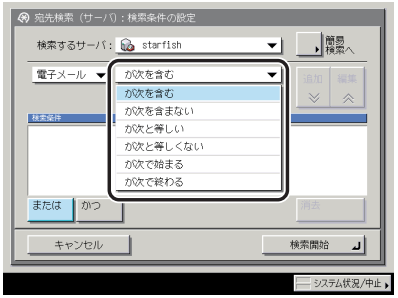
検索項目の内容は以下のとおりです。

- [名前]： 宛先名から検索します。
- [電子メール]： 電子メールアドレスから検索します。
- [ファクス]： ファクス番号から検索します。
- [組織]： 組織から検索します。
- [組織単位]： 組織内の部署などの単位から検索します。

例えば、LDAP サーバのディレクトリ上のユーザ識別名が cn=user1, ou=salesdept, o=canon, c=jp の場合は、以下のように検索を行うユーザの組織／組織単位を入力します。
組織：canon
組織単位：salesdept

メモ
- 組織／組織単位は LDAP サーバ側に情報として登録されている場合のみ、検索条件として使用できます。
- 組織／組織単位での詳細検索は、LDAP サーバ側にその属性が登録されているかや、サーバのアプリケーションの種類によって検索できない場合もあります。
- 検索項目は上記のほかに任意で追加することができます。検索項目追加の詳細については、「LDAP サーバの設定をする」(→ P.11-48) を参照してください。

❑ 条件式を選択するドロップダウンリストを押して、条件式を選択したあと、［設定］を押します。



条件式の内容は以下のとおりです。

- ［が次を含む］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件を含む。
- ［が次を含まない］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件を含まない。
- ［が次と等しい］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件と同じ。
- ［が次と等しくない］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件と異なる。
- ［が次で始まる］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件で始まる。
- ［が次で終わる］：　名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位が入力した条件で終わる。

❑ 検索する文字列を入力したあと、［OK］を押します。

❑ ［追加］を押します。

さらに条件を追加する場合は、［または］あるいは［かつ］を選択したあと、手順４を繰り返して検索条件を指定します。

- ［または］：　条件のいずれか１つに当てはまる宛先が検索されます（or 検索）。
- ［かつ］：　条件のすべてに当てはまる宛先が検索されます（and 検索）。

登録した条件を訂正する場合は、検索条件リストから訂正する条件を選択したあと、［編集］→［設定］を押します。削除する場合は、［消去］を押します。

メモ
- 検索条件は同時に最大４件指定することができます。
- ３つ以上の条件を指定する場合、［または］と［かつ］を混在させることはできません。
- 詳細検索画面で条件を設定したあと、［簡易検索へ］を押して簡易検索画面に切り替えると、設定した条件は消去されます。

5 [検索開始] を押します。

検索中に検索を中止する場合は、[中止] を押します。中止した場合はその時点までの検索結果を表示します。

重要

- LDAP サーバから宛先を検索する場合、サーバと本製品の時刻の設定が 5 分以上ずれていると検索することができません。ユーザ名、パスワードが正しいにもかかわらず検索できない場合は、サーバと本製品に設定されている時刻を確認してください。
- 検索結果は、システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で設定されている宛先の上限数までしか表示されません。目的の宛先が表示されない場合は、上限数を増やすか、検索条件を変更して再検索してください。(→ LDAP サーバの設定をする：P.11-48)

メモ

検索条件を指定せずに [検索開始] を押した場合は、サーバ（LDAP）に登録されているすべての宛先が表示されます。

● ネットワークパスワードの入力画面が表示された場合

❑ 各項目を設定したあと、[OK] を押します。

ネットワークパスワードの入力画面は以下の場合に表示されます。

- システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で、検索時に認証画面を表示を「ON」に設定した場合
- システム管理設定（初期設定／登録）の LDAP サーバの登録で設定したユーザ名、パスワードまたはドメイン名が間違っている場合

[ユーザ名]：

[ユーザ名] を押して、ユーザ名を入力したあと、[OK] を押します。

[パスワード]：

[パスワード] を押して、パスワードを入力したあと、[OK] を押します。

[OK] を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

6 検索結果から宛先表に登録する宛先を選択したあと、[次へ] を押します。

再度検索を行う場合は、[戻る] を押します。

複数の宛先を指定することができます。

宛先を先頭から 64 件目まですべて選択するには、[全選択 (64 件まで)] を押します。(宛先を選択しているときは、[選択解除] に変わります。)

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、条件に合う電子メールの宛先が表示されます。このとき [電子メールを I ファクス登録する] を「ON」にすると、選択した電子メールの宛先を I ファクスの宛先として登録することができます。I ファクスの宛先として登録する場合は、1 件ずつ登録してください。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、条件に合うファクスの宛先が表示されます。

オプションの Send 拡張キットを有効にし、FAX ボードを装着している場合は、宛先の種類ドロップダウンリストを押して、表示する宛先の種類を限定することができます。

メモ　指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択してチェックマークを解除します。

7 宛先を登録します。

重要 サーバから取得できる情報は、フリガナを除く名前、電子メールアドレス、ファクス番号のみです。必要に応じて、フリガナを登録してください。フリガナが登録されていないと、宛先表で［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを使って表示する宛先を限定することはできません。

● 選択した宛先が 1 件の場合

❑ 宛先を確認したあと、［OK］を押します。

必要に応じて、宛先の内容を編集します。

システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理が「ON」に設定されている場合は、［次へ］を押します。

［アクセス番号］を押します。

［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

［確認入力］を押して、同じアクセス番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま［OK］を押します。

● 選択した宛先が複数件の場合

❑ 登録先の宛先表を選択したあと、［OK］を押します。

システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理が「ON」に設定されている場合は、［アクセス番号］を押します。

［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

［確認入力］を押して、同じアクセス番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま［OK］を押します。

❑ ファクス、I ファクスを新規宛先として登録する場合は、表示されたメッセージを確認したあと、［OK］を押します。

メモ 一度に選択できる宛先は、最大 64 件です。

● 選択した宛先を I ファクスとして登録する場合

❑ 宛先を確認したあと、［OK］を押します。

必要に応じて、宛先の編集をします。

システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理が「ON」に設定されている場合は、［次へ］を押します。

［アクセス番号］を押します。

［アクセス番号］を押したあと、⓪～⑨（テンキー）でアクセス番号を入力します。

［確認入力］を押して、同じアクセス番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま［OK］を押します。

宛先の登録内容を変更する

必要に応じて、登録してある宛先の内容を変更します。

1 ◎(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] を押します。

2 変更する宛先を選択したあと、[詳細 / 編集] を押します。

[あ]、[か]、[さ] などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表 (宛先表 1 ～ 10) ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

サブ宛先表の「ワンタッチボタン」を選択することはできません。

宛先表ドロップダウンリストで「すべて」を選択した場合、ワンタッチボタンに登録した宛先も表示されます。ただし、ワンタッチボタンに登録されている宛先の編集はできません。ワンタッチボタンの登録／編集は「ワンタッチボタンの登録／編集をする」(→ P.10-38) を参照してください。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号] を押したあと、◎0～◎9 (テンキー) でアクセス番号を入力します。[アクセス番号なし] を押すと、アクセス番号が設定されていない宛先が表示されます。

メモ [アクセス番号] はシステム管理設定 (初期設定／登録) の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

3 各項目の設定内容を変更します。

グループ宛先の宛先表の変更、およびグループ宛先に登録されている宛先の宛先表の変更はできません。

メモ
- ファクスの設定については、「ファクス番号を登録する」(→ P.10-6) を参照してください。
- 電子メールの設定については、「電子メールアドレスを登録する」(→ P.10-11) を参照してください。
- I ファクスの設定については、「I ファクスアドレスを登録する」(→ P.10-14) を参照してください。
- ファイルの設定については、「ファイルサーバのアドレスを登録する」(→ P.10-20) を参照してください。
- グループの設定については、「グループ宛先を登録する」(→ P.10-23) を参照してください。

4 宛先の編集を終了します。

● アクセス番号管理をしている場合

❑ [次へ] を押します。

❑ [アクセス番号] を押します。

❑ [アクセス番号] を押したあと、⓪〜⑨ (テンキー) でアクセス番号を入力します。

❑ [確認入力] を押して、同じアクセス番号を入力したあと、[OK] → [OK] を押します。

アクセス番号を指定しない場合は、空欄のまま [OK] を押します。

アクセス番号は 7 桁まで登録できます。7 桁に満たない場合は以下のようになります。

例：「321」と入力 →「0000321」と設定されます。

「0」、「00」のような「0」だけの連数字をアクセス番号として登録することはできません。また、「02」、「002」のように「0」から始まる番号を入力した場合は、「0」の入力は認識されず「2」と入力したときと同じ「0000002」として設定されます。

● アクセス番号管理をしていない場合

❑ [OK] を押します。

メモ
- アクセス番号管理をするときは、システム管理設定 (初期設定／登録) の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定しておきます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)
- アクセス番号管理をしている場合で、登録に必要な項目が入力されていないときは、その項目を入力する画面が表示されます。
- アクセス番号管理をしているときに、システム管理設定 (初期設定／登録) の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。(→ ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」)

宛先を消去する

宛先表に登録されている宛先を消去します。

1 (初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先の登録] を押します。

2 消去する宛先を選択したあと、[消去] を押します。

複数の宛先を一度に消去することはできません。

[あ]、[か]、[さ] などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10 ）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

サブ宛先表の「ワンタッチボタン」を選択することはできません。

宛先表ドロップダウンリストで「すべて」を選択した場合、ワンタッチボタンに登録した宛先も表示されます。ただし、ワンタッチボタンに登録されている宛先の消去はできません。ワンタッチボタンの消去は「ワンタッチボタンの内容を消去する」(→ P.10-41) を参照してください。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号] を押したあと、0 ～ 9 (テンキー) でアクセス番号を入力します。[アクセス番号なし] を押すと、アクセス番号が設定されていない宛先が表示されます。

メモ [アクセス番号] はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

3 [はい] を押します。

宛先表の名称を登録する（宛先表の名称登録）

宛先表に名称をつけることができます。

1 **(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [宛先表の名称登録] を押します。**

2 **名称をつける宛先表を選択したあと、[名称登録] を押します。**

3 **名称を入力したあと [OK] を押します。**

メモ　文字を入力していない状態で [OK] を押すと、宛先表の名称は宛先表 1 ～宛先表 10 になります。

4 **[OK] を押します。**

ワンタッチボタンの登録／編集をする

ワンタッチボタンには、200 件の宛先を登録することができます。ここではそれらの登録／編集の手順を説明します。

重要 共通仕様設定（初期設定／登録）の表示言語の切替を「ON」にすると、ファイルサーバ宛先の「ホスト名」や「フォルダへのパス」が正しく表示されなかったり、参照できないことがあります。

メモ
- ワンタッチボタンに登録した宛先は、宛先表にも表示されます。
- 新規宛先をワンタッチボタンのグループ宛先に登録することはできません。宛先はあらかじめワンタッチボタンに登録しておく必要があります。
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先やグループ宛先を登録することができます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先やグループ宛先を登録することができます。

1 (初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [ワンタッチボタンの登録] を押します。

2 登録または編集するボタンを選択したあと、[登録 / 編集] を押します。



ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、(短縮) を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を ⓪～⑨ (テンキー) で入力します。

すでに宛先を登録してあるワンタッチボタンを選択した場合は、手順 4 へ進み、必要に応じて編集します。

メモ
- すでに設定が登録されているワンタッチボタンには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されているワンタッチボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。
- グループ宛先で複数の宛先を登録したときは、登録した宛先数が表示されます。

3 [ファクス]、[電子メール]、[I ファクス]、[ファイル]、[グループ] または [宛先検索（サーバ)] を選択します。

●［ファクス］を選択した場合（FAX ボード装着時）

- ❑「ファクス番号を登録する」(→ P.10-6) の手順 4 ～ 6 に準じて [名称] を入力します。
- ❑［ワンタッチ名称］を押します。
- ❑ ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、［OK］を押します。
- ❑「ファクス番号を登録する」（→ P.10-6）の手順 8 に準じてファクス番号を入力します。

●［電子メール］を選択した場合（Send 拡張キットを有効にしたとき）

- ❑「電子メールアドレスを登録する」(→ P.10-11) の手順 3 ～ 5 に準じて宛先の［名称］を入力します。
- ❑［ワンタッチ名称］を押します。
- ❑ ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、［OK］を押します。
- ❑「電子メールアドレスを登録する」（→ P.10-11）の手順 7 ～ 8 に準じて電子メールアドレス、データ分割を設定します。

●［I ファクス］を選択した場合（Send 拡張キットを有効にしたとき）

- ❑「I ファクスアドレスを登録する」(→ P.10-14) の手順 3 ～ 5 に準じて [名称] を入力します。
- ❑［ワンタッチ名称］を押します。
- ❑ ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、［OK］を押します。
- ❑「I ファクスアドレスを登録する」(→ P.10-14) の手順 7 ～ 12 に準じて I ファクスのモード、I ファクスアドレス、定型文、サーバの経由の ON/OFF、相手先の受信条件を設定します。

●［ファイル］を選択した場合（Send 拡張キットを有効にしたとき）

- ❑「ファイルサーバのアドレスを登録する」(→ P.10-20) の手順 3 ～ 5 に準じて［名称］を入力します。
- ❑［ワンタッチ名称］を押します。
- ❑ ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、［OK］を押します。
- ❑「ファイルサーバのアドレスを登録する」(→ P.10-20) の手順 7 ～ 8 に準じてプロトコル、ホスト名、フォルダへのパス、ユーザ名、パスワードを設定します。

● [グループ] を選択した場合

❑ 「グループ宛先を登録する」(→ P.10-23) の手順 3 ～ 5 に準じて [名称] を入力します。

❑ [ワンタッチ名称] を押します。

❑ ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、[OK] を押します。

❑ [宛先指定] を押します。

❑ [宛先表]、ワンタッチボタン、[ボックスに保管] の中から、グループに登録する宛先を選択したあと [OK] を押します。

ワンタッチボタンのグループに登録できる宛先は、すでに登録されているワンタッチボタンの宛先のみです。

ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、[短縮] を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を [0]～[9] (テンキー) で入力します。

● [宛先検索 (サーバ)] を選択した場合

❑ 「サーバから検索した宛先を登録する」(→ P.10-27) の手順 3 ～ 5 に準じて宛先を検索します。

❑ 検索結果からワンタッチボタンに登録する宛先を選択したあと、[次へ] を押します。

再度検索を行う場合は、[戻る] を押します。

複数の宛先を指定することはできません。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、条件に合う電子メールの宛先が表示されます。このとき [電子メールを I ファクス登録する] を「ON」にすると、選択した電子メールの宛先を I ファクスの宛先として登録することができます。I ファクスの宛先として登録する場合は 1 件ずつ登録してください。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、条件に合うファクスの宛先が表示されます。

オプションの Send 拡張キットを有効にし、FAX ボードを装着している場合は、宛先の種類ドロップダウンリストを押して、表示する宛先の種類を限定することができます。

メモ　指定した宛先を取り消す場合は、登録したい宛先を選択しなおしてください。

❑ 必要に応じて、宛先内容を編集します。

❑ [ワンタッチ名称] を押して、ワンタッチボタンに表示する名称を入力したあと、[OK] を押します。

重要　サーバから取得できる情報は、フリガナを除く名前、電子メールアドレス、ファクス番号のみです。必要に応じて、フリガナを登録してください。フリガナが登録されていないと、宛先表で [あ]、[か]、[さ] などの目次キーを使って表示する宛先を限定することはできません。

4 [OK] を押します。

ワンタッチボタンの内容を消去する

ワンタッチボタンの消去の手順を説明します。

1 **(初期設定／登録) → [宛先表仕様設定] → [ワンタッチボタンの登録] を押します。**

2 **消去するワンタッチボタンを選択したあと、[消去] を押します。**



ワンタッチボタン番号を入力して指定する場合は、短(短縮) を押して 3 桁のワンタッチボタン番号を 0 ～ 9 (テンキー) で入力します。

重要 消去する内容を確認してください。

メモ
- すでに設定が登録されているワンタッチボタンには、キーの右下の三角（◢）が色つきで表示されます。
- すでに登録されているワンタッチボタンを選択したときは、登録内容が表示されます。

3 **[はい] を押します。**

11
CHAPTER

システム管理設定

運用を管理するシステム管理者などを対象とする設定について説明しています。

システム管理設定一覧表 11-3
通信管理設定をする（通信管理設定）..... 11-6
電子メール／I ファクス共通の通信設定をする 11-6
電子メールの設定をする 11-8
I ファクスの設定をする 11-9
ファクスの設定をする 11-11
システムボックスの設定をする 11-13
送信機能の制限をする（送信機能の制限）..... 11-19
宛先表の暗証番号を設定する（宛先表の暗証番号）..... 11-19
宛先表のアクセス番号管理を設定する 11-20
新規宛先の制限を設定する（新規宛先の制限）..... 11-21
ファクスドライバからの送信を許可するか設定する（ファクスドライバからの送信を許可）..... 11-22
ファクス番号の入力時に確認入力をおこなう（ファクス番号入力時の確認入力）..... 11-22
送信するドメインを制限する（電子メール／I ファクスの送信ドメイン制限）..... 11-23
有効期限切れ証明書を使用したときの PDF 送信を許可するか設定する（有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可）..... 11-25
PDF 送信時に機器署名を必ずつけるかどうか設定する（PDF 送信時に機器署名を必ずつける）..... 11-26
転送の設定をする（転送設定）..... 11-27
転送設定を登録する 11-29
転送条件に一致しない場合の転送先を登録する 11-40
転送設定の詳細情報を確認／変更する 11-46
受信した文書を転送する 11-46
転送設定を消去する 11-47
転送設定内容をプリントする 11-47
LDAP サーバの設定をする 11-48
LDAP サーバの登録をする 11-48
LDAP サーバの設定内容を変更する 11-53
LDAP サーバを消去する 11-53
LDAP 検索属性の登録／編集をする 11-54

LDAP サーバの設定内容をプリントする. 11-55

システム管理設定一覧表

システム管理設定で登録／変更できる項目を以下に示します。

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
通信管理設定			
電子メール／Iファクス共通設定 *1			P.11-6
送信データサイズ上限値	0 =なし／ 1 ～ 99 MB・3 MB*	○	
省略時の件名	半角 40 文字、全角 20 文字・Attached Image*	○	
認証ユーザ宛先を返信先に指定	ON、OFF*	×	
電子メール設定			
認証ユーザ宛先を送信元に指定	ON、OFF*	×	
I ファクス設定			
Full モードの送信タイムアウト	1 ～ 99 時間・24 時間*	○	
分割送信タイムアウト	0 ～ 99 時間・24 時間*	○	
MDN/DSN 受信時の印刷	ON、OFF*	○	
受信エラーは必ず通知	ON*、OFF	○	
サーバの経由を使用	ON、OFF*	○	
サーバを経由しないMDNを許可	ON*、OFF	○	
ファクス設定 *2			P.11-11
送信スタートスピード	33600 bps*、14400 bps、9600 bps、7200 bps、4800 bps、2400 bps	○	
受信スタートスピード	33600 bps*、14400 bps、9600 bps、7200 bps、4800 bps、2400 bps	○	
受信パスワード	最大 20 桁	×	
FIS スイッチ	ON、OFF*	○	

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
システムボックス設定			
システムボックス暗証番号	7 桁	×	P.11-13
ファクスメモリ受信を使用 *2	ON、OFF*	○	P.11-14
Iファクスメモリ受信を使用 *1	ON、OFF*	○	P.11-14
メモリ受信開始時刻	毎日指定、曜日指定、指定しない*	○	P.11-15
メモリ受信終了時刻	毎日指定、曜日指定、指定しない*	○	P.11-17
送信機能の制限			
宛先表の暗証番号	最大 7 桁	○	P.11-19
宛先表のアクセス番号管理	ON、OFF*	○	P.11-20
新規宛先の制限	ファクス：ON、OFF* 電子メール：ON、OFF* Iファクス：ON、OFF* ファイル：ON、OFF*	○	P.11-21
ファクスドライバからの送信を許可 *2	ON*、OFF	○	P.11-22
ファクス番号入力時の確認入力 *2	ON、OFF*	○	P.11-22
電子メール／Iファクスの送信ドメイン制限 *1	送信先ドメインを制限：ON、OFF*、送信許可ドメイン：登録、詳細／編集、消去	○ *5	P.11-23
有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可 *3	ON、OFF*	○	P.11-25
PDF 送信時に機器署名を必ずつける *4	ON、OFF* PDF 以外の送信制限：ON*、OFF	○	P.11-26
転送設定	受信手段、条件の ON/OFF、登録、条件なし転送の登録、電子メールの重要度 *1、詳細／編集、消去、リストプリント	○ *6	P.11-27
LDAP サーバの登録	登録、詳細／編集、消去、LDAP 検索属性の登録／編集、リストプリント	×	P.11-48

* マークは工場出荷時の設定です。

*1：オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*2：オプションの FAX ボード装着時に表示される項目です。

*3：オプションの機器署名 PDF 拡張キット、またはユーザ署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*4：オプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に表示される項目です。

*5：消去：×

*6：受信手段：×
電子メールの重要度：×
詳細／編集：×
消去：×
リストプリント：×

メモ

- 本書に記載していないモードの設定のしかたについては、別冊の取扱説明書を参照してください。（→ 取扱説明書の分冊構成について）
- システム管理設定はいくつかの項目にわかれています。［▼］［▲］を押して、目的の項目を選択してください。
- 機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」を参照してください。
  - ・○：機器情報配信対象
  - ・×：機器情報配信対象外

通信管理設定をする（通信管理設定）

電子メールなどの送信の設定や、システムボックスの設定をします。

電子メール／Ｉファクス共通の通信設定をする

電子メールやＩファクスを送信するときの通信設定をします。設定内容は次のようになります。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

■ 送信データサイズ上限値

電子メールやＩファクス送信することができる最大データサイズを設定します。送信するデータサイズが上限値を超えた場合、電子メールは複数のメールに分割して送信します。Ｉファクスは送信エラーになります。

重要　電子メール、Ｉファクスは、データサイズが大きい文書の場合にデータを分割して送信することができます。

メモ　データを分割して送信する方法は、「宛先表に登録していない宛先を指定する（新規宛先）」（→ P.2-2）、「宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）」（→ P.10-5）を参照してください。

■ 省略時の件名

送信時に件名を入力しない場合に、省略時の件名を代入します。

■ 認証ユーザ宛先を返信先に指定

ログインサービスを使っているとき、ログインユーザのメールアドレスを電子メール／Ｉファクス送信時の返信先として設定するかしないか設定します。

1 (初期設定／登録) →［システム管理設定］→［通信管理設定］→［電子メール /I ファクス共通設定］を押します。

2 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



＜送信データサイズ上限値＞：

送信データサイズの上限値の［□］を押したあと、［−］［+］を押します。

＜省略時の件名＞：

［件名］を押して、省略時の件名を入力したあと、［OK］を押します。

＜認証ユーザ宛先を返信先に指定＞：

［ON］： ログインユーザのメールアドレスを返信先として設定します。

［OFF］： 本製品に登録されているメールアドレスを返信先として設定します。

重要 送信データサイズ上限値は、メールサーバのデータ量上限値以下に設定してください。

メモ
- 送信データサイズ上限値を 0 MB に設定した場合は、送信されるデータサイズは制限されません。
- 電子メール／I ファクス送信時に送信設定画面で返信先としてメールアドレスが入力された場合は、ログインユーザ宛先を返信先に指定が「ON」に設定されていても送信設定画面で入力されたメールアドレスの方が優先されます。

電子メールの設定をする

ログインサービスを使っているとき、ログインユーザのメールアドレスを電子メール受信側の送信元（From）の欄に表示するかしないか設定します。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

1 (初期設定／登録) →［システム管理設定］→［通信管理設定］→［電子メール設定］→［認証ユーザ宛先を送信元に指定］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

設定項目：

［ON］：　認証ユーザのメールアドレスを電子メール受信側の送信元（From）の欄に設定します。

［OFF］：　本製品に設定したメールアドレスを電子メール受信側の送信元（From）の欄に設定します。

I ファクスの設定をする

I ファクスを送信するときの通信設定をします。設定内容は次のようになります。

メモ　この機能は、オプションの Send 拡張キットを有効にした場合に使用することができます。

■ Full モードの送信タイムアウト

I ファクス Full モード送信時に送信してから送達結果を確認するメール（MDN）が戻ってこない場合、自動的に送信動作を終了するまでの時間を設定します。

■ 分割受信タイムアウト

I ファクス受信の分割データを受信してから設定した時間が経過した場合、すべての分割データがそろわないときに、受信しているデータのみで結合します。ページ単位で結合が行われた場合は、結合したページをプリントします。結合できなかったデータは消去されます。

重要
- 分割データを消去した場合は、あとから残りの分割データが届いても結合することはできません。
- 分割されたデータは、結合されない限り、正常な画像としてプリント出来ません。
- 結合した分割データに対して転送やメモリ受信などの設定をしているときに、分割データを消去した場合は、強制プリントした画像に対して設定している動作を行いません。

■ MDN/DSN 受信時の印刷

I ファクス Full モード送信時に送達結果を確認した通知メールを印刷するかしないか設定します。

■ 受信エラーは必ず通知

電子メールや I ファクスを受信中にエラーが発生した場合、送信者に通知するかしないか設定します。

■ サーバの経由を使用

I ファクス送信の宛先条件で、サーバの経由設定を利用できるようにします。サーバの経由を「ON」または「OFF」にする場合は、サーバの経由を使用と、サーバを経由しない MDN を許可をあらかじめ「ON」に設定しておく必要があります。

■ サーバを経由しない MDN を許可

I ファクスを受信した受信機が送達結果を確認した通知メール（MDN）をメールサーバを経由しないで送信機の IP アドレスに対して MDN を送信することができます。

1　(初期設定／登録) →［システム管理設定］→［通信管理設定］→［I ファクス設定］を押します。

2 各項目を設定したあと、[OK] を押します。



< Full モードの送信タイムアウト>：

Full モードの送信タイムアウトの［□］を押したあと、［−］［+］を押します。

<分割受信タイムアウト>：

分割受信タイムアウトの［□］を押したあと、［−］［+］を押します。

< MDN/DSN 受信時の印刷>：

［ON］： 送達結果の通知メールを受信したときに送達結果をプリントします。

［OFF］： 送達結果の通知メールを受信したときに送達結果をプリントしません。

<受信エラーは必ず通知>：

［ON］： 受信エラーが発生したときにエラー内容を送信者に必ず通知します。

［OFF］： 受信エラーが発生したときにエラー内容を送信者に通知しないことがあります。

<サーバの経由を使用>：

［ON］： I ファクス送信の宛先条件で、サーバの経由を設定できるようにします。

［OFF］： I ファクス送信の宛先条件で、サーバの経由を設定できないようにします。

<サーバを経由しない MDN を許可>：

［ON］： 送達結果を確認した通知メールをメールサーバを経由しないで送信します。

［OFF］： 送達結果を確認した通知メールをメールサーバを経由しないと送信することができません。

メモ

- 分割受信タイムアウトを 0 時間に設定した場合は、分割データを消去する時間は設定されません。
- I ファクス送信時にサーバの経由が「OFF」に設定されている場合は、送信データサイズ上限値の設定にかかわらず、送信されるデータサイズは制限されません。
- データサイズの上限は 1 MB きざみで設定できます。データサイズが設定値を超えた場合、電子メールは設定値を超えない範囲で添付画像データをページ境界で区切り、複数のメールに分割して送信します。I ファクスは送信エラーになります。詳細は担当サービスまでお問い合わせください。

ファクスの設定をする

ファクスの送信／受信のスタートスピードやパスワードの登録など、運用を管理するための設定について説明します。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ 送信／受信スタートスピード

回線の状態が悪く、送信／受信が始まるまでに時間がかかるときは、送信／受信スタートスピードを変更することができます。

■ 受信パスワード

ITU-T 規格のパスワードを設定します。相手先から ITU-T 規格で送られてきた受信文書に F コードが設定されていないとき、パスワードの照合が行われます。その際、ここで設定したパスワードと一致しないパスワードが付加されている場合やパスワードが付加されていない場合は、文書を受信しません。

■ FIS スイッチ

FIS（ファクシミリインプットサービス）を利用する場合のみ「ON」に設定します。それ以外の場合は、必ず「OFF」に設定しておいてください。FIS に関しての詳細は、担当サービスまでお問い合わせください。

メモ　ITU-T は、国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門です。

1 (初期設定／登録) → [システム管理設定] → [通信管理設定] → [ファクス設定] を押します。

2 各項目を設定したあと、[OK] を押します。



＜送信スタートスピード＞：

送信スタートスピードドロップダウンリストを押したあと、目的のスタートスピードを選択します。

「33600bps」から「14400bps」、「9600bps」、「7200bps」、「4800bps」、「2400bps」の順にスピードを下げて、調整してください。

＜受信スタートスピード＞：

受信スタートスピードドロップダウンリストを押したあと、目的のスタートスピードを選択します。

「33600bps」から「14400bps」、「9600bps」、「7200bps」、「4800bps」、「2400bps」の順にスピードを下げて、調整してください。

＜受信パスワード＞：

[設定] を押して、[パスワード] と [確認入力] を 0 ～ 9、*、#（テンキー）で入力します。

スペースを入力する場合は、[スペース] を押します。

[バックスペース] を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

＜ FIS スイッチ＞：

[ON] または [OFF] を選択します。

重要

- ここで受信パスワードを設定しても、F コードが指定された受信文書の場合は、そのF コードのパスワードが優先されます。
- FIS スイッチは、FIS サービスを利用する場合のみ「ON」に設定してください。

メモ

システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」）

システムボックスの設定をする

受信したファクス／Ｉファクスは、プリントしないでシステムボックスに保存しておくことができます。これをメモリ受信といいます。メモリ受信を「ON」にすると、メモリ受信されます。システムボックスに保存されたファクス／Ｉファクスは、手動でプリントしたり、送信したりすることができます。

ここでは、システムボックスの暗証番号の登録やメモリ受信の設定のしかたを説明します。

メモ
- オプションのSend拡張キットを有効にした場合は、Iファクスをメモリ受信することができます。
- オプションのFAXボードを装着している場合は、ファクスをメモリ受信することができます。

システムボックス暗証番号の設定をする

7桁の暗証番号を登録することにより、番号を入力した場合のみシステムボックスが使えるように設定することができます。

メモ 暗証番号は7桁まで登録できます。7桁に満たない場合は以下のようになります。
例：「321」と入力 →「0000321」と設定されます。

1 (初期設定／登録) →［システム管理設定］→［通信管理設定］→［システムボックス設定］→［システムボックス暗証番号］を押します。

2 ［設定］を押します。

3 ［暗証番号］を押したあと、0〜9 (テンキー) で暗証番号を入力します。

4 ［確認入力］を押して、同じ暗証番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

暗証番号を設定しないときは、空欄にします。

「0」、「00」のような「0」だけの連数字を暗証番号として登録することはできません。また、「02」、「002」のように「0」から始まる番号を入力した場合は、「0」の入力は認識されず「2」と入力したときと同じ「0000002」として設定されます。

メモ システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示のON/OFFを「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。(→ ユーザーズガイド「第6章　システム管理設定」)

ファクス受信した文書をメモリに保存する

受信したファクス文書をプリントせずに、システムボックスに保存するように設定できます（メモリ受信）。文書はシステムボックスで確認したあと、プリント／送信することができます。

1 ⚙（初期設定／登録）→［システム管理設定］→［通信管理設定］→［システムボックス設定］→［ファクスメモリ受信を使用］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

重要 「ファクスメモリ受信設定中です。」というメッセージが表示されない場合は、システムボックスで［ファクスメモリ受信］を「ON」に設定してください。（→ コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」）

I ファクス受信した文書をメモリに保存する

受信した I ファクス文書をプリントせずに、システムボックスに保存するように設定できます（メモリ受信）。文書はシステムボックスで確認したあと、プリント／送信することができます。

1 ⚙（初期設定／登録）→［システム管理設定］→［通信管理設定］→［システムボックス設定］→［I ファクスメモリ受信を使用］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

重要 「I ファクスメモリ受信設定中です。」というメッセージが表示されない場合は、システムボックスで［I ファクスメモリ受信］を「ON」に設定してください。（→ コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」）

メモリ受信の開始時刻を指定する

指定した時刻になると、自動的にメモリ受信に切り替わるように設定できます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [通信管理設定] → [システムボックス設定] → [メモリ受信開始時刻] を押します。**

2 **[毎日指定]、[曜日指定] または [指定しない] を選択します。**

● **[毎日指定] を選択した場合**

❑ 番号（[1] ～ [5]）を押して、開始時刻を⓪～⑨（テンキー）で入力したあと、[OK] を押します。



メモリ受信の開始時刻を、5 時刻まで設定できます。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

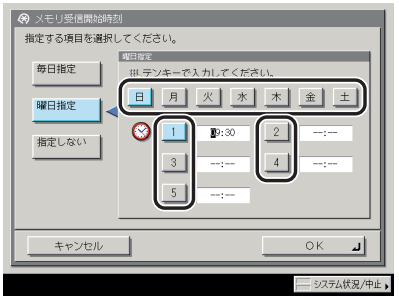
例：　7 時 5 分　→ 0705

　　23 時 18 分　→ 2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

●［曜日指定］を選択した場合

❑ 曜日（［日］～［土］）を選択して、番号（［1］～［5］）を押します。



❑ 開始時刻を⓪～⑨（テンキー）で入力したあと、［OK］を押します。

曜日ごとにメモリ受信の開始時刻を、5 時刻まで設定できます。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例：　7 時 5 分　→ 0705

23 時 18 分　→ 2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

●［指定しない］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

自動的にはメモリ受信に切り替わりません。メモリ受信の切り替えは、メモリ受信ボックス画面のファクスメモリ受信、I ファクスメモリ受信で行います。(→ コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」)

メモ　メモリ受信開始時刻に「毎日指定」、メモリ受信終了時刻に「曜日指定」（またはその逆）を設定することができます。

メモリ受信の終了時刻を指定する

指定した時刻になると、自動的にメモリ受信が解除されるように設定できます。

1 **(初期設定／登録)→[システム管理設定]→[通信管理設定]→[システムボックス設定]→[メモリ受信終了時刻]を押します。**

2 **[毎日指定]、[曜日指定]または[指定しない]を選択します。**



●[毎日指定]を選択した場合

❑ 番号（[1]～[5]）を押して、終了時刻を⓪～⑨(テンキー）で入力したあと、[OK]を押します。

メモリ受信の終了時刻を、5 時刻まで設定できます。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例：　7 時 5 分　→0705

　　23 時 18 分　→2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

●［曜日指定］を選択した場合

❑ 曜日（［日］～［土］）を選択して、番号（［1］～［5］）を押します。

❑ 終了時刻を⓪～⑨（テンキー）で入力したあと、［OK］を押します。

曜日ごとにメモリ受信の終了時刻を、5 時刻まで設定できます。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例：　7 時 5 分　→0705

23 時 18 分　→2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

●［指定しない］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

自動的にはメモリ受信は解除されません。メモリ受信の切り替えは、メモリ受信ボックス画面のファクスメモリ受信、Iファクスメモリ受信で行います。(→ コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」)

メモ　メモリ受信開始時刻に「毎日指定」、メモリ受信終了時刻に「曜日指定」（またはその逆）を設定することができます。

送信機能の制限をする（送信機能の制限）

宛先表に暗証番号を設定したり、アクセス番号管理の設定をします。

宛先表の暗証番号を設定する（宛先表の暗証番号）

宛先表の暗証番号を設定することができます。暗証番号を設定すると、宛先表の登録や編集、消去に対して規制をかけることができます。

メモ　暗証番号は 7 桁まで登録できます。7 桁に満たない場合は以下のようになります。
例：「321」と入力 →「0000321」と設定されます。

1　(初期設定／登録) →［システム管理設定］→［送信機能の制限］→［宛先表の暗証番号］を押します。

2　［設定］を押します。

3　［暗証番号］を押したあと、(0)～(9)（テンキー）で暗証番号を入力します。

4　［確認入力］を押して、同じ暗証番号を入力したあと、［OK］→［OK］を押します。

暗証番号を設定しないときは、空欄にします。

「0」、「00」のような「0」だけの連数字を暗証番号として登録することはできません。また、「02」、「002」のように「0」から始まる番号を入力した場合は、「0」の入力は認識されず「2」と入力したときと同じ「0000002」として設定されます。

メモ　システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」）

宛先表のアクセス番号管理を設定する

宛先表に宛先を登録するときにアクセス番号を設定して、それぞれの宛先の表示を制限し、関係者以外の目に触れないようにすることができます。

1 **(初期設定／登録)→[システム管理設定]→[送信機能の制限]→[宛先表のアクセス番号管理]を押します。**

2 **[ON]または[OFF]を選択したあと、[OK]を押します。**

「ON」に設定した場合は、コール機能を使用することができません。

新規宛先の制限を設定する（新規宛先の制限）

ファクス、電子メール、I ファクス、ファイルにそれぞれ制限をかけて送信できないように設定します。「ON」に設定された宛先の種類は、送信画面で選択できないようにグレーアウトします。宛先表の暗証番号とあわせて設定することで、「ON」に設定された宛先の種類のうち以下の宛先のみが送信可能になります。

- 宛先表に登録した宛先
- LDAP サーバから検索した宛先
- ユーザボックス
- 登録したワンタッチボタン
- 登録した定型業務ボタン
- ［自分へ送信］を押して指定した電子メールアドレス

重要

- 新規宛先の制限で「ON」に設定された宛先の種類は、以下の宛先を編集することができません。
  - ・LDAP サーバから検索した宛先
  - ・定型業務ボタンに登録されている新規宛先
  - ・［自分へ送信］を押して指定した電子メールアドレス
  - ・システム状況画面のタイマー送信を設定した送信待ちのジョブ、またはエラーが発生して送信が中止されたジョブの宛先
- 新規宛先の制限の宛先の種類をどれか 1 つでも「ON」に設定した場合は、コール機能にすでに記憶されている設定が、宛先の種類に関わらずすべて消去されます。

1 (初期設定／登録) → ［システム管理設定］ → ［送信機能の制限］ → ［新規宛先の制限］を押します。

2 制限する宛先の種類を選択します。

3 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

ファクスドライバからの送信を許可するか設定する（ファクスドライバからの送信を許可）

ファクスドライバからの送信をできないように設定することができます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に設定することができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [送信機能の制限] → [ファクスドライバからの送信を許可] を押します。**

2 **[ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。**

選択する項目

[ON]：　ファクスドライバからの送信ができます。

[OFF]：　ファクスドライバからの送信ができません。

ファクス番号の入力時に確認入力をおこなう（ファクス番号入力時の確認入力）

ファクス番号入力時の確認入力が「ON」に設定されている場合、間違った番号の入力を防ぐため、確認入力を行う画面が表示されます。

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に設定することができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [送信機能の制限] → [ファクス番号入力時の確認入力] を押します。**

2 **[ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。**

選択する項目

[ON]：　ファクス番号を入力するとき、確認入力を行います。

[OFF]：　ファクス番号を入力するとき、確認入力を行いません。

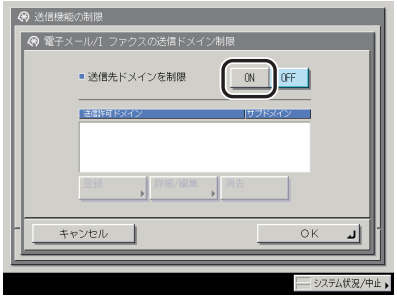
送信するドメインを制限する（電子メール／Ｉファクスの送信ドメイン制限）

電子メールやＩファクスを送信するときに、ドメインを制限することができます。
ドメインを制限すると、指定したドメインの入ったメールアドレス以外に送信することができなくなります。

メモ　この機能は、オプションのSend拡張キットを有効にした場合に設定することができます。

1　（初期設定／登録）→［システム管理設定］→［送信機能の制限］→［電子メール /Ｉファクスの送信ドメイン制限］を押します。

2　送信先ドメインを制限の［ON］を押します。



ドメインを制限しない場合は、［OFF］を押して手順４に進みます。

3 送信を許可するドメインを設定します。

● ドメインを登録する場合

❑ [登録] を押します。

❑ [ドメイン名] を押してドメイン名を入力したあと、[OK] を押します。

❑ サブドメインへの送信の [許可する] または [拒否する] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

<サブドメインへの送信>

[許可する]： 相手先のサブドメインへの送信を許可します。

[拒否する]： 相手先のサブドメインへの送信を許可しません。

メモ ドメインは 3 件まで登録できます。

● ドメインを編集する場合

❑ 編集するドメインを選択して、[詳細 / 編集] を押します。

❑ [ドメイン名] を押してドメイン名を入力したあと、[OK] を押します。

❑ サブドメインへの送信の [許可する] または [拒否する] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

<サブドメインへの送信>

[許可する]： 相手先のサブドメインへの送信を許可します。

[拒否する]： 相手先のサブドメインへの送信を許可しません。

● ドメインを消去する場合

❑ 消去するドメインを選択して、[消去] を押します。

❑ [はい] を押します。

4 [OK] を押します。

有効期限切れ証明書を使用したときの PDF 送信を許可するか設定する（有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可）

有効期限切れの証明書を使用して PDF を作成した場合に、その PDF の送信を許可するかどうか設定することができます。

メモ　この機能は、オプションの機器署名 PDF 拡張キット、またはユーザ署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に設定することができます。

1 ㊞（初期設定／登録）→［システム管理設定］→［送信機能の制限］→［有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。

選択する項目

［ON］：　有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可します。

［OFF］：有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可しません。

PDF 送信時に機器署名を必ずつけるかどうか設定する（PDF 送信時に機器署名を必ずつける）

PDF を作成して送信する場合に、電子署名である機器署名を必ずつけるかどうか設定することができます。

メモ　この機能は、オプションの機器署名 PDF 拡張キットを有効にした場合に設定することができます。

1 (初期設定／登録) →［システム管理設定］→［送信機能の制限］→［PDF 送信時に機器署名を必ずつける］を押します。

2 ［ON］または［OFF］を選択します。

選択する項目

［ON］： PDF 送信時に機器署名を必ずつけます。

［OFF］： PDF 送信時に機器署名をつけません。

●［ON］を選択した場合

❑ ［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。



< PDF 以外の送信制限 >

［ON］： PDF 以外のファイルは送信できません。

［OFF］： PDF 以外のファイルも送信できます。

メモ　< PDF 以外の送信制限 >を「ON」にした場合、定型業務ボタンに PDF 以外のファイル送信が設定されていると、送信できません。

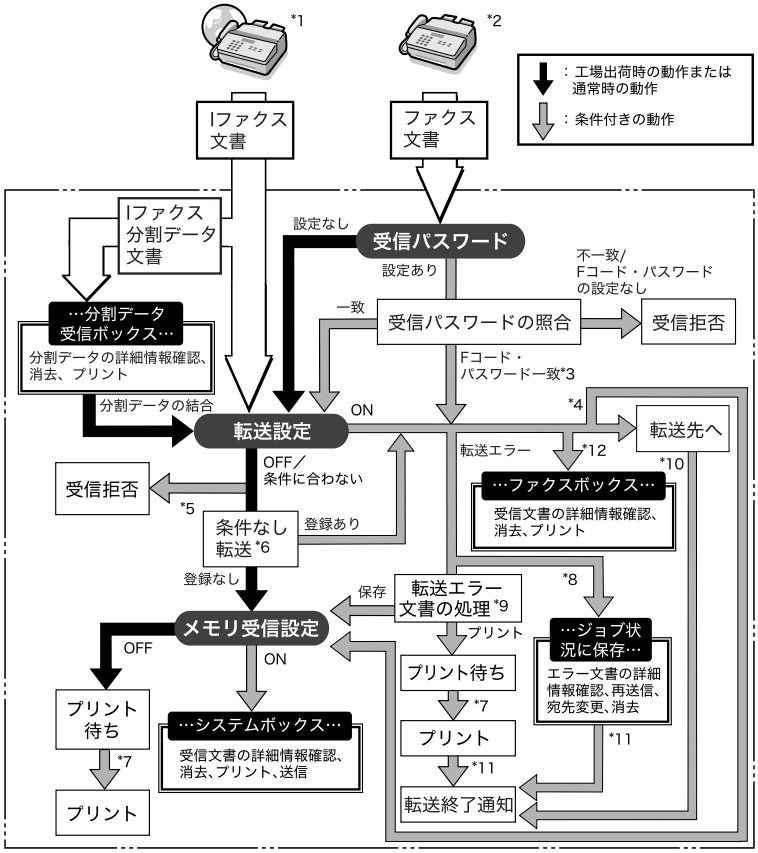
●［OFF］を選択した場合

❑ ［OK］を押します。

転送の設定をする（転送設定）

転送とは、受信したファクス／Iファクス文書を、ファクスボックスに保存（親展）したり、他の機器やファイルサーバなどに送信する（中継）機能です。本製品では設定した条件を満たした受信文書を指定した宛先に転送することができます。ここでは、転送条件や転送先の登録、変更、消去の設定をすることができます。

転送条件を設定すると、受信した文書は次のように処理されます。



*1 オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、受信した I ファクス文書を転送することができます。

*2 オプションの FAX ボードを装着している場合は、受信したファクス文書を転送することができます。

*3 F コード・パスワードが転送設定の条件に一致すれば、受信パスワードの設定にかかわらず転送します。

*4 システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で受信文書の保存／プリントを「ON」に設定した場合、転送した文書はプリントされるか、システムボックスに保存されます。

*5 相手機から指定された F コードやパスワードが、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で登録した転送条件に一致しない場合は、文書は受信拒否されます。

*6 システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で条件なし転送の登録を設定した場合は、ほかのすべての転送条件に一致しなかった文書は、条件なし転送に登録した宛先へ転送されます。

*7 紙づまりや用紙切れ、トナー切れのときに受信した文書は、紙づまりの処理、用紙の補給またはトナーの補給後プリントされます。

*8 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のエラー文書クリアを「OFF」に設定した場合は、転送エラーになったジョブはシステム状況画面のジョブ状況に保存されます。

*9 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の転送エラー文書の処理の設定によって、転送エラーになった文書は次のように処理されます。
・[常にプリント]：転送エラー文書をプリントします。
・[保存 / プリント]：メモリ受信が「ON」になっているときは転送エラー文書をシステムボックスに保存します。「OFF」になっているときはプリントします。

*10 オプションの Send 拡張キットを有効にしていて、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で、転送終了通知を「ON」に設定した場合、文書の転送が終了すると電子メールで転送終了が通知されます。

*11 オプションの Send 拡張キットを有効にしていて、システム管理設定（初期設定／登録）の転送設定で、転送終了通知を「ON」に設定した場合、文書の転送が終了すると電子メールで転送終了が通知されます。さらに、エラー時のみ通知を「ON」に設定した場合は、文書の転送が失敗した場合のみ、電子メールで転送失敗の旨を通知します。

*12 転送先にファクスボックスを指定することで、受信したファクス／ I ファクス文書をファクスボックスに保存しておくことができます。

メモ　転送設定は、最大 150 件まで登録できます。

転送設定を登録する

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] を押します。**

2 **[登録] を押します。**



3 **以前設定した転送設定を利用する場合は、[1 つ前]、[2 つ前] または [3 つ前] を選択します。**



3 つ前までの転送設定を呼び出すことができます。

重要
- 転送設定は、登録または詳細／編集画面で [OK] を押して登録が完了したときに記憶されます。
- すでに記憶されている設定と同じ設定は記憶されません。

メモ
- 記憶された 3 つの設定内容は電源を OFF にしても消えません。
- 転送設定が記憶されていない場合は、コールキーを押しても転送設定内容は表示されません。

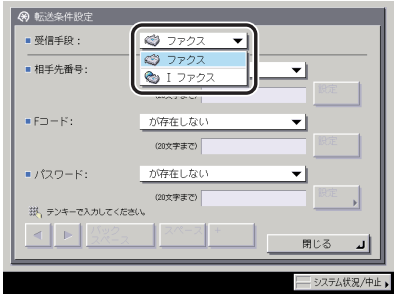
4 **[転送条件名] を押します。**

5 転送条件名を入力したあと、[OK] を押します。

メモ　送信文書名が未設定の場合は、入力した転送条件名の最初の半角 24 文字（全角 12 文字）が送信文書名にも入力されます。送信文書名は変更することもできます。

6 [転送条件] を押します。

7 受信手段ドロップダウンリストを押したあと、受信手段を選択します。



オプションの Send 拡張キットを有効にして FAX ボードを装着していない場合、または FAX ボードを装着して Send 拡張キットを有効にしていない場合は、この操作は必要ありません。ただし回線を増設した場合は回線の選択（回線共通、回線 1、回線 2）をすることができます。

8 転送条件を設定します。

● オプションのSend拡張キットを有効にしてFAXボードを装着していない場合、または受信手段に［I ファクス］を選択した場合

❑ 宛先、送信者または件名のドロップダウンリストを押します。

条件式の内容は以下のとおりです。

- [を考慮しない]： 宛先、送信者、件名は転送条件として考慮しない。
- [が以下と等しい]： 送信者、件名が入力した条件と同じ。
- [が以下と等しくない]： 宛先、送信者、件名が入力した条件と異なる。
- [が以下で始まる]： 宛先、送信者、件名が入力した条件で始まる。
- [が以下で終わる]： 宛先、送信者、件名が入力した条件で終わる。
- [が以下を含む]： 宛先、送信者、件名が入力した条件を含む。
- [が以下を含まない]： 宛先、送信者、件名が入力した条件を含まない。

宛先には、［が以下と等しい］は選択できません。

❑ 条件式を選択したあと、［設定］を押します。

❑ 転送条件を入力したあと、［OK］を押します。

❑ 必要に応じて、他の条件を設定します。

宛先、送信者、件名の設定を終了したあとに、条件式を変更せずに条件のみ変更したいときは、各項目の［設定］を押して、入力しなおしてください。

メモ 条件式で［を考慮しない］を選択した場合、条件の入力はできません。

● **オプションのFAXボードを装着してSend拡張キットを有効にしていない場合、または受信手段に［ファクス］を選択した場合**

❑ 相手先番号、F コードまたはパスワードのドロップダウンリストを押します。

条件式の内容は以下のとおりです。

- [を考慮しない]： 相手先番号は転送条件として考慮しない。
- [が存在しない]： F コード、パスワードが存在しない。
- [が以下と等しい]： 相手先番号、F コード、パスワードが入力した条件と同じ。
- [が以下と等しくない]： 相手先番号が入力した条件と異なる。
- [が以下で始まる]： 相手先番号が入力した条件で始まる。
- [が以下で終わる]： 相手先番号が入力した条件で終わる。
- [が以下を含む]： 相手先番号が入力した条件を含む。
- [が以下を含まない]： 相手先番号が入力した条件を含まない。

相手先番号には、[が存在しない] は選択できません。

F コード、パスワードは、[が存在しない] または [が以下と等しい] のみ選択できます。

❑ 条件式を選択して、転送条件を入力します。

表示される項目

[◀] [▶]：	カーソルを移動するときに押します。
[バックスペース]：	数字を押し間違えたときに押します。カーソル位置の手前の数字が消去されて、正しい数字が入力できます。
[スペース]：	局番とファクス番号の間などにスペースを入力するときに押します。
[+]：	ファクス番号に国番号を入力するときに使用します。

❑ 必要に応じて、他の条件を設定します。

相手先番号、F コード、パスワードの設定を終了したあとに、条件式を変更せずに条件のみ変更したいときは、各項目の［設定］を押して、入力しなおしてください。

パスワードで転送条件設定を行う場合は、［パスワード］を押して⓪～⑨、⊞、⊛（テンキー）で入力します。［確認入力］を押して、同じ暗証番号を入力したあと、［OK］を押します。

相手先番号、F コード、パスワードは、それぞれ 20 文字まで入力できます。入力できる文字は以下のとおりです。

- 相手先番号：0 ～ 9 までの数字、［スペース］、［+］
- F コード：0 ～ 9 までの数字、＊、#、［スペース］
- パスワード：0 ～ 9 までの数字、＊、#、［スペース］

メモ
- 条件式で［を考慮しない］、［が存在しない］を選択した場合、条件の入力はできません。
- 以下の組み合わせで条件式を設定することはできません。

相手先番号	F コード	パスワード
［を考慮しない］	［が存在しない］	［が以下と等しい］
［を考慮しない］以外	［が以下と等しい］	［が以下と等しい］
［を考慮しない］以外	［が存在しない］	［が以下と等しい］
［を考慮しない］以外	［が以下と等しい］	［が存在しない］

- パスワードを入力するときに、システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」）

9 ［閉じる］を押します。

10 ［転送先］を押したあと、［宛先表］または［ファクスボックス］を選択します。

選択する項目

［宛先表］：　　ほかの機器に転送（中継）する場合に選択します。

［ファクスボックス］：　ファクスボックスに受信（親展）する場合に選択します。

メモ　ユーザボックスを含むグループ宛先を指定した場合は、ユーザボックスには転送されません。

●［宛先表］を選択した場合

❑ 転送先を選択したあと、［OK］を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、［アクセス番号］を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26)

［あ］、［か］、［さ］などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

宛先は複数選択できません。複数の宛先に転送する場合は、グループ宛先を選択してください。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先やグループ宛先を転送先として選択することができます。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先やグループ宛先を転送先として選択することができます。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択して解除します。
- 宛先を選択して［詳細情報］を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先はあらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)
- ［アクセス番号］はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)
- 転送先にファクスを選択した場合、宛先に登録されている F コードとパスワードは無効となります。

●［ファクスボックス］を選択した場合

❑ 転送先ボックスを選択したあと、［OK］を押します。

ファクスボックスは複数選択できません。

転送先ボックスの URL を電子メールで通知する場合は、［URL 送信］を押します。

URL を通知する電子メールの本文には、「ファクスボックス格納通知」と表示されます。

重要 以下のような場合には、ファクスボックスに転送することができません。(ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。)
・ボックス全体に、1500 件の文書または画像が保存されているとき
・ボックス全体に、約 6000 ページの文書または画像が保存されているとき

メモ URL を通知する場合は、あらかじめ電子メールアドレスをファクスボックスごとに登録しておく必要があります。電子メールアドレスの登録のしかたは、コピー／ボックスガイド「第 8 章　使いかたにあわせた仕様の設定」を参照してください。

11 [送信文書名] を押します。

ファクスまたはファクスボックスを転送先として選択している場合は、手順13に進みます。

12 送信文書名を入力したあと、[OK] を押します。

転送条件名で入力した文字があらかじめ入力されています。

13 [転送時間指定] を押します。

14 [毎日指定]、[期間指定] または [指定しない] を選択します。

重要　開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。

● [毎日指定] を選択した場合

❑ 開始時刻と終了時刻を◎0〜◎9（テンキー）で入力したあと、[OK] を押します。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

メモ　終了時間に開始時間よりも早い時刻を入力した場合は、次のように設定されます。

例： 開始時間 22:00、終了時間 21:00

→終了時間は翌日の 21:00 になります。

● **[期間指定] を選択した場合**

❑ [追加] を押します。

❑ 開始時間ドロップダウンリストを押したあと、転送を開始する曜日を選択します。

❑ 開始時間の [□] を押して、転送を開始する時刻を⓪〜⑨(テンキー) で入力します。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

[終日] を押すと、開始時刻に「00 : 00」、終了時刻に「00 : 00」が自動的に入力されます。終了時刻の曜日には、開始時刻の翌日の曜日が自動的に入力されます。

❑ 開始時間と同じように、終了時間の設定したあと、[OK] を押します。

期間指定は 7 期間まで設定することができます。

すでに登録されている設定を変更する場合は、変更する項目を選択したあと [編集] を押します。

登録されている設定を消去する場合は、消去する項目を選択したあと [消去] を押します。

メモ 同じ曜日を選択し、終了時間に開始時間よりも早い時刻を入力した場合は、次のように設定されます。

例： 開始時間　月曜日 22:00、終了時間　月曜日 21:00

→ 終了時間は翌週の月曜日 21:00 となります。

● **[指定しない] を選択した場合**

❑ [OK] を押します。

15 受信文書の保存／プリントドロップダウンリストを押したあと、[ON] または [OFF] を選択します。

ファクスボックスを転送先として選択している場合は、手順 19 に進みます。

選択する項目

[ON]： 受信文書がシステムボックスに保存またはプリントされます。

[OFF]： 受信文書の保存、プリントはされません。

メモ [ON] を選択した場合に、メモリ受信の設定が「ON」のときは、受信文書はシステムボックスに保存されます。メモリ受信の設定が「OFF」のときは、受信文書はプリントされます。(→第 6 章　文書を受信する、ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14、I ファクス受信した文書をメモリに保存する：P.11-14)

16 [転送終了通知] を押して、転送終了通知を送る宛先を選択したあと、[OK] を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号] を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26)

[あ]、[か]、[さ] などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

宛先は複数選択できません。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択して解除します。
- 宛先を選択して [詳細情報] を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先はあらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)
- [アクセス番号] はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

17 転送終了通知の種類を設定します。

エラー時のみ通知する場合は [エラー時のみ通知] を押して、設定を「ON」にします。

すべての転送完了時に通知する場合は、[エラー時のみ通知] を押さずに、設定を「OFF」にします。

18 [ファイル形式] を押したあと、転送する画像のファイル形式を選択します。

以下の場合は、この操作は必要ありません。

- ファクスを転送先として選択している場合
- I ファクスを転送先として選択している場合
- ファクスボックスを転送先として選択している場合

受信手段に「ファクス」を設定している場合のファイル形式は、次の形式から選択できます。

- [TIFF]： TIFF 形式で送信されます。
- [PDF]： PDF 形式で送信されます。さらに、[OCR（文字認識）]、[電子署名をつける] を選択することができます。電子署名をつける場合は、[機器署名] または [タイムスタンプ] から選択することができます。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、[ページごとに分割] を「ON」に、複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

受信手段に「I ファクス」を設定している場合のファイル形式は、次の形式から選択できます。

- [TIFF/PDF 自動選択]： カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの画像を含む場合は PDF 形式で送信されます。[ページごとに分割] を「ON」に設定することはできません。
- [TIFF/JPEG 自動選択]： カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの場合は JPEG 形式で送信されます。[ページごとに分割] は「ON」に設定されます。
- [PDF]： カラーモードにかかわらず PDF 形式で送信されます。さらに、[アウトライン]、[高圧縮]、[OCR（文字認識）]、[電子署名をつける] を選択することができます。電子署名をつける場合は、[機器署名] または [タイムスタンプ] から選択することができます。
  複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、[ページごとに分割] を「ON」に、複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

メモ
- JPEG を見るには、JPEG に対応しているアプリケーション（Windows の場合は Microsoft Internet Explorer など）が必要です。
- TIFF を見るには、TIFF に対応しているアプリケーション（Windows の場合はイメージングなど）が必要です。
- PDF の閲覧には Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「ファイル形式（TIFF、PDF、JPEG）」を参照してください。

19 [OK] を押します。

重要 ファクスを転送する場合は、同一の F コードを指定する複数の転送設定を登録することはできません。

20 電子メールの重要度ドロップダウンリストを押したあと、電子メールの重要度を選択します。

転送先が電子メールの場合の電子メールの重要度を設定します。

転送条件に一致しない場合の転送先を登録する

転送設定が登録されていない場合、または設定したすべての転送条件に一致しなかった場合の転送先を指定します。

重要 オプションの FAX ボード装着時に受信したファクスで、相手機から指定された F コードやパスワードが、転送設定で登録した転送条件に一致しない場合は、「条件なし転送の登録」で登録した転送先には転送されず、受信拒否されます。

メモ 転送先は、受信手段ごとに 1 件ずつ登録することができます。

---

1 (初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] → [条件なし転送の登録] を押します。

2 受信手段ドロップダウンリストを押したあと、受信手段を選択します。



オプションの Send 拡張キットを有効にして FAX ボードを装着していない場合、または FAX ボードを装着して Send 拡張キットを有効にしていない場合は、この操作は必要ありません。ただし、回線を増設した場合は回線の選択 (回線 1、回線 2) をすることができます。

3 [転送先]を押したあと、[宛先表]または[ファクスボックス]を選択します。

選択する項目

[宛先表]: ほかの機器に転送（中継）する場合に選択します。

[ファクスボックス]: ファクスボックスに受信（親展）する場合に選択します。

メモ ユーザボックスを含むグループ宛先を指定した場合は、ユーザボックスには転送されません。

● 宛先表を選択した場合

❑ 転送先を選択したあと、[OK]を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号]を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26)

[あ]、[か]、[さ]などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先の種類ドロップダウンリストを使うと、リストに表示される宛先の種類を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

宛先は複数選択できません。

オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先やグループ宛先を転送先として選択することができます。

オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの宛先やグループ宛先を転送先として選択することができます。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択して解除します。
- 宛先を選択して[詳細情報]を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先はあらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)
- [アクセス番号]はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)
- 転送先にファクスを選択した場合、宛先に登録されている F コードとパスワードは無効となります。

● **[ファクスボックス] を選択した場合**

❑ **転送先ボックスを選択したあと、[OK] を押します。**

ファクスボックスは複数選択できません。

転送先ボックスの URL を電子メールで通知する場合は、[URL 送信] を押します。

URL を通知する電子メールの本文には、「ファクスボックス格納通知」と表示されます。

重要 以下のような場合には、ファクスボックスに転送することができません。(ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。)

・ボックス全体に、1500 件の文書または画像が保存されているとき

・ボックス全体に、約 6000 ページの文書または画像が保存されているとき

メモ URL を通知する場合は、あらかじめ電子メールアドレスをファクスボックスごとに登録しておく必要があります。電子メールアドレスの登録のしかたは、コピー/ボックスガイド「第 8 章 使いかたにあわせた仕様の設定」を参照してください。

4 [送信文書名] を押します。

ファクスまたはファクスボックスを転送先として選択している場合は、手順 6 に進みます。

5 送信文書名を入力したあと、OK を押します。

6 受信文書の保存/プリントドロップダウンリストを押したあと、[ON] または [OFF] を選択します。

ファクスボックスを転送先として選択している場合は、手順 11 へ進みます。

選択する項目

[ON]: 受信文書がシステムボックスに保存またはプリントされます。

[OFF]: 受信文書の保存、プリントはされません。

メモ [ON] を選択した場合に、メモリ受信の設定が「ON」のときは、受信文書はシステムボックスに保存されます。メモリ受信の設定が「OFF」のときは、受信文書はプリントされます。(→第 6 章 文書を受信する、ファクス受信した文書をメモリに保存する:P.11-14、I ファクス受信した文書をメモリに保存する:P.11-14)

7 [転送終了通知] を押します。

8 転送終了通知を送る宛先を選択したあと、[OK] を押します。

アクセス番号を設定している宛先を選択する場合は、[アクセス番号] を押してアクセス番号を入力します。(→ 宛先表を使って宛先を指定する（宛先表）：P.2-26)

[あ]、[か]、[さ] などの目次キーを押すと、「あいうえお」などのポップアップ画面が表示されます。選択すると、表示されている項目を限定することができます。

宛先表ドロップダウンリストを使うと、サブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）ごとに表示できます。サブ宛先表は宛先表をグループ分けしたものです。

宛先は複数選択できません。

メモ
- 指定した宛先を取り消す場合は、もう一度宛先を選択して解除します。
- 宛先を選択して [詳細情報] を押すと、宛先に関する詳細情報が表示されます。
- 宛先はあらかじめ宛先表に登録しておく必要があります。(→ 宛先表に新規宛先の登録をする（宛先の登録）：P.10-5)
- [アクセス番号] はシステム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で宛先表のアクセス番号管理を「ON」に設定している場合に表示されます。(→ 宛先表のアクセス番号管理を設定する：P.11-20)

9 転送終了通知の種類を設定します。

エラー時のみ通知する場合は [エラー時のみ通知] を押して、設定を「ON」にします。

すべての転送完了時に通知する場合は、[エラー時のみ通知] を押さずに、設定を「OFF」にします。

10 [ファイル形式] を押したあと、転送する画像のファイル形式を選択します。



以下の場合は、この操作は必要ありません。

- ファクスを転送先として選択している場合
- ファクスボックスを転送先として選択している場合
- I ファクスを転送先として選択している場合

受信手段に「ファクス」を設定している場合のファイル形式は、次の形式から選択できます。

- [TIFF]： TIFF 形式で送信されます。
- [PDF]： PDF 形式で送信されます。さらに、[OCR（文字認識）]、[電子署名をつける] を選択することができます。電子署名をつける場合は、[機器署名] または [タイムスタンプ] から選択することができます。

複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、[ページごとに分割] を「ON」に、複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

受信手段に「Iファクス」を設定している場合のファイル形式は、次の形式から選択できます。

- [TIFF/PDF 自動選択]： カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの画像を含む場合はPDF形式で送信されます。[ページごとに分割] を「ON」に設定することはできません。
- [TIFF/JPEG 自動選択]： カラーモードが白黒 2 値の場合は TIFF、フルカラーまたはグレイスケールの場合は JPEG 形式で送信されます。[ページごとに分割] は「ON」に設定されます。
- [PDF]： カラーモードにかかわらず PDF 形式で送信されます。さらに、[アウトライン]、[高圧縮]、[OCR（文字認識）]、[電子署名をつける] を選択することができます。電子署名をつける場合は、[機器署名] または [タイムスタンプ] から選択することができます。
  複数の画像をページごとに分割して、別べつのファイルとして送信する場合は、[ページごとに分割] を「ON」に、複数の画像をページごとに分割しないで、1 つのファイルとして送信する場合は、設定を「OFF」にします。

メモ
- JPEG を見るには、JPEG に対応しているアプリケーション（Windows の場合は Microsoft Internet Explorer など）が必要です。
- TIFF を見るには、TIFF に対応しているアプリケーション（Windows の場合はイメージングなど）が必要です。
- PDF の閲覧には Adobe Reader/Adobe Acrobat などが必要です。
- ファイル形式の詳細については、用語集（→ P.14-26）の「ファイル形式（TIFF、PDF、JPEG）」を参照してください。

11 [OK] → [OK] を押します。

転送設定の詳細情報を確認／変更する

転送設定の詳細情報を確認し、変更することができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] を押します。**

2 **詳細を表示する転送設定を選択したあと、[詳細 / 編集] を押します。**

3 **転送設定の確認／変更をしたあと、[OK] を押します。**

メモ　転送設定の変更については、「転送設定を登録する」(→ P.11-29) を参照してください。

受信した文書を転送する

受信した文書を転送するかしないかの設定をすることができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] を押します。**

2 **転送設定を選択したあと、[条件の ON/OFF] を押します。**

選択する項目

[ON]：　受信した文書が転送条件と一致する場合、文書を転送先に送信します。

[OFF]：受信した文書が転送条件と一致する場合でも、文書を転送しません。

転送を解除する場合は、もう一度 [条件の ON/OFF] を押します。

転送設定を消去する

登録してある転送設定を消去することができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] を押します。**

2 **消去する転送設定を選択したあと、[消去] を押します。**

3 **[はい] を押します。**

転送設定内容をプリントする

転送設定の内容をプリントすることができます。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [転送設定] を押します。**

2 **[リストプリント] を押します。**

メモ　共通仕様設定（初期設定／登録）でカセットオート選択の ON/OFF の［その他］で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

3 **[はい] を押します。**

LDAP サーバの設定をする

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）サーバを登録しておくと、LDAP サーバから電子メールアドレスやファクス番号を検索することができます。検索された電子メールアドレスやファクス番号は、宛先に指定したり、宛先表に追加したりすることができます。

メモ
- 本製品で使用できるLDAPサーバは以下の種類になります。詳細については、お求めになった販売店または担当サービスにお問い合わせください。
  - ・Windows 2000 Server with Active Directory
  - ・Novell NetWare5.1 (NDS) 以降
  - ・Lotus Notes Domino R5 以降
- LDAP サーバは最大 5 件まで登録できます。

LDAP サーバの登録をする

LDAP サーバのサーバ名やサーバアドレスなどの設定をします。

1 **(初期設定／登録) →［システム管理設定］→［LDAP サーバの登録］→［登録］を押します。**

2 **各項目を設定したあと、［次へ］を押します。**



［サーバ名］：

サーバ名を入力したあと、［OK］を押します。

［サーバアドレス］：

［サーバアドレス］を押して、サーバアドレスを入力したあと、［OK］を押します。

［検索開始位置］：

［検索開始位置］を押して、検索開始位置を入力したあと、［OK］を押します。

サーバの LDAP バージョンが ver.3 の場合は［検索開始位置］を省略することができます。（ver.3 の場合は本製品が自動的にサーバ側の設定を取得して、検索開始位置を設定します。）Ver.2 の場合は必ず指定してください。

LDAP サーバのディレクトリツリーのどの位置から検索するか指定します。

- Windows 2000 Server with Active Directory の場合
  Active Directoryのドメイン名を構成するドット区切りされた各文字列にDC=を付加し、カンマで区切って入力します。
  例：Active Directory におけるドメイン名が、team1.salesdept.canon.co.jp の場合
  DC=team1, DC=salesdept, DC=canon, DC=co, DC=jp
- Novell NetWare5.1 (NDS) 以降の場合
  NetWare の識別名を構成するドット区切りされた各文字列を、それぞれのオブジェクトクラスに対応した o=, ou=, c= を付加し、カンマで区切って入力します。
  例：NDS における識別名が、TEAM1.SALESDEPT.CANON の場合
  ou=team1, ou=salesdept, o=canon
- Lotus Notes Domino R5 以降の場合
  ou=team1, ou=salesdept, o=canon, c=jp のようにディレクトリツリー上のノードの dn（識別名）を入力します。

＜ SSL を使用＞：

［ON］： SSL（Secure Socket Layer）を利用します。

［OFF］： SSL を利用しません。

＜ポート番号＞：

ポート番号の［□］を押して、⓪～⑨（テンキー）で入力します。

＜検索する宛先の上限数＞：

検索する宛先の上限数の［□］を押して、⓪～⑨（テンキー）で入力します。

＜検索のタイムアウト＞：

検索のタイムアウトの［□］を押して、⓪～⑨（テンキー）で入力します。

重要 ログイン情報に［使用する（セキュリティ認証）］を選択する場合で、DNS サーバが逆引き参照（IP アドレスをホスト名に変換する機能）に対応していないときは、サーバアドレスに IP アドレスではなくホスト名を指定してください。

3 ログイン情報の［使用しない］、［使用する］または［使用する（セキュリティ認証）］を選択します。

重要

- ［使用する（セキュリティ認証）］は、LDAP サーバが Windows 2000 Server with Active Directory の場合のみ選択できます。
- 手順２でサーバアドレスに IP アドレスを入力し、かつ DNS サーバが逆引き参照（IP アドレスをホスト名に変更する機能）に対応していない場合は、［使用しない］または［使用する］を選択してください。
- ログイン情報で［使用する（セキュリティ認証）］を選択した場合は、システム管理設定（初期設定／登録）で設定した日付／時刻設定と LDAP サーバ側の時刻設定がずれていると、サーバに接続できない場合があります。

●［使用しない］を選択した場合

❑ サーバの LDAP バージョンと文字コードを選択したあと、［OK］を押します。



サーバの LDAP バージョンと文字コードは、サーバ（LDAP）側の環境に応じて設定してください。

●［使用する］を選択した場合

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



［ユーザ名］:

［ユーザ名］を押して、ユーザ名を入力したあと、［OK］を押します。

ユーザ名は次のように入力します。

- Windows 2000 Server with Active Directory の場合
  Windows ドメイン名 ¥Windows ユーザ名の形式で入力します。
  例：Windows ドメイン名が、team1、Windows ユーザ名が user1 の場合
  team1¥user1
- Novell NetWare5.1 (NDS) 以降の場合
  NetWare の識別名を構成するドット区切りされた各文字列を、それぞれのオブジェクトクラスに対応した o=, ou=, c= を付加し、カンマで区切って入力します。
  例：NDS における識別名が、user1.TEAM1.SALESDEPT.CANON の場合
  cn=user1, ou=team1, ou=salesdept, o=canon
- Lotus Notes Domino R5 以降の場合
  cn=user1, ou=team1, o=salesdept のように認証を行うユーザの dn（識別名）を入力します。

［パスワード］:

［パスワード］を押して、パスワードを入力したあと、［OK］を押します。

確認入力画面で同じパスワードを入力したあと、［OK］を押します。

［OK］を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

＜検索時に認証画面を表示＞:

［ON］: 検索時にパスワードの入力が不要な場合でもユーザ名、パスワードを入力する画面を表示します。

［OFF］: 検索時にパスワードの入力が不要な場合はユーザ名、パスワードを入力する画面を表示しません。

＜サーバの LDAP バージョンと文字コード＞:

サーバの LDAP バージョンと文字コードは、サーバ（LDAP）側の環境に応じて設定してください。

●［使用する（セキュリティ認証）］を選択した場合

❑ 各項目を設定したあと、［OK］を押します。



［ユーザ名］：

［ユーザ名］を押して、ユーザ名を入力したあと、［OK］を押します。

Windows ユーザ名を入力します。
例：Windows ユーザ名が user1 の場合
user1

［パスワード］：

［パスワード］を押して、パスワードを入力したあと、［OK］を押します。

確認入力画面で同じパスワードを入力したあと、［OK］を押します。

［OK］を押したあと、パスワードは「＊＊＊＊＊＊＊＊」で表示されます。

［ドメイン名］：

［ドメイン名］を押して、ドメイン名を入力したあと、［OK］を押します。

team1.salesdept.canon.co.jp など、Active Directory のディレクトリツリー名を入力します。

＜検索時に認証画面を表示＞：

［ON］： 検索時にパスワードの入力が不要な場合でもユーザ名、パスワードを入力する画面を表示します。

［OFF］： 検索時にパスワードの入力が不要な場合はユーザ名、パスワードを入力する画面を表示しません。

メモ パスワードを入力するときに、システム管理設定（初期設定／登録）の機密情報入力時の伏せ字表示の ON/OFF を「OFF」に設定している場合は、確認入力が表示されず、機密情報が直接表示されます。（→ ユーザーズガイド「第 6 章 システム管理設定」）

LDAP サーバの設定内容を変更する

必要に応じて、登録してある LDAP サーバの設定内容を変更します。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [LDAP サーバの登録] を押します。**

2 **変更する LDAP サーバを選択したあと、[詳細 / 編集] を押します。**

3 **各項目の設定内容を変更したあと、[次へ] を押します。**

4 **[使用しない]、[使用する] または [使用する (セキュリティ認証)] を選択して、各項目の設定内容を変更したあと、[OK] を押します。**

LDAP サーバを消去する

登録されている LDAP サーバを消去します。

1 **(初期設定／登録) → [システム管理設定] → [LDAP サーバの登録] を押します。**

2 **消去する LDAP サーバを選択したあと、[消去] を押します。**

3 **[はい] を押します。**

LDAP 検索属性の登録／編集をする

サーバ検索の属性を登録／編集することができます。

1 **(初期設定／登録) →［システム管理設定］→［LDAP サーバの登録］→［LDAP 検索属性の登録 / 編集］を押します。**

2 **LDAP 検索属性の登録／編集を行います。**



● 検索属性を登録する場合

❑［未登録 1］または［未登録 2］を押したあと、［登録 / 編集］を押します。

❑［表示名］を押したあと、表示名を入力して［OK］を押します。

❑［属性名］を押したあと、属性名を入力して［OK］を押します。

❑［OK］を押します。

● 検索属性を編集する場合

❑ 編集する属性を選択したあと、［登録 / 編集］を押します。

メモ　編集することができる検索属性は、工場出荷時に［未登録］となっていた 2 つの属性のみです。名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位は編集することはできません。

❑［表示名］を押したあと、表示名を入力して［OK］を押します。

❑［属性名］を押したあと、属性名を入力して［OK］を押します。

❑［OK］を押します。

● 検索属性を消去する場合

❑ 消去する属性を選択したあと、［消去］を押します。

メモ　消去することができる検索属性は、工場出荷時に［未登録］となっていた 2 つの属性のみです。名前、電子メール、ファクス、組織、組織単位は消去することはできません。

❑［はい］を押します。

LDAP サーバの設定内容をプリントする

LDAP サーバの設定内容をプリントすることができます。

メモ　LDAP サーバの登録リストの詳細については「LDAP サーバ登録リスト」(→ P.14-18) を参照してください。

1 (初期設定／登録) → [システム管理設定] → [LDAP サーバの登録] を押します。

2 [リストプリント] を押します。

メモ　共通仕様設定 (初期設定／登録) でカセットオート選択の ON/OFF の [その他] で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

3 [はい] を押します。

12
CHAPTER

レポート出力

各種レポートのプリント方法について説明しています。

レポート出力一覧表 12-2
レポートの出力の仕様を設定する 12-4
送信結果レポートの設定をする 12-4
通信管理レポートの設定をする 12-6
ファクス送信結果レポートの設定をする 12-8
ファクス通信管理レポートの設定をする 12-9
ファクス受信結果レポートの設定をする 12-10
ファクスボックス受信レポートの設定をする 12-10
リストをプリントする 12-11
宛先表リストをプリントする 12-11
ユーザデータリストをプリントする 12-12

レポート出力一覧表

レポート出力で登録／設定できる項目を以下に示します。

■ 仕様設定

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
送信			
送信結果レポート	エラー時のみ*、ON、OFF 送信原稿の表示：ON*、OFF カラー送信原稿の表示：ON、OFF*	○	P.12-4
通信管理レポート		○	P.12-6
100 通信で自動プリント	ON*、OFF		
指定時刻プリント	ON、OFF* 時刻指定：00:00 ～ 23:59		
送信／受信分離	する、しない*		
ファクス[*1]			
ファクス送信結果レポート	エラー時のみ*、ON、OFF 送信原稿の表示：ON*、OFF	○	P.12-8
ファクス通信管理レポート		○	P.12-9
40 通信で自動プリント	ON*、OFF		
指定時刻プリント	ON、OFF* 時刻指定：00:00 ～ 23:59		
送信／受信分離	する、しない*		
ファクス受信結果レポート	エラー時のみ、ON、OFF*	○	P.12-10
ファクスボックス受信レポート	ON*、OFF	○	P.12-10

* マークは工場出荷時の設定です。

*1：オプションの FAX ボード装着時に表示される項目です。

■ リストプリント

初期設定／登録項目	設定項目	機器情報配信項目	参照ページ
送信			
宛先表リスト	宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン リストプリント：プリント	×	P.12-11
ユーザデータリスト	プリント	×	P.12-12
ファクス[*1]			
ユーザデータリスト	プリント	×	P.12-12

*1：オプションの FAX ボード装着時に表示される項目です。

メモ
- 本書に記載していないモードの設定のしかたについては、別冊の取扱説明書を参照してください。（→ 取扱説明書の分冊構成について）
- 機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、ユーザーズガイド「第 6 章　システム管理設定」を参照してください。
  - ・○：機器情報配信対象
  - ・×：機器情報配信対象外

レポートの出力の仕様を設定する

送信結果レポートと通信管理レポートのプリント条件を設定します。

メモ　共通仕様設定（初期設定／登録）の、カセットオート選択の ON/OFF の［その他］で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

送信結果レポートの設定をする

送信結果レポートとは、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントすることができます。また、送信エラーが発生したときのみプリントするように設定することもできます。

送信結果レポートに送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。

メモ
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先に送信したときやボックスに保管したときの送信結果がプリントされます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスに送信したときやボックスに保管したときの送信結果がプリントされます。また、レポート出力（初期設定／登録）の送信結果レポートを「エラー時のみ」または「ON」に設定している場合は、送信結果レポートとともに、ファクス送信結果レポートもプリントされます。(→ ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート：P.14-6)
- 送信結果レポート／エラー結果レポートの詳細については、「送信結果レポート／エラー送信レポート」(→ P.14-4) を参照してください。

1 (初期設定／登録) → [レポート出力] → (仕様設定) [送信] → [送信結果レポート] を押します。

2 [エラー時のみ]、[ON] または [OFF] を選択します。

● [エラー時のみ] または [ON] を選択した場合

❑ 送信原稿の表示の [ON] または [OFF] を選択します。

選択する項目

[ON]： 送信結果レポートに白黒原稿の一部をつけてプリントします。
[OFF]： 送信結果レポートに白黒原稿をつけずにプリントします。

❑ カラー送信原稿の表示の [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[ON]： 送信結果レポートにカラー原稿をつけてプリントします。
[OFF]： 送信結果レポートにカラー原稿をつけずにプリントします。

[カラー送信原稿の表示] は、[送信原稿の表示] が [ON] の場合に設定できます。

メモ 以下の場合は、送信原稿の表示が「ON」に設定されていても、原稿は表示されません。
・[カラー送信原稿の表示] が「OFF」の場合に、送信原稿の 1 ページ目がカラーの場合
・暗号化 PDF を設定して送信を行った場合

● [OFF] を選択した場合

❑ [OK] を押します。

送信結果レポートはプリントされません。

通信管理レポートの設定をする

送信／受信の履歴をレポートとしてプリントします。レポートは、100 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択することができます。また、送信、受信別にプリントすることもできます。

通信管理レポートを手動でプリントする場合は、システム状況画面から行います。(→ 送信ジョブの状況／履歴をプリントする：P.8-8、受信ジョブ履歴をプリントする：P.8-14)

メモ
- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示を「OFF」に設定している場合、［通信管理レポート］は表示されません。
- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示の設定を「OFF」から「ON」に変えた場合、下記の設定が自動的に「OFF」になります。
  ・100 通信で自動プリント
  ・指定時刻プリント
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの送信／受信やボックスへの保管の履歴が合わせてプリントされます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスの送信／受信やボックスへ保管の履歴が合わせてプリントされます。
- 通信管理レポートの詳細については、「通信管理レポート」(→ P.14-13) を参照してください。

1 (初期設定／登録) → ［レポート出力］ → (仕様設定) ［送信］ → ［通信管理レポート］を押します。

2 各項目を設定したあと、[OK] を押します。



＜ 100 通信で自動プリント＞：

[ON]： 100 件の文書を通信し終えた時点でレポートをプリントします。

[OFF]： 100 通信で自動プリントは設定されません。

＜指定時刻プリント＞：

[ON]： 指定した時刻にレポートをプリントします。

[OFF]： 指定時刻プリントは設定されません。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例： 7 時 5 分 →0705

23 時 18 分 →2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

指定時刻までに 100 通信以上が行われたときは、新しいものから 100 通信分のレポートをプリントします。

[送信 / 受信分離]：

送信と受信に分けてプリントする場合は[送信 / 受信分離]を押して、設定を「ON」にします。

送信と受信に分けないでプリントする場合は [送信 / 受信分離] を押さずに、設定を「OFF」にします。

ファクス送信結果レポートの設定をする

ファクス送信結果レポートとは、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。ファクス送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントすることができます。また、送信エラーが発生したときのみプリントするように設定することもできます。

ファクス送信結果レポートに送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ファクス送信結果レポートの詳細については、「ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート」(→ P.14-6) を参照してください。
- レポート出力（初期設定／登録）の送信結果レポートを「エラー時のみ」または「ON」に設定している場合は、ファクス送信結果レポートと共に、送信結果レポートもプリントされます。
- 本設定を「ON」にしてファクス同報送信を行った場合、ファクスマルチ送信結果レポートが出力されます。

1 (初期設定／登録) → [レポート出力] → (仕様設定) [ファクス] → [ファクス送信結果レポート] を押します。

2 [エラー時のみ]、[ON] または [OFF] を選択します。

● [エラー時のみ] または [ON] を選択した場合

❑ 送信原稿の表示の [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[ON]： ファクス送信結果レポートに原稿の一部をつけてプリントします。

[OFF]： ファクス送信結果レポートに送信原稿をつけずにプリントします。

● [OFF] を選択した場合

❑ [OK] を押します。

ファクス送信結果レポートはプリントされません。

ファクス通信管理レポートの設定をする

ファクスの送信／受信の履歴をレポートとしてプリントします。レポートは、40 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択することができます。また、送信、受信別にプリントすることもできます。

ファクス通信管理レポートを手動でプリントする場合は、システム状況画面から行います。(→ ファクス通信管理レポートをプリントする：P.8-12)

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示を「OFF」に設定している場合、［ファクス通信管理レポート］は表示されません。
- システム管理設定（初期設定／登録）のジョブ履歴の表示の設定を「OFF」から「ON」に変えた場合、下記の設定が自動的に「OFF」になります。
  - ・40 通信で自動プリント
  - ・指定時刻プリント
- ファクス通信管理レポートの詳細については、「ファクス通信管理レポート」(→ P.14-15)を参照してください。

1 (初期設定／登録) →［レポート出力］→（仕様設定）［ファクス］→［ファクス通信管理レポート］を押します。

2 各項目を設定したあと、［OK］を押します。

＜ 40 通信で自動プリント＞：

［ON］： 40 件の文書を通信し終えた時点でレポートをプリントします。

［OFF］： 40 通信で自動プリントは設定されません。

＜指定時刻プリント＞：

［ON］： 指定した時刻にレポートをプリントします。

［OFF］： 指定時刻プリントは設定されません。

時刻の表示形式は 24 時間制です。時刻は 0 を含む 4 桁の数字を入力します。

例： 7 時 5 分 →0705

23 時 18 分 →2318

入力を間違えたときは、再度 4 桁の数字を入力します。

指定時刻までに 40 通信以上が行われたときは、新しいものから 40 通信分のレポートをプリントします。

［送信 / 受信分離］：

送信と受信に分けてプリントする場合は［送信 / 受信分離］を押して、設定を「ON」にします。

送信と受信に分けないでプリントする場合は［送信 / 受信分離］を押さずに、設定を「OFF」にします。

ファクス受信結果レポートの設定をする

ファクス受信結果レポートは、相手先から正常にファクス文書が送信されてきたか、本製品で正常に受信できたかを確認するためのレポートです。ファクス受信結果レポートは、自動的にプリントすることができます。また、受信エラーが発生したときのみ、プリントするように設定することもできます。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ファクス受信結果レポートの詳細については、「ファクス受信結果レポート」（➞ P.14-9）を参照してください。

1 **（初期設定／登録）→［レポート出力］→（仕様設定）［ファクス］→［ファクス受信結果レポート］を押します。**

2 **［エラー時のみ］、［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

選択する項目

［エラー時のみ］：	受信エラーのときのみプリントします。
［ON］：	受信するたびにプリントします。
［OFF］：	受信結果レポートをプリントしません。

ファクスボックス受信レポートの設定をする

ファクスボックス受信レポートをプリントします。ファクスボックス内に文書を受信したことを確認することができます。

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- ファクスボックス受信レポートの詳細については、「ファクスボックス受信レポート」（➞ P.14-11）を参照してください。

1 **（初期設定／登録）→［レポート出力］→（仕様設定）［ファクス］→［ファクスボックス受信レポート］を押します。**

2 **［ON］または［OFF］を選択したあと、［OK］を押します。**

リストをプリントする

宛先表や初期設定／登録の設定内容をプリントすることができます。

メモ　共通仕様設定（初期設定／登録）の、カセットオート選択の ON/OFF の［その他］で「ON」に設定されている給紙箇所に、A3、B4、A4、A4R の普通紙、再生紙または色紙がセットされているときにリストをプリントできます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

宛先表リストをプリントする

宛先表仕様設定（初期設定／登録）で登録したサブ宛先表（宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタン）の内容をプリントすることができます。設定内容を確認するときなどに便利です。

重要　システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限で、宛先表のアクセス番号管理を行っていても、宛先表のリストプリントを行った場合、すべての宛先がプリントされます。

メモ　宛先表リストの詳細については、「宛先表リスト」(→ P.14-19) を参照してください。

1　**(初期設定／登録) →［レポート出力］→（リストプリント）［送信］→［宛先表リスト］を押します。**

2　**宛先表 1 ～ 10 、ワンタッチボタンからプリントする宛先表を選択したあと、［リストプリント］を押します。**

3　**［はい］を押します。**

ユーザデータリストをプリントする

初期設定／登録の送信やファクスに関する登録内容をプリントすることができます。設定内容を確認するときなどに便利です。

メモ
- ユーザデータリストには、以下の種類があります。
  - ・送信：　初期設定／登録の送信に関する登録内容をすべてプリントします。
  - ・ファクス：　初期設定／登録のファクスに関する登録内容をすべてプリントします。
- ユーザデータリストの詳細については、「ユーザデータリスト」(→P.14-20) を参照してください。

送信に関する登録内容をプリントする

1 **(初期設定／登録) → [レポート出力] → (リストプリント) [送信] → [ユーザデータリスト] を押します。**

2 **[はい] を押します。**

ファクスに関する登録内容をプリントする

1 **(初期設定／登録) → [レポート出力] → (リストプリント) [ファクス] → [ユーザデータリスト] を押します。**

2 **[はい] を押します。**

13
CHAPTER

困ったときには

トラブルが発生した場合の対処のしかたについて説明しています。また、エラーメッセージの対処方法や、よくある質問について記載しています。

トラブルが発生したら 13-2
送信でのトラブル 13-2
受信でのトラブル 13-5
その他のトラブル 13-6
エラーメッセージ一覧 13-8
自己診断表示 13-8
終了コード一覧 13-12
Q&A. 13-33

トラブルが発生したら

送信でのトラブル

送信を中止したい

Q 送信する原稿の読み込み中ですか？

A ▷(ストップ) または［中止］を押します。

Q 送信する原稿を読み取ったあとですか？

A ファクス送信以外の場合は、［システム状況 / 中止］→［送信］→［ジョブ状況］を押します。送信を中止する文書を選択して、［中止］→［はい］を押します。ただし、送信中のジョブは［中止］を押しても送信される場合があります。(→ システム状況画面から中止する：P.1-38)

A ファクス送信の場合は、［システム状況 / 中止］→［ファクス］→［送信ジョブ状況］を押します。送信を中止する文書を選択して、［中止］→［はい］を押します。ただし、送信中のジョブは［中止］を押しても送信される場合があります。(→ システム状況画面から中止する：P.1-38)

Q ファクスダイレクト送信中ですか？

A ▷(ストップ) または［中止］を押します。

送信できない

Q 宛先の設定は正しいですか？

A 相手先の宛先を確認してください。

Q 宛先表に登録されている宛先は正しいですか？

A 宛先表に登録されている宛先を確認してください。(→ 宛先の登録内容を変更する：P.10-34)

Q 相手機でトラブルが発生していませんか？

A 相手機の電源が切れていないか、記録紙やメモリの空き容量が不足していないかなど、正常に通信できる状態であるかを確認してください。

電子メール、I ファクス、ファイルが送信できない。（オプションの Send 拡張キットを有効にしたとき）

Q 電子メール、I ファクス送信の場合、SMTP サーバ、DNS サーバの設定は正しいですか？

A SMTP サーバ、DNS サーバの設定を確認してください。

Q ファイル送信の場合、ユーザ名やパスワードは正しいですか？

A ユーザ名やパスワードを確認して、もう一度送信してください。

Q ファイル送信の場合、共有フォルダの設定は正しいですか？

A 共有フォルダの設定を確認してください。（→ ネットワークガイド「第 5 章 NetBIOS ネットワークで使用する」）

ファクスが送信できない（オプションの FAX ボード装着時）

Q 電話回線の種類は正しく設定されていますか？

A 設定されている電話回線の種類を確認してください。（→ 電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）：P.1-14）

Q F コードを使った送信ができないときは、指定された F コードやパスワードを設定しましたか？

A F コードやパスワードを確認してください。

Q 電話回線が PBX やターミナルアダプタに接続されていますか？

A 送信前のダイヤルトーン確認を「OFF」に設定してください。（→ 送信前にダイヤルトーンを確認する（送信前のダイヤルトーン確認）：P.9-51）

すぐにメモリがいっぱいになる

Q 不要な文書がメモリに蓄積されていませんか？

A 送信および受信状況を確認して、メモリ内の不要な文書を削除してください。（→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」）

相手先の受信文書がきれいにプリントされない

Q 原稿台ガラスが汚れていませんか？

A コピー機能を使ってコピーをとり、汚れを確認してください。
コピーした原稿が汚れるときは、原稿台ガラスを清掃してください。(→ ユーザーズガイド「第 7 章　日常のメンテナンス」)

相手先の受信文書の濃度が薄い

Q 「濃度：うすく」・「画質：写真」に設定して、原稿を送信していませんか？

A 「濃度：こく」・「画質：文字」に設定して、原稿を送信してください。(→ 濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）：P.3-15)

F コードを使った送信ができない（オプションの FAX ボード装着時）

Q 相手先の F コードとパスワードを正しく指定しましたか？

A 相手機が F コード機能を持っているか確認してください。

A 指定した F コードとパスワードが一致しているか、相手先に確認してください。

Q 相手機でトラブルが発生していませんか？

A 相手機の電源が切れていないか、記録紙やメモリの空き容量が不足していないかなど、正常に通信できる状態であるかを確認してください。

Q 宛先表に登録されている F コードとパスワードは正しいですか？

A 宛先表の登録内容を確認してください。

相手先のファクスの受信切り替えが遅く、いつもエラーになる(オプションの FAX ボード装着時)

Q ファクス番号にポーズを入れていますか？

A 受信切り替えに時間がかかるファクスに送信するときには、相手先のファクス番号の最後にポーズを入れてください。

受信でのトラブル

受信ができない

Q メモリの空き容量は十分ですか？

A ボックス内の不要な文書や送信エラー文書などを削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

電子メール、I ファクス、ファイルが受信できない。(オプションの Send 拡張キットを有効にしたとき)

Q ネットワーク設定は設定されていますか？

A ネットワーク設定をしないと、受信できません。システム管理者に確認してください。

ファクスの受信ができない（オプションの FAX ボード装着時）

Q 通信管理設定（初期設定／登録）のファクス設定で、受信パスワードが設定されていませんか？

A 受信パスワードが設定されていると、パスワードを指定した相手先からしか受信できません。システム管理者に確認してください。(→ ファクスの設定をする：P.11-11)

ファクスボックスに受信できない

Q 転送設定で転送条件を正しく設定しましたか？

A 設定されている転送条件を確認して、送信元に連絡してください。(→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27)

Q 転送条件は「ON」になっていますか？

A 転送条件を「ON」にしないと、転送設定は有効になりません。(→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27)

Q メモリの空き容量は十分ですか？

A ボックス内の不要な文書や送信エラー文書などを削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

A ファクスボックス内の不要な文書を削除してください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18)

メモリ受信ができない

Q メモリの空き容量は十分ですか？

A ボックス内の不要な文書や送信エラー文書などを削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

A システムボックス内の不要な文書を削除してください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18)

プリントされた原稿にムラがある

Q 相手機の原稿台ガラスが汚れていませんか？

A 本製品でコピーがきれいにとれるときは、相手機に問題があります。送信相手に連絡して、相手機を清掃してもらってから、もう一度送信しなおしてもらってください。

その他のトラブル

送受信の速度が遅い

Q 高解像度で送信していませんか？

A 文字だけの原稿などは、低解像度で送信することをおすすめします。

ファクスの送受信の速度が遅い（オプションの FAX ボード装着時）

Q 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のファクス設定で、「ECM 送信」または「ECM 受信」が設定されていませんか？

A 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のファクス設定で、「ECM 送信」、「ECM 受信」を確認してください。(→ ECM 送信を設定する（ECM 送信）：P.9-47、ECM 受信を設定する（ECM 受信）：P.9-52)

Q 送信するときの画質が「文字 / 写真」に設定されていませんか？

A 写真がない原稿の場合は、読込設定の画質選択ドロップダウンリストで「文字」を選択してください。(→ 濃度／画質を調節して読み込む（濃度調節）：P.3-15)

ファクス情報サービスが利用できない（オプションの FAX ボード装着時）

Q 電話回線がダイヤル回線の場合、トーンモードになっていますか？

A ダイヤル回線の場合、ファクス情報サービスを利用するときにトーンボタンを押す必要があります。(→ プッシュホンサービスを利用する：P.7-7)

Q 相手から受信状態にするように指示はありませんでしたか？

A [受信スタート] を押してください。(→ プッシュホンサービスを利用する : P.7-7)

海外にファクス送信できない（エラーコード #018）（オプションの FAX ボード装着時）

Q ファクス番号にポーズを入れていますか？

A 国際通信を行っている会社の局番（「0061」など）のあと、または相手先のファクス番号のあとにポーズを入れ、もう一度ダイヤルしてください。(→ ファクス番号を指定する：P.2-2)

A 宛先表で送信した場合は、詳細設定の国際送信を変更してください。(→ 宛先の登録内容を変更する：P.10-34)

電話がつながらない、間違い電話になる

Q 電話番号やファクス番号を入力する前に、発信音（ツー音）を確認しましたか？

A 電話番号やファクス番号を入力する前に、必ず発信音（ツー音）を確認してください。発信音が聞こえる前に入力してしまうと、電話がつながらなかったり、間違い電話になったりすることがあります。

エラーメッセージ一覧

タッチパネルディスプレイに表示されるメッセージの対処方法を説明します。

記載されていないメッセージについては、「ユーザーズガイド」、「ネットワークガイド」を参照してください。

自己診断表示

表示されたメッセージに応じて、必要な処理を行ってください。

次のような状態になったとき、自己診断表示が表示されます。

- 何らかの操作上の誤りで読み込みやプリントできないとき。
- 読み込み中やプリント動作中にユーザの判断や処理が必要になったとき。
- ネットワークの参照中にユーザの判断や処理が必要になったとき。

以下は、自己診断メッセージと原因と処置方法の一覧です。

TCP/IP のリソース不足です。しばらくたってから、もう一度操作してください。

原　因　FTP や Windows (SMB) で連続送信中または連続送信終了後、TCP/IP のリソースが不足したため、参照できません。

処　置　しばらく待ってから、もう一度参照してください。

IP アドレスを設定してください。

原　因　本製品の IP アドレスが設定されていません。

処　置　初期設定／登録で IP アドレスを設定したあとに、本製品の主電源を入れなおしてください。

サーバから応答がありませんでした。設定を確認してください。

原　因　指定したサーバの設定が正しくないか、電源が入っていません。または、リソースが不足している可能性があります。

処　置　しばらく待ってから、もう一度参照してください。それでも参照できない場合は、他のサーバを選択してください。

NetWare が使用中です。しばらくたってから、もう一度操作してください。

原　因　NetWare が PServer または NDS PServer でプリントを行っているため、参照できません。

処　置　NetWare のプリントが終了したあとに、もう一度参照してください。

参照先の階層が深すぎます。

原　因　設定できる文字数を超えました。

処　置　この階層は指定できません。他の宛先を指定してください。

応答がありません。

原因 1　ファイル送信でサーバが立ち上がっていません。

処　置　送信先を確認してください。

原因 2　ファイル送信でネットワークが切れています。（送信先に接続できない場合と、途中で断線した場合があります。）

処　置　ネットワークを確認してください。

原因 3　NetWare 送信で Tree 名が入力されていません。

処　置　Tree 名を入力してください。

原因 4　電子メールまたは I ファクスの送信時に TCP/IP でのエラーが発生しました。

処　置　ネットワークケーブルとコネクタの状態を確認してください。

TCP/IP を確認してください。

原　因　本製品の TCP/IP が動作していません。

処　置　初期設定／登録の TCP/IP 設定（IP アドレス、DHCP、RARP、BOOTP）を確認してください。(→ ネットワークガイド「第3章　TCP/IPネットワークで使用する」)

選択したサーバが見つかりませんでした。設定を確認してください。

原因 1 接続すべき IP アドレスが特定できません。

処置 1 初期設定／登録の DNS 設定を確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 DNS サーバ側の DNS データ設定が正しいか確認してください。

原因 2 LDAP サーバのログイン情報を「使用する（セキュリティ認証)」に設定している場合に、ホスト名が特定できません。

処　置 初期設定／登録の TCP/IP 設定（DNS 設定）を確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

選択したサーバに接続できません。設定を確認してください。

原　因 接続すべき IP アドレス／ポートに接続できません。

処置 1 初期設定／登録の TCP/IP 設定（IP アドレス設定のゲートウェイアドレス）を確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 初期設定／登録の LDAP サーバの設定（サーバアドレス、ポート番号）を確認してください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

処置 3 LDAP サーバが正常に動作しているか確認してください。

処置 4 LDAP サーバのログイン情報を「使用する（セキュリティ認証)」に設定している場合に、UDP パケットがフィルタで遮断されていないか確認してください。

ユーザ名とパスワード、もしくは設定を確認してください。

原因 1 LDAP サーバのログイン情報を「使用する」または「使用する（セキュリティ認証)」に設定している場合に、ユーザ名、パスワードが間違っています。

処　置 初期設定／登録の LDAP サーバの設定（ユーザ名、パスワード）を確認してください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

原因 2 LDAP サーバのログイン情報を「使用する（セキュリティ認証)」に設定している場合に、ドメイン名が間違っています。

処　置 初期設定／登録の LDAP サーバの設定（ドメイン名）を確認してください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

タイムアウトにより検索を終了できませんでした。設定を確認してください。

原　因　指定した検索時間内に検索が終了できませんでした。

処　置　初期設定／登録の LDAP サーバの設定で、検索のタイムアウトの時間を長く設定してください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

検索数上限数を超えました。目的の宛先が検索結果に表示されない場合は、検索条件を変更してください。

原　因　設定した検索数の上限数よりも多くの宛先が、検索条件に合致しました。

処置 1　検索条件を絞り込んでもう一度検索してください。

処置 2　検索する宛先の上限数を増やしてください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

検索条件に、選択したサーバでは使用できない文字が含まれています。

原因 1　検索条件に "¥" が使用されています。

処　置　検索条件から "¥" を除いて、もう一度検索してください。

原因 2　検索条件に使用された文字の組み合わせが、検索条件として成立しませんでした。

- "（" と "）" が同数含まれていない。
- "*" が "（　）" 内に含まれていない。

処　置　検索条件に使用する文字を正しく組み合わせ、もう一度検索してください。

原因 3　サーバの LDAP バージョンと文字コードが「Ver.2（JIS)」の場合に、ASCII コード（0x20-0x7E）以外の文字が使用されています。

処　置　使用できない文字を除いて、もう一度検索してください。

サーバのバージョン設定が間違っているため検索できません。設定を確認してください。

原　因　初期設定／登録の LDAP サーバの設定(サーバの LDAP バージョンと文字コード)で、「Ver.3」が指定されていますが、LDAP サーバは「Ver.2」で動作しています。

処　置　初期設定／登録の LDAP サーバの設定で、LDAP サーバのバージョンと文字コードを「Ver.2」に設定しなおしてください。(→ LDAP サーバの登録をする：P.11-48)

終了コード一覧

送信・受信のときにエラーが発生すると、システム状況画面のジョブ履歴の詳細情報画面や、通信管理レポートなどのレポートに終了コードが表示されます。終了コードを確認し、必要な処理を行ってください。(→第 8 章　送信／受信状況の確認と変更、レポートサンプル：P.14-2)

メモ　送信ジョブを中止すると、結果欄に「STOP」とプリントされます。

#001

原因 1　原稿サイズ混載の設定をしないまま、異なるサイズの原稿を読み込みました。

処　置　原稿と設定を確認し、もう一度やりなおしてください。

原因 2　原稿サイズ混載の設定をしないまま、異なるサイズの原稿を両面読み込みしました。

処　置　原稿と設定を確認し、もう一度やりなおしてください。

#003

原　因　規定時間（64 分）以上の通信はエラーになります。

処置 1　解像度を下げて送信してください。(→ 解像度を変更する : P.3-14) 原稿を分けて送信してください。

処置 2　受信の場合は、相手先に読み取り時の解像度を下げるか、原稿を分けて送信するよう伝えてください。

#005

原因 1　35 秒以内に相手先が応答しませんでした。

処　置　相手先が通信可能な状態であることを確認して、もう一度やりなおしてください。

原因 2　相手機が G3 以外の機種です。

処　置　相手機を確認してください。

#009

原因 1 用紙がありません。

処　置 用紙を補給してください。(→ ユーザーズガイド「第 7 章　日常のメンテナンス」)

原因 2 カセットが正しくセットされていません。

処　置 カセットを正しくセットしなおしてください。(→　ユーザーズガイド「第 7 章 日常のメンテナンス」)

#011

原　因 送信原稿が正しくセットされていませんでした。

処　置 もう一度はじめからやりなおしてください。

#012

原　因 相手機の記録紙がないため、送信できませんでした。

処　置 記録紙を補給するように、相手先に連絡してください。

#018

原因 1 リダイヤルしても応答がありませんでした。

処　置 相手先が通信可能な状態であることを確認して、もう一度やりなおしてください。

原因 2 相手が通話中などで送信できませんでした。

処　置 相手先が通信可能な状態であることを確認して、もう一度やりなおしてください。

原因 3 相手機との設定不一致のため送信できませんでした。

処　置 相手先が通信可能な状態であることを確認して、もう一度やりなおしてください。

#022

原因 1 転送先として指定したグループ宛先の内容が、削除されていたかユーザボックスのみであったため、転送できませんでした。

処　置 もう一度送信してください。

原因 2 宛先表に登録されている宛先へ送信するとき、送信待機中に宛先表から宛先が削除されたため、送信できませんでした。

処　置 もう一度送信してください。

原因 3 ファクスドライバからの送信が許可されていません。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）の送信機能の制限にある「ファクスドライバからの送信を許可」が「OFF」に設定されています。「ON」に設定してください。(→ ファクスドライバからの送信を許可するか設定する（ファクスドライバからの送信を許可）：P.11-22)

#037

原因 1 メモリの空き容量がないため、受信できませんでした。

処　置 エラー文書や不要な文書を削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

原因 2 1000 ページ以上のデータを受信しました。

処　置 本製品は、1000 ページ目以降のデータを削除して、999 ページ目までをプリントまたはメモリ受信します。つづきのページは送信しなおしてもらいます。

#080

原　因 相手機に F コードが設定されていません。

処　置 相手先の F コードを確認して、もう一度やりなおしてください。

#081

原　因 相手機にパスワードが設定されていません。

処　置 相手先のパスワードを確認して、もう一度やりなおしてください。

#102

原　因 F コード、パスワードが一致しません。

処　置 相手先の F コードとパスワードを確認して、もう一度やりなおしてください。

#107

原　因 メモリの空き容量がないため、送信できませんでした。

処置 1 解像度を下げて送信しなおしてください。

処置 2 エラー文書や不要な文書を削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

処置 3 頻繁に発生する場合は担当サービスまでおたずねください。

#701

原因 1 ジョブを投入したときに設定した部門 ID が存在しません。または、パスワードを変更しました。

処　置 正しい部門 ID または、暗証番号を⓪～⑨(テンキー）で入力して、もう一度送信してください。

原因 2 ジョブの実行中に部門 ID または暗証番号が変更されました。

処　置 変更後の部門 ID と暗証番号でもう一度やりなおしてください。暗証番号がわからないときは、システム管理者にご連絡ください。

原因 3 ID 不定のプリントジョブの受付設定が「OFF」になっています。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）の部門別 ID 管理にある「ID 不定プリンタジョブの許可」を「ON」にしてください。(→ ユーザーズガイド 「第 6 章 システム管理設定」)

#702

原　因 メモリがいっぱいになっていて、送信できません。

処置 1 しばらくお待ちください。他の送信ジョブが終了してから、もう一度送信してください。

処置 2 一度にたくさんの宛先に送信せずに、宛先を分割して送信してください。

#703

原　因 メモリの画像領域がいっぱいになり、書き込みができません。

処置 1 しばらくお待ちください。他の送信ジョブが終了してから、もう一度送信してください。

処置 2 ボックス内の文書を削除してください。それでも正常に動作しない場合は、本製品の主電源を入れなおしてください。(→ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」)

#704

原　因 宛先表から宛先情報を取得するときに、何らかのエラーが発生しました。

処　置 宛先の設定を確認してください。それでも正常に動作しない場合は、本製品の主電源を入れなおしてください。(→ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」)

#705

原　因 画像データサイズが初期設定／登録で設定した送信データサイズ上限値よりも大きいため、送信処理を中断しました。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定にある送信データサイズ上限値を設定しなおしてください。低解像度モードを選択したり、I ファクスの場合は一度に送信する画像の枚数を減らすなどして、送信データサイズ上限値を超えないように送信してください。(→ 電子メール／ I ファクス共通の通信設定をする：P.11-6) 相手先の条件によっては、データの分割を行ってください。

#706

原　因 リモート UI から宛先表がインポート／エクスポート中もしくは、他の送信コンポーネントと使用が重なりました。

処　置 もう一度送信してください。

#711

原　因 ボックス内のメモリがいっぱいです。

処　置 ボックス内の文書を削除してください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

#712

原　因　ボックス内の文書がいっぱいです。

処　置　ボックス内の文書を削除してください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

#713

原　因　URL を送信する前に、ボックス内の文書が削除されました。

処　置　必要な文書をボックス内に保存し、もう一度送信してください。

#751

原　因　サーバが立ち上がっていません。ネットワークが切れています。(送信先に接続できない場合と、途中で断線した場合があります。)

処　置　送信先を確認してください。ネットワークを確認してください。

#752

原因 1　サーバが立ち上がっていません。ネットワークが切れています。

処　置　SMTP サーバが正常に動作しているか確認してください。ネットワークの状態を確認してください。

原因 2　電子メール／I ファクスの SMTP サーバ名の設定が間違っているか、または、ドメイン名、電子メールアドレスの設定がされていません。

処　置　システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ I ファクスの SMTP サーバ名、ドメイン名、電子メールアドレスの設定を確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)

#753

原　因　電子メールの送信時に TCP/IP でのエラーが発生しました。(Socket、Select エラーなど)

処　置　ネットワークケーブルとコネクタの状態を確認してください。それでも正常に動作しない場合は、本製品の主電源を入れなおしてください。(→ ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」)

#754

原　因 送信時にサーバが立ち上がっていないか、ネットワークが切れています。宛先の設定が間違っています。

処　置 サーバ、ネットワークを確認してください。宛先の設定を確認してください。

#755

原因 1 TCP/IP が正しく動作していないため送信できません。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定を確認してください。（→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」）

原因 2 IP アドレスが設定されていません。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定を確認してください。（→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」）

原因 3 本製品立ち上げ時、DHCP、RARP、BOOTP のいずれかで IP アドレス割り当てが行われていません。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定を確認してください。（→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」）

#756

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある NetWare 設定の「NetWare を使用」が「OFF」に設定されています。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある NetWare 設定で「NetWare を使用」を「ON」に設定してください。

#760

原因 1 IC カードが挿入されていません。

処　置 IC カードを挿入してください。送信が終了するまで IC カードを抜かないでください。

原因 2 IC カードが途中で別のものに入れ替えられています。

処　置 ログイン時に使用した IC カードを挿入してください。送信が終了するまで IC カードを抜かないでください。

原因 3 サポート外の IC カードが挿入されています。

処　置 正規の IC カードを挿入してください。

原因 4 IC カードが壊れている可能性があります。

処　置 担当サービスまでご連絡ください。

#761

原　因 電子署名をつけた PDF 送信時に、本製品に設定されている証明書または鍵ペアが壊れているか、もしくはアクセスできないため送信できませんでした。

処置 1 ユーザ署名をつけた PDF 送信の場合は、ユーザ証明書が壊れていないか確認してください。ユーザ証明書が壊れていた場合には、ユーザ証明書の再インストールを行ってください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 機器署名をつけた PDF 送信の場合は、機器証明書が壊れていないか確認してください。機器証明書が壊れていた場合には、機器証明書の再生成を行ってください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

#763

原　因 タイムスタンプをつけた PDF 送信時にライセンスファイルが壊れているか、ライセンスファイルのパスワードが間違っているため、エラーが発生しました。

処置 1 ライセンスファイルの再設定を行ってください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 ライセンスファイルのパスワードを再設定してください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

#764

原因 1 DNS設定やプロキシ設定が間違ってるためタイムスタンプサーバと接続できませんでした。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定の DNS 設定、プロキシ設定を確認してください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

原因 2 ネットワーク回線に異常があるためタイムスタンプサーバと接続できませんでした。

処　置 DNS サーバ、プロキシサーバ、ネットワークの状態を確認してください。

#765

原　因 本製品のタイムスタンプモジュールが正常に機能していません。

処　置 本製品の主電源を入れなおしてください。それでも正常に動作しない場合は、担当サービスまでご連絡ください。(→ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」)

#766

原　因 電子署名つき PDF 送信時に使用する証明書の有効期限が切れています。

処置 1 証明書を更新してください。または、有効期限が切れていない証明書を使用してください。

処置 2 本製品の時刻を正しく設定してください。(→ 日付／時刻を設定する（日付／時刻設定）：P.1-14)

#767

原　因 タイムスタンプ設定のサーバアドレスが間違っているため、タイムスタンプサーバに接続できませんでした。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にあるタイムスタンプ設定のサーバアドレスを確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)

#770

原　因 WebDAV 送信時に、WebDAV サーバ側、プロキシサーバ側が SSL 通信をサポートしていないため、送信できませんでした。

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 プロキシを経由する場合はプロキシサーバを確認してください。

#801

原因 1 電子メールの送信または I ファクス送受信のため SMTP サーバとの通信をしている際に、メールサーバ側の要因でタイムアウトエラーが発生しました。

処　置 SMTP が正常に動作しているか確認してください。ネットワークの状態を確認してください。

原因 2 SMTP 接続中に SMTP サーバからエラーが返ってきました。宛先の設定が正しくありません。ファイルサーバへ送信しているときに、サーバ側の要因でエラーが発生しました。

処　置 SMTP が正常に動作しているか確認してください。ネットワークの状態を確認してください。宛先の設定を確認してください。ファイルサーバの状態や設定内容を確認してください。

原因 3 書き込み権限を持っていない宛先へ送信しました。

処　置 宛先の設定を確認してください。

原因 4 ファイルサーバ送信時に同名のファイルが存在し、さらにファイルの上書きが禁止されています。

処　置 ファイルサーバの設定を上書き可能に変更してください。またはサーバの管理者にお問い合わせください。

原因 5 ファイルサーバ送信時に指定されたフォルダ名あるいはパスワードが間違っています。

処　置 宛先の設定を確認してください。

#802

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの SMTP サーバ名の設定が間違っています。DNS サーバ名の設定が間違っています。DNS サーバとの接続ができませんでした。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある SMTP サーバ名、DNS サーバ名の設定を確認してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」）DNS サーバが正常に動作しているか確認してください。

#803

原　因 すべてのページの送信が終わるまえに、受信側によってネットワークが切断されました。

処　置 もう一度送信してください。

#804

原因 1 ファイルサーバに送信したとき、指定されたディレクトリ名に一致するものがありませんでした。

処　置 宛先を確認してください。

原因 2 フォルダへのアクセス権がありません。

処　置 サーバ側でフォルダへのアクセスを許可するように設定してください。またはサーバの管理者にお問い合わせください。

#806

原因 1 ファイルサーバ送信時に指定されたユーザ名あるいはパスワードが間違っています。

処　置 宛先のユーザ名あるいはパスワードを変更してください。

原因 2 電子メール／Iファクス送信時に指定した宛先が間違っています。

処　置 電子メール／Iファクスの宛先を確認してください。

#810

原因 1 Iファクスを受信したときに POP サーバ接続エラーが発生しました。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの POP サーバ設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」) POP サーバの動作確認をしてください。ネットワークの状態を確認してください。

原因 2 POP サーバとの接続中に POP サーバからエラーが返ってきました。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの POP サーバ設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」) POP サーバの動作確認をしてください。ネットワークの状態を確認してください。

原因 3 POP サーバとの接続中にサーバ側の要因でタイムアウトエラーが発生しました。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの POP サーバ設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」) POP サーバの動作確認をしてください。ネットワークの状態を確認してください。

#815

原　因 本製品からファイルサーバに送信した文書をプリントしているときは、再度同一ファイルサーバにログインすることはできません。

処　置 しばらく待って再送信するか、送信先の NetWare サーバを変更するか、または PServer を停止してください。

#818

原　因 受信したデータは印刷できないファイル形式です。

処　置 ファイル形式を変更して、送信しなおしてもらいます。

#819

原　因 扱えないデータを受信しました。(MIME 情報が不正です。)

処　置 設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#820

原　因　扱えないデータを受信しました。(BASE64 または uuencode が不正です。)

処　置　設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#821

原　因　扱えないデータを受信しました。(TIFF 解析エラーが発生しました。)

処　置　設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#822

原　因　扱えないデータを受信しました。(画像をデコードできません。)

処　置　設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#827

原　因　扱えないデータを受信しました。(サポート外の MIME 情報があります。)

処　置　設定を確認して、送信しなおしてもらいます。

#828

原　因　HTML のデータを受信しました。

処　置　HTML 以外の形式で送信しなおしてもらいます。

#829

原　因　1000 ページ以上のデータを受信しました。

処　置　本製品は、1000 ページ目以降のデータを削除して、999 ページ目までをプリントまたはメモリ受信します。つづきのページは送信しなおしてもらいます。

#830

原　因　I ファクスアドレスや相手先の条件の設定が間違っていたり、送信した文書のデータサイズがメールサーバの許容値を超えていたことなどが原因で、DSN エラー通知を受信しました。

処置 1　指定した I ファクスアドレスと、相手先の条件を確認してください。

処置 2 システム管理設定（初期設定／登録）の通信管理設定にある電子メール／I ファクス設定の送信データサイズ上限値を、メールサーバの許容量よりも小さく設定しなおしてください。(→ 電子メール／I ファクス共通の通信設定をする：P.11-6)

処置 3 メールサーバ、DNS サーバ、ネットワークの状態を確認してください。

#831

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定の IP アドレス範囲設定の受信 / 印刷範囲設定によって、I ファクスを SMTP 受信できませんでした。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定の IP アドレス範囲設定の受信 / 印刷範囲設定を再設定してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)

#832

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール設定やネットワーク設定がされていなかったり、メールサーバのトラブルのため、DSN メールを送信できませんでした。

処置 1 システム管理設定(初期設定／登録)のネットワーク設定にある電子メール /I ファクス、TCP/IP 設定の DNS 設定、IP アドレス設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 メールサーバや DNS サーバの状態を確認してください。

#833

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定がされていなかったり、メールサーバのトラブルのため、MDN（送達確認）メールを送信できませんでした。

処置 1 システム管理設定(初期設定／登録)のネットワーク設定にある電子メール /I ファクス、TCP/IP 設定の DNS 設定、IP アドレス設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 メールサーバや DNS サーバの状態を確認してください。

#834

原　因 Iファクスアドレスや相手先の条件の設定が間違っていたり、ネットワークやメールサーバのトラブル、相手先のメモリフルなどが発生したため、MDN エラー通知を受信しました。

処　置 指定したIファクスアドレスと、相手先の条件を確認してください。

#835

原　因 Iファクスで受信できる最大テキスト行数を超えました。

処　置 本文のテキスト行を減らしてから、送信しなおしてもらいます。

#837

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP ／ IP 設定の IP アドレス範囲設定で制限されるホストからの接続要求がありました。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP ／ IP 設定の IP アドレス範囲設定の設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第 3 章 TCP/IP ネットワークで使用する」)
不正にアクセスしている可能性もあります。

#839

原　因 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの SMTP 認証（SMTP AUTH）のユーザ名、またはパスワードが間違っています。

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの SMTP 認証（SMTP AUTH）のユーザ名、パスワードの設定を確認してください。(→ ネットワークガイド 「第3章 TCP/IPネットワークで使用する」)

#841

原　因 電子メール、Iファクスの送信で、メールサーバと共通の暗号アルゴリズムが存在しません。

処置 1 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ Iファクスの SSL の許可を「OFF」に設定してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 メールサーバの設定に、共通の暗号アルゴリズムを加えてください。

#842

原　因 電子メール、I ファクスの送信で、メールサーバよりクライアント証明書を使用した認証を要求されました。

処置 1 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある電子メール／ I ファクスの SSL の許可を「OFF」に設定してください。(→ ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

処置 2 メールサーバの設定を、クライアント証明書を要求しないように変更してください。

#843

原　因 KDC（Key Distribution Center）サーバの時刻と本製品に設定されている時刻が大きく異なっています。

処置 1 システム管理設定（初期設定／登録）の日付／時刻設定で、日時を修正してください。(→ 日付／時刻を設定する（日付／時刻設定）：P.1-14)

処置 2 KDC（Key Distribution Center）サーバの時刻を修正してください。

#847

原　因 ボックス内のメモリがいっぱいのため、受信した文書をファクスボックスに保存できません。

処　置 ファクスボックスまたはシステムボックスから、不要な文書を削除してください。(→ 受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

#851

原因 1 本製品のメモリ残量が足りなくなりました。

処　置 本製品のメモリ残量を確認したあと、ボックスの不要な文書を消去してください。(→ コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

原因 2 指定したボックス内の文書数が 1500 文書を超えているため、保存できませんでした。

処　置 指定したボックスの文書を消去してください。(→ コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

原因 3 メモリの画像領域がいっぱいになりました。

処　置 エラー文書や不要な文書を削除して、メモリの空き容量を増やしてください。(→受信した文書を消去する：P.6-18、コピー／ボックスガイド「第 2 章　ボックスについて」)

#852

原　因 ジョブ実行中に主電源スイッチが切られ、エラーが発生しました。

処　置 主電源スイッチが ON になっているか確認したあと、必要に応じてもう一度やりなおしてください。(→ユーザーズガイド「第 1 章　お使いになる前に」)

#859

原因 1 原稿データの圧縮エラーが発生しました。

処　置 原稿と設定を確認し、もう一度やりなおしてください。

原因 2 原稿が正常に読み込みできなかったか、原稿設置向きのエラーです。

処　置 原稿と設定を確認し、もう一度やりなおしてください。

#867

原　因 タイムスタンプサーバからの応答がなかったため、送信できませんでした。

処　置 DNS サーバ、プロキシサーバ、ネットワークの状態を確認してください。

#868

原　因 WebDAV 送信時に、送信先との通信に失敗し、プロキシ経由のアクセスを求められました。(HTTP のレスポンス 305 Use Proxy を受信しました。)

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定のプロキシ設定を確認してください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

#869

原　因 WebDAV　送信時に、送信先から認証に失敗したとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 401 Unauthorized を受信しました。)

処置 1 宛先のユーザ名あるいはパスワードを確認してください。

処置 2 WebDAV サーバのセキュリティ設定を確認してください。

#870

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からリクエストを拒否したとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 403 Forbidden を受信しました。)

処置 1 時間をおいてからもう一度送信してください。

処置 2 宛先の設定を確認してください。

処置 3 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#871

原　因 WebDAV 送信時に、送信先から指定したフォルダがみつからないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 404 Not Found/409 Conflict/410 Gone を受信しました。)

処　置 宛先の設定を確認してください。

#872

原　因 WebDAV　送信時に、送信先からアクセスを許可していないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 405 Method Not Allowed を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#873

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からプロキシ認証に失敗したとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 407 Proxy Authentication Required を受信しました。)

処　置 システム管理設定（初期設定／登録）のネットワーク設定にある TCP/IP 設定のプロキシ設定を確認してください。(→ネットワークガイド「第 3 章　TCP/IP ネットワークで使用する」)

#874

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からタイムアウトしたとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 408 Request Timeout を受信しました。)

処置 1 しばらくしてからもう一度送信してください。

処置 2 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#875

原　因 WebDAV 送信時に、送信先によってチャンク送信が拒否されました。(HTTP のレスポンス 411 Length Required を受信しました。)

処置 1 送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定にある WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用を「OFF」に設定してください。(→WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する（WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用）: P.9-34)

処置 2 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#876

原　因 WebDAV 送信時に送信先から、送信データサイズが大きすぎるとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 413 Request Entity Too Large を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#877

原　因 WebDAV 送信時に、送信先から URI（ホスト名＋フォルダへのパス）が長すぎるとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 414 Request-URI Too Long を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#878

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からサーバ側でリクエストの実行を妨げる予測しない状態に遭遇したとの応答がありました。(HTTPのレスポンス 500 Internal Server を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#879

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からサーバ側はリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 501 Not Implemented を受信しました。)

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 非 SSL 通信で、プロキシを経由している場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定にある WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用を「OFF」にしてください。(→WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する(WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用)：P.9-34)

#880

原　因 WebDAV 送信時に、プロキシサーバから上流のサーバとの通信に失敗したとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 502 Bad Gateway を受信しました。)

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 プロキシサーバの設定を確認してください。

#881

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からサーバ側は現在リクエストを扱う事ができないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 503 Service Unavailable を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#882

原　因 WebDAV 送信時に、プロキシサーバから上流のサーバとの通信に失敗したとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 504 Gateway Timeout を受信しました。)

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 プロキシサーバの設定を確認してください。

#883

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からサーバ側はリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 505 HTTP Version Not Supported を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#884

原　因 WebDAV 送信時に、送信先からサーバ側はリクエストに対するディスク容量を確保できないとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 507 Insufficient Storage を受信しました。)

処　置 WebDAV サーバの設定を確認してください。

#885

原　因 WebDAV 送信時に、サーバから予期せぬエラー応答がありました。

処置 1 WebDAV サーバの設定を確認してください。

処置 2 プロキシサーバの設定を確認してください。

#886

原　因 WebDAV 送信時に、送信先から不正なリクエストであるとの応答がありました。(HTTP のレスポンス 400 Bad Request を受信しました。)

処　置 非 SSL 通信で、プロキシを経由している場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の送信機能設定にある WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用を「OFF」にしてください。(→WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する (WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用)：P.9-34)

#899

原　因 電子メールまたは I ファクス送信は終了しましたが、複数のサーバを中継するため相手先が受信しているかどうか不明です。

処置 1 相手先が受信できたかどうか、確認してください。

処置 2 エラーメールを受信していないか、確認してください。

#995

原　因 通信予約のクリア操作が行われました。

処　置 必要に応じて、もう一度はじめからやりなおしてください。

Q&A

Q 相手先に送信できなかった場合など、自動的に再送信を行うようにしたいのですが･･･。

A 送信の場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）の共通設定で「リトライ回数」を設定します。(→ リトライ回数を設定する（リトライ回数）：P.9-14)
ファクスの場合は、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のファクス設定で「自動リダイヤル」を設定します。リダイヤルの回数や間隔などを、詳細に設定することができます。(→ 自動リダイヤルを設定する（自動リダイヤル）：P.9-49)

Q 操作部電源スイッチが OFF のときに送信されてきた文書はどうなりますか？

A 送信されてきた文書を自動的に受信して、受信が終了すると文書がプリントされます。

Q コピーをしているときに、ファクス／Ｉファクスが送られてきたらどうなりますか？

A 特別な操作をする必要はありませんので、そのままコピーを続けてください。送信された文書は自動的に受信され、文書は内蔵のメモリに保存されます。コピー作業の終了後、文書は自動的にプリントされます。

プリントの優先順位を変更することができます。(→ ユーザーズガイド「第 4 章　使いかたにあわせた仕様の設定」)

Q いつも同じ設定で送信することが多いので、電源を入れたときや通信が終了したときに、いつもその設定に戻るようにしたいのですが・・・。

A お好みの設定を定型業務ボタンに登録して、いつでも簡単に呼び出すことができます。また、読取モードやファイル形式を標準モードとして登録すると、電源を入れたときや通信が終了したときに、登録した設定に戻ります。

Q 受信した文書のプリント中に紙づまりが起きました。受信した文書はどうなりますか？

A 正常にプリントされなかった場合、受信文書はメモリ内に保存されています。紙づまりを取り除くと、紙づまりが起きたページからプリントを再開します。

Q 停電が起きた場合、受信中の文書はどうなりますか？

A 受信が完了したページまでプリントされます。

Q 停電が起きた場合、メモリ内の文書の登録内容はどうなりますか？

A メモリ内に保存されている文書は、停電が起きても保存されています。また、宛先表の登録内容も保存されています。ただし、受信中に停電が起きた場合は、その文書はメモリ内に保存されません。（受信が完了したページまでプリントされます。）通信後、送信機やメールサーバから再送信が実施される場合もあります。I ファクスの POP 受信では、POP サーバに文書が残っているので、再受信することができます。

Q 用紙を節約したいのですが・・・。

A 受信した原稿を両面プリントすることができます。(→ 受信文書を両面プリントする（両面記録）：P.9-37)

受信した文書を電子メールなどで転送したり、メモリ受信してお好みの宛先へ送信することなどもできます。(→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27、コピー／ボックスガイド「第 6 章　ボックスを用いた文書の送受信」)

レポートの出力を OFF にすることもできます。例えば、ファクス送信時にエラーが発生すると、送信結果レポートとファクス送信結果レポートの 2 種類がプリントされますが、どちらかの出力を OFF にして、用紙を節約することができます。(→ レポートの出力の仕様を設定する：P.12-4)

Q タイマー送信の設定をしたけれど、電源は切ってもいいのですか？

A 本製品を使用しない時間帯は、操作部電源スイッチを切ってもかまいませんが、主電源のスイッチは入れておいてください。タイマー送信が設定された文書は、指定した時間になれば、本製品のメモリから自動的に送信されます。

Q 電子メールやIファクスを送信するときに、送信するデータサイズの容量を変更することはできますか？

A 通信管理設定（初期設定／登録）の電子メール／I ファクス設定で、送信するデータサイズの上限値を設定することができます。電子メールの場合は、設定した上限値を超えないように分割送信します。I ファクスの場合、サーバの経由が「ON」に設定されている場合は、設定した上限値よりも大きいデータサイズでは送信できません。サーバの経由が「OFF」に設定されている場合は、送信データサイズ上限値の設定にかかわらず、送信されるデータサイズは制限されません。

Q 通信管理レポートの送信結果に「--」と表示され、送信できたかどうか不明なのですが…。

A 「--」は電子メール、I ファクスで送信したときに、サーバまたは相手先まで送信が確認されなかった場合に表示されます。送信は終了しているので、相手先に受信できたかどうか確認してください。

14
CHAPTER

付録

レポートサンプル、用語集などを説明しています。

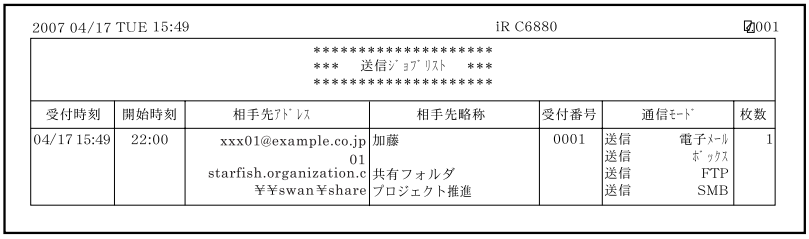
レポートサンプル 14-2
送信ジョブリスト 14-2
送信結果レポート／エラー送信レポート 14-4
ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート 14-6
ファクスマルチ送信結果レポート 14-8
ファクス受信結果レポート 14-9
ファクスボックス受信レポート 14-11
通信管理レポート 14-13
ファクス通信管理レポート 14-15
転送条件リスト 14-17
LDAP サーバ登録リスト 14-18
宛先表リスト 14-19
ユーザデータリスト 14-20
仕様 14-22
Send 拡張キット・S1 14-22
スーパー G3FAX ボード・U1 14-24
マルチポート FAX ボード・G2 14-25
用語集 14-26
索引 14-33

レポートサンプル

メモ　レポートに記載のファクス番号やアドレスは、すべて架空のファクス番号やアドレスを使用しています。ご注意ください。

送信ジョブリスト

送信のジョブ状況を一覧で確認することができます。送信ジョブリストは、システム状況画面でプリントすることができます。(→ 送信ジョブの状況／履歴をプリントする：P.8-8)



2007 04/17 TUE 15:49　　iR C6880　　0001

****
***　送信ｼﾞｮﾌﾞﾘｽﾄ　***
****

受付時刻	開始時刻	相手先ｱﾄﾞﾚｽ	相手先略称	受付番号	通信ﾓｰﾄﾞ	枚数
04/17 15:49	22:00	xxx01@example.co.jp	加藤	0001	送信　電子ﾒｰﾙ	1
		01			送信　ﾎﾞｯｸｽ	
		starfish.organization.c	共有フォルダ		送信　FTP	
		￥￥swan￥share	プロジェクト推進		送信　SMB	

メモ
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先に送信するジョブが表示されます。
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスジョブが表示されます。

■ 受付時刻

送信を受け付けた日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。ログインサービスに SDL または SSO を設定している場合、受付時刻の下にログイン時のユーザ名が表示されます。(自動転送などユーザが特定できない場合は表示されません。)

■ 開始時刻

タイマージョブのときのみ、送信が開始される時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 相手先アドレス

送信先のアドレスがプリントされます。

■ **相手先略称**

宛先の名称がプリントされます。

■ **受付番号**

送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ **通信モード**

通信種別と通信サービス名を並べてプリントします。

通信種別：送信

通信サービス:FTP/SMB/IPX/WebDAV／ボックス／Iファクス／電子メール／ファクス

■ **枚数**

相手先に送信した原稿の枚数がプリントされます。

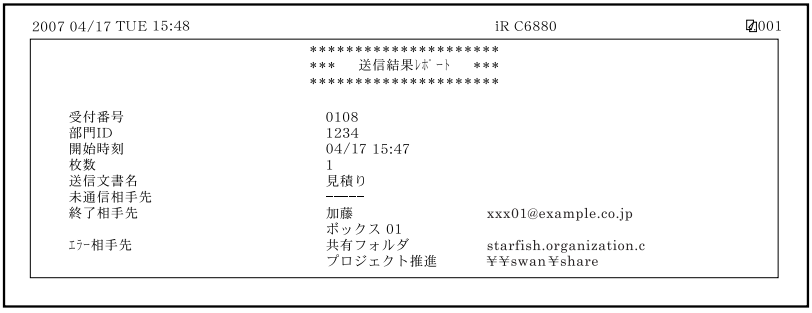
メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

送信結果レポート／エラー送信レポート

目的の相手先へ正常に送信できたかどうか、送信結果をプリントすることができます。

送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントすることができます。

また、送信エラーが発生したときのみプリントするように設定することもできます。（→ 送信結果レポートの設定をする：P.12-4）


2007 04/17 TUE 15:48　　iR C6880　　001

****
*** 送信結果ﾚﾎﾟｰﾄ ***
****

受付番号	0108	
部門ID	1234	
開始時刻	04/17 15:47	
枚数	1	
送信文書名	見積り	
未通信相手先	-----	
終了相手先	加藤	xxx01@example.co.jp
	ボックス 01	
ｴﾗｰ相手先	共有フォルダ	starfish.organization.c
	プロジェクト推進	¥¥swan¥share

メモ

- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先に送信したときやボックスに保管したときの送信結果がプリントされます。ただし、以下の場合は、送信原稿の表示が「ON」に設定されていても、原稿は表示されません。
  - ・［カラー送信原稿の表示］が「OFF」の場合に、送信原稿の 1 ページ目がカラーの場合
  - ・暗号化 PDF を設定して送信を行った場合
- オプションの FAX ボードを装着している場合は、ファクスに送信したときやボックスに保管したときの送信結果がプリントされます。
- 送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。（→ 送信結果レポートの設定をする：P.12-4）

■ 受付番号

送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 部門 ID

部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID がプリントされます。

■ 開始時刻

送信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ **枚数**
送信原稿の枚数がプリントされます。

■ **送信文書名**
送信設定によって付けられた文書名がプリントされます。

■ **未通信相手先**
送信が終了していない相手先のアドレスと名称がプリントされます。

■ **終了相手先**
送信が終了した相手先のアドレスと名称がプリントされます。

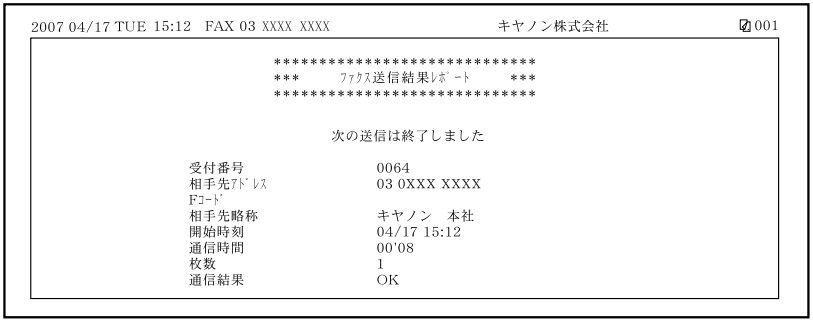
■ **エラー相手先**
送信エラーになった相手先のアドレスと名称がプリントされます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート

ファクス送信を行った場合に、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。

ファクス送信結果レポートは、ファクス送信後に自動的にプリントする／しないを設定することができます。(→ ファクス送信結果レポートの設定をする：P.12-8)



メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- 送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。(→ ファクス送信結果レポートの設定をする：P.12-8)

■ レポート名
正常に送信が終了したときは「ファクス送信結果レポート」、送信エラーのときは「ファクスエラー送信結果レポート」とプリントされます。

■ メッセージ
送信終了のメッセージがプリントされます。

■ 受付番号
送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ **部門 ID**
部門別 ID 管理がされている場合に、部門 ID がプリントされます。

■ **相手先アドレス**
送信した相手先のファクス番号が上位 20 桁までプリントされます。

■ **F コード**
F コードを指定したときにプリントされます。

■ **相手先略称**
相手先の略称がプリントされます。

■ **開始時刻**
送信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ **通信時間**
送信開始から終了までに要した時間（分’秒）がプリントされます。

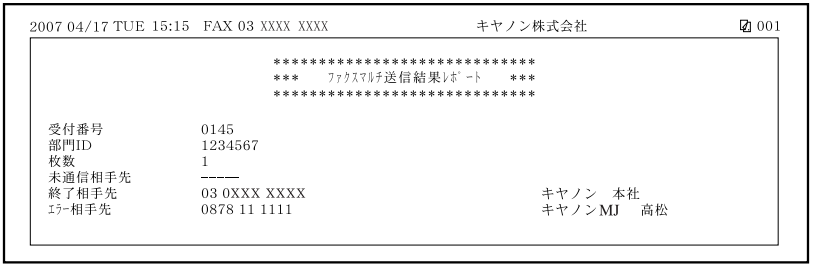
■ **枚数**
送信原稿の枚数がプリントされます。

■ **通信結果**
正常に送信が終了したときは“OK”、送信エラーのときは“NG”とプリントされます。
送信エラーのときは、送信エラーになったページ番号と終了コードの番号もプリントされます。

ファクスマルチ送信結果レポート

ファクス同報送信を行った場合に、目的の相手先へ正常に送信できたかを確認するためのレポートです。

ファクスマルチ送信結果レポートは、ファクス送信結果レポートを「ON」にしてファクス同報送信を行った場合に、自動的にプリントされます。(→ ファクス送信結果レポートの設定をする：P.12-8)



2007 04/17 TUE 15:15 FAX 03 XXXX XXXX　　キヤノン株式会社　　001

****
***　ﾌｧｸｽﾏﾙﾁ送信結果ﾚﾎﾟｰﾄ　***
****

受付番号	0145	
部門ID	1234567	
枚数	1	
未通信相手先	-----	
終了相手先	03 0XXX XXXX	キヤノン　本社
ｴﾗｰ相手先	0878 11 1111	キヤノンMJ　高松

メモ
- この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。
- 送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。(→ ファクス送信結果レポートの設定をする：P.12-8)

■ 受付番号
送信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 部門 ID
部門別 ID 管理がされている場合に、部門 ID がプリントされます。

■ 枚数
送信原稿の枚数がプリントされます。

■ 未通信相手先
送信が終了していない相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---”とプリントされます。

■ 終了相手先
送信が終了した相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---”とプリントされます。

■ エラー相手先
送信エラーになった相手先のファクス番号と相手先略称がプリントされます。該当する相手先がない場合は、“---”とプリントされます。

ファクス受信結果レポート

相手先から正常にファクス文書が送信されてきたか、本製品で正常に受信できたかを確認するためのレポートです。

ファクス受信結果レポートは、ファクス受信後に自動的にプリントする／しないを設定することができます。(→ ファクス受信結果レポートの設定をする：P.12-10)


2007 04/17 TUE 15:12 FAX 03 XXXX XXXX キヤノン株式会社 001

****
*** ﾌｧｸｽ受信結果ﾚﾎﾟｰﾄ ***
****

次の受信は終了しました

受付番号	5017
相手先ｱﾄﾞﾚｽ	03 0XXX XXXX
Fｺｰﾄﾞ	
相手先略称	キヤノン 本社
開始時刻	04/17 15:12
通信時間	00'08
枚数	1
通信結果	OK

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ メッセージ

受信終了のメッセージがプリントされます。

■ 受付番号

受信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 相手先アドレス

送信元で登録されているファクス番号が上位 20 桁までプリントされます。

■ F コード
F コードを指定したときにプリントされます。

■ 相手先略称
送信元の略称がプリントされます。

■ 開始時刻
受信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 通信時間
受信開始から終了までに要した時間（分’秒）がプリントされます。

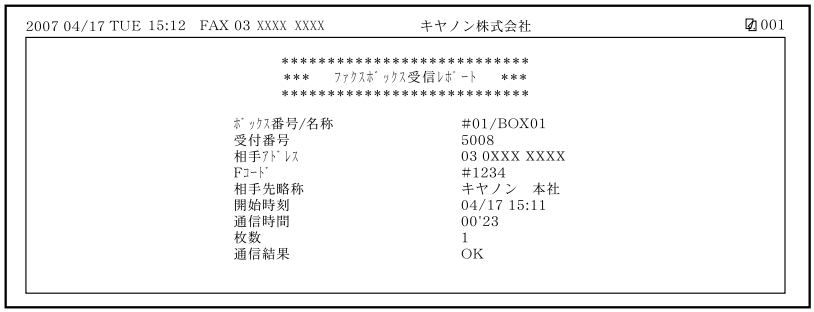
■ 枚数
受信原稿の枚数がプリントされます。

■ 通信結果
正常に受信が終了したときは“OK”、受信エラーのときは“NG”とプリントされます。
受信エラーのときは、受信エラーになったページ番号と終了コードの番号もプリントされます。

ファクスボックス受信レポート

ファクスボックス内に文書を受信したことを確認することができます。

ファクスボックス受信結果レポートは、受信後に自動的にプリントする／しないを設定することができます。（➞ ファクスボックス受信レポートの設定をする：P.12-10）



```
2007 04/17 TUE 15:12   FAX 03 XXXX XXXX          キヤノン株式会社                 001

                    ****************************
                    ***   ﾌｧｸｽﾎﾞｯｸｽ受信ﾚﾎﾟｰﾄ   ***
                    ****************************

                    ﾎﾞｯｸｽ番号/名称          #01/BOX01
                    受付番号                5008
                    相手ｱﾄﾞﾚｽ               03 0XXX XXXX
                    Fｺｰﾄﾞ                   #1234
                    相手先略称              キヤノン　本社
                    開始時刻                04/17 15:11
                    通信時間                00'23
                    枚数                    1
                    通信結果                OK
```

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ ボックス番号／名称

受信したファクスボックスの番号（00 ～ 49）と名称がプリントされます。

■ 受付番号

受信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

■ 相手先アドレス

送信元で登録されているファクス番号が上位 20 桁までプリントされます。

■ F コード
F コードを指定したときにプリントされます。

■ 相手先略称
送信元の略称がプリントされます。

■ 開始時刻
受信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。

■ 通信時間
受信開始から終了までに要した時間（分’秒）がプリントされます。

■ 枚数
受信原稿の枚数がプリントされます。

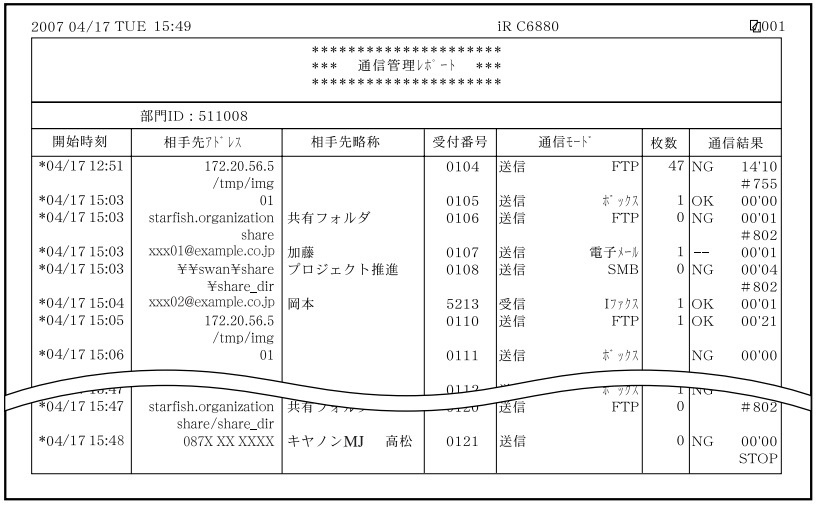
■ 通信結果
正常に受信が終了したときは“OK”、受信エラーのときは“NG”とプリントされます。
受信エラーのときは、受信エラーになったページ番号と終了コードの番号もプリントされます。

通信管理レポート

送信／受信の履歴をレポートとしてプリントします。通信管理レポートは、自動でも手動でもプリントすることができます。

レポートは、100 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択することができます。また、送信／受信別にプリントすることもできます。

通信管理レポートを手動でプリントする場合は、システム状況画面から行います。(→ 送信ジョブの状況／履歴をプリントする：P.8-8)



2007 04/17 TUE 15:49　　iR C6880　　001

****
***　通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ　***
****

部門ID：511008

開始時刻	相手先ｱﾄﾞﾚｽ	相手先略称	受付番号	通信ﾓｰﾄﾞ		枚数	通信結果	
*04/17 12:51	172.20.56.5 /tmp/img		0104	送信	FTP	47	NG	14'10 #755
*04/17 15:03	01		0105	送信	ﾎﾞｯｸｽ	1	OK	00'00
*04/17 15:03	starfish.organization share	共有フォルダ	0106	送信	FTP	0	NG	00'01 #802
*04/17 15:03	xxx01@example.co.jp	加藤	0107	送信	電子ﾒｰﾙ	1	--	00'01
*04/17 15:03	¥¥swan¥share ¥share_dir	プロジェクト推進	0108	送信	SMB	0	NG	00'04 #802
*04/17 15:04	xxx02@example.co.jp	岡本	5213	受信	Iﾌｧｸｽ	1	OK	00'01
*04/17 15:05	172.20.56.5 /tmp/img		0110	送信	FTP	1	OK	00'21
*04/17 15:06	01		0111	送信	ﾎﾞｯｸｽ		NG	00'00
			0113		ﾎﾞｯｸｽ	1	NG	
*04/17 15:47	starfish.organization share/share_dir	共有フォルダ	0120	送信	FTP	0		#802
*04/17 15:48	087X XX XXXX	キヤノンMJ　高松	0121	送信		0	NG	00'00 STOP

メモ

- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの送信／受信やボックスへの保管の履歴がプリントされます。
- オプションのFAXボードを装着している場合は、ファクスの送信やボックスへの保管の履歴が表示されます。

■ 部門 ID

部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID が記載され、部門 ID ごとに通信履歴がプリントされます。

■ 開始時刻

通信が開始された日付と時刻が 24 時間制でプリントされます。(* マークはすでに通信管理レポートをプリントしたことのある通信です。) ログインサービスに SDL または SSO を設定している場合、開始時刻の下にログイン時のユーザ名が表示されます。(自動転送などユーザが特定できない場合は表示されません。)

■ **相手先アドレス**

送信先のアドレスがプリントされます。

- 通信サービスがファイル（FTP、SMB、IPX、WebDAV）の場合
  パス名が 2 行目にプリントされます。
- 通信サービスがファクスの場合
  F コードがある場合は、2 行目にプリントされます。

■ **相手先略称**

宛先の名称がプリントされます。

■ **受付番号**

通信を受け付けたとき、自動的に付けられた番号（4 桁）がプリントされます。

送信文書は 0001 ～ 4999、受信文書は 5001 ～ 9999 の受付番号がつけられます。

■ **通信モード**

通信種別と通信サービス名を並べてプリントします。

通信種別：送信／受信

通信サービス：FTP/SMB/IPX/WebDAV ／ボックス／ I ファクス／電子メール／ファクス／ G3/ECM

メモ
- オプションのSend拡張キットを有効にした場合は、FTP/SMB/IPX/WebDAV／ボックス／Iファクス／電子メールが表示されます。
- オプションのFAXボードを装着している場合は、ボックス／ファクス／G3/ECMが表示されます。

■ **枚数**

通信した原稿の枚数がプリントされます。

■ **通信結果**

“OK”、“NG”または“--”と通信時間を並べてプリントします。

送信が成功した文書は、“OK”とプリントされます。

送信が失敗した文書には、“NG”とプリントされ、2 行目に終了コードがプリントされます。

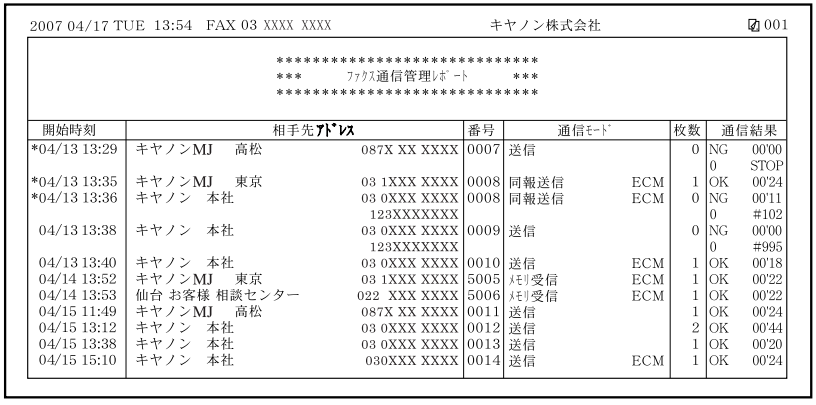
“--”表示は電子メール、I ファクスで送信したときに、サーバまたは相手先まで送信が確認されなかった場合に表示されます。

メモ　表示桁数を超えると、上位の文字を桁数分表示します。

ファクス通信管理レポート

ファクス通信の結果を確認するためのレポートです。ファクス通信管理レポートは自動でも手動でも出力することができます。

レポートは、40 件の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択することができます。ファクス通信管理レポートは、自動的にプリントする／しないかを設定することができます。(→ ファクス通信管理レポートの設定をする: P.12-9)



2007 04/17 TUE 13:54 FAX 03 XXXX XXXX　　キヤノン株式会社　　001

****
*** ﾌｧｸｽ通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ ***
****

開始時刻	相手先ｱﾄﾞﾚｽ	番号	通信ﾓｰﾄﾞ		枚数	通信結果	
*04/13 13:29	キヤノンMJ　高松 087X XX XXXX	0007	送信		0	NG	00'00
					0	STOP	
*04/13 13:35	キヤノンMJ　東京 03 1XXX XXXX	0008	同報送信	ECM	1	OK	00'24
*04/13 13:36	キヤノン　本社 03 0XXX XXXX	0008	同報送信	ECM	0	NG	00'11
	123XXXXXXX				0	#102	
04/13 13:38	キヤノン　本社 03 0XXX XXXX	0009	送信		0	NG	00'00
	123XXXXXXX				0	#995	
04/13 13:40	キヤノン　本社 03 0XXX XXXX	0010	送信	ECM	1	OK	00'18
04/14 13:52	キヤノンMJ　東京 03 1XXX XXXX	5005	ﾒﾓﾘ受信	ECM	1	OK	00'22
04/14 13:53	仙台 お客様 相談センター 022 XXX XXXX	5006	ﾒﾓﾘ受信	ECM	1	OK	00'22
04/15 11:49	キヤノンMJ　高松 087X XX XXXX	0011	送信		1	OK	00'24
04/15 13:12	キヤノン　本社 03 0XXX XXXX	0012	送信		2	OK	00'44
04/15 13:38	キヤノン　本社 03 0XXX XXXX	0013	送信		1	OK	00'20
04/15 15:10	キヤノン　本社 030XXX XXXX	0014	送信	ECM	1	OK	00'24

メモ　この機能は、オプションの FAX ボードを装着している場合に使用することができます。

■ 部門 ID

部門別 ID 管理が設定されている場合は部門 ID が記載され、部門 ID ごとに通信履歴がプリントされます。

■ 開始時刻

通信が開始された日付と時刻（24 時間単位表示）がプリントされます。(* マークはすでに通信管理レポートをプリントしたことのある通信です。）ログインサービスに SDL または SSO を設定している場合、開始時刻の下にログイン時のユーザ名が表示されます。（自動転送などユーザが特定できない場合は表示されません。）

■ 相手先アドレス

通信した相手先の略称とファクス番号がプリントされます。また、F コードや発信人名称を指定したときには、ファクス番号の下にプリントされます。

■ 番号

通信を受け付けたとき、自動的につけられた番号（4 桁）がプリントされます。番号 0001 ～ 4999 は送信、番号 5001 ～ 9999 は受信です。

■ 通信モード

通信した内容および、通信モードがプリントされます。

送信時：送信、タイマー送信、同報送信、タイマー同報送信、転送送信、ダイレクト送信

受信時：ファクスボックス受信、メモリ受信、転送受信、自動受信、手動受信

通信モード：ECM

回線の種類：1、2（マルチポート FAX ボード装着時のみ表示されます。）

■ 枚数

通信した原稿の枚数がプリントされます。

■ 通信結果

“OK”または“NG”と通信時間を並べてプリントします。

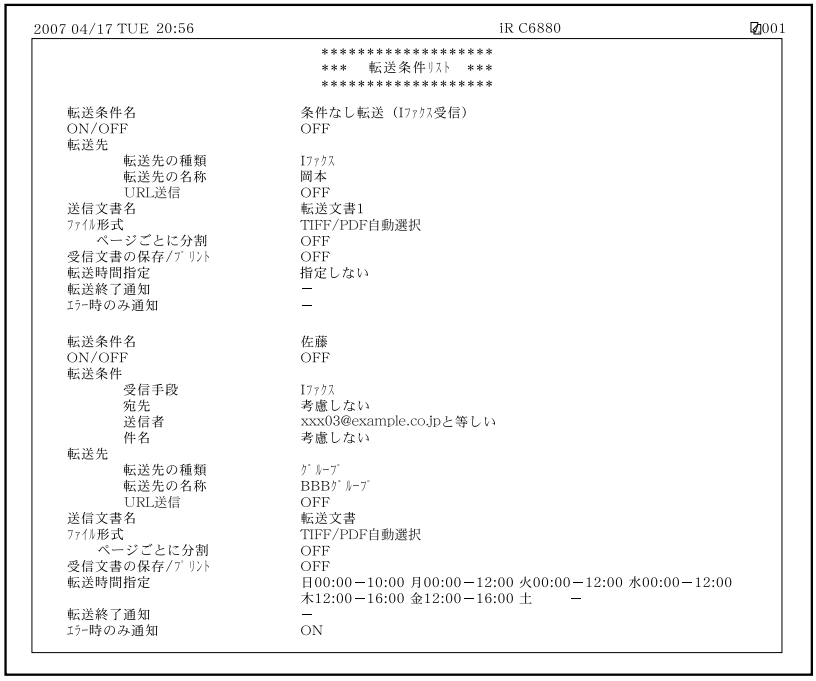
通信が成功した文書は、“OK”とプリントされます。

通信が失敗した文書には、“NG”とプリントされます。

通信エラーのときは、通信エラーになったページ番号と終了コードの番号もプリントされます。

転送条件リスト

転送設定の内容をプリントすることができます。転送条件リストは、必要に応じて手動でプリントします。(→ 転送設定内容をプリントする：P.11-47)



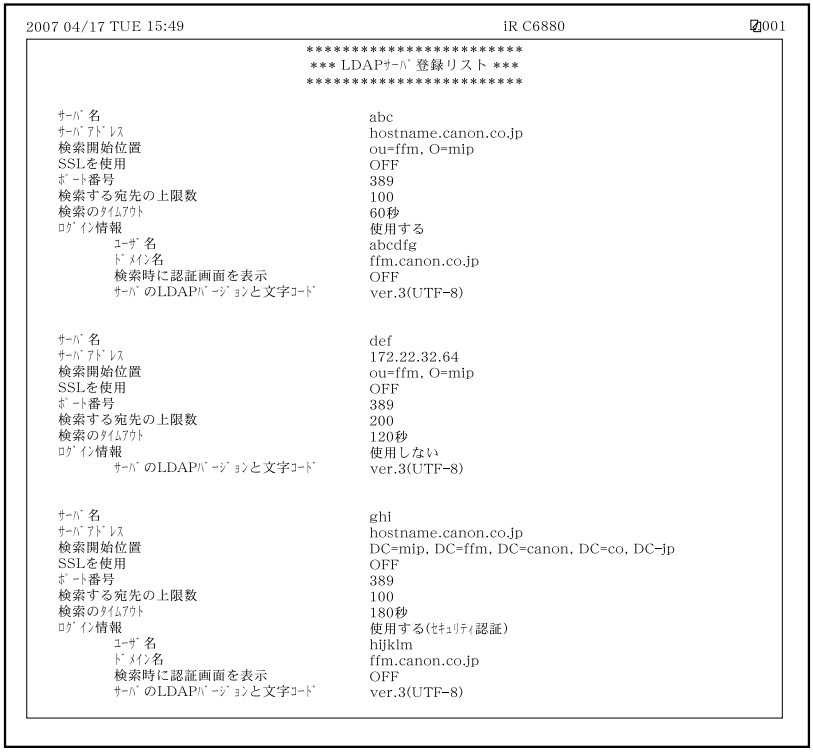
2007 04/17 TUE 20:56　　iR C6880　　001

****
***　転送条件ﾘｽﾄ　***
****

転送条件名	条件なし転送（Iﾌｧｸｽ受信）
ON/OFF	OFF
転送先	
転送先の種類	Iﾌｧｸｽ
転送先の名称	岡本
URL送信	OFF
送信文書名	転送文書1
ﾌｧｲﾙ形式	TIFF/PDF自動選択
ページごとに分割	OFF
受信文書の保存/ﾌﾟﾘﾝﾄ	OFF
転送時間指定	指定しない
転送終了通知	－
ｴﾗｰ時のみ通知	－
転送条件名	佐藤
ON/OFF	OFF
転送条件	
受信手段	Iﾌｧｸｽ
宛先	考慮しない
送信者	xxx03@example.co.jpと等しい
件名	考慮しない
転送先	
転送先の種類	ｸﾞﾙｰﾌﾟ
転送先の名称	BBBｸﾞﾙｰﾌﾟ
URL送信	OFF
送信文書名	転送文書
ﾌｧｲﾙ形式	TIFF/PDF自動選択
ページごとに分割	OFF
受信文書の保存/ﾌﾟﾘﾝﾄ	OFF
転送時間指定	日00:00－10:00 月00:00－12:00 火00:00－12:00 水00:00－12:00 木12:00－16:00 金12:00－16:00 土　　－
転送終了通知	－
ｴﾗｰ時のみ通知	ON

LDAP サーバ登録リスト

LDAP サーバの設定内容をプリントすることができます。LDAP サーバ登録リストは、必要に応じて手動でプリントします。(→ LDAP サーバの設定内容をプリントする：P.11-55)



2007 04/17 TUE 15:49　　iR C6880　　001

****
*** LDAPｻｰﾊﾞ 登録リスト ***
****

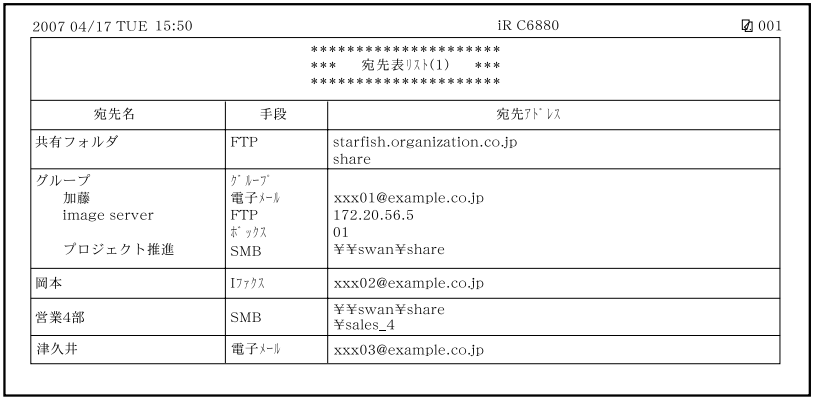
ｻｰﾊﾞ 名	abc
ｻｰﾊﾞ ｱﾄﾞﾚｽ	hostname.canon.co.jp
検索開始位置	ou=ffm, O=mip
SSLを使用	OFF
ﾎﾟｰﾄ番号	389
検索する宛先の上限数	100
検索のﾀｲﾑｱｳﾄ	60秒
ﾛｸﾞｲﾝ情報	使用する
ﾕｰｻﾞ 名	abcdfg
ﾄﾞﾒｲﾝ名	ffm.canon.co.jp
検索時に認証画面を表示	OFF
ｻｰﾊﾞ のLDAPﾊﾞｰｼﾞｮﾝと文字ｺｰﾄﾞ	ver.3(UTF-8)

ｻｰﾊﾞ 名	def
ｻｰﾊﾞ ｱﾄﾞﾚｽ	172.22.32.64
検索開始位置	ou=ffm, O=mip
SSLを使用	OFF
ﾎﾟｰﾄ番号	389
検索する宛先の上限数	200
検索のﾀｲﾑｱｳﾄ	120秒
ﾛｸﾞｲﾝ情報	使用しない
ｻｰﾊﾞ のLDAPﾊﾞｰｼﾞｮﾝと文字ｺｰﾄﾞ	ver.3(UTF-8)

ｻｰﾊﾞ 名	ghi
ｻｰﾊﾞ ｱﾄﾞﾚｽ	hostname.canon.co.jp
検索開始位置	DC=mip, DC=ffm, DC=canon, DC=co, DC=jp
SSLを使用	OFF
ﾎﾟｰﾄ番号	389
検索する宛先の上限数	100
検索のﾀｲﾑｱｳﾄ	180秒
ﾛｸﾞｲﾝ情報	使用する(ｾｷｭﾘﾃｨ認証)
ﾕｰｻﾞ 名	hijklm
ﾄﾞﾒｲﾝ名	ffm.canon.co.jp
検索時に認証画面を表示	OFF
ｻｰﾊﾞ のLDAPﾊﾞｰｼﾞｮﾝと文字ｺｰﾄﾞ	ver.3(UTF-8)

宛先表リスト

「宛先表仕様設定」で登録した宛先表 1 ～ 10、ワンタッチボタンの内容をプリントすることができます。宛先表リストは、必要に応じた宛先表を選択して、手動でプリントします。(→ 宛先表リストをプリントする：P.12-11)



2007 04/17 TUE 15:50　　iR C6880　　001

****
***　宛先表ﾘｽﾄ(1)　***
****

宛先名	手段	宛先ｱﾄﾞﾚｽ
共有フォルダ	FTP	starfish.organization.co.jp share
グループ 　加藤 　image server 　プロジェクト推進	ｸﾞﾙｰﾌﾟ 電子ﾒｰﾙ FTP ﾎﾞｯｸｽ SMB	 xxx01@example.co.jp 172.20.56.5 01 ¥¥swan¥share
岡本	Iﾌｧｸｽ	xxx02@example.co.jp
営業4部	SMB	¥¥swan¥share ¥sales_4
津久井	電子ﾒｰﾙ	xxx03@example.co.jp

メモ
- オプションの Send 拡張キットを有効にした場合は、電子メール、I ファクス、ファイルサーバの宛先やグループ宛先が表示されます。
- オプションのFAXボードを装着している場合は、ファクスの宛先やグループ宛先が表示されます。

■ 宛先名

登録されている宛先の名称がプリントされます。

ワンタッチボタンの内容をプリントする場合は、1 行目にワンタッチボタンの番号がプリントされます。

■ 手段

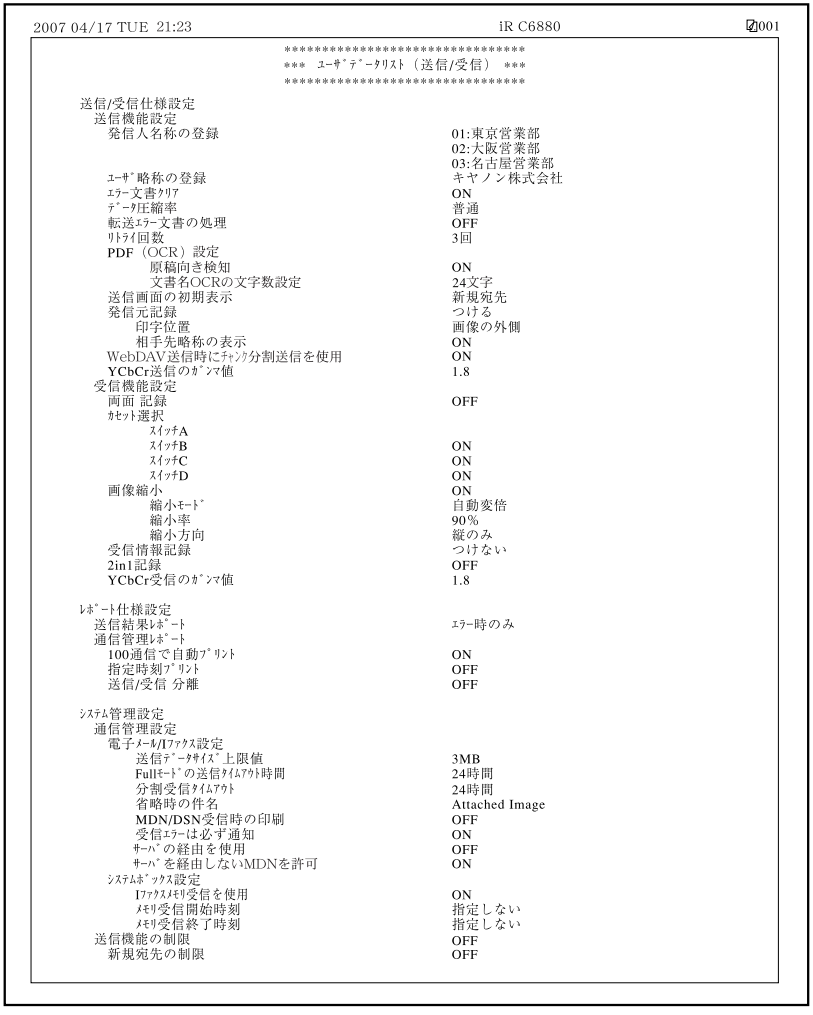
登録されている宛先の送信手段がプリントされます。

■ 宛先アドレス

- 手段が FTP、SMB、IPX、WebDAV（ファイル）の場合
  1 行目にホスト名、2 行目にフォルダへのパスがプリントされます。
- 手段がボックスの場合
  ボックス番号がプリントされます。
- 手段が I ファクスまたは電子メールの場合
  I ファクスアドレスまたは電子メールアドレスがプリントされます。
- 手段がファクスの場合
  1 行目にファクス番号、F コードがある場合は 2 行目にプリントされます。
- 手段がグループの場合
  登録されている各宛先を 2 行目から順にプリントします。
  ファイルが登録されている場合、2 行目の項目はプリントされません。

ユーザデータリスト

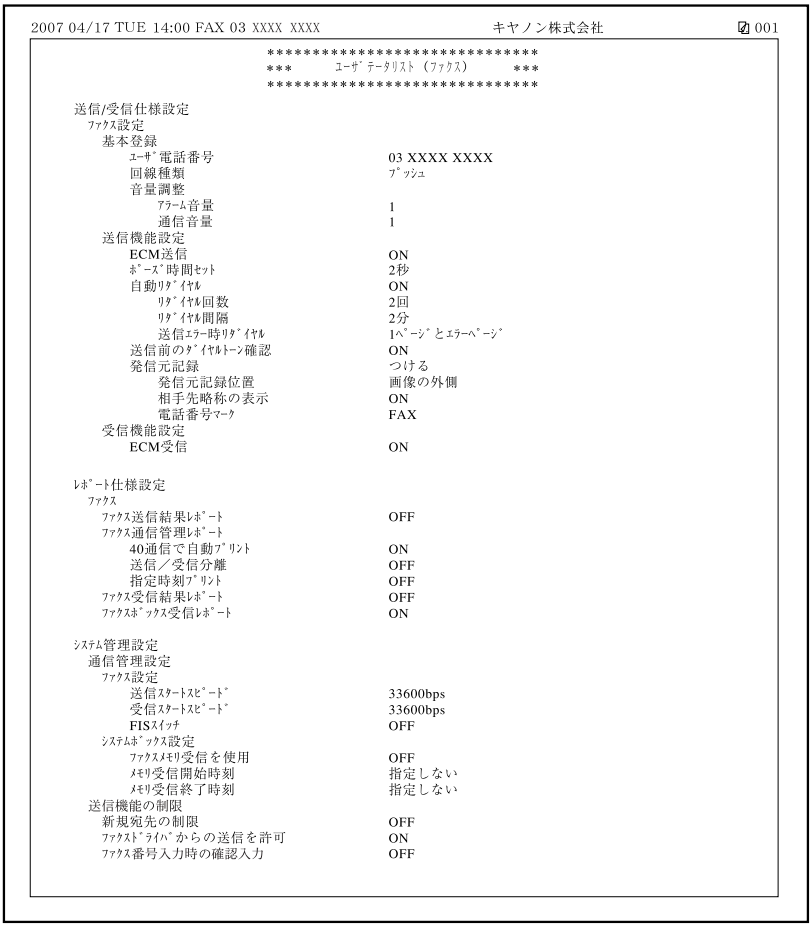
初期設定／登録の送信／受信仕様設定、レポート出力、システム管理設定で、設定した内容をプリントします。ユーザデータリストは、必要に応じて手動でプリントします。(→ ユーザデータリストをプリントする：P.12-12)



2007 04/17 TUE 21:23　　iR C6880　　001

****
***　ﾕｰｻﾞﾃﾞｰﾀﾘｽﾄ（送信/受信）　***
****

送信/受信仕様設定	
送信機能設定	
発信人名称の登録	01:東京営業部 02:大阪営業部 03:名古屋営業部
ﾕｰｻﾞ略称の登録	キヤノン株式会社
ｴﾗｰ文書ｸﾘｱ	ON
ﾃﾞｰﾀ圧縮率	普通
転送ｴﾗｰ文書の処理	OFF
ﾘﾄﾗｲ回数	3回
PDF（OCR）設定	
原稿向き検知	ON
文書名OCRの文字数設定	24文字
送信画面の初期表示	新規宛先
発信元記録	つける
印字位置	画像の外側
相手先略称の表示	ON
WebDAV送信時にﾁｬﾝｸ分割送信を使用	ON
YCbCr送信のｶﾞﾝﾏ値	1.8
受信機能設定	
両面 記録	OFF
ｶｾｯﾄ選択	
ｽｲｯﾁA	
ｽｲｯﾁB	ON
ｽｲｯﾁC	ON
ｽｲｯﾁD	ON
画像縮小	ON
縮小ﾓｰﾄﾞ	自動変倍
縮小率	90%
縮小方向	縦のみ
受信情報記録	つけない
2in1記録	OFF
YCbCr受信のｶﾞﾝﾏ値	1.8
ﾚﾎﾟｰﾄ仕様設定	
送信結果ﾚﾎﾟｰﾄ	ｴﾗｰ時のみ
通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ	
100通信で自動ﾌﾟﾘﾝﾄ	ON
指定時刻ﾌﾟﾘﾝﾄ	OFF
送信/受信 分離	OFF
ｼｽﾃﾑ管理設定	
通信管理設定	
電子ﾒｰﾙ/Iﾌｧｸｽ設定	
送信ﾃﾞｰﾀｻｲｽﾞ上限値	3MB
Fullﾓｰﾄﾞの送信ﾀｲﾑｱｳﾄ時間	24時間
分割受信ﾀｲﾑｱｳﾄ	24時間
省略時の件名	Attached Image
MDN/DSN受信時の印刷	OFF
受信ｴﾗｰは必ず通知	ON
ｻｰﾊﾞの経由を使用	OFF
ｻｰﾊﾞを経由しないMDNを許可	ON
ｼｽﾃﾑﾎﾞｯｸｽ設定	
Iﾌｧｸｽﾒﾓﾘ受信を使用	ON
ﾒﾓﾘ受信開始時刻	指定しない
ﾒﾓﾘ受信終了時刻	指定しない
送信機能の制限	OFF
新規宛先の制限	OFF



2007 04/17 TUE 14:00 FAX 03 XXXX XXXX　　キヤノン株式会社　　001

****
*** ﾕｰｻﾞﾃﾞｰﾀﾘｽﾄ (ﾌｧｸｽ) ***
****

送信/受信仕様設定
ﾌｧｸｽ設定
基本登録
ﾕｰｻﾞﾃﾞ電話番号　03 XXXX XXXX
回線種類　ﾌﾟｯｼｭ
音量調整
ｱﾗｰﾑ音量　1
通信音量　1
送信機能設定
ECM送信　ON
ﾎﾟｰｽﾞﾞ時間ｾｯﾄ　2秒
自動ﾘﾀﾞｲﾔﾙ　ON
ﾘﾀﾞｲﾔﾙ回数　2回
ﾘﾀﾞｲﾔﾙ間隔　2分
送信ｴﾗｰ時ﾘﾀﾞｲﾔﾙ　1ﾍﾟｰｼﾞとｴﾗｰﾍﾟｰｼﾞ
送信前のﾀﾞｲﾔﾙﾄｰﾝ確認　ON
発信元記録　つける
発信元記録位置　画像の外側
相手先略称の表示　ON
電話番号ﾏｰｸ　FAX
受信機能設定
ECM受信　ON

ﾚﾎﾟｰﾄ仕様設定
ﾌｧｸｽ
ﾌｧｸｽ送信結果ﾚﾎﾟｰﾄ　OFF
ﾌｧｸｽ通信管理ﾚﾎﾟｰﾄ
40通信で自動ﾌﾟﾘﾝﾄ　ON
送信／受信分離　OFF
指定時刻ﾌﾟﾘﾝﾄ　OFF
ﾌｧｸｽ受信結果ﾚﾎﾟｰﾄ　OFF
ﾌｧｸｽﾎﾞｯｸｽ受信ﾚﾎﾟｰﾄ　ON

ｼｽﾃﾑ管理設定
通信管理設定
ﾌｧｸｽ設定
送信ｽﾀｰﾄｽﾋﾟｰﾄﾞ　33600bps
受信ｽﾀｰﾄｽﾋﾟｰﾄﾞ　33600bps
FISｽｲｯﾁ　OFF
ｼｽﾃﾑﾎﾞｯｸｽ設定
ﾌｧｸｽﾒﾓﾘ受信を使用　OFF
ﾒﾓﾘ受信開始時刻　指定しない
ﾒﾓﾘ受信終了時刻　指定しない
送信機能の制限
新規宛先の制限　OFF
ﾌｧｸｽﾄﾞﾗｲﾊﾞからの送信を許可　ON
ﾌｧｸｽ番号入力時の確認入力　OFF

仕様

製品が改良され変更になったり、今後販売される製品によって内容が変更になることがありますので、ご了承ください。

Send 拡張キット・S1

■ プッシュスキャン機能

項目	仕様
通信プロトコル	FTP（TCP/IP）、SMB（TCP/IP）、NCP（IPX）、WebDAV
データフォーマット	TIFF、JPEG、PDF、アウトライン PDF、高圧縮 PDF
解像度	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、200 × 100 dpi、200 × 200 dpi、200 × 400 dpi、300 × 300 dpi、400 × 400 dpi、600 × 600 dpi
システム環境	Windows 98/Me/XP/Vista、Windows 2000 Server/Professional（日本語版 SP1 以降）、Windows Server 2003、Novell Netware 3.2J/4.11J/4.2J/5J/5.1J、日本語 Solaris Version 2.6 以降、Mac OS X 以降、Red Hat Linux 7.2、Windows XP Professional、Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WA 4.0 以降
インタフェース	100BASE-TX、10BASE-T
カラーモード	自動カラー／グレイスケール、自動カラー／白黒 2 値、カラー、グレイスケール、白黒 2 値
入力画像タイプ	文字、文字／写真、写真
その他	プレビュー送信、SMB コンピュータ参照、NCP コンピュータ参照
付加機能	暗号化 PDF、サーチャブル PDF、機器署名 PDF、ユーザ署名 PDF、タイムスタンプ PDF

■ 電子メール送信、I ファクス送信機能

項目	仕様		
送信プロトコル	SMTP、POP3、I ファクス（Simple、Full）		
解像度	電子メール	100 × 100 dpi、150 × 150 dpi、200 × 100 dpi、200 × 200 dpi、200 × 400 dpi、300 × 300 dpi、400 × 400 dpi、600 × 600 dpi	
	I ファクス	白黒	200 × 100 dpi、200 × 200 dpi、200 × 400 dpi*、300 × 300 dpi*、400 × 400 dpi*、600 × 600 dpi*
		カラー	100 × 100 dpi*、200 × 200 dpi*、300 × 300 dpi*、400 × 400 dpi*、600 × 600 dpi*
対応フォーマット	電子メール	TIFF、JPEG、PDF、アウトライン PDF、高圧縮 PDF	
	I ファクス	白黒	TIFF（MH、MR*、MMR*）
		カラー	TIFF（Profile-C）*
原稿サイズ	電子メール	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5、A5R	
	I ファクス	A3*、B4*、A4、A4R、B5**、B5R***、A5***、A5R*** **B4 短尺で送信されます。 ***A4 として送信されます。	
対応サーバソフトウェア	Microsoft Exchange Server 5.5（SP1 以降）、Sendmail8.93、Lotus Domino R4.6 以降		
その他	LDAP サーバからの宛先取得、プレビュー送信		
付加機能（電子メールのみ）	暗号化 PDF、サーチャブル PDF、機器署名 PDF、ユーザ署名 PDF、タイムスタンプ PDF		

* 相手側受信条件設定により可能

スーパー G3FAX ボード・U1

項目	仕様
適用回線	加入電話回線網、ファクシミリ通信網（F ネット）
走査線密度（送信）	標準モード：8 ドット／ mm × 3.85 ライン／ mm ファインモード：8 ドット／ mm × 7.7 ライン／ mm スーパーファインモード：8 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm ウルトラファインモード：16 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm
通信速度	Super G3：33.6 kbps、G3：14.4 kbps
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	Super G3、G3
送信原稿サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5*、B5R**、A5**、A5R** *B4 短尺で送信されます。 **A4 として送信されます。
記録紙サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R
電送時間	ECM-MMR（ITU-T 対応）：約 3.2 秒 G3MR 方式標準モード：約 13 秒 G3MH 方式標準モード：約 13 秒 JBIG：約 2.6 秒
オートダイヤル機能	宛先表：1800 件（ワンタッチボタンで登録された宛先含む）
メモリ	約 6000 枚

マルチポート FAX ボード・G2

項目	仕様
適用回線	加入電話回線網、ファクシミリ通信網（F ネット）
走査線密度（送信）	標準モード：8 ドット／ mm × 3.85 ライン／ mm ファインモード：8 ドット／ mm × 7.7 ライン／ mm スーパーファインモード：8 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm ウルトラファインモード：16 ドット／ mm × 15.4 ライン／ mm
通信速度	Super G3：33.6 kbps、G3：14.4 kbps
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	Super G3、G3
送信原稿サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5*、B5R**、A5**、A5R** *B4 短尺で送信されます。 **A4 として送信されます。
記録紙サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5、B5R、A5R
電送時間	ECM-MMR（ITU-T 対応）：約 3.2 秒 G3MR 方式標準モード：約 13 秒 G3MH 方式標準モード：約 13 秒 JBIG：約 2.6 秒
オートダイヤル機能	宛先表：1800 件（ワンタッチボタンで登録された宛先含む）
メモリ	約 6000 枚

用語集

英数字

ASCII コード

米国規格協会が定めたデータ通信用の英数字のコード体系の 1 つです。7bit で 1 文字の数字、アルファベット、制御符号を表現します。

CCITT/ITU-T

国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門です。CCITT（国際電信電話諮問委員会）が前身となっています。

DNS サーバ（Domain Name System）

ドメインネームシステムサーバ。IP アドレスとサーバのドメイン名との対応関係を記述したデータベースを管理し、要求に応じてホストサーバ名（例えば、www.w3.org）からその IP アドレス（例えば、18.176.0.26）を参照できるようにします。このため、クライアントは覚えにくい IP アドレスではなく、ホストサーバ名を指定してネットワークにアクセスすることができます。

DPI（Dots Per Inch）

dots per inch の略。ディスプレイやプリンタの解像度を表す単位で、1 インチあたりのドット数で表現します。

ECM（Error Correction Mode）

回線ノイズなどによって起こる通信画像のエラーを、自動的に補正して通信を行うエラー訂正機能です。（→ECM 送信を設定する（ECM 送信）：P.9-47、ECM 受信を設定する（ECM 受信）：P.9-52）

F コード

ファクス内にはメモリと呼ばれる画像情報を記憶する装置があり、F コードはメモリ内の特定の場所を示すために使われる番号です。相手先のファクス機と ITU-T 規格で原稿を送受信するときは、ファクス番号のほかに F コードとパスワードを付加します。F コードを使うことにより、F コードをサポートしている他社の機種と、ポーリング受信やメモリボックスなどの機能を利用して通信することができます。

FTP（File Transfer Protocol）

ファイル転送プロトコル。TCP/IP ネットワーク上のクライアントとホストとの間でファイルの転送を行うための通信プロトコル、またはそれを実装したコマンドです。

IP アドレス

インターネットプロトコルアドレス。IP プロトコルで使用するための 32bit のアドレス情報で、ピリオドで区切られた0～255までの4つの数字（例えば、128.121.4.5）から成り立ちます。インターネット上ではコンピュータを特定するために、固有の IP アドレスを割り当てておかなければなりません。

LDAP（Lightweight Directory Access Protocol）

インターネット上のディレクトリサービスにアクセスするためのプロトコルです。ディレクトリサービスとは、ネットワーク上のリソースやサービスに関するさまざまな情報を体系的に管理し提供するシステムです。ブラウザやメーラーなどのクライアントを使ってディレクトリサーバに接続し、データの検索や読み出し、修正などの基本操作を行なうための標準的な通信手順を提供します。現在は主に、社内の住所録や電話帳データベース、インターネットの企業や個人の情報検索などに用いられています。

NetWare

Novell 社が PC/AT 互換機向けに開発したクライアントサーバネットワーク OS です。標準のプロトコルとして IPX/SPX、NetBEUI あるいは TCP/IP を利用します。MS-DOS、Windows、OS/2、UNIX および Macintosh のクライアントに対応しています。

OS/2

Intel x86 ベースのコンピュータ用に IBM 社が開発した、32bit 動作のマルチタスク OS の総称。Windows のようなオブジェクト指向の GUI を備え、Windows を起動したり、DOS のコマンドラインを実行することができます。また、拡張機能によって DOS や Windows のアプリケーションを実行することも可能です。

PDF（OCR）

本製品で使用できるファイル形式の 1 つ。OCR（光学式文字読取装置）処理をにより、テキストとして認識可能な部分からテキストデータの抽出を行い、透明なテキストデータを貼り付け、テキスト検索可能な PDF を作成する機能です。検索は、Adobe Reader/Adobe Acrobat や、Windows などのファイル検索機能で行うことができます。（→ サーチャブル PDF を送信する（OCR（文字認識））：P.5-28、サーチャブル PDF を送信するときの機能の設定をする（PDF（OCR）設定）：P.9-24）

PDF（アウトライン）

本製品で使用できるファイル形式の 1 つ。送信する文書中の文字部をアウトライン化し PDF データ内で重ねることにより、文書内の文字部の表示品位を保つことができる機能です。また、Adobe Illustrator を使用すると、文字部のほか、アウトライン化された線画部を再利用することができます。（→ アウトライン化した PDF を送信する（アウトライン）：P.5-24）

PDF（高圧縮）

本製品で使用できるファイル形式の 1 つ。文字と画像が混在する原稿を読み込むときに、文字部分と画像を分離して別べつに処理することで、文字部分の画質を下げずに高効率で圧縮します。従来の PDF よりもデータサイズを小さくできるため、ネットワークを介しての送信に適しています。

SMB（Server Message Block）

IBM、Intel、Microsoft が共同で開発した、ネットワーク上のコンピュータ間の通信プロトコルで、Windows ネットワークもこれを利用しています。ファイルサービスやプリントサービスを実現するためのネットワークプロトコルです。

WebDAV（Web-based Distributed Authoring and Versioning）

インターネットサーバ上にあるファイルの編集･管理を複数のユーザが協力して行うことができるプロトコルです。XML データにロックをかけることにより、お互いのデータが上書きされるのを防ぐこともできます。

WebDAV サーバ

WebDAV 用のサーバ。ファイルやフォルダを WebDAV サーバに保存することにより、インターネットを経由してデータを共有することができます。

あ

ウルトラファイン

ノーマルモードの 8 倍の画質で原稿を送信します。相手機がウルトラファインモードに対応していない場合は、スーパーファインまたはファインモードで送信されます。

エラーランプ

メモリ残量が少なくなった場合や、カセットの用紙がなくなった場合など、本製品にトラブルが発生したときに点滅または点灯します。

か

解像度

ファクス、スキャナ、プリンタなどの出力機器におけるドットの密度で、dpi（dots per inch）という単位で表されます。解像度が低いと、文字の縁がぎざぎざになったり、画像が粗くなったりします。解像度を上げるに従って、実際の字体や画像に近いなめらかな画質になります。解像度は、600 × 600 dpi のように、水平方向×垂直方向で表現されます。

グループ宛先

すでに登録されている複数の宛先を 1 つの宛先として登録する機能です。送信時にグループ宛先を指定すると、グループ宛先に含まれるすべての宛先に送信されます。(→グループ宛先を登録する：P.10-23)

国際送信

海外との通信は、通信距離が長く、ルートも複雑になります。このため、一度に国際電話識別番号、国番号、相手先ファクス番号をダイヤルしても相手にうまくつながらないときがあります。このような場合は、ファクス番号を入力するときや、登録するときに国際通信を行っている会社の局番のあと、または相手ファクス番号のあとにポーズを入れます。ポーズを入れるとポーズを入れた箇所に待ち時間を入れてダイヤル送信するため、相手につながりやすくなります。

さ

サブ宛先表

宛先表を 10 個のグループに分けたものです。

システムボックス

ファクス／I ファクス文書を受信して保存するための専用のボックスです。受信した文書は、プリントされずにシステムボックスに保存されます。保存された文書は必要なときにプリント、送信することができます。(→コピー／ボックスガイド「 第 6 章 ボックスを用いた文書の送受信」)

自動リダイヤル

ファクス送信時に相手先が話し中などで送信できない場合や、送信エラーが発生したときに、自動的に再送信する機能です。(→自動リダイヤルを設定する（自動リダイヤル）：P.9-49)

受信パスワード

ITU-T 規格のパスワードです。相手先から ITU-T 規格で送られてきた受信文書に F コードが設定されていないとき、パスワードの照合が行われます。パスワードが一致しない場合や、パスワードが付加されていない場合は、文書を受信しません。(→ファクスの設定をする：P.11-11)

スーパー G3

ITU-T V.34 勧告に準拠した、33.6 Kbps モデムを搭載したファクス機のことです。スーパー G3 ファクスは、1 ページあたり約 3 秒の高速電送が可能で、通信処理時間を短縮して通信コストを削減することができます。

スーパーファイン

ノーマルモードの 4 倍の画質で原稿を送信します。相手機がスーパーファインモードに対応していない場合は、ファインモードで送信されます。

た

タイマー送信

あらかじめ宛先の指定や原稿の読み込みをしておき、指定した時刻に送信する機能です。(→指定した時刻に送信する（タイマー送信）：P.5-14)

ダイヤル回線（パルス回線）

ダイヤル発信信号をパルス信号で電話交換システムに送ります。

転送

受信したファクス／ I ファクス文書を、他の宛先に転送することです。例えば、オフィスのコピープリンタで受信した文書を、自宅の宛先に転送することができます。本製品では、ファクスボックスに転送することもできます。(→ 転送の設定をする（転送設定）：P.11-27)

伝送時間

ファクス送信は、次の 3 ステップで行われます。

(1) 受信側のファクス機が送信側のファクス機に接続

(2) 画像データの送受信が行われる

(3) 送受信の終了を確認する信号を交換

本書では、ファクス送信全体にかかる時間ではなく、(2) の画像データの送受信そのものにかかる時間を伝送時間といいます。

電話回線の種類

本製品に接続する電話回線の種類をダイヤル回線かプッシュ回線から選択します。設定が誤っていると通信することができません。電話回線の種類を確認して、正しく設定してください。(→電話回線の種類を選択する（回線種類の選択）：P.1-14)

同報送信

一度に複数の宛先に送信することです。

は

発信人名称

登録された部や課の名称、個人名などです。発信人名称、ファクス番号、日付と時刻などが、発信元記録として受信側の記録紙に印字されます。発信人名称は、送信時に選択することができます。(→個人の名称を登録する（発信人名称の登録）：P.1-17)

ファイル形式 （TIFF、PDF、JPEG）

画像データの保存に用いるファイルフォーマットです。本製品では次の 3 つのファイルフォーマットに対応しています。

- TIFF (Tag Image File Format)：画像データの保存形式の 1 つ。ファイルの説明部分に相当する「tag ＝タグ」が用意されており、このタグにファイルの記録形式が書き込まれています。いろいろな解像度や形式に対応でき、白黒 2 値画像から 48bit のカラー画像まで扱えるなど、さまざまな形式に対応でき、画像を扱うソフトでは標準的な形式となっています。記録する形式の自由度が高く、多くのバリエーションがあります。
- PDF（Portable Document Format)：Adobe 社の提唱する業界標準のフォーマット。さまざまなアプリケーションデータやイメージデータを、Adobe Acrobat を使用して圧縮した形式です。Adobe Reader/Adobe Acrobat などで参照でき、異なるアプリケーションで作成した文書でも、元のレイアウトを維持したまま表示することが可能です。PDF ファイル形式の文書にはテキストやグラフィック、画像など複数の要素を含めることができます。
- JPEG（Joint Photographic Coding Experts Group）：ホームページの画像などに使用される、圧縮されたフルカラーあるいはグレイスケールの画像ファイルで、CCIT（国際電信電話諮問委員会）と ISO（国際標準化機構）が定めたカラー静止画像の圧縮、伸張の記録フォーマットの 1 つです。

ファイルサーバ

複数のクライアントが LAN を通じてアクセスし、ハードディスクに保存されているファイルを共有したり、利用したりできるパソコンまたはワークステーションのことです。

ファイン

ノーマルモードの 2 倍の画質で原稿を送信します。

ファクス通信管理レポート

ファクスの送信と受信の履歴です。（→ ファクス通信管理レポートをプリントする：P.8-12）

ファクスボックス

ファクス／I ファクス文書を受信して保存するためのボックスの 1 つです。受信したファクス／I ファクス文書が転送条件と合致した場合、プリントされずに転送条件に合うファクスボックスに保存されます。文書は、必要なときにプリントすることができます。ファクスボックスに暗証番号を設定している場合は、プリントするときに暗証番号の入力が必要です。

プロトコル

ネットワークを介してデータの受け渡しを行う際の手順の規則です。おもな通信プロトコルは以下のとおりです。

- FTP：ファイル転送プロトコル。TCP/IP ネットワーク上にあるクライアントとホストとの間で、ファイルの転送を行うための通信プロトコル、またはそれを実装したコマンドです。
- DHCP：BOOTP の上位互換規格で、TCP/IP ネットワーク上の各クライアントマシンに対して、起動時に動的な IP アドレスを割り当て、終了時に回収する通信プロトコルです。サーバはクライアント用にいくつか用意した IP アドレスを振り分け、セットアップ情報をクライアントに通知します。
- BOOTP：TCP/IP ネットワーク上のクライアントマシンにおいて、IP アドレスやドメイン名などのセットアップ情報をサーバから自動的にロードしてくるための通信プロトコルです。
- RARP：クライアントのネットワークアダプタアドレス（MAC アドレス）から IP アドレス情報を求めるための通信プロトコルです。
- IPP：クライアントとプリントサーバとの間で、インターネットを経由したリモート印刷を行うための通信プロトコルです。
- TCP/IP：インターネットや大規模ネットワークにアクセスするのに必要な、標準的な通信プロトコルです。

ポーズ

ファクス番号などの数字の送出を区切るときに入力します。ダイヤルするとき、P（ポーズ）を入力した位置に、送信／受信仕様設定（初期設定／登録）のポーズ時間で設定した長さの休止が入ります。

ポーズ時間

P（ポーズ）の前に入力されている番号を送出してから、後ろに入力されている番号を送出するまでの間隔です。ポーズ時間は変更することができますが、ファクス番号の末尾に P（ポーズ）を入力した場合は、10 秒（固定）になります。（→ポーズキーの時間を設定する（ポーズ時間セット）：P.9-48）

わ

ワンタッチボタン

電子メールや I ファクスなどの宛先やグループ宛先などを登録したボタンです。ワンタッチボタンに宛先を登録しておくと、ワンタッチボタンを押すだけですぐに宛先などを指定することができます。（→ワンタッチボタンの登録／編集をする：P.10-38）

索引

英数字

100 通信で自動プリント, 12-7
2in1 記録, 9-43
40 通信で自動プリント, 12-9
ASCII コード, 14-26
Bindery, 2-20
Cc Bcc, 2-35
CCI/ITU-T, 14-26
DNS サーバ, 14-26
DPI, 14-26
ECM, 14-26
ECM 受信, 9-52
ECM 送信, 9-47
FAX/TEL 切替, 6-13, 9-54
　音声応答, 9-54
　呼出開始時間, 9-54
　呼出後の動作, 9-54
　呼出時間, 9-54
FIS, 11-11
FTP, 2-12, 14-26
FTP 送信指定に ASCII コード以外を許可, 9-10
Full, 2-7, 10-15
Full モードの送信タイムアウト, 11-9, 11-10
F コード, 7-2, 14-26
F ネット, 7-4
F ネットのおもなサービス, 7-4
　案内サービスの利用, 7-4
　再コール, 7-4
　自動受信, 7-4
　親展通信, 7-4
　送達通知, 7-4
　短縮ダイヤル, 7-4
　同報通信, 7-4
　発信元記録, 7-4
　ファクシミリボックス, 7-4
　不達通知, 7-4
　閉域接続, 7-4
GMT, 1-14
IC カード署名送信時の確認表示の設定, 9-29
imageWARE Document Manager, 2-11
imageWARE Gateway シリーズ, 2-11
IP アドレス, 14-27
I ファクスアドレス, 2-8
　宛先の登録, 10-14
　新規宛先, 2-7
I ファクスアドレスの指定
　I ファクス, 2-7
　I ファクスアドレス, 2-8
　相手先の条件, 2-8
　サーバの経由, 2-10
　モード選択ドロップダウンリスト, 2-7
I ファクス受信確認, 8-15
I ファクス設定, 5-8
　件名, 5-9
　送信文書名, 5-9
　返信先, 5-9
　本文, 5-9
I ファクスの受信, 6-2
I ファクスの通信設定
　Full モードの送信タイムアウト, 11-9
　MDN/DSN 受信時の印刷, 11-9
　サーバの経由を使用, 11-9
　サーバを経由しない MDN を許可, 11-9
　受信エラーは必ず通知, 11-9
　分割受信タイムアウト, 11-9, 11-10
I ファクスメモリ受信, 6-17
I ファクスメモリ受信を使用, 11-14

I ファクスをプリントする用紙, 6-20
JPEG, 5-22, 14-31
LDAP, 14-27
LDAP 検索属性の登録／編集, 11-54
　登録, 11-54
　編集, 11-54
　消去, 11-54
LDAP サーバ
　検索属性の登録／消去, 11-54
　消去, 11-53
　設定内容のプリント, 11-55
　設定内容の変更, 11-53
　登録, 11-48
LDAP サーバ登録リスト, 14-18
LDAP サーバの設定内容のプリント, 11-55
LDAP サーバの登録
　SSL を使用, 11-49
　検索開始位置, 11-49
　検索する宛先の上限数, 11-49
　検索のタイムアウト, 11-49
　サーバアドレス, 11-49
　サーバ名, 11-49
　ポート番号, 11-49
　ログイン情報, 11-50
MDN/DSN 受信時の印刷, 11-9, 11-10
MH, 2-9
MMR, 2-9
MR, 2-9
NDS, 2-20
NetWare, 2-12, 14-27
NetWare（IPX）の指定, 2-19
　Bindery, 2-20
　NDS, 2-20
　参照, 2-19
　ツリー, 2-20
　ファイル, 2-19
　ファイルを送信するフォルダ, 2-21
　プロトコルドロップダウンリスト, 2-19
　ログインするフォルダ, 2-20
OCR（文字認識）, 5-28
OHP フィルム, 3-16
OS/2, 14-27
PDF, 5-22, 5-24, 14-31
PDF(OCR), 5-28, 14-27
PDF(OCR) 設定, 9-24
　原稿向き自動検知, 9-24
　文書名 OCR の文字数設定, 9-24
PDF（アウトライン）, 5-24, 9-25, 14-27
PDF(高圧縮）, 14-28
PDF（高圧縮）の画質レベル, 9-23
　画質優先, 9-23
　データサイズ優先, 9-23
　普通, 9-23
PDF 送信時に機器署名を必ずつける, 11-26
Q&A, 13-33
Send 拡張キット・L1 の仕様, 14-22
Simple, 2-7, 10-15
SSL を使用, 11-49
SMB(Server Message Block), 14-28
TIFF, 5-23, 14-31
TIFF/JPEG 自動選択, 5-22
TIFF/PDF 自動選択, 5-22
WebDAV, 2-13, 14-28
WebDAV サーバ, 14-28
WebDAV 送信時にチャンク分割送信を使用する
, 9-34
Windows(SMB), 2-12
Windows（SMB) の指定, 2-16, 2-22
　参照, 2-16
　ネットワークパスワード, 2-18
　ファイルサーバ, 2-17
　プロトコルドロップダウンリスト, 2-16
　ホスト検索, 2-22
　ワークグループ名, 2-17
YCbCr 受信のガンマ値, 9-44
YCbCr 送信のガンマ値, 9-35

あ

相手先の受信条件, 2-9, 10-18
　圧縮方式, 2-9, 10-18
　解像度, 2-9, 10-18, 10-18
　用紙サイズ, 2-9, 10-18, 10-18
相手先の条件
　I ファクスアドレスの指定, 2-8
　I ファクスアドレスの登録, 10-17
アウトライン PDF, 5-24
青焼きの原稿を送信する場合, 3-16
アクセス番号, 2-27
アクセス番号管理の設定, 11-20
圧縮方式, 2-9, 10-18
　MH, 2-9, 10-18
　MMR, 2-9, 10-18
　MR, 2-9, 10-18
宛先の指定, 2-26
　Cc Bcc を指定, 2-35
　I ファクスアドレスを指定, 2-7
　宛先表, 2-26
　サーバから検索, 2-30
　自分へ送信する, 2-25
　新規宛先を指定, 2-2
　定型業務ボタン, 2-29
　電子メールアドレスを指定, 2-6
　ファイルサーバ, 2-11
　ファクス番号を指定, 2-2
　ボックス, 2-24
　ワンタッチボタン, 2-28
宛先の種類ドロップダウンリスト
　宛先表から指定, 2-27
　サーバから検索, 2-34
宛先の消去
　宛先表の宛先, 10-36
　指定済みの宛先, 2-39
宛先の情報の確認／変更, 2-37
　宛先表から指定した宛先, 2-38
　グループ宛先, 2-38
　サーバから取得した宛先, 2-38
　新規宛先で指定した宛先, 2-38
宛先の登録, 10-5
宛先の登録内容の変更, 10-34
宛先表, 2-26, 10-3
宛先表仕様設定, 10-6
宛先表仕様設定一覧表, 10-2
宛先表ドロップダウンリスト
　I ファクスアドレスの登録, 10-15
　グループ宛先の登録, 10-24
　電子メールアドレスの登録, 10-12
　ファイルサーバアドレスの登録, 10-21
　ファクス番号の登録, 10-8
宛先表の暗証番号の設定, 11-19
宛先表の名称登録, 10-37
宛先表への新規宛先の登録, 10-5
　I ファクスアドレス, 10-14
　グループ宛先, 10-23
　電子メールアドレス, 10-11
　ファイルサーバ, 10-20
　ファクス番号, 10-6
宛先表リスト, 14-19
宛先表リストのプリント, 12-11
宛先変更
　宛先が 1 箇所の場合, 8-6
　宛先が複数ある場合, 8-6
アラーム音量, 9-45
暗号化 PDF, 5-30
　暗号化レベル, 5-31
　印刷を許可, 5-32
　変更を許可, 5-32
暗証番号の設定, 11-19
印字位置
　画像の内側, 9-32, 9-33
　画像の外側, 9-32, 9-33
うすい鉛筆書きの原稿を送信する場合, 3-16
裏写り防止, 4-13, 4-15
裏写りをとばすレベル, 4-15
ウルトラファイン, 14-28

エラー送信結果レポート, 14-4
エラー文書クリア, 9-11
エラー文書の自動消去の設定, 9-11
エラーメッセージ一覧, 13-8
エラーランプ, 14-28
オートダイヤル機能, 14-24, 14-25
オフフックアラーム, 9-46
オンフック
　手動受信, 6-8, 6-10
　手動送信, 1-33, 1-35
　プッシュホンサービス, 7-8
音量調整, 9-45
　アラーム音量, 9-45
　通信音量, 9-45

か

会社名の登録, 1-18
回線種類の選択
　基本登録（ファクス設定), 1-14
　増設回線設定（ファクス設定), 9-61
解像度, 14-28
　相手先の受信条件, 2-9, 10-18, 10-18
解像度ドロップダウンリスト, 3-14
解像度の変更, 3-14
拡大表示, 9-30
確認
　I ファクスの受信, 8-15
　宛先の情報, 2-37
　受信ジョブ, 8-15
　受信ジョブの詳細情報, 8-13
　送信ジョブの詳細情報, 8-3
　転送ジョブの詳細情報, 8-16
　転送設定の詳細情報, 11-46
　ファクスジョブの詳細情報, 8-10
画質選択ドロップダウンリスト, 3-17
画質調整, 4-13
　裏写り防止, 4-13
　地色除去, 4-13
画質調節, 3-16
　原稿が OHP フィルムの場合, 3-16
　写真モード, 3-16
　モアレが出る場合, 3-16
　文字／写真モード, 3-16
　文字モード, 3-16
画質優先, 9-23
カセット選択, 9-38
画像縮小, 9-40
画像のエッジ, 4-12
　強く, 4-12
　弱く, 4-12
画像の表示位置の変更, 5-18
画像の表示倍率の変更, 5-18
カラー／グレイスケールの自動切替, 3-23
カラー／白黒の自動切替, 3-23
カラー選択, 3-23
　グレイスケール, 3-24
　自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール), 3-23
　自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値), 3-23
　白黒 2 値, 3-24
　フルカラー, 3-24
カラー選択ドロップダウンリスト
　グレイスケール, 3-24
　自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール), 3-25
　自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値), 3-23
　白黒 2 値, 3-24
　フルカラー, 3-24
カラーで読み込む, 3-23
カラー文書の圧縮率の設定, 9-12
簡易検索, 2-31, 10-28
ガンマ値
　YCbCr 受信, 9-44
　YCbCr 送信, 9-35

キーボード画面を使ったファイルサーバの指定, 2-12
サーバのプロトコルの選択, 2-12
パスワード, 2-15
フォルダへのパス, 2-14
プロトコルドロップダウンリスト, 2-12
ホスト名, 2-14
ユーザ名, 2-15
機器署名, 5-34
機器署名の証明書確認, 9-27
機器署名の設定, 5-35
基本登録（ファクス設定), 9-45
記録紙サイズ, 14-24, 14-25
グループ宛先, 10-23, 14-29
宛先表, 10-25
消去, 10-25
ボックスに保管, 10-25
グレイスケール, 3-24
グレイスケールで読み込む, 3-24
原稿サイズ混載, 3-6
原稿のプレビュー, 5-17
原稿枠消し, 4-5
全周均一, 4-6
独立調整, 4-6
検索開始, 10-31
検索時に認証画面を表示, 11-51
検索する宛先の上限数, 11-49
検索するサーバドロップダウンリスト, 2-30, 10-28
検索のタイムアウト, 11-49
検査項目を選択するドロップダウンリスト, 2-31
コール, 5-41
高圧縮, 5-26, 9-12
高圧縮 PDF を送信する, 5-26
国際送信, 14-29
国際送信ドロップダウンリスト, 10-9
個人の名称の登録, 1-17
固定, 9-41
異なるサイズの原稿を一度に読み込む, 3-6
ご利用前に必要なこと, 1-11
G3（マルチ回線), 1-13
発信元記録の登録, 1-12
ファクス回線種別の登録, 1-11

さ

サーチャブル PDF を送信する, 5-28
サーバから宛先を検索する, 2-30
宛先の種類ドロップダウンリスト, 2-34
検索開始, 2-33
検索条件, 2-31
検索するサーバドロップダウンリスト, 2-30
ネットワークパスワードの入力, 2-33
サーバから検索, 2-30
サーバから検索した宛先の登録, 10-27
宛先が 1 件の場合, 10-33
宛先が複数の場合, 10-33
宛先を I ファクスとして登録する場合, 10-33
検索開始, 10-31
検索条件, 10-28
検索するサーバドロップダウンリスト, 10-28
サーバから検索, 10-27
新規宛先の登録, 10-27
ネットワークパスワードの入力, 10-31
サーバの LDAP バージョンと文字コード, 11-50, 11-51
サーバの経由
I ファクスアドレスの指定, 2-10
I ファクスアドレスの登録, 10-16
サーバの経由を使用, 11-9, 11-10
サーバのプロトコルの選択, 2-12
サーバを経由しない MDN を許可, 11-9, 11-10
再送信, 8-7
宛先が 1 箇所の場合, 8-7
宛先が複数の場合, 8-7

サブ宛先表, 14-29
サマータイム, 1-14, 1-15
左右開き, 3-5
参照ボタン, 2-16, 2-19
地色除去, 4-14
地色の濃度の微調整, 4-14
時刻の設定, 1-14
自己診断表示, 13-8
システム管理設定, 1-14, 11-3, 11-7
システム管理設定一覧表, 11-3
システム状況画面, 1-38
システムボックス, 14-29
システムボックス暗証番号, 11-13
システムボックス設定, 11-13
　I ファクスメモリ受信, 11-14
　ファクスメモリ受信, 11-14
　メモリ受信開始時刻, 11-15
　メモリ受信終了時刻, 11-17
指定サイズ, 3-10
指定時刻に送信, 5-14
指定時刻プリント
　通信管理レポート, 12-7
　ファクス通信管理レポート, 12-9
自動
　濃度, 3-18
自動カラー選択（フルカラー／グレイスケール), 3-23
自動カラー選択（フルカラー／白黒 2 値), 3-23
自動受信, 6-12, 9-54
自動受信切替, 9-57
　呼出秒数, 9-57
自動変倍, 3-22, 9-41
自動リダイヤル, 9-49, 14-29
　送信エラー時の動作, 9-50
　リダイヤルの回数, 9-50
　リダイヤルの間隔, 9-50
自分へ送信する, 2-25
シャープネス, 4-12
　強く, 4-12
　弱く, 4-12
写真モード, 3-16
写真を優先, 3-17
終了コード一覧, 13-12
縮小プリント, 9-40
縮小方向, 9-41
　縦のみ, 9-41
　縦横, 9-41
縮小モード, 9-41
　固定, 9-41
　自動変倍, 9-41
受信
　I ファクス, 6-2
　受信したときの状態, 6-3
　受信文書の消去, 6-18
　受信文書の処理, 6-15
　受信文書の転送, 6-17
　ファクス, 6-2
　プリントデータ, 6-2
　メモリ受信の設定, 6-17
受信エラーは必ず通知, 11-9, 11-10
受信機能設定 (共通設定), 9-37
受信機能設定 (ファクス設定), 9-52
受信した文書の消去, 6-18
受信した文書の転送, 6-17
受信手段ドロップダウンリスト
　条件なし転送の登録, 11-40
　転送設定, 11-30
受信情報記録, 9-42
受信ジョブ
　I ファクスの受信確認, 8-15
　詳細情報の確認, 8-13
　履歴のプリント, 8-14
受信ジョブの詳細情報の確認, 8-13
受信ジョブ履歴のプリント, 8-14
受信スタート, 7-8
受信の状態, 6-3
受信パスワード, 14-29
受信文書

2in1 記録, 9-43
カセット選択, 9-38
画像縮小, 9-40
縮小プリント, 9-40
受信情報記録のプリント, 9-42
プリント方法の設定, 9-38
両面記録, 9-37
両面プリント, 9-37
受信文書の処理, 6-15
受信文書のプリント方法の設定, 9-38
受信文書の保存／プリントドロップダウンリスト
条件なし転送の設定, 11-42
転送設定, 11-36
受信文書の用紙サイズ, 6-20
受信モード選択, 9-53
FAX/TEL 切替, 9-53
自動受信, 9-53
手動受信, 6-4, 6-14
手動送信, 1-30
消去
LDAP 検索属性の登録／編集, 11-54
LDAP サーバ, 11-53
宛先, 2-39, 10-36
受信文書, 6-18
定型業務ボタン, 9-21
転送設定, 11-47
読取モード, 4-20
ワンタッチボタン, 10-41
上下開き, 3-5
条件式を選択するドロップダウンリスト, 2-32, 10-30
条件なし転送の登録, 11-40
受信手段, 11-40
受信文書の保存／プリント, 11-42
送信文書名, 11-42
転送先, 11-41
転送終了通知, 11-42
転送終了通知の種類, 11-43
転送する画像のファイル形式, 11-44
ページごとに分割, 11-45
詳細検索, 2-31, 10-29
証明書検証
機器署名の証明書確認, 9-27
ユーザ署名の証明書確認, 9-28
省略時の件名, 11-6, 11-7
ジョブ終了通知, 5-16
ジョブの中止, 1-37
システム状況画面を使う, 1-38
ストップキーを使う, 1-38
タッチパネルディスプレイを使う, 1-37
白黒で読み込む, 3-24
白黒 2 値, 3-24
新規宛先, 2-2
I ファクスアドレスを指定, 2-7
自分へ送信する, 2-25
電子メールアドレスを指定, 2-6
ファイルサーバを指定, 2-11
ファクス番号を指定, 2-2
ボックスに保管, 2-24
新規宛先の制限, 11-21
新規宛先の登録, 10-5
I ファクスアドレス, 10-14
グループ宛先, 10-23
サーバから検索, 10-27
電子メールアドレス, 10-11
ファイルサーバ, 10-20
ファクス番号, 10-6
スーパー G3, 14-29
スーパー G3FAX ボード・U1 の仕様, 14-24
オートダイヤル機能, 14-24
記録紙サイズ, 14-24
走査線密度（送信）, 14-24
送信原稿サイズ, 14-24
通信速度, 14-24
通信モード, 14-24
適用回線, 14-24
電送時間, 14-24

符号化方式, 14-24
メモリ, 14-24
スーパーファイン, 14-29
ズーム変倍, 3-21
図形のアウトライン化, 9-26
スタートキー, 1-29
ストップキー, 1-29
ストップキーを押して中止, 1-38
済スタンプ, 5-19
送信機能の標準モードの変更, 9-16
設定
時刻, 1-14
システム管理設定, 11-3
送信, 5-2
日付, 1-14
表示言語の切替, 1-13
レポートの出力仕様, 12-4
設定されたモードの呼び出し, 5-41
設定内容の指定, 2-29
全周均一
原稿枠消し, 4-6
ブック枠消し, 4-7
走査線密度（送信), 14-24, 14-25
送信／受信仕様設定, 1-14, 1-17, 9-5
送信／受信仕様設定一覧表, 9-5
送信／受信分離
通信管理レポート, 12-7
ファクス通信管理レポート, 12-9
送信／ファクス, 1-21
送信エラー時の動作, 9-50
1 ページとエラーページ, 9-50
OFF, 9-50
全ページ, 9-50
送信開始, 5-18
送信回線の選択, 9-62
送信画面, 1-9
送信画面の初期表示, 9-30
送信機能設定（共通設定), 9-10
送信機能設定（ファクス設定), 9-47
送信機能設定の初期化, 9-36
送信機能の制限, 11-19
PDF 送信時に機器署名を必ずつける, 11-26
アクセス番号管理の設定, 11-20
宛先表の暗証番号の設定, 11-19
新規宛先の制限の設定, 11-21
送信するドメインを制限する, 11-23
ファクスドライバからの送信を許可, 11-22
ファクス番号入力時の確認入力, 11-22
有効期限切れ証明書使用時の PDF 送信を許可, 11-25
送信機能の標準モードの変更, 9-15
送信結果レポート, 14-4
送信結果レポートの設定, 12-4
送信原稿サイズ, 14-24
送信者名, 1-18
送信終了の通知, 5-16
送信ジョブ, 8-2
宛先の変更, 8-5
再送信, 8-7
詳細情報の確認, 8-3
ジョブ状況のプリント, 8-8
ジョブ履歴のプリント, 8-8
送信ジョブ状況, 8-10
送信ジョブの宛先の変更, 8-5
宛先が 1 箇所の場合, 8-6
宛先が複数ある場合, 8-6
送信ジョブの再送信, 8-7
送信ジョブの状況／履歴をプリント, 8-8
送信ジョブの詳細情報の確認, 8-3
宛先が 1 箇所の場合, 8-4
宛先が複数ある場合, 8-4
ジョブ履歴画面, 8-4
送信ジョブリスト, 14-2
送信する PDF に電子署名をつける, 5-34
送信する PDF を暗号化する, 5-30
送信するドメインを制限する, 11-23

送信する文書のファイル形式を設定, 5-20
OCR（文字認識), 5-28
アウトライン, 5-24
暗号化 PDF, 5-30
高圧縮, 5-26
電子署名をつける, 5-34
ファイル形式の設定, 5-21
送信設定
I ファクス設定, 5-8
ジョブ終了通知, 5-16
済スタンプ, 5-19
タイマー送信, 5-14
電子メール設定, 5-5
ファイルサーバ設定, 5-10
ファクス設定, 5-3
プレビュー表示, 5-17
ユーザボックス設定, 5-13
送信操作の流れ, 1-8, 1-20
送信データサイズ上限値, 11-6
送信に関する登録内容をプリント, 12-12
送信の中止, 1-38
送信文書名
I ファクス設定, 5-9
電子メール設定, 5-6
ファイルサーバ設定, 5-11
ユーザボックス設定, 5-13
送信前のダイヤルトーン確認, 9-51
増設回線設定, 9-59
増設した電話回線の種類の選択, 9-61
増設した電話回線のユーザ略称の登録, 9-60

た

タイマー送信, 5-14, 14-30
タイムゾーン, 1-14, 1-15
タイムスタンプ, 5-34, 5-39
タイムスタンプの設定, 5-39
ダイヤル回線（パルス回線), 14-30
ダイヤルトーン確認, 9-51
ダイレクト送信, 5-3
短縮ボタン, 1-33, 2-28, 6-8, 7-8, 10-38, 10-40, 10-41
着信呼出, 9-55
呼出回数, 9-55
中止, 1-37
通信音量, 9-45
通信管理設定, 11-6
システムボックス, 11-13
電子メール／I ファクス, 11-6
ファクス, 11-11
通信管理レポート, 14-13
通信管理レポートの設定, 12-6
100 通信で自動プリント, 12-7
指定時刻プリント, 12-7
送信／受信分離, 12-7
低圧縮, 9-12
定型業務ボタン
宛先の指定, 2-29
設定内容の指定, 2-29
登録, 9-18
定型業務ボタンの消去, 9-21
定型業務ボタンの登録, 9-18
上書き登録, 9-18
コメント登録, 9-20
消去, 9-21
新規登録, 9-18
名称登録, 9-19
定型業務ボタンの名称登録, 9-19
定型業務ボタン呼出時の確認表示, 9-22
定型文, 10-16
定形変倍, 3-19
データ圧縮率, 9-12
高圧縮, 9-12
低圧縮, 9-12
普通, 9-12
データサイズ優先, 9-23
適用回線, 14-24, 14-25
電子署名をつける, 5-34

機器署名, 5-34
タイムスタンプ, 5-34
ユーザ署名, 5-34
電子メール／Iファクス共通の通信設定
省略時の件名, 11-6, 11-7
送信データサイズ上限値, 11-6, 11-7
認証ユーザ宛先を返信先に指定, 11-6, 11-7
電子メールアドレス
宛先の登録, 10-11
新規宛先, 2-6
電子メールアドレスの指定, 2-6
電子メール設定, 5-5
件名, 5-6
送信する画像のファイル形式, 5-5
送信文書名, 5-6
電子メールの重要度, 5-6
文書名 OCR, 5-6
返信先, 5-6
本文, 5-6
電子メールの重要度ドロップダウンリスト, 11-39
電子メールの通信設定
認証ユーザ宛先を送信元に指定, 11-8
転送, 14-30
転送エラー文書の処理, 9-13
OFF, 9-13
常にプリント, 9-13
保存／プリント, 9-13
転送エラー文書の処理の設定, 9-13
転送先の設定, 11-33
宛先表, 11-34
ファクスボックス, 11-34
電送時間, 14-24
伝送時間, 14-30
転送時間指定, 11-35
期間指定, 11-36
指定しない, 11-36
毎日指定, 11-35
転送終了通知, 11-37
転送終了通知の種類, 11-37
転送条件に一致しない場合の転送先の登録, 11-40
転送条件リスト, 14-17
転送ジョブ状況, 8-16
転送ジョブの詳細情報の確認, 8-16
転送する画像のファイル形式
条件なし転送の登録, 11-44
転送設定の登録, 11-38
転送設定, 11-27
受信文書の転送, 11-46
消去, 11-47
条件なし転送, 11-40
詳細情報の確認, 11-46
詳細情報の変更, 11-46
設定内容のプリント, 11-47
登録, 11-29
転送設定の登録, 11-29
受信手段, 11-30
受信文書の保存／プリント, 11-36
送信文書名, 11-35
電子メールの重要度, 11-39
転送先, 11-33
転送時間指定, 11-35
転送終了通知, 11-37
転送終了通知の種類, 11-37
転送条件, 11-30
転送条件名, 11-29
転送する画像のファイル形式, 11-38
電話回線の種類, 14-30
電話回線の種類の選択, 1-14
動作環境, 2-12
FTP, 2-12, 14-26
NetWare, 2-12, 14-27
WebDAV, 2-13
Windows(SMB), 2-12
同報送信, 14-30
同報通信, 7-5

登録
LDAP 検索属性の登録／編集, 11-54
LDAP サーバ, 11-48
宛先表の宛先, 10-5
宛先表の名称, 10-37
会社名, 1-18
個人名, 1-17
定型業務ボタン, 9-18
転送設定, 11-29
発信人名称, 1-17
発信元記録, 1-12
ファクス回線種別, 1-11
部署名, 1-18
本製品のファクス番号, 1-16
ユーザ電話番号, 1-16
ユーザ略称, 1-18
読取モード, 4-16
読取モードの名称, 4-19
ワンタッチボタン, 10-38
登録／消去, 4-17
登録サイズ, 3-11
登録ボタン, 2-40
トーン, 7-8
独立調整
原稿枠消し, 4-5
ブック枠消し, 4-7
トラブルの対処, 13-2
受信, 13-5
送信, 13-2
その他, 13-6

な

ナンバーディスプレイ着信受付, 9-58
ネットワークパスワード, 10-31
濃度調節, 3-15
自動調節, 3-18
任意調節, 3-15

は

倍率, 3-19
自動変倍, 3-22
ズーム変倍, 3-21
定形変倍, 3-19
発信人名称, 14-30
ファクス設定, 5-3
発信人名称の登録, 1-17
発信元記録, 1-18, 9-31
相手先略称の表示, 9-32, 9-33
印字位置, 9-32, 9-33
つけない, 9-33
つける, 9-32, 9-33
電話番号マーク, 9-33
発信元記録の登録, 1-12
パンチ穴消し, 4-5, 4-8
左開き, 4-4
微調整
裏写り防止, 4-15
地色除去, 4-14
日付／時刻設定, 1-14
日付の設定, 1-14
表示言語の切替, 1-13
ファイル形式, 5-21, 14-31
条件なし転送の設定, 11-44
送信機能の標準モードの変更, 9-16
電子メール設定, 5-5
転送設定, 11-38
ファイルサーバの設定, 5-10
ファイル形式の設定, 5-21
JPEG, 5-22
PDF, 5-22
TIFF, 5-22
TIFF/JPEG 自動選択, 5-22
TIFF/PDF 自動選択, 5-22
ファイルサーバ, 2-11, 14-31
FTP, 2-12
NetWare（IPX）, 2-19

Windows（SMB), 2-16, 2-22
ファイルサーバ設定, 5-10
送信する画像のファイル形式, 5-10
送信文書名, 5-11
文書名 OCR, 5-11
ファイルサーバのアドレス
宛先の登録, 10-20
新規宛先, 2-11
ファイルサーバの指定, 2-19
キーボード画面を使う, 2-12
参照ボタンを使う, 2-16, 2-19
ホスト検索ボタンを使う, 2-22
ファイン, 14-31
ファクシミリインプットサービス, 11-11
ファクスエラー送信結果レポート, 14-6
ファクス回線種別の登録, 1-11
ファクス受信結果レポート, 14-9
ファクス受信結果レポートの設定, 12-10
ファクス受信の流れ, 6-12
ファクス受信モードの設定, 8-11
ファクスジョブの状況の確認／変更, 8-9
詳細情報の確認, 8-10
ファクス受信モードの設定, 8-11
ファクス通信管理レポートのプリント, 8-12
ファクスジョブの詳細情報の確認
受信ジョブ状況, 8-10
ジョブ履歴, 8-10
送信ジョブ状況, 8-10
ファクス設定, 5-3
回線選択, 5-4
ダイレクト, 5-4
発信人名称, 5-3
ファクス送信結果レポート, 14-6
ファクス送信結果レポートの設定, 12-8
ファクス通信管理レポート, 14-15, 14-31
ファクス通信管理レポートの設定, 12-9
送信／受信分離, 12-9
ファクス通信管理レポートのプリント, 8-12
ファクスに関する登録内容をプリント, 12-12
ファクスの受信, 6-2
ファクスの設定, 11-11
FIS スイッチ, 11-11, 11-12
受信スタートスピード, 11-11, 11-12
受信パスワード, 11-11, 11-12
送信スタートスピード, 11-11, 11-12
ファクスドライバからの送信を許可, 11-22
ファクス番号
宛先の登録, 10-6
新規宛先, 2-2
ファクス番号入力時の確認入力, 11-22
ファクス番号の指定, 2-2
ファクス番号の登録, 1-16
ファクスへの送信の中止, 1-40
ファクスボックス, 14-31
ファクスボックス受信レポート, 14-11
ファクスボックス受信レポートの設定, 12-10
ファクスマルチ送信結果レポート, 14-8
ファクスメモリ受信, 6-17
ファクスメモリ受信を使用, 11-14
ファクスをプリントする用紙, 6-20
符号化方式, 14-24, 14-25
部署名の登録, 1-18
ブック原稿の開きかた, 4-4
左開き, 4-4
右開き, 4-4
ブック原稿を左右（2 枚）に分けて読み込む, 4-4
ブック枠消し, 4-5, 4-7
全周均一, 4-7
独立調整, 4-7
プッシュホンサービス, 7-7
オンフック, 7-8
受信スタート, 7-8
トーン, 7-8
プリント
2in1 記録, 9-43
受信情報記録, 9-42

受信ジョブ履歴, 8-14
送信ジョブ状況, 8-8
送信ジョブ履歴, 8-8
転送設定内容, 11-47
ファクス／I ファクス, 6-20
ファクス通信管理レポート, 8-12
プリントデータの受信, 6-2
プリントの用紙, 6-20
プリント方法の設定, 9-38
フルカラー, 3-24
プレビュー表示, 5-17
画像の表示位置の変更, 5-18
画像の表示倍率の変更, 5-18
プロトコル, 14-32
プロトコルドロップダウンリスト
NetWare（IPX), 2-19
Windows（SMB), 2-16
キーボード画面を使う, 2-12
ファイルサーバのアドレス, 10-22
文書名 OCR
電子メール設定, 5-6
ファイルサーバ設定, 5-11
ページごとに分割
OCR（文字認識), 5-29
アウトライン, 5-25
高圧縮, 5-27
条件なし転送の設定, 11-45
転送設定, 11-38
ページ連写, 4-4
左開き, 4-4
右開き, 4-4
変更
LDAP サーバの設定内容, 11-53
宛先の情報, 2-37
宛先の登録内容, 10-34
送信ジョブ, 8-2
転送設定の詳細情報, 11-46
読込設定, 3-4
変更を許可, 5-32
編集
LDAP 検索属性の登録／編集, 11-54
ワンタッチボタン, 10-38
返信先
I ファクス設定, 5-9
電子メール設定, 5-6
ポーズ, 14-32
ポーズ時間, 9-48, 14-32
ポーズ時間セット, 9-48
ポート番号, 11-49
ホスト検索ボタン, 2-22
ボックスに保管, 2-24, 10-25
ボックスへの保管を中止, 1-38
本文
I ファクス設定, 5-9
電子メール設定, 5-6

ま

マルチポート FAX ボード・G2 の仕様, 14-25
オートダイヤル機能, 14-25
記録紙サイズ, 14-25
走査線密度（送信), 14-25
送信原稿サイズ, 14-25
通信速度, 14-25
通信モード, 14-25
適用回線, 14-25
電送時間, 14-25
符号化方式, 14-25
メモリ, 14-25
右開き, 4-4
名称登録
宛先表, 10-37
定型業務ボタン, 9-19
読取モード, 4-19
メモリ, 14-24, 14-25
メモリ受信
I ファクスメモリ受信, 11-14
ファクスメモリ受信, 11-14

メモリ受信開始時刻, 11-15
　　指定しない, 11-16
　　毎日指定, 11-15
　　曜日指定, 11-16
メモリ受信終了時刻, 11-17
　　指定しない, 11-18
　　毎日指定, 11-17
　　曜日指定, 11-18
メモリ受信の設定, 6-17
メモリ送信, 5-3
メモリフル, 6-18
モアレ, 3-16, 4-12
モード選択ドロップダウンリスト
　　I ファクスアドレスの指定, 2-7
　　I ファクスアドレスの登録, 10-15
文字／写真モード
　　画質調節, 3-16
　　レベル調整, 3-17
文字／写真レベルの調整
　　写真を優先, 3-17
　　文字を優先, 3-17
文字モード, 3-16

や

有効期限切れ証明書を使用したときの PDF 送信を許可, 11-25
ユーザ署名, 5-34, 5-37
ユーザ署名の証明書確認, 9-28
ユーザ署名の設定, 5-37
ユーザ設定キー, 4-17
ユーザデータリスト, 14-20
ユーザデータリストのプリント, 12-12
ユーザ電話番号の登録, 1-16
ユーザボックス, 2-24
ユーザボックス設定, 5-13
　　送信文書名, 5-13
ユーザ略称の登録, 1-18, 9-60
用語集, 14-26
用紙サイズ, 2-9
読込終了, 4-11
読込設定, 3-4
　　解像度, 3-14
　　濃度調節, 3-15
　　倍率, 3-19
　　読取サイズ, 3-8
　　両面原稿, 3-4
読込設定画面, 1-10
読込設定ドロップダウンリスト, 3-3
　　読取モードの登録, 4-17
読込設定の変更, 3-4
読取サイズ, 3-8
　　A/B サイズ, 3-9
　　指定サイズ, 3-10
　　登録サイズ, 3-11
読取サイズの指定, 3-8
読取サイズの登録, 3-12
読取モード, 4-16, 9-16
　　上書き登録, 4-18
　　新規登録, 4-18
　　送信機能の標準モードの変更, 9-15
読取モードドロップダウンリスト, 9-16
読取モードの種類, 3-2
読取モードの消去, 4-20
読取モードの選択, 3-2
読取モードの登録, 4-16
読取モードの名称登録, 4-19

ら

リストのプリント
　　宛先表リスト, 12-11
　　ユーザデータリスト, 12-12
リストプリント
　　LDAP サーバの設定内容, 11-55
　　宛先表リスト, 12-11
　　受信ジョブ履歴, 8-14
　　送信ジョブ状況, 8-8

送信ジョブ履歴, 8-8
転送設定内容, 11-47
ファクスジョブ履歴, 8-12
ユーザデータリスト, 12-12
リトライ回数, 9-14
リモート受信, 6-4, 9-56
リモート受信 ID 番号, 9-56
両面記録, 9-37
両面原稿, 3-4
両面原稿の開きかた
左右開き, 3-5
上下開き, 3-5
両面プリント, 9-37
レベル調整, 3-17
レポートサンプル, 14-2
LDAP サーバ登録リスト, 14-18
宛先表リスト, 14-19
エラー送信レポート, 14-4
送信結果レポート, 14-4
送信ジョブリスト, 14-2
通信管理レポート, 14-13
転送条件リスト, 14-17
ファクスエラー送信結果レポート, 14-6
ファクス受信結果レポート, 14-9
ファクス送信結果レポート, 14-6
ファクス通信管理レポート, 14-15
ファクスボックス受信レポート, 14-11
ファクスマルチ送信結果レポート, 14-8
ユーザデータリスト, 14-20
レポート出力, 12-2
レポート出力一覧表, 12-2
レポートの出力仕様の設定, 12-4
送信結果レポート, 12-4
通信管理レポート, 12-6
ファクス受信結果レポート, 12-10
ファクス送信結果レポート, 12-8
ファクス通信管理レポート, 12-9
ファクスボックス受信レポート, 12-10
ユーザデータリスト, 12-12
連続読込, 4-9
ログイン情報, 11-50
使用しない, 11-50
使用する, 11-51
使用する (セキュリティ認証), 11-52

わ

枠消し, 4-5
原稿枠消し, 4-5
パンチ穴消し, 4-5, 4-8
ブック枠消し, 4-5, 4-7
ワンタッチボタン, 2-28, 14-32
宛先の指定, 2-28
手動受信, 6-8
手動送信, 1-33
ワンタッチボタンの登録／編集, 10-38
I ファクス, 10-39
グループ, 10-40
サーバから検索, 10-40
電子メール, 10-39
ファイル, 10-39
ファクス, 10-39
ワンタッチボタンの内容の消去, 10-41

消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

Canon キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター （全国共通番号）

050-555-90051

[受付時間] <平日> 9:00～12:00、13:00～17:00
（土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は043-211-9319をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社　〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

Canonホームページ：http://canon.jp

USRM1-1856-00

©CANON INC. 2007